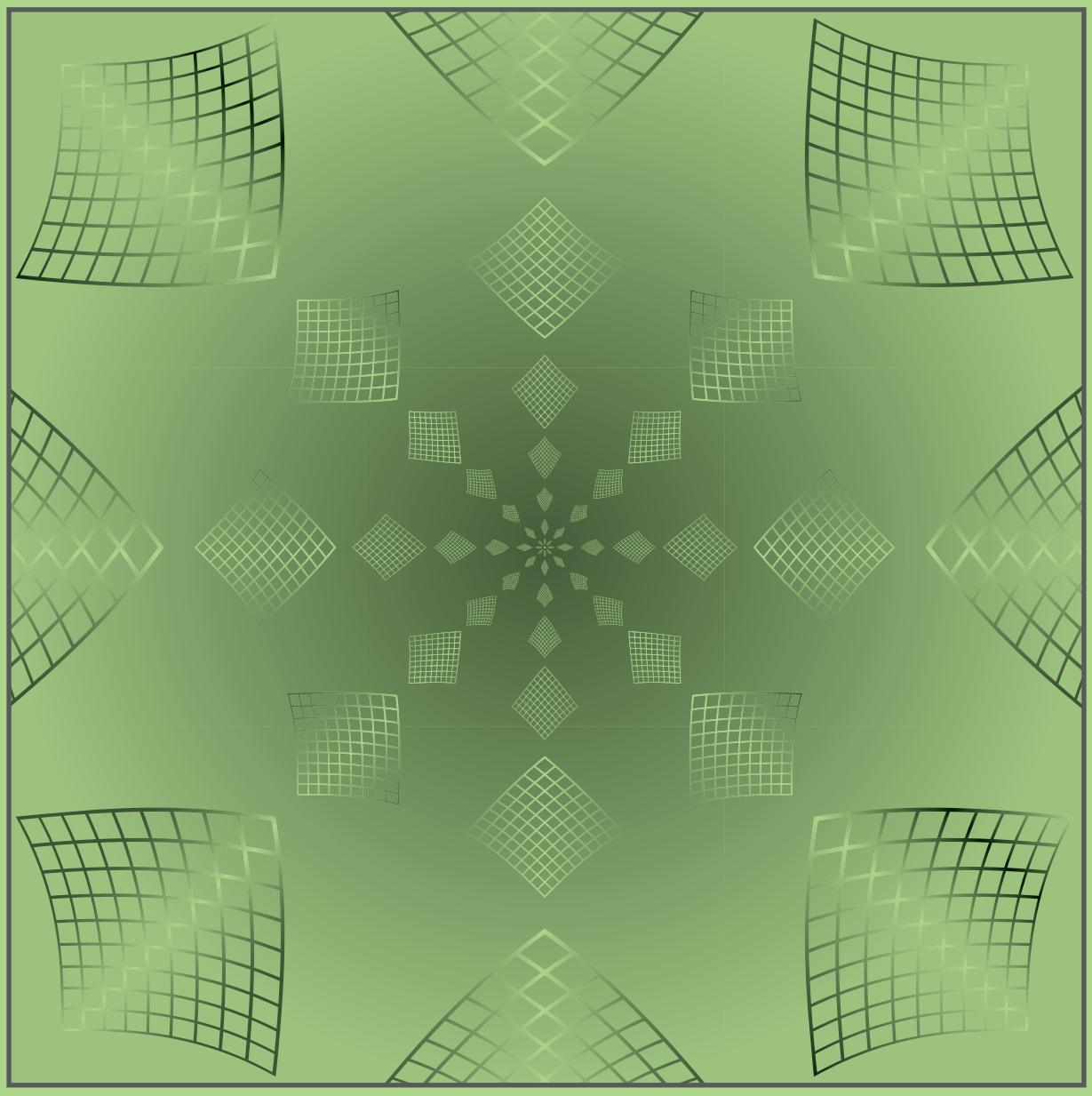
2011年度

シラバス

英語学科



秋学期は配布しません。１年間必ず保管すること。

獨協大学

――― 目　次 ―――

2006～2011 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修科目を含む)---------- 2

学科共通科目---------- 4

学科専門科目---------- 9

2003～2005 年度入学者開設科目一覧表

学科基礎科目(再履修者用) ---------- 11

学科共通科目---------- 12

学科専門科目---------- 17

交流文化論開設科目一覧表---------- 19

外国語学部共通科目開設一覧表---------- 20

担当者別シラバス---------- 21

【参考資料】(英語レベル表)

2006 年度以降入学者					
レベル	TOEIC®	TOEFL®			実用英語技能検定
		PBT	CBT	iBT	
上級	700 点以上	520 点以上	190 点以上	68 点以上	準 1 級
中級	600 点以上	480 点以上	157 点以上	54 点以上	

2003 年度以降入学者				
レベル	TOEIC®	TOEFL®		
		PBT	CBT	iBT
A	700 点以上	520 点以上	190 点以上	68 点以上
B	600 点以上	480 点以上	157 点以上	54 点以上
C	500 点以上	440 点以上	123 点以上	41 点以上

履修条件で一定の英語レベルを必要とする科目は、学内で実施した TOEIC®テストのスコアが履修条件を満たしていれば履修登録は可能です。

学外で受験したスコアを利用する場合は、証明するコピーを教務課外国語学部係に提出してください。

英語学科　授業科目(2006～2011年度入学者用)

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語学入門	鈴木　英一	春	火3	2	1	全	21
英語学入門	鈴木　英一	秋	火3	2	1	全	21
英語学入門	安井　美代子	春	金1	2	1	全	22
英語学入門	安井　美代子	秋	金1	2	1	全	22
英語圏の文学・文化入門	上野　直子	春	木5	2	1	全	23
英語圏の文学・文化入門	片山　亜紀	秋	木4	2	1	全	23
英語圏の文学・文化入門	片山　亜紀	秋	木5	2	1	全	23
文化コミュニケーション入門	板場　良久	春	月5	2	1	全	24
文化コミュニケーション入門	板場　良久	秋	月5	2	1	全	24
文化コミュニケーション入門	柿田　秀樹	春	水2	2	1	全	25
文化コミュニケーション入門	柿田　秀樹	秋	水2	2	1	全	25
国際コミュニケーション入門	金子　芳樹	春	水2	2	1	全	26
国際コミュニケーション入門	金子　芳樹	秋	水2	2	1	全	26
国際コミュニケーション入門	永野　隆行	春	火5	2	1	全	27
英語音声学	青柳　真紀子	春	火1	2	1	全	28
英語音声学	青柳　真紀子	秋	火1	2	1	全	28
英語音声学	中田　ひとみ	春	火2	2	1	全	29
英語音声学	中田　ひとみ	秋	火2	2	1	全	29
Lecture Workshop Ⅰ	各担当教員	春		2	1	全	30
Lecture Workshop Ⅱ	各担当教員	秋		2	1	全	30
Comprehensive English Ⅰ	各担当教員	春		2	1	全	31
Comprehensive English Ⅱ	各担当教員	秋		2	1	全	31
Comprehensive English Ⅰ 再履修	K. ミーハン／J. A. グレイ	秋	月4／水5	2	1	全	32
Comprehensive English Ⅱ 再履修	L. K. ハーキンス	春	月1／金3	2	1	全	33
Comprehensive English Ⅲ(HONORS)	J. ウォールドマン	春	木4	1	2	全	34
Comprehensive English Ⅳ(HONORS)	J. ウォールドマン	秋	木4	1	2	全	34
Comprehensive English Ⅲ(HONORS)	R. ジョーンズ	春	水1	1	2	全	35
Comprehensive English Ⅳ(HONORS)	R. ジョーンズ	秋	水1	1	2	全	35
Comprehensive English Ⅲ	A. マグズ	春	火1	1	2	全	36
Comprehensive English Ⅳ	A. マグズ	秋	火1	1	2	全	36
Comprehensive English Ⅲ	A. マグズ	春	火3	1	2	全	37
Comprehensive English Ⅳ	A. マグズ	秋	火3	1	2	全	37
Comprehensive English Ⅲ	E. フランコ	春	水1	1	2	全	38
Comprehensive English Ⅳ	E. フランコ	秋	水1	1	2	全	38
Comprehensive English Ⅲ	E. フランコ	春	水3	1	2	全	39
Comprehensive English Ⅳ	E. フランコ	秋	水3	1	2	全	39
Comprehensive English Ⅲ	J. A. グレイ	春	水3	1	2	全	40
Comprehensive English Ⅳ	J. A. グレイ	秋	水3	1	2	全	40
Comprehensive English Ⅲ	J. スネール	春	金1	1	2	全	41
Comprehensive English Ⅳ	J. スネール	秋	金1	1	2	全	41
Comprehensive English Ⅲ	J. フォルカス	春	金1	1	2	全	42
Comprehensive English Ⅳ	J. フォルカス	秋	金1	1	2	全	42
Comprehensive English Ⅲ	K. フォード	春	金1	1	2	全	43
Comprehensive English Ⅳ	K. フォード	秋	金1	1	2	全	43
Comprehensive English Ⅲ	P. アップス	春	水3	1	2	全	44
Comprehensive English Ⅳ	P. アップス	秋	水3	1	2	全	44
Comprehensive English Ⅲ	R. ジョーンズ	春	水2	1	2	全	45
Comprehensive English Ⅳ	R. ジョーンズ	秋	水2	1	2	全	45
Comprehensive English Ⅲ 再履修	P. マッケビリー	春	月1	1	2	全	46
Comprehensive English Ⅳ 再履修	P. マッケビリー	秋	月1	1	2	全	46
Comprehensive English Ⅲ 再履修	P. マッケビリー	秋	金3	1	2	全	47
Comprehensive English Ⅳ 再履修	P. マッケビリー	春	金3	1	2	全	47

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科授業時間割表』を参照してください。

学科基礎科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Reading Strategies Ⅰ	各担当教員	春		1	1	全	48
Reading Strategies Ⅱ	各担当教員	秋		1	1	全	48
Reading Strategies Ⅰ 再履修	靱江　静	秋	月4	1	1	全	49
Reading Strategies Ⅱ 再履修	靱江　静	春	月4	1	1	全	49
Reading Strategies Ⅰ 再履修	白川　貴子	春	水3	1	1	全	50
Reading Strategies Ⅰ 再履修	白川　貴子	秋	水3	1	1	全	50
Reading Strategies Ⅱ 再履修	国見　晃子	秋	木3	1	1	全	51
Reading Strategies Ⅲ(HONORS)	A. ゾーリンジャー	春	水2	1	2	全	52
Reading Strategies Ⅳ(HONORS)	A. ゾーリンジャー	秋	水2	1	2	全	52
Reading Strategies Ⅲ(HONORS)	T. ヒル	春	水2	1	2	全	53
Reading Strategies Ⅳ(HONORS)	T. ヒル	秋	水2	1	2	全	53
Reading Strategies Ⅲ	J. J. ダゲン	春	水2	1	2	全	54
Reading Strategies Ⅳ	J. J. ダゲン	秋	水2	1	2	全	54
Reading Strategies Ⅲ	上野　直子	春	水2	1	2	全	55
Reading Strategies Ⅳ	上野　直子	秋	水2	1	2	全	55
Reading Strategies Ⅲ	片山　亜紀	春	水1	1	2	全	56
Reading Strategies Ⅳ	片山　亜紀	秋	水1	1	2	全	56
Reading Strategies Ⅲ	工藤　和宏	春	水1	1	2	全	57
Reading Strategies Ⅳ	工藤　和宏	秋	水1	1	2	全	57
Reading Strategies Ⅲ	児嶋　一男	春	水2	1	2	全	58
Reading Strategies Ⅳ	児嶋　一男	秋	水2	1	2	全	58
Reading Strategies Ⅲ	佐藤　唯行	春	水1	1	2	全	59
Reading Strategies Ⅳ	佐藤　唯行	秋	水1	1	2	全	59
Reading Strategies Ⅲ	佐野　康子	春	水1	1	2	全	60
Reading Strategies Ⅳ	佐野　康子	秋	水1	1	2	全	60
Reading Strategies Ⅲ	鍋倉　健悦	春	水1	1	2	全	61
Reading Strategies Ⅳ	鍋倉　健悦	秋	水1	1	2	全	61
Reading Strategies Ⅲ	原　成吉	春	水2	1	2	全	62
Reading Strategies Ⅳ	原　成吉	秋	水2	1	2	全	62
Reading Strategies Ⅲ	前沢　浩子	春	水2	1	2	全	63
Reading Strategies Ⅳ	前沢　浩子	秋	水2	1	2	全	63
Reading Strategies Ⅲ 再履修	金谷　優子	春	水3	1	2	全	64
Reading Strategies Ⅳ 再履修	金谷　優子	秋	水3	1	2	全	64
Reading Strategies Ⅲ 再履修	山中　章子	秋	木3	1	2	全	65
Reading Strategies Ⅳ 再履修	山中　章子	春	木3	1	2	全	65
Writing Strategies	各担当教員	春		1	1	全	66
Paragraph Writing	各担当教員	春秋		1	1	全	67
Basic Essay Writing	各担当教員	秋		1	1	全	68
Basic Essay Writing 再履修	L. K. ハーキンス	春	月3	1	1	全	69
Basic Essay Writing 再履修	J. A. グレイ	秋	月5	1	1	全	70
E-learning Ⅰ(Aグループ)	阿部　真	春	金5	1	1	全	71
E-learning Ⅱ(Aグループ)	阿部　真	秋	金5	1	1	全	71
E-learning Ⅰ(B･Cグループ)	安井　美代子	春	金5	1	1	全	72
E-learning Ⅱ(B･Cグループ)	安井　美代子	秋	金5	1	1	全	72
Pronunciation Practice	各担当教員	春秋		1	1	全	73
Introductory Grammar	各担当教員	春秋		1	1	全	74

※他学科生が免許課程履修のため、上記科目を履修する場合は、『英語学科時間割表』を参照してください。

学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	定員	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Japanese Art & Culture)	A. ゾーリンジャー	春秋	木2	32	2	2		75
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language, Culture and Communication)	C. B. 池口	春秋	火4	32	2	2		76
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Linguistics & Teaching)	J. J. ダゲン	春秋	火3	32	2	2		77
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Origin and Evolution of Language)	J. N. ウェンデル	春秋	月4	32	2	2		78
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (James Joyce)	M. フッド	春秋	火3	32	2	2		79
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Language and the Mind)	N. H. ジョスト	春秋	月3	32	2	2		80
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (国際機関とミレニアム開発目標)	S. ロシート	春秋	木3	32	2	2		81
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Pragmatics Ⅰ /Pragmatics Ⅱ)	T. ヒル	春秋	月2	32	2	2		82
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (音声学概論と日本語の音声 / 音声知覚のしくみと発達入門)	青柳　真紀子	春秋	火3	32	2	2		83
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Exploring Language Teaching)	浅岡　千利世	春秋	木1	32	2	2		84
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカのポピュラー・ナショナリズム:理論編 / アメリカのポピュラー・ナショナリズム:応用編)	板場　良久	春秋	金3	32	2	2		85
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代における国際関係の展開)	伊藤　兵馬	春秋	木4	32	2	2		86
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (小さき人々の歴史 -変化する英国社会を読む-)	上野　直子	春秋	月2	32	2	2		87
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (モダニズムの巨匠たちに挑む)	遠藤　朋之	春秋	木3	32	2	2		88
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	大木　理恵子	春秋	月4	32	2	2		89
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アニメ批評)	柿田　秀樹	春秋	火5	32	2	2		90
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (YA小説と北アイルランド紛争)	片山　亜紀	春秋	金2	32	2	2		91
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷　優子	春秋	金4	32	2	2		92
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子　芳樹	春秋	水1	32	2	2		93
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成文法入門)	河原　宏之	春秋	月5	32	2	2		94
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野　収	春秋	金4	32	2	2		95
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (異文化コミュニケーションの理論)	工藤　和宏	春秋	火2	32	2	2		96
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オーストラリアの詩)	国見　晃子	秋	火3・木2	32	2	2		97 98
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英語圏の現代演劇)	児嶋　一男	春秋	火2	32	2	2		99
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Critically thinking things through)	小西　卓三	春秋	月2	32	2	2		100
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (認知言語学)	小早川　暁	春秋	金4	32	2	2		101

学科共通科目 「英語専門講読Ⅰ・Ⅱ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	定員	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (エリザベス・ビショップの詩を読む / ロバート・ブライの詩を読む)	小林　愛明	春秋	木4	32	2	2		102
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (英国ユダヤ人史 / 米国ユダヤ人史)	佐藤　唯行	春秋	火4	32	2	2		103
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (物語を読んで楽しむ)	佐藤　勉	春秋	木3	32	2	2		104
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代国際関係論)	佐野　康子	春秋	火2	32	2	2		105
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ小説)	島田　啓一	春秋	木2	32	2	2		106
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Applied Linguistics)	清水　由理子	春秋	水2	32	2	2		107
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (イギリス児童文学)	白鳥　正孝	春秋	水3	32	2	2		108
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (生成英語統語論への誘い)	鈴木　英一	春秋	木4	32	2	2		109
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (Deconstructing “Japaneseness”)	須永　和博	春秋	月3	32	2	2		110
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (コミュニケーションと異文化理解)	瀬戸　千尋	春秋	火3	32	2	2		111
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	高田　宣子	春秋	火4	32	2	2		112
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (グローバルな眼でアジアを読む)	竹田　いさみ	春秋	火4	32	2	2		113
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (日本語学・対象言語学)	担当者未定	春秋	水4	32	2	2		114
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (現代イギリス小説)	東郷　公徳	春秋	月5	32	2	2		115
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (戦後国際政治史)	永野　隆行	春秋	火3	32	2	2		116
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (インタビューやニュースのスクリプトを読む)	鍋倉　健悦	春秋	月2	32	2	2		117
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (SLA実証研究論文)	羽山　恵	春秋	金3	32	2	2		118
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (アメリカ現代詩を読む)	原　成吉	春秋	火1	32	2	2		119
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく)	福井　嘉彦	春秋	火3	32	2	2		120
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (シェイクスピアを読む)	前沢　浩子	春秋	火1	32	2	2		121
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (国際連合の組織と機能)	光辻　克馬	春秋	木4	32	2	2		122
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (黒人ミステリー作品を解読する)	三吉　美加	春秋	月3	32	2	2		123
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (「管理される心」を日本人の感性で読み解く)	山路　顕	春秋	火3	32	2	2		124
英語専門講読Ⅰ・Ⅱ (オープンスカイと北東アジア共通航空市場)	山路　顕	春秋	木3	32	2	2		125

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Academic Writing	D. H. ケネディ	春	火1	2	2	交	126
Academic Writing	D. H. ケネディ	秋	火1	2	2	交	126
Academic Writing	D. ブラドリー	春	火3	2	2	交	127
Academic Writing	D. ブラドリー	秋	火3	2	2	交	127
Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火1	2	2	交	128
Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火1	2	2	交	128
Academic Writing	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2	交	129
Academic Writing	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2	交	129
Academic Writing	E. フランコ	春	木3	2	2	交	130
Academic Writing	E. フランコ	秋	木3	2	2	交	130
Academic Writing	J. N. ウェンデル	春	火3	2	2	交	131
Academic Writing	J. N. ウェンデル	秋	火3	2	2	交	131
Academic Writing	J. ウォールドマン	春	木2	2	2	交	132
Academic Writing	J. ウォールドマン	秋	木2	2	2	交	132
Academic Writing	K. フォード	春	金2	2	2	交	133
Academic Writing	K. フォード	秋	金2	2	2	交	133
Academic Writing	K. ミーハン	春	月4	2	2	交	134
Academic Writing	L. K. ハーキンス	秋	月3	2	2	交	135
Academic Writing	M. ダーリン	春	月5	2	2	交	136
Academic Writing	M. ダーリン	秋	月5	2	2	交	136
Academic Writing	M. フッド	春	火4	2	2	交	137
Academic Writing	M. フッド	秋	火4	2	2	交	137
Academic Writing	P. ドーレ	春	火3	2	2	交	138
Academic Writing	R. ジョーンズ	春	水3	2	2	交	139
Academic Writing	R. ジョーンズ	秋	水3	2	2	交	139
Academic Writing	R. ダラム	春	木2	2	2	交	140
Academic Writing	R. ダラム	秋	木2	2	2	交	140
翻訳	P. ネルム	春	金5	2	2	交	141
翻訳	P. ネルム	秋	金5	2	2	交	141
翻訳	上野　直子	春	水1	2	2	交	142
翻訳	柴田　耕太郎	春	木3	2	2	交	143
翻訳	柴田　耕太郎	秋	木3	2	2	交	143
翻訳	柴田　耕太郎	春	木4	2	2	交	144
翻訳	柴田　耕太郎	秋	木4	2	2	交	144
翻訳	白川　貴子	春	水4	2	2	交	145
翻訳	白川　貴子	秋	水4	2	2	交	145
翻訳	高田　宣子	春	火5	2	2	交	146
翻訳	高田　宣子	秋	火5	2	2	交	146
翻訳	藤田　永祐	春	金4	2	2	交	147
翻訳	藤田　永祐	秋	金4	2	2	交	147
翻訳	山中　章子	春	木5	2	2	交	148
翻訳	山中　章子	秋	木5	2	2	交	148
College Grammar	靭江　静	春	月3	2	2	交	149
College Grammar	靭江　静	秋	月3	2	2	交	149
College Grammar	靭江　静	春	月5	2	2	交	150
College Grammar	靭江　静	秋	月5	2	2	交	150
College Grammar	河原　宏之	春	木2	2	2	交	151
College Grammar	河原　宏之	秋	木2	2	2	交	151
College Grammar	小早川　暁	春	火3	2	2	交	152
College Grammar	小早川　暁	秋	火3	2	2	交	152
College Grammar	坂本　洋子	春	月4	2	2	交	153
College Grammar	坂本　洋子	秋	月4	2	2	交	153
College Grammar	坂本　洋子	春	金4	2	2	交	154
College Grammar	坂本　洋子	秋	金4	2	2	交	154
College Grammar	鈴木　英一	春	水1	2	2	交	155
College Grammar	鈴木　英一	秋	水1	2	2	交	155
College Grammar	府川　謹也	春	金2	2	2	交	156
College Grammar	府川　謹也	秋	金2	2	2	交	156
College Grammar	藤田　永祐	春	金3	2	2	交	157
College Grammar	藤田　永祐	秋	金3	2	2	交	157

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
Communicative English	D. ブラドリー	春	火2	2	2	交	158
Communicative English	D. ブラドリー	秋	火2	2	2	交	158
Communicative English	D. マッキャン	春	木2	2	2	交	159
Communicative English	D. マッキャン	秋	木2	2	2	交	159
Communicative English	J. スネール	春	金2	2	2	交	160
Communicative English	J. スネール	秋	金2	2	2	交	160
Communicative English	J. A. グレイ	春	月5	2	2	交	161
Communicative English	J. A. グレイ	春	水5	2	2	交	162
Communicative English	K. ミーハン	春	月1	2	2	交	163
Communicative English	K. ミーハン	秋	月1	2	2	交	163
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	月1	2	2	交	164
Communicative English	L. K. ハーキンス	春	金1	2	2	交	165
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金1	2	2	交	165
Communicative English	L. K. ハーキンス	秋	金3	2	2	交	166
Communicative English	M. ダーリン	春	木5	2	2	交	167
Communicative English	M. ダーリン	秋	木5	2	2	交	167
Communicative English	P. M. ホーネス	春	月1	2	2	交	168
Communicative English	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2	交	168
Communicative English	P. アップス	春	火2	2	2	交	169
Communicative English	P. アップス	秋	火2	2	2	交	169
Communicative English	P. ドーレ	秋	火3	2	2	交	170
Communicative English	R. J. バロウズ	春	火4	2	2	交	171
Communicative English	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2	交	171
Communicative English	R. ジョーンズ	春	月1	2	2	交	172
Communicative English	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2	交	172
Communicative English	R. ダラム	春	火1	2	2	交	173
Communicative English	R. ダラム	秋	火1	2	2	交	173
Communicative English	R. ダラム	春	火3	2	2	交	174
Communicative English	R. ダラム	秋	火3	2	2	交	174
Communicative English	T. ヒル	春	火2	2	2	交	175
Communicative English	T. ヒル	秋	火2	2	2	交	175
Discussion	C. B. 池口	春	火2	2	2	交	176
Discussion	C. B. 池口	秋	火2	2	2	交	176
Discussion	E. フランコ	春	木2	2	2	交	177
Discussion	E. フランコ	秋	木2	2	2	交	177
Discussion	J. ウォールドマン	春	月4	2	2	交	178
Discussion	J. ウォールドマン	秋	月4	2	2	交	178
Discussion	N. H. ジョスト	春	火3	2	2	交	179
Discussion	N. H. ジョスト	秋	火3	2	2	交	179
Discussion	P. マッケビリー	春	金2	2	2	交	180
Discussion	P. マッケビリー	秋	金2	2	2	交	180
Discussion	S. ロシート	春	木4	2	2	交	181
Discussion	S. ロシート	秋	木4	2	2	交	181
Public Speaking Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	金1	2	2	交	182
Public Speaking Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	金1	2	2	交	182
Public Speaking Ⅰ	J. N. ウェンデル	春	月3	2	2	交	183
Public Speaking Ⅱ	J. N. ウェンデル	秋	月3	2	2	交	183
Public Speaking Ⅰ	J. フォルカス	春	金3	2	2	交	184
Public Speaking Ⅱ	J. フォルカス	秋	金3	2	2	交	184
Public Speaking Ⅰ	門倉　弘枝	春	木3	2	2	交	185
Public Speaking Ⅱ	門倉　弘枝	秋	木3	2	2	交	185
Debate Ⅰ	C. B. 池口	春	火3	2	2	交	186
Debate Ⅱ	C. B. 池口	秋	火3	2	2	交	186
Debate Ⅰ	N. H. ジョスト	春	火2	2	2	交	187
Debate Ⅱ	N. H. ジョスト	秋	火2	2	2	交	187

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
通訳　Ⅰ	鍋倉　健悦	春	火3	2	2	交	188
通訳　Ⅰ	鍋倉　健悦	秋	火3	2	2	交	188
通訳　Ⅰ	原口　友子	春	金4	2	2	交	189
通訳　Ⅰ	原口　友子	秋	金4	2	2	交	189
通訳　Ⅰ	原口　友子	春	金5	2	2	交	190
通訳　Ⅰ	原口　友子	秋	金5	2	2	交	190
通訳　Ⅱ	原口　友子	春	金3	2	2	交	191
通訳　Ⅱ	原口　友子	秋	金3	2	2	交	191
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	春	火3	2	2	交	192
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	秋	火3	2	2	交	192
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	春	水3	2	2	交	193
英語ビジネス・コミュニケーション	海老沢　達郎	秋	水3	2	2	交	193
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木3	2	2	交	194
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木3	2	2	交	194
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	春	木4	2	2	交	195
英語ビジネス・コミュニケーション	杉山　晴信	秋	木4	2	2	交	195
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	月1	2	2	交	196
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	月1	2	2	交	196
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	春	月2	2	2	交	197
英語ビジネス・コミュニケーション	信　達郎	秋	月2	2	2	交	197
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	春	金1	2	3	交	198
英語ビジネス・コミュニケーション実務	杉山　晴信	秋	金1	2	3	交	198
メディア英語　Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2	交	199
メディア英語　Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2	交	199
メディア英語　Ⅰ	A. R. ファルヴォ	春	金2	2	2	交	200
メディア英語　Ⅰ	A. R. ファルヴォ	秋	金2	2	2	交	200
メディア英語　Ⅰ	P. ネルム	春	金3	2	2	交	201
メディア英語　Ⅰ	P. ネルム	秋	金3	2	2	交	201
メディア英語　Ⅰ	海老沢　達郎	春	火2	2	2	交	202
メディア英語　Ⅰ	海老沢　達郎	秋	火2	2	2	交	202
メディア英語　Ⅰ	国見　晃子	秋	火4	2	2	交	203
メディア英語　Ⅰ	国見　晃子	秋	木4	2	2	交	204
メディア英語　Ⅰ	小林　愛明	春	木3	2	2	交	205
メディア英語　Ⅰ	小林　愛明	秋	木3	2	2	交	205
メディア英語　Ⅱ	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2	交	206
メディア英語　Ⅱ	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2	交	206
メディア英語　Ⅱ	P. ネルム	春	金4	2	2	交	207
メディア英語　Ⅱ	P. ネルム	秋	金4	2	2	交	207
メディア英語　Ⅱ	東郷　公徳	春	月4	2	2	交	208
メディア英語　Ⅱ	東郷　公徳	秋	月4	2	2	交	208
シネマ英語	門倉　弘枝	春	木2	2	2	交	209
シネマ英語	門倉　弘枝	秋	木2	2	2	交	209
シネマ英語	佐野　康子	春	木2	2	2	交	210
シネマ英語	前沢　浩子	秋	月3	2	2	交	211

学科専門科目

言語コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語学の世界	府川　謹也	春	金1	2	2	交	212
英語学の世界	府川　謹也	秋	火5	2	2	交	212
言語情報処理Ⅰa	羽山　恵	春	木2	2	2	独・仏・交	213
言語情報処理Ⅰb	羽山　恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	213
言語情報処理Ⅰa	吉成　雄一郎	春	金2	2	2	独・仏・交	214
言語情報処理Ⅰb	吉成　雄一郎	秋	金2	2	2	独・仏・交	214
言語情報処理Ⅱa	吉成　雄一郎	春	金1	2	2		215
言語情報処理Ⅱb	吉成　雄一郎	秋	金1	2	2		215
英語発音教授法　（06年度以降入学者）	清水　由理子	春	月3	2	2		216
英語発音教授法　（06年度以降入学者）	清水　由理子	秋	月3	2	2		216
実践英語音声学　（09年度以降入学者）	清水　由理子	春	月3	2	2		216
実践英語音声学　（09年度以降入学者）	清水　由理子	秋	月3	2	2		216
音声・音韻論a	青柳　真紀子	春	金3	2	2		217
音声・音韻論b	青柳　真紀子	秋	金3	2	2		217
シンタクスa	安井　美代子	春	金2	2	2		218
シンタクスb	安井　美代子	秋	金2	2	2		218
意味論a	府川　謹也	春	火2	2	2		219
意味論b	府川　謹也	秋	火2	2	2		219
英語学特殊講義a	小早川　暁	春	水1	2	2		220
英語学特殊講義b	小早川　暁	秋	水1	2	2		220
英語学文献研究a	小早川　暁	春	水2	2	3		221
英語学文献研究b	小早川　暁	秋	水2	2	3		221
英語学文献研究a	鈴木　英一	春	木3	2	3		222
英語学文献研究b	鈴木　英一	秋	木3	2	3		222

文学コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語圏の文学・文化	前沢　浩子	春	月4	2	2		223
英語圏の文学・文化	片山　亜紀	秋	金4	2	2		223
英語圏の小説 a	上野　直子	春	月4	2	2	全	224
英語圏の小説 b	島田　啓一	秋	木3	2	2	全	224
英語圏の詩 a	遠藤　朋之	春	木4	2	2	全	225
英語圏の詩 b	白鳥　正孝	秋	水4	2	2	全	225
英語圏の演劇 a	児嶋　一男	春	月3	2	2	全	226
英語圏の演劇 b	児嶋　一男	秋	月3	2	2	全	226
英語圏の社会と思想 a	福井　嘉彦	春	火2	2	2	全	227
英語圏の社会と思想 b	福井　嘉彦	秋	火2	2	2	全	227
英語圏の歴史 a	佐藤　唯行	春	火2	2	2		228
英語圏の歴史 b	佐藤　唯行	秋	火2	2	2		228
英語圏のエリア・スタディーズ a	前沢　浩子	春	水3	2	2	交	229
英語圏のエリア・スタディーズ b	前沢　浩子	秋	水3	2	2	交	229
英語圏の文学・文化特殊講義 a	島田　啓一	春	木3	2	2		230
英語圏の文学・文化特殊講義 b	J. C. アラード	秋	木2	2	2		231
英語圏の文学・文化文献研究 a	白鳥　正孝	春	水4	2	3		232
英語圏の文学・文化文献研究 b	J. C. アラード	秋	木3	2	3		233
英語圏の文学・文化文献研究 b	上野　直子	秋	月4	2	3		234

学科専門科目

異文化コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
異文化間コミュニケーション論a,b	工藤　和宏	春	火5	2	2	言・養	235
異文化間コミュニケーション論a,b	工藤　和宏	秋	火5	2	2	言・養	235
異文化間コミュニケーション論a,b	鍋倉　健悦	春	火5	2	2	言・養	236
異文化間コミュニケーション論a,b	鍋倉　健悦	秋	火5	2	2	言・養	236
メディア・コミュニケーション論a	柿田　秀樹	春	火4	2	2		237
メディア・コミュニケーション論b	柿田　秀樹	秋	火4	2	2		237
スピーチ・コミュニケーション論a	板場　良久	春	火1	2	2		238
スピーチ・コミュニケーション論b	板場　良久	秋	火1	2	2		238
スピーチ・コミュニケーション論a	柿田　秀樹	春	木3	2	2		239
スピーチ・コミュニケーション論b	柿田　秀樹	秋	木3	2	2		239
コミュニケーション論特殊講義a	小西　卓三	春	木1	2	3		240
コミュニケーション論特殊講義b	小西　卓三	秋	木1	2	3		240
コミュニケーション論特殊講義a	町田　喜義	春	月3	2	3		241
コミュニケーション論特殊講義b	町田　喜義	秋	月3	2	3		241
コミュニケーション論文献研究a	小西　卓三	春	月4	2	3		242
コミュニケーション論文献研究b	小西　卓三	秋	月4	2	3		242
コミュニケーション論文献研究a	小西　卓三	春	木2	2	3		243
コミュニケーション論文献研究b	小西　卓三	秋	木2	2	3		243

国際コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
グローバル社会論a,b	佐野　康子	春	火3	2	2	交	244
グローバル社会論a,b	佐野　康子	秋	火3	2	2	交	244
グローバル社会論a,b	竹田　いさみ	春	火3	2	2	交	245
グローバル社会論a,b	竹田　いさみ	秋	火3	2	2	交	245
英語圏の国際関係a	永野　隆行	春	月2	2	2	交・法	246
英語圏の国際関係b	永野　隆行	秋	月2	2	2	交・法	246
国際開発論	金子　芳樹	春	火2	2	2	交	247
国際協力論	竹田　いさみ	秋	月3	2	2	交	248
国際交流論	小松　諄悦	春	金2	2	2	交	249
国際ツーリズム論	山路　顕	秋	木4	2	2	交	250
国際NGO・ボランティア論	金子　芳樹	秋	火2	2	2	交	251
国際関係特殊講義a	竹田　いさみ	春	月3	2	2	交	252
国際関係特殊講義a	永野　隆行	春	木2	2	2		253
国際関係特殊講義b	小松　諄悦	秋	金2	2	2		254
国際関係特殊講義b	佐野　康子	秋	木2	2	2		255
国際関係文献研究a	金子　芳樹	春	火4	2	3		256
国際関係文献研究b	金子　芳樹	秋	火4	2	3		256
国際関係文献研究a	竹田　いさみ	春	火5	2	3		257
国際関係文献研究b	竹田　いさみ	秋	火5	2	3		257
国際関係文献研究a	光辻　克馬	春	木5	2	3		258
国際関係文献研究b	光辻　克馬	秋	木5	2	3		258

英語学科　授業科目(2003～2005年度入学者用)

学科基礎科目(再履修者用)

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語リーディング・ストラティジーズ b	靱江　静	春	月4	1	1	全	49
英語リーディング・ストラティジーズ a	靱江　静	秋	月4	1	1	全	49
英語リーディング・ストラティジーズ a	白川　貴子	春	水3	1	1	全	50
英語リーディング・ストラティジーズ a	白川　貴子	秋	水3	1	1	全	50
英語リーディング・ストラティジーズ b	国見　晃子	秋	木3	1	1	全	51
英語専門講読入門 a	金谷　優子	春	水3	1	2		64
英語専門講読入門 b	金谷　優子	秋	水3	1	2		64
英語専門講読入門 b	山中　章子	春	木3	1	2		65
英語専門講読入門 a	山中　章子	秋	木3	1	2		65
英語学概論 a	鈴木　英一	春	火3	2	1		21
英語学概論 a	鈴木　英一	秋	火3	2	1		21
英語学概論 a	安井　美代子	春	金1	2	1		22
英語学概論 a	安井　美代子	秋	金1	2	1		22
英語学概論 b	府川　謹也	春	金1	2	1		212
英語学概論 b	府川　謹也	秋	火5	2	1		212
英語圏の文学・文化概論 a	上野　直子	春	木5	2	1		23
英語圏の文学・文化概論 a	片山　亜紀	秋	木4	2	1		23
英語圏の文学・文化概論 a	片山　亜紀	秋	木5	2	1		23
英語圏の文学・文化概論 b	前沢　浩子	春	月4	2	1		223
英語圏の文学・文化概論 b	片山　亜紀	秋	金4	2	1		223
文化コミュニケーション概論 b	板場　良久	春	月5	2	1		24
文化コミュニケーション概論 a	板場　良久	秋	月5	2	1		24
文化コミュニケーション概論 a	柿田　秀樹	春	水2	2	1		25
文化コミュニケーション概論 b	柿田　秀樹	秋	水2	2	1		25
国際コミュニケーション概論 b	金子　芳樹	春	水2	2	1	言	26
国際コミュニケーション概論 a	金子　芳樹	秋	水2	2	1	言	26
国際コミュニケーション概論 a	永野　隆行	春	火5	2	1	言	27
英語音声学	青柳　真紀子	春	火1	2	1		28
英語音声学	青柳　真紀子	秋	火1	2	1		28
英語音声学	中田　ひとみ	春	火2	2	1		29
英語音声学	中田　ひとみ	秋	火2	2	1		29
スピーチ・クリニック	清水　由理子	春	月3	2	1		216
スピーチ・クリニック	清水　由理子	秋	月3	2	1		216

※閉講した科目を履修する場合は、教務課外国語学部係窓口で履修相談を受けてください。

学科共通科目 「英語専門講読ａ・ｂ」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	定員	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読ａ・ｂ (Japanese Art & Culture)	A. ゾーリンジャー	春秋	木2	32	2	2		75
英語専門講読 ａ・ｂ (Language, Culture and Communication)	C. B. 池口	春秋	火4	32	2	2		76
英語専門講読 ａ・ｂ (Linguistics & Teaching)	J. J. ダゲン	春秋	火3	32	2	2		77
英語専門講読 ａ・ｂ (Origin and Evolution of Language)	J. N. ウェンデル	春秋	月4	32	2	2		78
英語専門講読 ａ・ｂ (James Joyce)	M. フッド	春秋	火3	32	2	2		79
英語専門講読 ａ・ｂ (Language and the Mind)	N. H. ジョスト	春秋	月3	32	2	2		80
英語専門講読 ａ・ｂ (国際機関とミレニアム開発目標)	S. ロシート	春秋	木3	32	2	2		81
英語専門講読 ａ・ｂ (Pragmatics Ⅰ /Pragmatics Ⅱ)	T. ヒル	春秋	月2	32	2	2		82
英語専門講読 ａ・ｂ (音声学概論と日本語の音声 / 音声知覚のしくみと発達入門)	青柳　真紀子	春秋	火3	32	2	2		83
英語専門講読 ａ・ｂ (Exploring Language Teaching)	浅岡　千利世	春秋	木1	32	2	2		84
英語専門講読 ａ・ｂ (アメリカのポピュラー・ナショナリズム:理論編 / アメリカのポピュラー・ナショナリズム:応用編)	板場　良久	春秋	金3	32	2	2		85
英語専門講読 ａ・ｂ (現代における国際関係の展開)	伊藤　兵馬	春秋	木4	32	2	2		86
英語専門講読 ａ・ｂ (小さき人々の歴史 -変化する英国社会を読む-)	上野　直子	春秋	月2	32	2	2		87
英語専門講読 ａ・ｂ (モダニズムの巨匠たちに挑む)	遠藤　朋之	春秋	木3	32	2	2		88
英語専門講読 ａ・ｂ (ディズニー・アニメの歴史をたどる)	大木　理恵子	春秋	月4	32	2	2		89
英語専門講読 ａ・ｂ (アニメ批評)	柿田　秀樹	春秋	火5	32	2	2		90
英語専門講読 ａ・ｂ (YA小説と北アイルランド紛争)	片山　亜紀	春秋	金2	32	2	2		91
英語専門講読 ａ・ｂ (アメリカ文学:John Steinbeckの文学を読む)	金谷　優子	春秋	金4	32	2	2		92
英語専門講読 ａ・ｂ (アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係)	金子　芳樹	春秋	水1	32	2	2		93
英語専門講読 ａ・ｂ (生成文法入門)	河原　宏之	春秋	月5	32	2	2		94
英語専門講読 ａ・ｂ (地球市民のためのフェアトレード入門)	北野　収	春秋	金4	32	2	2		95
英語専門講読 ａ・ｂ (異文化コミュニケーションの理論)	工藤　和宏	春秋	火2	32	2	2		96
英語専門講読 ａ・ｂ (オーストラリアの詩)	国見　晃子	秋	火3・木2	32	2	2		97 98
英語専門講読 ａ・ｂ (英語圏の現代演劇)	児嶋　一男	春秋	火2	32	2	2		99
英語専門講読 ａ・ｂ (Critically thinking things through)	小西　卓三	春秋	月2	32	2	2		100
英語専門講読 ａ・ｂ (認知言語学)	小早川　暁	春秋	金4	32	2	2		101

学科共通科目 「英語専門講読a・b」

科目名(副題)	担当者	開講区分	曜時	定員	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語専門講読 a・b (エリザベス・ビショップの詩を読む / ロバート・ブライの詩を読む)	小林　愛明	春秋	木4	32	2	2		102
英語専門講読 a・b (英国ユダヤ人史 / 米国ユダヤ人史)	佐藤　唯行	春秋	火4	32	2	2		103
英語専門講読 a・b (物語を読んで楽しむ)	佐藤　勉	春秋	木3	32	2	2		104
英語専門講読 a・b (現代国際関係論)	佐野　康子	春秋	火2	32	2	2		105
英語専門講読 a・b (アメリカ小説)	島田　啓一	春秋	木2	32	2	2		106
英語専門講読 a・b (Applied Linguistics)	清水　由理子	春秋	水2	32	2	2		107
英語専門講読 a・b (イギリス児童文学)	白鳥　正孝	春秋	水3	32	2	2		108
英語専門講読 a・b (生成英語統語論への誘い)	鈴木　英一	春秋	木4	32	2	2		109
英語専門講読 a・b (Deconstructing “Japaneseness”)	須永　和博	春秋	月3	32	2	2		110
英語専門講読 a・b (コミュニケーションと異文化理解)	瀬戸　千尋	春秋	火3	32	2	2		111
英語専門講読 a・b (20世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人)	高田　宣子	春秋	火4	32	2	2		112
英語専門講読 a・b (グローバルな眼でアジアを読む)	竹田　いさみ	春秋	火4	32	2	2		113
英語専門講読 a・b (日本語学・対象言語学)	担当者未定	春秋	水4	32	2	2		114
英語専門講読 a・b (現代イギリス小説)	東郷　公徳	春秋	月5	32	2	2		115
英語専門講読 a・b (戦後国際政治史)	永野　隆行	春秋	火3	32	2	2		116
英語専門講読 a・b (インタビューやニュースのスクリプトを読む)	鍋倉　健悦	春秋	月2	32	2	2		117
英語専門講読 a・b (SLA実証研究論文)	羽山　恵	春秋	金3	32	2	2		118
英語専門講読 a・b (アメリカ現代詩を読む)	原　成吉	春秋	火1	32	2	2		119
英語専門講読 a・b (スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく)	福井　嘉彦	春秋	火3	32	2	2		120
英語専門講読 a・b (シェイクスピアを読む)	前沢　浩子	春秋	火1	32	2	2		121
英語専門講読 a・b (国際連合の組織と機能)	光辻　克馬	春秋	木4	32	2	2		122
英語専門講読 a・b (黒人ミステリー作品を解読する)	三吉　美加	春秋	月3	32	2	2		123
英語専門講読 a・b (「管理される心」を日本人の感性で読み解く)	山路　顕	春秋	火3	32	2	2		124
英語専門講読 a・b (オープンスカイと北東アジア共通航空市場)	山路　顕	春秋	木3	32	2	2		125

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語エッセイ・ライティング a	D. H. ケネディ	春	火1	2	2		126
英語エッセイ・ライティング b	D. H. ケネディ	秋	火1	2	2		126
英語エッセイ・ライティング a	D. ブラドリー	春	火3	2	2		127
英語エッセイ・ライティング b	D. ブラドリー	秋	火3	2	2		127
英語エッセイ・ライティング a	E. J. ナオウミ	春	火1	2	2		128
英語エッセイ・ライティング b	E. J. ナオウミ	秋	火1	2	2		128
英語エッセイ・ライティング a	E. J. ナオウミ	春	火2	2	2		129
英語エッセイ・ライティング b	E. J. ナオウミ	秋	火2	2	2		129
英語エッセイ・ライティング a	E. フランコ	春	木3	2	2		130
英語エッセイ・ライティング b	E. フランコ	秋	木3	2	2		130
英語エッセイ・ライティング a	J. N. ウェンデル	春	火3	2	2		131
英語エッセイ・ライティング b	J. N. ウェンデル	秋	火3	2	2		131
英語エッセイ・ライティング a	J. ウォールドマン	春	木2	2	2		132
英語エッセイ・ライティング b	J. ウォールドマン	秋	木2	2	2		132
英語エッセイ・ライティング a	K. フォード	春	金2	2	2		133
英語エッセイ・ライティング b	K. フォード	秋	金2	2	2		133
英語エッセイ・ライティング a	K. ミーハン	春	月4	2	2		134
英語エッセイ・ライティング b	L. K. ハーキンス	秋	月3	2	2		135
英語エッセイ・ライティング a	M. ダーリン	春	月5	2	2		136
英語エッセイ・ライティング b	M. ダーリン	秋	月5	2	2		136
英語エッセイ・ライティング a	M. フッド	春	火4	2	2		137
英語エッセイ・ライティング b	M. フッド	秋	火4	2	2		137
英語エッセイ・ライティング a	P. ドーレ	春	火3	2	2		138
英語エッセイ・ライティング a	R. ジョーンズ	春	水3	2	2		139
英語エッセイ・ライティング b	R. ジョーンズ	秋	水3	2	2		139
英語エッセイ・ライティング a	R. ダラム	春	木2	2	2		140
英語エッセイ・ライティング b	R. ダラム	秋	木2	2	2		140
翻訳 a	P. ネルム	春	金5	2	2		141
翻訳 b	P. ネルム	秋	金5	2	2		141
翻訳 a	上野　直子	春	水1	2	2		142
翻訳 a	柴田　耕太郎	春	木3	2	2		143
翻訳 b	柴田　耕太郎	秋	木3	2	2		143
翻訳 a	柴田　耕太郎	春	木4	2	2		144
翻訳 b	柴田　耕太郎	秋	木4	2	2		144
翻訳 a	白川　貴子	春	水4	2	2		145
翻訳 b	白川　貴子	秋	水4	2	2		145
翻訳 a	高田　宣子	春	火5	2	2		146
翻訳 b	高田　宣子	秋	火5	2	2		146
翻訳 a	藤田　永祐	春	金4	2	2		147
翻訳 b	藤田　永祐	秋	金4	2	2		147
翻訳 a	山中　章子	春	木5	2	2		148
翻訳 b	山中　章子	秋	木5	2	2		148
カレッジ・グラマー a	靭江　静	春	月3	2	2		149
カレッジ・グラマー b	靭江　静	秋	月3	2	2		149
カレッジ・グラマー a	靭江　静	春	月5	2	2		150
カレッジ・グラマー b	靭江　静	秋	月5	2	2		150
カレッジ・グラマー a	河原　宏之	春	木2	2	2		151
カレッジ・グラマー b	河原　宏之	秋	木2	2	2		151
カレッジ・グラマー a	小早川　暁	春	火3	2	2		152
カレッジ・グラマー b	小早川　暁	秋	火3	2	2		152
カレッジ・グラマー a	坂本　洋子	春	月4	2	2		153
カレッジ・グラマー b	坂本　洋子	秋	月4	2	2		153
カレッジ・グラマー a	坂本　洋子	春	金4	2	2		154
カレッジ・グラマー b	坂本　洋子	秋	金4	2	2		154
カレッジ・グラマー a	鈴木　英一	春	水1	2	2		155
カレッジ・グラマー b	鈴木　英一	秋	水1	2	2		155
カレッジ・グラマー a	府川　謹也	春	金2	2	2		156
カレッジ・グラマー b	府川　謹也	秋	金2	2	2		156
カレッジ・グラマー a	藤田　永祐	春	金3	2	2		157
カレッジ・グラマー b	藤田　永祐	秋	金3	2	2		157

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	D. ブラドリー	春	火2	2	2		158
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	D. ブラドリー	秋	火2	2	2		158
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	D. マッキャン	春	木2	2	2		159
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	D. マッキャン	秋	木2	2	2		159
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	J. スネール	春	金2	2	2		160
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	J. スネール	秋	金2	2	2		160
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	J. A. グレイ	春	月5	2	2		161
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	J. A. グレイ	春	水5	2	2		162
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	K. ミーハン	春	月1	2	2		163
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	K. ミーハン	秋	月1	2	2		163
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	L. K. ハーキンス	秋	月1	2	2		164
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	L. K. ハーキンス	春	金1	2	2		165
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	L. K. ハーキンス	秋	金1	2	2		165
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	L. K. ハーキンス	秋	金3	2	2		166
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	M. ダーリン	春	木5	2	2		167
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	M. ダーリン	秋	木5	2	2		167
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	P. M. ホーネス	春	月1	2	2		168
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	P. M. ホーネス	秋	月1	2	2		168
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	P. アップス	春	火2	2	2		169
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	P. アップス	秋	火2	2	2		169
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	P. ドーレ	秋	火3	2	2		170
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	R. J. バロウズ	春	火4	2	2		171
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	R. J. バロウズ	秋	火4	2	2		171
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	R. ジョーンズ	春	月1	2	2		172
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	R. ジョーンズ	秋	月1	2	2		172
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	R. ダラム	春	火1	2	2		173
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	R. ダラム	秋	火1	2	2		173
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	R. ダラム	春	火3	2	2		174
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	R. ダラム	秋	火3	2	2		174
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ a	T. ヒル	春	火2	2	2		175
COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱ b	T. ヒル	秋	火2	2	2		175
DISCUSSION a	C. B. 池口	春	火2	2	2		176
DISCUSSION b	C. B. 池口	秋	火2	2	2		176
DISCUSSION a	E. フランコ	春	木2	2	2		177
DISCUSSION b	E. フランコ	秋	木2	2	2		177
DISCUSSION a	J. ウォールドマン	春	月4	2	2		178
DISCUSSION b	J. ウォールドマン	秋	月4	2	2		178
DISCUSSION a	N. H. ジョスト	春	火3	2	2		179
DISCUSSION b	N. H. ジョスト	秋	火3	2	2		179
DISCUSSION a	P. マッケビリー	春	金2	2	2		180
DISCUSSION b	P. マッケビリー	秋	金2	2	2		180
DISCUSSION a	S. ロシート	春	木4	2	2		181
DISCUSSION b	S. ロシート	秋	木4	2	2		181
PUBLIC SPEAKING Ⅰ a	A. R. ファルヴォ	春	金1	2	1		182
PUBLIC SPEAKING Ⅰ b	A. R. ファルヴォ	秋	金1	2	1		182
PUBLIC SPEAKING Ⅰ a	J. N. ウェンデル	春	月3	2	1		183
PUBLIC SPEAKING Ⅰ b	J. N. ウェンデル	秋	月3	2	1		183
PUBLIC SPEAKING Ⅰ a	J. フォルカス	春	金3	2	1		184
PUBLIC SPEAKING Ⅰ b	J. フォルカス	秋	金3	2	1		184
PUBLIC SPEAKING Ⅰ a	門倉　弘枝	春	木3	2	1		185
PUBLIC SPEAKING Ⅰ b	門倉　弘枝	秋	木3	2	1		185
DEBATE Ⅰ a	C. B. 池口	春	火3	2	1		186
DEBATE Ⅰ b	C. B. 池口	秋	火3	2	1		186
DEBATE Ⅰ a	N. H. ジョスト	春	火2	2	1		187
DEBATE Ⅰ b	N. H. ジョスト	秋	火2	2	1		187

学科共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
通訳 Ⅰ a	鍋倉　健悦	春	火3	2	1		188
通訳 Ⅰ b	鍋倉　健悦	秋	火3	2	1		188
通訳 Ⅰ a	原口　友子	春	金4	2	1		189
通訳 Ⅰ b	原口　友子	秋	金4	2	1		189
通訳 Ⅰ a	原口　友子	春	金5	2	1		190
通訳 Ⅰ b	原口　友子	秋	金5	2	1		190
通訳 Ⅱ a	原口　友子	春	金3	2	2		191
通訳 Ⅱ b	原口　友子	秋	金3	2	2		191
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ a	海老沢　達郎	春	火3	2	2		192
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ b	海老沢　達郎	秋	火3	2	2		192
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ a	海老沢　達郎	春	水3	2	2		193
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ b	海老沢　達郎	秋	水3	2	2		193
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ a	杉山　晴信	春	木3	2	2		194
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ b	杉山　晴信	秋	木3	2	2		194
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ a	杉山　晴信	春	木4	2	2		195
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ b	杉山　晴信	秋	木4	2	2		195
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ a	信　達郎	春	月1	2	2		196
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ b	信　達郎	秋	月1	2	2		196
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ a	信　達郎	春	月2	2	2		197
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅰ b	信　達郎	秋	月2	2	2		197
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅱ a	杉山　晴信	春	金1	2	2		198
英語ビジネス・コミュニケーション Ⅱ b	杉山　晴信	秋	金1	2	2		198
メディア英語 Ⅰ a	A. R. ファルヴォ	春	月3	2	2		199
メディア英語 Ⅰ b	A. R. ファルヴォ	秋	月3	2	2		199
メディア英語 Ⅰ a	A. R. ファルヴォ	春	金2	2	2		200
メディア英語 Ⅰ b	A. R. ファルヴォ	秋	金2	2	2		200
メディア英語 Ⅰ a	P. ネルム	春	金3	2	2		201
メディア英語 Ⅰ b	P. ネルム	秋	金3	2	2		201
メディア英語 Ⅰ a	海老沢　達郎	春	火2	2	2		202
メディア英語 Ⅰ b	海老沢　達郎	秋	火2	2	2		202
メディア英語 Ⅰ b	国見　晃子	秋	火4	2	2		203
メディア英語 Ⅰ b	国見　晃子	秋	木4	2	2		204
メディア英語 Ⅰ a	小林　愛明	春	木3	2	2		205
メディア英語 Ⅰ b	小林　愛明	秋	木3	2	2		205
メディア英語 Ⅱ a	A. R. ファルヴォ	春	月1	2	2		206
メディア英語 Ⅱ b	A. R. ファルヴォ	秋	月1	2	2		206
メディア英語 Ⅱ a	P. ネルム	春	金4	2	2		207
メディア英語 Ⅱ b	P. ネルム	秋	金4	2	2		207
メディア英語 Ⅱ a	東郷　公徳	春	月4	2	2		208
メディア英語 Ⅱ b	東郷　公徳	秋	月4	2	2		208
シネマ英語 a	門倉　弘枝	春	木2	2	2		209
シネマ英語 b	門倉　弘枝	秋	木2	2	2		209
シネマ英語 a	佐野　康子	春	木2	2	2		210
シネマ英語 b	前沢　浩子	秋	月3	2	2		211

学科専門科目

言語コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
言語情報処理Ⅰa	羽山　恵	春	木2	2	2	独・仏・交	213
言語情報処理Ⅰb	羽山　恵	秋	木2	2	2	独・仏・交	213
言語情報処理Ⅰa	吉成　雄一郎	春	金2	2	2	独・仏・交	214
言語情報処理Ⅰb	吉成　雄一郎	秋	金2	2	2	独・仏・交	214
言語情報処理Ⅱa	吉成　雄一郎	春	金1	2	2		215
言語情報処理Ⅱb	吉成　雄一郎	秋	金1	2	2		215
音声・音韻論a	青柳　真紀子	春	金3	2	2		217
音声・音韻論b	青柳　真紀子	秋	金3	2	2		217
統語論a	安井　美代子	春	金2	2	2		218
統語論b	安井　美代子	秋	金2	2	2		218
意味論a	府川　謹也	春	火2	2	2		219
意味論b	府川　謹也	秋	火2	2	2		219
英語学特殊講義a	小早川　暁	春	水1	2	2		220
英語学特殊講義b	小早川　暁	秋	水1	2	2		220
英語学文献研究a	小早川　暁	春	水2	2	3		221
英語学文献研究b	小早川　暁	秋	水2	2	3		221
英語学文献研究a	鈴木　英一	春	木3	2	3		222
英語学文献研究b	鈴木　英一	秋	木3	2	3		222

文学コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
英語圏の小説 a	上野　直子	春	月4	2	2	全	224
英語圏の小説 b	島田　啓一	秋	木3	2	2	全	224
英語圏の詩 a	遠藤　朋之	春	木4	2	2	全	225
英語圏の詩 b	白鳥　正孝	秋	水4	2	2	全	225
英語圏の演劇 a	児嶋　一男	春	月3	2	2	全	226
英語圏の演劇 b	児嶋　一男	秋	月3	2	2	全	226
英語圏の社会と思想 a	福井　嘉彦	春	火2	2	2	全	227
英語圏の社会と思想 b	福井　嘉彦	秋	火2	2	2	全	227
英語圏の歴史 a	佐藤　唯行	春	火2	2	2		228
英語圏の歴史 b	佐藤　唯行	秋	火2	2	2		228
英語圏のエリア・スタディーズ a	前沢　浩子	春	水3	2	2		229
英語圏のエリア・スタディーズ b	前沢　浩子	秋	水3	2	2		229
英語圏の文学・文化特殊講義 a	島田　啓一	春	木3	2	2		230
英語圏の文学・文化特殊講義 b	J. C. アラード	秋	木2	2	2		231
英語圏の文学・文化文献研究 a	白鳥　正孝	春	水4	2	3		232
英語圏の文学・文化文献研究 b	J. C. アラード	秋	木3	2	3		233
英語圏の文学・文化文献研究 b	上野　直子	秋	月4	2	3		234

学科専門科目

異文化コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
異文化間コミュニケーション論a,b	工藤　和宏	春	火5	2	2	言	235
異文化間コミュニケーション論a,b	工藤　和宏	秋	火5	2	2	言	235
異文化間コミュニケーション論a,b	鍋倉　健悦	春	火5	2	2	言	236
異文化間コミュニケーション論a,b	鍋倉　健悦	秋	火5	2	2	言	236
マス・コミュニケーション論a	柿田　秀樹	春	火4	2	2		237
マス・コミュニケーション論b	柿田　秀樹	秋	火4	2	2		237
スピーチ・コミュニケーション論a	板場　良久	春	火1	2	2		238
スピーチ・コミュニケーション論b	板場　良久	秋	火1	2	2		238
スピーチ・コミュニケーション論a	柿田　秀樹	春	木3	2	2		239
スピーチ・コミュニケーション論b	柿田　秀樹	秋	木3	2	2		239
コミュニケーション論特殊講義a	小西　卓三	春	木1	2	3		240
コミュニケーション論特殊講義b	小西　卓三	秋	木1	2	3		240
コミュニケーション論特殊講義a	町田　喜義	春	月3	2	3		241
コミュニケーション論特殊講義b	町田　喜義	秋	月3	2	3		241
コミュニケーション論文献研究a	小西　卓三	春	月4	2	3		242
コミュニケーション論文献研究b	小西　卓三	秋	月4	2	3		242
コミュニケーション論文献研究a	小西　卓三	春	木2	2	3		243
コミュニケーション論文献研究b	小西　卓三	秋	木2	2	3		243

国際コミュニケーション

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
国際社会論a,b	佐野　康子	春	火3	2	2		244
国際社会論a,b	佐野　康子	秋	火3	2	2		244
国際社会論a,b	竹田　いさみ	春	火3	2	2		245
国際社会論a,b	竹田　いさみ	秋	火3	2	2		245
国際関係史a	永野　隆行	春	月2	2	2	法	246
国際関係史b	永野　隆行	秋	月2	2	2	法	246
国際開発協力論a	金子　芳樹	春	火2	2	2		247
国際開発協力論b	竹田　いさみ	秋	月3	2	2		248
国際関係論特殊講義a	竹田　いさみ	春	月3	2	2		252
国際関係論特殊講義a	永野　隆行	春	木2	2	2		253
国際関係論特殊講義b	小松　諄悦	秋	金2	2	2		254
国際関係論特殊講義b	佐野　康子	秋	木2	2	2		255
国際関係論文献研究a	金子　芳樹	春	火4	2	3		256
国際関係論文献研究b	金子　芳樹	秋	火4	2	3		256
国際関係論文献研究a	竹田　いさみ	春	火5	2	3		257
国際関係論文献研究b	竹田　いさみ	秋	火5	2	3		257
国際関係論文献研究a	光辻　克馬	春	木5	2	3		258
国際関係論文献研究b	光辻　克馬	秋	木5	2	3		258

交流文化論（09年度以降入学者）

開講科目名称	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	北野　収	前期	月3	2	2	交・養経・法	259
交流文化論（旅行・宿泊産業論）	遠藤　充信	前期	火4	2	2	交・養経・法	260
交流文化論（メディア・ライティング論）	横村　出	前期	水4	2	2	交・養経・法	261
交流文化論（航空産業論）	山路　顕	前期	木2	2	2	交・養経・法	262
交流文化論（開発文化論）	北野　収	前期	金1	2	2	交・養経・法	263
交流文化論（表象文化論）	高橋　雄一郎	前期	金2	2	2	交・養経・法	264
交流文化論（食の文化論）	北野　収	前期	金3	2	2	交・養経・法	265
交流文化論（ツーリズム人類学）	須永　和博	前期	金5	2	2	交・養経・法	266
交流文化論（ツーリズム文化論）	遠藤　充信	後期	火4	2	2	交・養経・法	267
交流文化論（国際会議・イベント事業論）	遠藤　充信	後期	火5	2	2	交・養経・法	268
交流文化論（ツーリズム政策論）	山路　顕	後期	火5	2	2	交・養経・法	269
交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	山路　顕	後期	木2	2	2	交・養経・法	270
交流文化論（ツーリズム・メディア論）	高橋　利男	後期	金1	2	2	交・養経・法	271
交流文化論（市民参加のまちづくり論）	北野　収	後期	金2	2	2	交・養経・法	272
交流文化論（パフォーマンス研究）	高橋　雄一郎	後期	金2	2	2	交・養経・法	273
交流文化論（トランスナショナル社会学）	北野　収	後期	金3	2	2	交・養経・法	274
交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	須永　和博	後期	金5	2	2	交・養経・法	275

外国語学部共通科目

科目名	担当者	開講学期	曜時	単位数	開始学年	履修不可	ページ
総合講座	廣田　愛理	春	水1	2	1	養・経・法	277
総合講座	廣田　愛理	秋	水1	2	1	養・経・法	277
総合講座	工藤　達也	春	水3	2	1	養・経・法	278
総合講座	飯嶋　曜子	秋	水3	2	1	養・経・法	278
情報科学概論a	黄　海湘	春	水2	2	1	養・経・法	279
情報科学概論b	休講						
(入門)情報科学各論	各担当教員						280～282
(情報処理演習)[総合]	田中　雅英	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	田中　雅英	春	火3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[総合]	内田　俊郎	秋	木4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	羽山　恵	春	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[英語]	羽山　恵	秋	木3	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	火1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	春	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	春	金4	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	火1	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	金井　満	秋	火2	2	1	養・経・法	
(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	田中　善英	秋	金4	2	1	養・経・法	
(応用)情報科学各論	各担当教員						283～286
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	春	火2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	内田　俊郎	春	木2	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	田中　雅英	秋	火4	2	1	養・経・法	
(Excel・プレゼンテーション中級)	松山　恵美子	秋	火2	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	春	月4	2	1	養・経・法	
(プレゼンテーション中級)	金子　憲一	秋	月4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子　憲一	春	月3	2	1	養・経・法	
(Word中級)	金子　憲一	春	月5	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田　俊郎	春	木4	2	1	養・経・法	
(Word中級)	田中　雅英	秋	火2	2	1	養・経・法	
(Word中級)	内田　俊郎	秋	木3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山　恵美子	春	火3	2	1	養・経・法	
(Office中級)	松山　恵美子	秋	火3	2	1	養・経・法	
(言語情報処理1)	羽山　恵	春	木2	2	2	養・経・法	287
(言語情報処理1)	吉成　雄一郎	春	金2	2	2	養・経・法	288
(言語情報処理2)	羽山　恵	秋	木2	2	2	養・経・法	287
(言語情報処理2)	吉成　雄一郎	秋	金2	2	2	養・経・法	288
(HTML)情報科学各論	各担当教員						289
(HTML初級)	内田　俊郎	春	木3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	金子　憲一	秋	月3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	田中　雅英	秋	火3	2	1	養・経・法	
(HTML初級)	内田　俊郎	秋	木2	2	1	養・経・法	
(HTML中級)	金子　憲一	秋	月5	2	1	養・経・法	290
経済原論a	野村　容康	春	水2	2	1	養・経・法	291
経済原論b	野村　容康	秋	水2	2	1	養・経・法	291
社会心理学a	休講						
社会心理学b	休講						

※定員のある科目はオンライン登録による抽選となります。必ず抽選結果を確認してください。
※情報科学各論を履修する場合は、『授業時間割表』の「情報科学各論　重複履修可否一覧」を参考にしてください。

06 年度以降 03 年度以降	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英語学とは英語の言語学であり，言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である．英語学は英語という言語のさまざまな面を科学的に研究する分野である．この講義では，英語の歴史を簡単に振り返り，英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する． **講義概要**: 人間がどのような音を用いるか，英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される．文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される．統語論は，語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか，どのように説明するのが適切であるかを研究する．意味論は，文がどのような意味内容を表すかを扱う．文の意味内容を理解するためには，語句の文における機能，語の意味や語の結合の意味計算，語の修飾関係などを知る必要がある．文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である．	1. 英語の現況・英語の系譜関係 2. 時代区分と各時期の特色(1): 英語の背景と時代区分 3. 時代区分と各時期の特色(2): 近代英語の成立 4. 時代区分と各時期の特色(3): 語順の確立 5. 綴り字: 綴り字と音声，規則性，不規則性，綴り字発音 6. 音声(1): 英語音声学，音声器官，音声記号 7. 音声(2): 英語の母音・子音体系，連音の特徴 8. 語彙・語源: 語彙の変化，語の構造， 9. 形態論(1):語の基本構造，形態素の種類と語の構成 10. 形態論(2):語形成の方法，派生接辞と屈折接辞，複合語 11. 統語論(1):統語論とは何か，構成素構造，語順 12. 統語論(2):変形生成文法の統語論 13. 意味論:語の意味論，文の意味論 14. 情報構造: 文の主題と情報構造，強勢と文の情報構造 15. 語用論: 直示表現，会話の含意
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 安井稔(1987)『英語学概論』開拓社	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる．

06 年度以降 03 年度以降	英語学入門 英語学概論 a	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英語学とは英語の言語学であり，言語学は人間の言語を科学的に研究する学問領域である．英語学は英語という言語のさまざまな面を科学的に研究する分野である．この講義では，英語の歴史を簡単に振り返り，英語の音・語・文・意味・用法がどのような特徴をもつかを概観する． **講義概要**: 人間がどのような音を用いるか，英語ではどのような音が用いられているかは音声学と音韻論で説明される．文の最小単位である語の内部構造は形態論によって研究される．統語論は，語によって構成される文がどのような語の配列と構造をもつか，どのように説明するのが適切であるかを研究する．意味論は，文がどのような意味内容を表すかを扱う．文の意味内容を理解するためには，語句の文における機能，語の意味や語の結合の意味計算，語の修飾関係などを知る必要がある．文の意味解釈に文を使用する文脈・脈絡がどのような影響を及ぼすかを説明するのは語用論である．	1. 英語学とは何か・言語学とは何か 2. 英語のフォニックス: 綴り字と発音 3. 音声学・音韻論(1): 音声学，音韻論，音声器官 4. 音声学・音韻論(2): 母音の分類，子音の分類， 5. 音声学・音韻論(3): アクセントとリズム 6. 形態論(1): 形態素，形態素の種類 7. 形態論(2): 語形成の方法，派生と屈折 8. 統語論(1): 文の種類，文型 9. 統語論(2): 文の内部構造，補文の構造 10. 統語論(3): 変形と文の生成 11. 意味論(1): 語の意味論，文の意味論 12. 意味論(2): 意味関係，意味変化，認知意味論 13. 語用論(1): 直示表現，発話行為 14. 語用論(2): 前提，会話の含意 15. 情報構造:新・旧情報，情報構造と構文
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: 安藤貞雄・澤田治美(2001)『英語学入門』開拓社	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる．

06 年度以降 03 年度以降	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
impossible, intolerable はどちらも下線部の逆を意味する形容詞であるが、２番目の文字は m と n で異なる．また、incomplete は n だが、intolerable の n とは舌の位置が違うのに気づくだろうか．同じような違いが実は日本語の「乾杯」「関東」「関係」の「ん」の発音にもある．また、日本語には「上がる／上げる」や「続く／続ける」のように意味や発音に共通部分が多いペアがあるが、英語でも rise/raise や continue（自・他動詞同形）というように、同じような動詞のペアがある．これらの共通性は実は日英語に限ったことではなく、世界中の言語に広くみられる．この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく．扱うデータは英語が中心であるが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げる．また、不幸にして母国語を持たない、もしくは失ってしまった事例などについて考察する．実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらえると思う．	1. 無意識の言語知識 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象　（クイズ 1） 4. 英語の単語の成り立ち　（クイズ 2） 5. 続き　（クイズ 3） 6. 英語のアクセント（クイズ 4） 7. 中間試験 8. 英語の文構造　（クイズ 5） 9. 続き　（クイズ 6） 10. 続き　（クイズ 7） 11. 文構造と意味（クイズ 8） 12. 子供の言語獲得　（クイズ 9） 13. 言語障害　（クイズ 10） 14. 私たちにとって言語とは何か（クイズ 11） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。プリントを配布する。	授業の最初に簡単な復習クイズを行う（上記の授業計画参照）。評価はこのクイズ（10%）と中間試験(40%)、定期試験（50%）による。

06 年度以降 03 年度以降	英語学入門 英語学概論 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
impossible, intolerable はどちらも下線部の逆を意味する形容詞であるが、２番目の文字は m と n で異なる．また、incomplete は n だが、intolerable の n とは舌の位置が違うのに気づくだろうか．同じような違いが実は日本語の「乾杯」「関東」「関係」の「ん」の発音にもある．また、日本語には「上がる／上げる」や「続く／続ける」のように意味や発音に共通部分が多いペアがあるが、英語でも rise/raise や continue（自・他動詞同形）というように、同じような動詞のペアがある．これらの共通性は実は日英語に限ったことではなく、世界中の言語に広くみられる．この授業では言語を意識的に分析してみることによって、言語が緻密な構造を持っていること、そして「人間の言語はどれも同じ」と言ってもいいほど共通性があることを見ていく．扱うデータは英語が中心であるが、日本語に見られる同様の現象も積極的に取り上げる．また、不幸にして母国語を持たない、もしくは失ってしまった事例などについて考察する．実際的な英文和訳、作文などでも言語を分析的にとらえる能力が非常に役に立つことも実感してもらえると思う．	1. 無意識の言語知識 2. 英語の音のしくみ 3. 様々な音韻現象　（クイズ 1） 4. 英語の単語の成り立ち　（クイズ 2） 5. 続き　（クイズ 3） 6. 英語のアクセント（クイズ 4） 7. 中間試験 8. 英語の文構造　（クイズ 5） 9. 続き　（クイズ 6） 10. 続き　（クイズ 7） 11. 文構造と意味（クイズ 8） 12. 子供の言語獲得　（クイズ 9） 13. 言語障害　（クイズ 10） 14. 私たちにとって言語とは何か（クイズ 11） 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。プリントを配布する。	授業の最初に簡単な復習クイズを行う（上記の授業計画参照）。評価はこのクイズ（10%）と中間試験(40%)、定期試験（50%）による。

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	上野直子（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ）・ 片山亜紀・前沢浩子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。三名の講師が、それぞれの切り口でテーマを設定し、そのテーマのもとに、文学の作られ方、読み方について、連続講義を行う。様々に異なるアプローチをもつ文学批評や、その用語も紹介する。 三つのテーマと講義内容の概略は以下のとおりである。１－５回「文学とメディア」では、イギリス近現代において、劇場、印刷物、映画、インターネットなど、媒体（メディア）の変化がどのように文学ジャンルの成立や変容に影響を与えてきたかを考える。文学の生産と受容とを、近代英語の成立時から 21 世紀まで包括的に検討したうえで、６－10 回「文学から社会を読む」では、イギリスの 19 世紀と 20 世紀に書かれた代表的な文学作品を取り上げ、文学と社会の接点について考える。最後に 11-15 回「共鳴と違和、そしてもうひとつの」では、読者が置かれた政治的・歴史的状況によって、同じテキストがどのように異なる意味を持つのかに注目する。また、英国中心に進められてきた講義は、ここでより大きな英語圏へと開かれる。 三つの異なった切り口から、様々な時代と場所で生まれたテキストに接することで、文学との新しい出会いをしていただきたい。	＜文学とメディア＞　担当：前沢 第１回:文学とメディア 第２回：この世は舞台―シェイクスピアと民衆演劇 第３回：印刷文化と近代英語の成立 第４回：映画の 100 年―イギリス映画の衰退と復活 第５回：デジタル・テクノロジーと文学 ＜文学から社会を読む＞　担当：片山 第６回：革命の時代に――ゴシック小説はなぜ流行したか 第７回：ジェイン・オースティンの世界 第８回：ヴィクトリア時代と教養小説 第９回：児童文学の黄金期に――『不思議の国のアリス』 第 10 回：第一次世界大戦とモダニズム文学 ＜共感と違和、そしてもうひとつの物語＞　担当：上野 第 11 回：世紀をこえるベストセラーの魅力 第 12 回：屋根裏部屋の気違い女は誰なのか 第 13 回：もうひとつの物語 第 14 回：語り返す言葉 第 15 回：生きるための言葉
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。	定期試験による。詳細は開講時に説明する。

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の文学・文化入門 英語圏の文学・文化概論 a	担当者	片山亜紀（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ）・ 上野直子・前沢浩子

講義目的、講義概要	授業計画
世界にひろがる英語文学の言葉が、歴史、社会、政治、経済、文化、そして人のありようについて、何を見せてくれるのかを提示したい。 三名の講師が、それぞれの切り口でテーマを設定し、そのテーマのもとに、文学の作られ方、読み方について、連続講義を行う。様々に異なるアプローチをもつ文学批評や、その用語も紹介する。 三つのテーマと講義内容の概略は以下のとおりである。１－５回「文学とメディア」では、イギリス近現代において、劇場、印刷物、映画、インターネットなど、媒体（メディア）の変化がどのように文学ジャンルの成立や変容に影響を与えてきたかを考える。文学の生産と受容を、近代英語の成立から 21 世紀まで包括的に検討したうえで、６－10 回「文学から社会を読む」では、イギリスの 19 世紀と 20 世紀に書かれた代表的な文学作品を取り上げ、文学と社会の接点について考える。最後に 11-15 回「共鳴と違和、そしてもうひとつの」では、読者が置かれた政治的・歴史的状況によって、同じテキストがどのように異なる意味を持つのかに注目する。また、英国中心に進められてきた講義は、ここでより大きな英語圏へと開かれる。 三つの異なった切り口から、様々な時代と場所で生まれたテキストに接することで、文学との新しい出会いをしていただきたい。	＜文学とメディア＞　担当：前沢 第１回:文学とメディア 第２回：この世は舞台―シェイクスピアと民衆演劇 第３回：印刷文化と近代英語の成立 第４回：映画の 100 年―イギリス映画の衰退と復活 第５回：デジタル・テクノロジーと文学 ＜文学から社会を読む＞　担当：片山 第６回：革命の時代に――ゴシック小説はなぜ流行したか 第７回：ジェイン・オースティンの世界 第８回：ヴィクトリア時代と教養小説 第９回：児童文学の黄金期に――『不思議の国のアリス』 第 10 回：第一次世界大戦とモダニズム文学 ＜共鳴と違和、そしてもうひとつの物語＞　担当：上野 第 11 回：世紀をこえるベストセラーの魅力 第 12 回：屋根裏部屋の気違い女は誰なのか 第 13 回：もうひとつの物語 第 14 回：語り返す言葉 第 15 回：生きるための言葉
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを用意する。Further Reading のリストについては各講師が紹介する。	定期試験による。詳細は開講時に説明する。

06 年度以降 03 年度以降	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 b	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この２つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただいて、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。 使用テキストの目次と授業計画の２～１２回目の講義題目が対応しています。該当する章をよく読んでから各講義に出席するようにしてください。 なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。	１．講義概要、研究チームの編成 ２．グローバル社会と異文化コミュニケーション ３．文化 ４．コミュニケーション ５．言語 ６．非言語 ７．時間・空間 ８．異文化接触 ９．社会的関係性とメディア １０．メディアと文化 １１．文化のポリティクス １２．グローバリゼーションの行方 １３．コンサルテーション １４．研究発表 １５．フォーラム「現代文化とコミュニケーション」 （研究班の数により変更の可能性もあります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：池田理知子編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）	①研究発表（講義理解・準備・発表・審査：90%） ②フォーラムへの参加（10%）

06 年度以降 03 年度以降	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
英語を学ぶ皆さんは、「異文化コミュニケーション」というものに少なからず興味があるのではないでしょうか？しかし、そのことを本格的に勉強する前に、まずは「文化」「コミュニケーション」そして、この２つの関係性について理解を深めておく必要があります。そこで、これまでの自分の考えやイメージを一旦手放していただいて、それを見つめ直していただきたいと考えています。なぜなら、大学で学ぶ異文化コミュニケーションの深い理解とは、まず、自分の考えや一般的に言われていることの問い直しから始まるからです。 使用テキストの目次と授業計画の２～１２回目の講義題目が対応しています。該当する章をよく読んでから各講義に出席するようにしてください。 なお、講義は基本的に日本語で行いますが、各回の講義時間の最初に前回の講義の復習を平易な英語で行います。	１．講義概要、研究チームの編成 ２．グローバル社会と異文化コミュニケーション ３．文化 ４．コミュニケーション ５．言語 ６．非言語 ７．時間・空間 ８．異文化接触 ９．社会的関係性とメディア １０．メディアと文化 １１．文化のポリティクス １２．グローバリゼーションの行方 １３．コンサルテーション １４．研究発表 １５．フォーラム「現代文化とコミュニケーション」 （研究班の数により変更の可能性もあります。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：池田理知子編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房）	①研究発表（講義理解・準備・発表・審査：90%） ②フォーラムへの参加（10%）

06 年度以降 03 年度以降	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテクストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。 表象（represent）された言語は政治的であり、表象の代理・代用（re-present）可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなろう。 **講義概要** 講義では１テーマを３ないし４回の授業で扱う。テクストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。	１　Course Orientation ２　Hollywood and Hypercommercialism ３　Hollywood and Hypercommercialism ４　Hollywood and Hypercommercialism ５　Hollywood and Hypercommercialism ６　Advertisement and Public Culture ７　Advertisement and Public Culture ８　Advertisement and Public Culture ９　Advertisement and Public Culture １０　Desire, Sexuality and Power in Music Video １１　Desire, Sexuality and Power in Music Video １２　Desire, Sexuality and Power in Music Video １３　Desire, Sexuality and Power in Music Video １４　Desire, Sexuality and Power in Music Video １５　フォーラム（現代文化とコミュニケーション）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する。	定期試験、不定期に課す課題（クイズ）、及び出席状況等による総合評価

06 年度以降 03 年度以降	文化コミュニケーション入門 文化コミュニケーション概論 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 映画やコマーシャルを含むマスメディアを中心とした文化現象の多様なレトリック分析を通してコミュニケーション研究のダイナミックさを啓発していきたい。具体的には、マスメディアのテクストに批評的分析を施すレトリックの方法に重点を置きながら、ポピュラーカルチャーの題材を中心に当該研究分野の重要性を解説していく。 表象（represent）された言語は政治的であり、表象の代理・代用（re-present）可能性がゆえに受け手もまた臆見を利用した判断を必要とする。我々は言語を含む「表象」を消費する度にこの種の判断を迫られているのである。講義の目的は、そうした賢明な判断のために必要な地平を理解することである。批評的分析の理解は、英語圏（特にアメリカ）の文化や社会の諸問題を賢慮とともに判断する能力を養う手助けとなろう。 **講義概要** 講義では１テーマを３ないし４回の授業で扱う。テクストとしては各テーマの理解に最適と思われるビデオを採用し、キータームの解説を加えながら講義を進めていく。	１　Course Orientation ２　Hollywood and Hypercommercialism ３　Hollywood and Hypercommercialism ４　Hollywood and Hypercommercialism ５　Hollywood and Hypercommercialism ６　Advertisement and Public Culture ７　Advertisement and Public Culture ８　Advertisement and Public Culture ９　Advertisement and Public Culture １０　Desire, Sexuality and Power in Music Video １１　Desire, Sexuality and Power in Music Video １２　Desire, Sexuality and Power in Music Video １３　Desire, Sexuality and Power in Music Video １４　Desire, Sexuality and Power in Music Video １５　フォーラム（現代文化とコミュニケーション）
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する。	定期試験、不定期に課す課題（クイズ）、及び出席状況等による総合評価

06 年度以降 03 年度以降	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 b	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。 講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第２ー５週）と「国際社会の構造と変化」（第６ー11）「グローバル化の中の国際社会」（第 12ー第 15 週）の３つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。 この授業では、２年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージできるよう考慮しながら進めます。 なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	**１．イントロダクション** ＊国際社会、国際関係論とは何かを概説します。 **２ー５．国際関係の基礎シリーズ** ＊20 世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。 **６ー11. 国際社会の構造と変化シリーズ** ＊国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①自由民主主義と資本主義、②社会主義とその崩壊、③中国と北朝鮮の国家構造とその変化などを扱います。 **12ー15. グローバル化の中の国際社会シリーズ** ＊1990 年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、①国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報、②イスラムの台頭と影響、③地球環境問題の展開などを扱います。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。	学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。

06 年度以降 03 年度以降	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、現代の国際社会で起こっている様々な出来事の構造・背景・影響などを理解し、「国際問題を見る眼」（視点と判断力）を養うことを目指します。そのために、国際社会における代表的な出来事や問題を取り上げ、具体的かつ多角的に分析・解説します。また国際関係研究の基礎的な概念や理論の解説も織り交ぜながら、国際関係についての包括的理解を促します。 講義は大きく分けて、「国際関係の基礎知識」（第２ー５週）と「国際社会の構造と変化」（第６ー11）「グローバル化の中の国際社会」（第 12ー第 15 週）の３つのパートから構成されます（右の授業計画参照）。 この授業では、２年次からの専門コースの選択の際に参考にしてもらうために、国際コミュニケーション・コースではどのような勉強をするのかをイメージしてもらえるよう考慮しながら進めます。 なお、授業はすべてプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	**１．イントロダクション** ＊国際社会、国際関係論とは何かを概説します。 **２ー５．国際関係の基礎シリーズ** ＊20 世紀後半の国際社会の構造と歴史的展開を説明するとともに、基本的な国際関係論の理論を解説します。具体的には、①冷戦構造、②冷戦下の戦争（朝鮮戦争、ベトナム戦争など）、③冷戦崩壊などを扱います。 **６ー11. 国際社会の構造と変化シリーズ** ＊国際関係の基礎的な理論や思想について、現在起こっている具体的な事例と重ね合わせながら体系的に把握し、さらにそれらの変化について考えます。具体的には、①自由民主主義と資本主義、②社会主義とその崩壊、③中国と北朝鮮の国家構造とその変化などを扱います。 **12ー15. グローバル化の中の国際社会シリーズ** ＊1990 年代以降急速に進んだグローバル化に伴って顕著となっている事象を取り上げながら、国際社会の構造変化や新しいトレンドを捉えます。具体的には、①国境を越えたヒト・モノ・カネ・情報、②イスラムの台頭と影響、③地球環境問題の展開などを扱います。 （初回の授業時に詳細な授業計画をお伝えします）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特定のテキストを一貫して使うことはありません。講義内容を補足する参考文献を各週の授業の中で適宜紹介します。	学期末試験の成績に基づいて成績をつけます。

06 年度以降 03 年度以降	国際コミュニケーション入門 国際コミュニケーション概論 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
半期の授業を通じて、国際関係研究（study of international relations）とはどのような学問なのかを「戦争」について考えることを通じて理解してもらう。最終的には、教員による説明をただ受動的に聞くのではなく、授業内容を批判的に聞き、自分なりの「国際関係」のイメージを持つようになることを目指す。 毎回の授業の冒頭では、学生諸君に日々変化する国際情勢に関心を持ってもらうために、その週の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を 30 分程度設ける。必要に応じてビデオ映像なども利用して、理解を深めてもらいたい。 また授業のなかでは、国際関係研究のうえで重要な理論や用語についても、その都度説明を加えていく。 この授業では、携帯メールによる質問を授業中随時受け付け、適宜それらを取り上げているので、疑問に思ったことなどを積極的に教員に伝えて欲しい。 なお私語は厳禁、真剣に学ぼうとする学生の邪魔をするものには、即座に退室してもらう。	第１回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス① 第２回：国際関係論を学ぶにあたってのガイダンス② 第３回：国際関係論はなぜ生まれたのか 第４回：国際関係における個人・国家 ー個人と国家の安全と国際関係の安定 第５回：戦争とは何か①その定義 第６回：戦争とは何か②国際関係の構造と戦争 第７回：戦争とは何か③戦争と国家 ー戦争は何をもたらすのか 第８回：戦争とは何か④戦争観の変化 ー正戦論、無差別戦争観、人道的介入 第９回：戦争とは何か⑤国際関係における正義と戦争 ーオバマ米大統領のノーベル平和賞受賞スピーチから 第 10 回：戦争とは何か⑥新しい紛争 ー21 世紀の紛争の特徴とは何か 第 11 回：戦争とは何か⑦戦争の主体 ー「現代の傭兵」民間軍事会社（ＰＭＣ）の登場 第 12 回：戦争とは何か⑧核兵器と国際関係 ーオバマ米大統領の「核なき世界」演説から 第 13 回：戦争とは何か⑨積極的平和と消極的平和 ー構造的暴力のない世界を目指して 第 14 回：戦争とは何か⑩国際秩序と国家 第 15 回：まとめ（質疑応答）＆国際関係をさらに学ぶには
テキスト、参考文献	**評価方法**
第一回目の講義で、詳しい参考文献リストを配布する	不定期に実施するリアクションペーパーの提出（40%）と定期試験（論述形式、60%）による評価。

03 年度以降	英語音声学	担当者	青柳 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。 講義概要 音声学の基礎の講義であり、指定テキストは初習者のもので基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでくることが必須となる。 メッセージ 第一回目の授業前にテキストを入手し、第 1 章(pp. 2-7)を読んでくること。	1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域, 理論と応用, 音声の情報 2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官(発声, 共鳴, 調音) 3. 第 3 章 「音声表記」 IPA, 分類(気流, 声帯振動, 調音位置/方法) 4. 第 4 章 「母音」 分類 (高低/前後, 円唇), 基本母音 5. 母音(2) 日本語との比較, スペリングと母音, アクセントと母音 6. 第 5 章 「子音」 有声/無声, 調音位置/方法, 阻害音/共鳴音 7. 子音(2) 日本語との比較 8. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 9. 音節(2) ﾓｰﾗ/音節, 音節の連続によるアクセント/リズム 10. 第 7 章 「語強勢」 11. 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 12. 第 8 章 「音縮小」 第 9 章 「同時調音」 13. 第 10 章 「イントネーション」 14. 音声科学の発展 (言語学、心理学、工学・教育・医療・政策・社会学, etc.) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤寧, 佐藤努『現代の英語音声学』金星堂 (1997) その他 配布資料	出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には 2/3 以上の出席が求められる。出席は厳しい。

03 年度以降	英語音声学	担当者	青柳 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 音声コミュニケーションを考えたときに、音声がどのように作られ、伝わり、聞き取られるかという問題は興味深いものがある。この授業では、英語学習者または将来の教師にとって重要である英語音声について少し体系的に見てみる。日本語や他の言語の音声との比較も交えて、英語音声をより深く理解し、実践できるようになることを目指す。また、音声や音声学のさまざまな面について触れることにより、その面白さを紹介し、これ以降の音声関係の科目履修への導入とする。 講義概要 音声学の基礎の講義であり、指定テキストは初習者のもので基本事項が記してある。各学生は毎回、最低限この指定範囲を読んでくることが必須となる。 メッセージ 第一回目の授業前にテキストを入手し、第 1 章(pp. 2-7)を読んでくること。	1. 第 1 章 「音声学とは」 学際的領域, 理論と応用, 音声の情報 2. 第 2 章 「発声のメカニズム」 器官(発声, 共鳴, 調音) 3. 第 3 章 「音声表記」 IPA, 分類(気流, 声帯振動, 調音位置/方法) 4. 第 4 章 「母音」 分類 (高低/前後, 円唇), 基本母音 5. 母音(2) 日本語との比較, スペリングと母音, アクセントと母音 6. 第 5 章 「子音」 有声/無声, 調音位置/方法, 阻害音/共鳴音 7. 子音(2) 日本語との比較 8. 第 6 章 「音節」 音節構造と強勢(第二アクセント)と母音 9. 音節(2) ﾓｰﾗ/音節, 音節の連続によるアクセント/リズム 10. 第 7 章 「語強勢」 11. 語強勢(2) フット/リズム 日本語と英語 12. 第 8 章 「音縮小」 第 9 章 「同時調音」 13. 第 10 章 「イントネーション」 14. 音声科学の発展 (言語学、心理学、工学・教育・医療・政策・社会学, etc.) 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤寧, 佐藤努『現代の英語音声学』金星堂 (1997) その他 配布資料	出席、クイズや課題、試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。単位認定には 2/3 以上の出席が求められる。出席は厳しい。

03 年度以降	英語音声学	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。 概要 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。 注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。携帯電話の辞書機能は使用禁止とする。	1. コース概要；音声学とは 言語学としての音声学；関連領域への実用性 2. 発声のメカニズム 音声器官；音の分類 3. 音声表記 ＩＰＡ；イギリス英語とアメリカ英語；音素と異音 4. 母音の調音 分類；基本母音；前舌母音；後舌母音など 5. 子音の調音（1） 分類（有声/無声；調音点/様式）；鼻子音；閉鎖音 6. 子音の調音（2） 摩擦音；破擦音；接近音 7. Review 8. ＜中間テスト＞ 9. 音節（1）音節を示す現象；聞こえと音節；音節構造など 10. 語強勢(ストレス)とリズム 11. 音縮小 内容語と機能語；弱形の重要性 12. 同時調音とイントネーション 同化現象；イントネーションの役割 13. 音響音声学／科学としての音声学 14. Review 15. ＜期末テスト＞
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 佐藤寧・佐藤努著『現代の英語音声学』（金星道、1997 年） 参考文献は授業中に適宜指示する。	試験の他に課題提出や出席率を加味して総合評価する。 授業回数の 3/4 以上の出席を単位認定の必須条件とする。

03 年度以降	英語音声学	担当者	中田　ひとみ

講義目的、講義概要	授業計画
目的 自然な速度で話される言語音を観察し多角的に研究するのが音声学という学問である。このコースではその基礎となる知識の体得を主眼とし、日常に見られる音現象の解明、英語リスニングを困難にしている要因も検討する。英語に見られる様々な音現象を体系的に比較することで発音/リスニング能力の向上も図る。 概要 前半は主に個別音の分類及び特徴を学習する。後半ではより大きな文脈（単語～文単位）で音がどう変化するかを考察し、日本語の音韻体系との比較検討も試みる。 注）発音記号の確認、及び英語での専門用語も頻出するので、授業には英和あるいは英英辞典を持参のこと。携帯電話の辞書機能は使用禁止とする。	1. コース概要；音声学とは 言語学としての音声学；関連領域への実用性 2. 発声のメカニズム 音声器官；音の分類 3. 音声表記 ＩＰＡ；イギリス英語とアメリカ英語；音素と異音 4. 母音の調音 分類；基本母音；前舌母音；後舌母音など 5. 子音の調音（1） 分類（有声/無声；調音点/様式）；鼻子音；閉鎖音 6. 子音の調音（2） 摩擦音；破擦音；接近音 7. Review 8. ＜中間テスト＞ 9. 音節（1）音節を示す現象；聞こえと音節；音節構造など 10. 語強勢(ストレス)とリズム 11. 音縮小 内容語と機能語；弱形の重要性 12. 同時調音とイントネーション 同化現象；イントネーションの役割 13. 音響音声学／科学としての音声学 14. Review 15. ＜期末テスト＞
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書 佐藤寧・佐藤努著『現代の英語音声学』（金星道、1997 年） 参考文献は授業中に適宜指示する。	試験の他に課題提出や出席率を加味して総合評価する。 授業回数の 3/4 以上の出席を単位認定の必須条件とする。

06 年度以降	Lecture Workshop I	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English. Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester. There are two objectives for the courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented. These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.	Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Introduction to narratives", "Introduction to Africa", "Introduction to Asian Englishes", and "Introduction to American History through Music".
テキスト、参考文献	**評価方法**
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.

06 年度以降	Lecture Workshop II	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
These classes are a combination of mini-lectures on a variety of topics and task-based activities. The lectures, and all the activities, will be conducted in English. Students will be required to complete weekly assignments and to keep a folder of all work done in and out of class. This folder will be presented to the instructor at the end of each seven-week lecture series, and will be used for assessment purposes at the end of each semester. There are two objectives for these courses 1) to build up students' overall English ability and 2) to help students gain knowledge of the content topics that will be presented. These courses are short seven-week courses and active participation and attendance will be an important part of the overall evaluation.	Lecture topics will be provided by each instructor. Topic examples include "Gender studies", "Introduction to international relations", "Film studies", and "Japanese culture".
テキスト、参考文献	**評価方法**
Teachers will mostly use handouts, booklets or prints to be distributed in class.	Evaluation will be based upon participation and the quality of work done for the class. Teachers will combine their grades for a semester grade.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅰ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week class develops the range of English language skills (but with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school. Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course: 1. To give students maximum opportunities to communicate (speak, listen, read and write). 2. To build student confidence in interpersonal communication. 3. To develop the basic study skills needed to successfully carry out their four years of English study at this institution.	授業予定は各担当教員から説明がなされる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.	Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students' communicative abilities.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This one-term twice-a-week class helps students to learn how to improve their English language communication skills by introducing the organizational skills necessary to become a competent speaker and writer. Overall Objectives: The following are the macro-level objectives for this course: 1. To develop in the students a good grounding in the organization skills of speech communication and writing. 2. To give students maximum opportunities to develop their speech delivery and writing skills. 3. To build student confidence in speech communication in a small as well as a large group context.	授業予定は各担当教員から説明がなされる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Individual instructors are free to select their own text material, including any supplementary teaching material, and to use it in the manner they feel will best complete the above objectives.	Individual instructors are asked to determine a system of grading that is fair and consistent to the students, and best measures the classroom performance and overall improvement of the students' communicative abilities.

06 年度以降	Comprehensive English I （再） 秋学期 月４	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
Comprehensive English I （再）は、秋学期 月曜４限と水曜５限（下段）をセットで受講してください。 The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.	1. Introduction 2.Exchanging personal information 3.Personality Types 4.Appearances 5.Attitudes 6.Comparing experiences 7.Getting information 8. Events 9. Quiz 10. Movies 11.Music 12. Media 13.Japan 14. Globalization 15. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation, and tests.

06 年度以降	Comprehensive English I （再） 秋学期 水５	担当者	J．A．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
Comprehensive English I （再）は、秋学期 月曜４限（上段）と水曜５限をセットで受講してください。 This course meets once a week and is concentrated on the four skills (reading, writing, listening and speaking). Students will be given opportunities to lead presentations and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Students will choose contemporary topics to base their presentation on and will also introduce appropriate special vocabulary needed for understanding the presentation and discussion in class. There will be daily quizzes, discussions, and presentations.	1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions 3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions 4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions 5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions 6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions 7. Mid-term 8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions 13. Final 14. Wrap-up of this semester's work. 15. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: Handouts prepared by students Student led presentations	Grading: Students will be graded according to their attendance, quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅱ（再）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course designed to expose the students to modern, idiomatic English an innovative and interesting format. The students will study the English used in one 10 minute scene of a selected Disney movie. The students will study and use the vocabulary, (standard and slang) and idioms used in said scene. There will be many opportunities to practice the studied material with fellow students and the instructor. It is hoped that through this method, the students will see improvement in their listening skill, written work and spoken English.	The instructor will provide a schedule upon assessment of each class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
The instructor will provide worksheets each week.	Attendance, worksheets and one report

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（HONORS）	担当者	Ｊ．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements. 2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days? 3. Can man and woman be close without romance? 4. This session will focus on environmental issues. 5. Teenage life with student presentations. 6. Is plagiarism a crime? 7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues. 8. What are the options for pregnant teenagers? 9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues. 10. How important is appearance in a relationship? 11. Should adult children move out? Quiz on previous issue. 12. Should employees go out with their bosses? 13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues. 14.The changing role of women in society. 15. Explanation of summer homework projects.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title*: Impact Issues 3* Author: Day, Shaules and Yamanaka Publisher: Pearson/Longman	Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（HONORS）	担当者	Ｊ．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Discussion will focus on summer projects. 2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class. 3. Is money more important than life style? 4. Story telling techniques. 5. The problems faced by immigrants. 6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations. 7. Does technology create distance in relationships? 8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue. 9. Career choices. 10. Story telling techniques. 11. When is war justified? 12. The art of compromise. 13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues. 14. Unrequited love. 15. Story telling techniques.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Impact Issues 3* Author: Day, Shaules and Yamanaka Publisher: Pearson/Longman	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（水１）（HONORS）	担当者	Ｒ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Students! Challenge your English skills in this exciting and interesting class. This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. A willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Japanese work ethics. 3 Attitudes towards women. 4 Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（水１）（HONORS）	担当者	Ｒ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Students! Challenge your English skills in this exciting and interesting class. This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society. 3 Ageing Society. 4 The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（火１）	担当者	Ａ．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a topic-based intermediate level course focusing on listening and speaking. The topics are current and interesting. The information comes from the internet and newspapers. There is no textbook. There are two poster presentations during this semester. These posters are based on internet research. They are homework and part of your final grade. There is a speaking test at the end of the course. The style of the class is relaxed, fun but hardworking. Attendance policy: 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence).	Week 1: Introductions Week 2: Foreign countries / intro to basic notetaking Week 3: Foreign countries/ intro to internet research Week 4: Poster presentation Week 5: Technology trends Week 6: Technology trends Week 7: Famous people Week 8: Famous people / internet research techniques Week 9: Poster presentation Week 10: Health Week 11: Health Week 12: Movies Week 13: Movies Week 14: Practice for the speaking test Week 15: Speaking test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook. The teacher will provide all materials An electronic dictionary will be helpful	40% attendance & class effort 30% homework 30% end of semester speaking test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（火１）	担当者	Ａ．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
The topics are a little more challenging than semester one. Later in the course, students will be able to choose topics for class themselves. Again, there are two poster presentations during this second semester. For the final poster, students are free to choose their own topic (with teacher advice if you need it) The posters are homework and part of your final grade. There is a speaking test at the end of the course. Attendance policy: 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence)	Week 1: Education Week 2: Education Week 3: Business issues Week 4: Business issues Week 5: Poster presentation Week 6: Media issues Week 7: Media issues Week 8: Environment Week 9: Globalization Week 10: Globalization Week 11: Poster presentation Week 12: Money & wealth Week 13:Money & wealth Week 14: Practice for the speaking test Week 15: Speaking test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook. The teacher will provide all materials An electronic dictionary will be helpful	40% attendance & class effort 30% homework 30% end of semester speaking test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（火３）	担当者	Ａ．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a topic-based intermediate level course focusing on listening and speaking. The topics are current and interesting. The information comes from the internet and newspapers. There is no textbook. There are two poster presentations during this semester. These posters are based on internet research. They are homework and part of your final grade. There is a speaking test at the end of the course. The style of the class is relaxed, fun but hardworking. Attendance policy: 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence).	Week 1: Introductions Week 2: Foreign countries / intro to basic notetaking Week 3: Foreign countries/ intro to internet research Week 4: Poster presentation Week 5: Technology trends Week 6: Technology trends Week 7: Famous people Week 8: Famous people / internet research techniques Week 9: Poster presentation Week 10: Health Week 11: Health Week 12: Movies Week 13: Movies Week 14: Practice for the speaking test Week 15: Speaking test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook. The teacher will provide all materials An electronic dictionary will be helpful	40% attendance & class effort 30% homework 30% end of semester speaking test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（火３）	担当者	Ａ．マグズ

講義目的、講義概要	授業計画
The topics are a little more challenging than semester one. Later in the course, students will be able to choose topics for class themselves. Again, there are two poster presentations during this second semester. For the final poster, students are free to choose their own topic (with teacher advice if you need it) The posters are homework and part of your final grade. There is a speaking test at the end of the course. Attendance policy: 4 absences (without a very good reason) are a FAIL. 3 'lates' means one 'absence' ('late' means you arrive up to 15 minutes after class starts; after 15 minutes is an absence)	Week 1: Education Week 2: Education Week 3: Business issues Week 4: Business issues Week 5: Poster presentation Week 6: Media issues Week 7: Media issues Week 8: Environment Week 9: Globalization Week 10: Globalization Week 11: Poster presentation Week 12: Money & wealth Week 13:Money & wealth Week 14: Practice for the speaking test Week 15: Speaking test
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook. The teacher will provide all materials An electronic dictionary will be helpful	40% attendance & class effort 30% homework 30% end of semester speaking test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（水１）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course seeks to master competency in English fluency improving speaking, and comprehension skills. Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles to study national and international issues of political and social significance. The class aims to provide an English native like environment in reading, listening, writing, pair and group discussion practice. Students will prepare an article and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start article # 1 Week 2: Article # 2 Week 3: Article # 3 Week 4: Article # 4 Week 5: Article # 5 Week 6: Article # 6 Week 7: Article # Quiz Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Article # 13 Week 15: Article # Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week.	Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（水１）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course seeks to master competency in English fluency improving speaking, and comprehension skills. Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles to study national and international issues of political and social significance. The class aims to provide an English native like environment in reading, listening, writing, pair and group discussion practice. Students will prepare an article and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start article # 1 Week 2: Article # 2 Week 3: Article # 3 Week 4: Article # 4 Week 5: Article # 5 Week 6: Article # 6 Week 7: Article # Quiz Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Article # 13 Week 15: Article # Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week.	Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（水３）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course seeks to master competency in English fluency improving speaking, and comprehension skills. Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles to study national and international issues of political and social significance. The class aims to provide an English native like environment in reading, listening, writing, pair and group discussion practice. Students will prepare an article and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start article # 1 Week 2: Article # 2 Week 3: Article # 3 Week 4: Article # 4 Week 5: Article # 5 Week 6: Article # 6 Week 7: Article # Quiz Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Article # 13 Week 15: Article # Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week.	Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（水３）	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course seeks to master competency in English fluency improving speaking, and comprehension skills. Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles to study national and international issues of political and social significance. The class aims to provide an English native like environment in reading, listening, writing, pair and group discussion practice. Students will prepare an article and come to class prepared to present it in their own words to a group and or the class.	Week 1: introduction, outline, evaluation, course requirements & start article # 1 Week 2: Article # 2 Week 3: Article # 3 Week 4: Article # 4 Week 5: Article # 5 Week 6: Article # 6 Week 7: Article # Quiz Week 8: Article # 7 Week 9: Article # 8 Week 10: Article # 9 Week 11: Article # 10 Week 12: Article # 11 Week 13: Article # 12 Week 14: Article # 13 Week 15: Article # Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week.	Attendance, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
This course meets once a week and is concentrated on the four skills (reading, writing, listening and speaking). Students will be given opportunities to lead presentations and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Students will choose contemporary topics to base their presentation on and will also introduce appropriate special vocabulary needed for understanding the presentation and discussion in class. There will be daily quizzes, discussions, and presentations. The second semester is a continuation of first semester.	1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions 3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions 4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions 5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions 6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions 7. Mid-term 8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions 13. Final 14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews 15. Wrap-up of this semester's work. **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: Handouts prepared by students Student led presentations	Grading: Students will be graded according to their attendance, quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
This course meets once a week and is concentrated on the four skills (reading, writing, listening and speaking). Students will be given opportunities to lead presentations and communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Students will choose contemporary topics to base their presentation on and will also introduce appropriate special vocabulary needed for understanding the presentation and discussion in class. There will be daily quizzes, discussions, and presentations. The second semester is a continuation of first semester.	1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions 3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions 4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions 5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions 6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions 7. Mid-term 8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions 13. Final 14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews 15. Wrap-up of this semester's work. **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: Handouts prepared by students Student led presentations	Grading: Students will be graded according to their attendance, quizzes, attitude, participation, homework, and presentations.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
This course is aimed at the intermediate level student and uses current topics as the basis to improve general comprehension, develop critical thinking skills and promote active discussion. Students will be expected to read about a topic, demonstrate understanding, and then discuss it in a meaningful manner in small groups. In every class, students will be expected to be active and participate fully. In addition to regular class participation, students will give two poster presentations based on topics covered in class. Students will also learn how to make a vocabulary journal which will be the basis for the vocabulary tests. Grades will be based on attendance and class participation, two poster presentations, vocabulary tests and one speaking test.	Week 1: Class orientation Week 2: Global warming, vocabulary journal Week 3: Cosmetic surgery Week 4: Family rules Week 5: Plagiarism Week 6: Poster presentations Week 7: Abortion Week 8: Earning money Week 9: Body art Week 10: Adult Children Week 11: Poster Presentations 2 Week 12: Friendship Week 13: Labor roles Week 14: Speaking test Week 15: Review and consultation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues 3 (Pearson Longman)	20% attendance and participation 20% vocabulary tests 40% poster presentations 20% speaking test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
Like the Comprehensive English III course, the aim of this course is for intermediate level students to learn to give good presentations and participate in group discussions based on current topics. The class will look at a variety of topics and students will be expected to demonstrate understanding of the subject and contribute meaningfully to the discussions. Students will give two poster presentations with the goal of leading a group discussion based on their own topic choice and research. Significant class time will be spend on research for the presentations--developing a good topic, finding good sources, representing different points of view, and effectively leading a group discussion. Grades will be based on attendance and class participation, two poster presentations, vocabulary tests and one speaking test.	Week 1: Class orientation Week 2: Sexual harassment Week 3: Technology in daily life Week 4: Career choices Week 5: Gender issues, presentation research Week 6: Poster presentations Week 7: War and peace Week 8: One-sided love Week 9: Culture shock Week 10: Euthanasia, presentation research Week 11: Presentation research Week 12: Poster Presentations 2 Week 13: Divorce Week 14: Speaking test Week 15: Review and consultation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues 3 (Pearson Longman)	20% attendance and participation 20% vocabulary tests 40% poster presentations 20% speaking test

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｊ．フォルカス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course we concentrate on two main skills: how to engage productively in group discussions, and how to read more effectively. The ultimate goal of the course is to learn how to combine these skills; by the end of the semester students will be able to read about a topical issues, select certain aspects of the issue that are worthy of discussion, and then lead that discussion in an interesting and thoughtful way.	1. Introduction to the course 2. Discussion basics 3. Leading a discussion 4. Other 'discussion roles' 5. Discussion skills: interrupting and clarifying 6. Discussion skills: agreeing and disagreeing 7. Discussion skills: asking intelligent question 8. Reading basics 9. Choosing topical texts: newspapers and the Internet 10. Identifying main points in a text 11. Analyzing information and raising questions 12. Presenting a text for discussion 13. Leading a reading-based discussion 1 14. Leading a reading-based discussion 2 15. What we have learned this semester
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course. Students will be given materials throughout the semester.	Assessment will be conducted on a continuous basis during the semester. Class activities, homework assignments and class participation will form the basis of the final grade.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｊ．フォルカス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course students learn basic and advanced presentation skills, how to put those skills into practice when giving a self-prepared presentation and, finally, how to lead a class discussion based on the presentation topic. We shall be covering a variety of topics, including 'How to choose an appropriate topic', 'Using multimedia in the classroom', 'Leading a class discussion' and much more.	1. Introduction to the course Cycle 1 2. Presentation skills 3. Presentation preparation 4. Presentation and discussion Cycle 2 5. Presentation skills 6. Presentation preparation 7. Presentation and discussion Cycle 3 8. Presentation skills 9. Presentation preparation 10. Presentation and discussion Cycle 4 11. Presentation skills 12. Presentation preparation 13. Presentation and discussion 14. Final project 15. Final project
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course. Students will be given materials throughout the semester.	Assessment will be conducted on a continuous basis during the semester. Class presentations and discussions, homework assignments and class participation will form the basis of the final grade.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course focuses on students' reading and discussion skills. As well as further developing interpersonal communication and fluency, students will get practice in critical thinking through expressing opinions and justifying their arguments with sound reasoning. They will practice the skill of using mind maps for reporting and summarizing readings and researched information. Each student will be required to take the role of discussion leader, as well as be prepared to actively participate in discussions lead by their peers. In the first part of the semester discussions will be based on assigned readings. Later in the semester students choose social issues, find readings, prepare appropriate discussion questions, and give an oral report to a group of classmates.	1. Introduction to course and class 2. The language of reasoning and critical thinking 3. Practicing the discussion leader role 4. Response to assigned reading/discussion 5. Response to assigned reading/discussion 6. Response to assigned reading/discussion 7. Response to assigned reading/discussion 8. Choosing social issues for reading/research 9. Class survey of peers 10. Group collation of survey opinions and reasoning 11. Oral report/discussion of chosen social issues 12. Oral report/discussion of chosen social issues 13. Oral report/discussion of chosen social issues 14. Oral report/discussion of chosen social issues 15. Course review and self-reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Evaluation is based on attendance, speaking assignments, and classroom participation.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	K．フォード

講義目的、講義概要	授業計画
This one-semester course focuses on developing students' skills as presenter and discussion leader. This involves students giving academic presentations that demonstrate good delivery skills, such as voice volume, pace and intonation, varied audience eye contact, and use of notes. Presentations should also show a clear understanding of the structure and language requirements of the introduction, body and conclusion of a speech. The nature of visual material will also be considered. The two main assignments for this course will be a news article summary/discussion presentation and an informative or persuasive presentation using power point. Peer evaluation will also play an important part in this course.	1. Introduction to course and class 2. Brainstorming on what makes a good presentation 3. Example news summary/discussion presentation 4. Review of discussion skills and discussion leader role 5. News article summary/discussion presentations 6. News article summary/discussion presentations 7. News article summary/discussion presentations 8. News article summary/discussion presentations 9. Review of presentation delivery skills 10. Assessing visuals/assessment checklist 11. Power point presentations/audience questions 12. Power point presentations/audience questions 13. Power point presentations/audience questions 14. Power point presentations/audience questions 15. Course review and self-reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Evaluation is based on attendance, presentations, and classroom participation in discussion and questioning.

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ	担当者	Ｐ．アップス

講義目的、講義概要	授業計画
This is the second year Comprehensive English course. It is designed for students with intermediate level abilities in listening and speaking. Emphasis is placed on the students to motivate themselves in the classroom. The students will be expected to participate in discussions in the classroom and give opinions on a wide variety of topics. The students will select two assignments of a possible Which include 1. Recording a radio commercial 2. A Poster presentation 3. A power point Presentation 4. A two page essay	1. Class organization, explanation of the course and an essay how to write an essay. Why I want to study English. 2. How to write speeches and how to prepare posters. 3. Unit Two - Identity Theft. Prepare for the poster presentation 4. Unit Two - Identity Theft. Prepare for the poster presentation 5. Poster Presentation and speech 6. Unit One - Advertising on the air Preparing a radio commercial. Study of voice and intonation. 7. Unit One - Advertising on the air Preparing a radio commercial. Study of voice and intonation. 8. Listen to the radio commercials. 9. Movie - Essay - Dead Poet Society 10. Movie - Essay - Dead Poet Society 11. Unit four - Separated by the same language. The final presentation for the semester is a power point presentation. 12. Unit four - Separated by the same language. The final presentation for the semester is a power point presentation. 13. Unit four - Separated by the same language. The final presentation for the semester is a power point presentation. 14. Power point presentations on language 15. Summary of the semester
テキスト、参考文献	**評価方法**
Northstar Listening and Speaking Three (New Edition) by Helen S Solorzano and Jennifer P.L. Schmidt Every student is to have a dictionary.	Evaluation 1) Class attendance 20% 2) Class Attitude 20% 3) Two assignments at 30% each

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ	担当者	Ｐ．アップス

講義目的、講義概要	授業計画
This is the second year Comprehensive English course. It is designed for students with intermediate level abilities in listening and speaking. Emphasis is placed on the students to motivate themselves in the classroom. The students will be expected to participate in discussions in the classroom and give opinions on a wide variety of topics. The students will select two assignments of a possible Which include 1. Recording a radio commercial 2. A Poster presentation 3. A power point Presentation 4. A two page essay	1. Unit Six - The Art Story Telling Prepare a scary story in mp3 format 2. Unit Six - The Art Story Telling Prepare a scary story in mp3 format 3. Unit Six - The Art Story Telling Prepare a scary story in mp3 format 4. Unit Ten - Before I say I do Preparation of a power point presentation on Wedding Customs 5. Unit Ten - Before I say I do Preparation of a power point presentation on Wedding Customs 6. Unit Ten - Before I say I do Preparation of a power point presentation on Wedding Customs 7. PowerPoint presentation on wedding customs 8. Unit Nine - Personal Carbon Print Prepare a poster presentation 9. Unit Nine - Personal Carbon Print Prepare a poster presentation 10. Unit Nine - Personal Carbon Print Prepare a poster presentation 11. Unit Nine - Personal Carbon Print Prepare a poster presentation 12. Movies and East is East Write an essay on education 13. Movies and East is East Write an essay on education 14. Interview on the years work. 15. Interview on the years work.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Northstar Listening and Speaking Three (New Edition) by Helen S Solorzano and Jennifer P.L. Schmidt Every student is to have a dictionary.	Evaluation 1) Class attendance 20% 2) Class Attitude 20% 3) Two assignments at 30% each

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（水２）	担当者	Ｒ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Think, debate and discuss! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, and you should be prepared to study hard. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Japanese work ethics. 3 Attitudes towards women. 4 Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（水２）	担当者	Ｒ．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Think, debate and discuss! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, and you should be prepared to study hard. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society. 3 Ageing Society. 4 The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（再、月１）	担当者	Ｐ．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
To be announced in the first class	To be announced in the first class
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced in the first class	To be announced in the first class

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（再、月１）	担当者	Ｐ．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
To be announced in the first class	To be announced in the first class
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced in the first class	To be announced in the first class

06 年度以降	Comprehensive English Ⅲ（再、金３）	担当者	Ｐ．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
To be announced in the first class	To be announced in the first class
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced in the first class	To be announced in the first class

06 年度以降	Comprehensive English Ⅳ（再、金３）	担当者	Ｐ．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
To be announced in the first class	To be announced in the first class
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced in the first class	To be announced in the first class

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies I 英語リーディング・ストラティジーズ a	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
[目標] 英語の語彙を増やしながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解スキルを学習する。 [概要] 各担当教員が選定した教材を用いる。 読解スキルとしては、Previewing and Predicting; Recognizing patterns in paragraphs; Recognizing patterns of text organization などが含まれる。 6 月には図書館の利用方法に慣れるため、図書館ガイダンスが行われる。	各担当教員が開講時に説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が指示する。	各担当教員が開講時に説明する。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅱ 英語リーディング・ストラティジーズ b	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
[目標] 「Reading Strategies I」に引き続き、英語の語彙力をつけながら、外国の文化や文学を理解する力をつける。また、「Reading Strategies I」 で身につけた基礎的な読解スキルを定着させ、発展させる。 [概要] 各教員が選定した教材を用いる。 秋学期は、次のような読解スキルを学ぶ。Previewing and Predicting; Recognizing patterns of text organization; Making inferences; Outlining など。	各担当教員が開講時に説明する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が指示する。	各担当教員が開講時に説明する。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（再） 英語リーディング・ストラティジーズ b（再）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文パラグラフは、パラグフラフ構成ルールに従って書かれている。このルールを知っていれば、パラグラフの中で重点的に読むべき文やキーワードがどれかを判断することができ、パラグラフ全体の主張を正確に理解するができるようになる。その結果、量のある英文を読む際に必要な速読・多読のための読解力を身につけることができる。 そこで、本授業では、パラグラフの構成を理解し、英文の構成や種類に応じた読解力の習得を目指す。本授業の目的は、精読ではなく、速読・多読のための読解力を養うことであるので、英文一文ごとの正確な日本語訳を作ることは目指さない。しかしこれは、英文の意味を理解しなくて良いということではないので、英文を正しく理解するためにこまめに辞書を引くことを本授業参加への前提とする。 講義概要 本授業は、１回の授業でテキストの１ユニットごと（６頁）のペースで進み、比較的長い英文を読む。予習を前提とした授業をする。学生の学習習熟度によって授業進度を変更することもある。	1. ガイダンスと読解力レベル診断テスト（１） 2. プレ・リーディングスキルを磨く 3. 重要な情報や概念（メインアイデア）を理解する 4. 詳細情報を理解する 5. アイデアの結びつきをシグラルワードから理解する 6. 指示語が誰を指すか、何を指すかを把握する 7. パラグラフ構造：「比較」と「対照」を学ぶ 8. パラグラフ構造：「原因と結果」を学ぶ 9. パラグラフ構造：「時間順序」を学ぶ 10. パラグラフ構造：「空間順序」を学ぶ 11. 重要な情報を「要約する」ストラテジーを磨く 12. 必要な情報をスピーディに把握するストラテジー 13. 視覚的な情報を効果的に使用する 14. 「事実」と「意見」を区別する 15. 読解力レベル診断テスト（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：卯城裕司他(2008) *Reader's Ark*（『英語リーディングの冒険』）金星堂 参考文献：なし	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の２／３以上の出席が必要である。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（再） 英語リーディング・ストラティジーズ a（再）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 まとまった量の英文を読みこなすためには、英単語と英文法の知識だけでは不十分である。それは、英文パラグラフがパラグラフ構成ルールに従って書かれているからである。このルールを知らなければ、仮に丹念に辞書を引き、パラグラフ内の全英文を訳すことができたとしても、結局著者の主張は何なのか、というパラグラフ全体の主張を漠然としか理解できないことになってしまう。 そこで、本授業では、パラグラフの構成を理解し、速読・多読のための読解力の基礎を習得することを目指す。本授業の目的は、英文の精読ではないので、英文一文ごとの正確で自然な日本語訳を作ることは目指さないが、英文の意味を正しく理解するためにこまめに辞書を引くことを本授業参加への前提とする。 講義概要 本授業は、１回の授業でテキストの１ユニットごと（６頁）のペースで進み、予習を前提とした授業をする。学生の学習習熟度によって授業進度を変更することもある。	1. ガイダンスと読解力レベル診断テスト 2. 英文の内容を予測する 3. メインアイデアを理解する ＜１＞ 4. メインアイデアを理解する ＜２＞ 5. メインアイデアを理解する ＜３＞ 6. 詳細情報を理解する 7. シグナルワードを理解する＜１＞ 8. シグナルワードを理解する＜２＞ 9. 指示語を理解する＜１＞ 10. 指示語を理解する＜２＞ 11. パラグラフ構造＜１＞ 12. パラグラフ構造＜２＞ 13. パラグラフ構造＜３＞ 14. パラグラフ構造＜４＞ 15. 情報を効果的に読み取る
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：卯城裕司他(2009) *Reader's Ark Basic*（『英語リーディングの冒険：基礎編』）金星堂 参考文献：なし	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の２／３以上の出席が必要である。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（再） 英語リーディング・ストラティジーズ a（再）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 英語の語彙を増やしながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。 講義概要 受講生は原則として毎回授業時間内にプリントを読み、音読し、内容を訳出する。随時グループ討議も行い、全員が積極的に参加するスタイルで内容を完全に理解していく。	第１回　　オリエンテーション 第２回～第１４回 使用テキスト（随時配布）を購読 第１５回　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。	出席日数、授業への参加、課題の取り組みを総合的に評価する。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅰ（再） 英語リーディング・ストラティジーズ a（再）	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
目標： 前期と同様に、英語の語彙を増やしながら、日本語を介さず英語で考える能力を養い、併せて外国の文化や文学を理解する力をつける。将来、英語圏で学習する場合にも役立つような基礎的な読解技能を学習する。 講義概要 受講生は原則として毎回授業時間内にプリントを読み、音読し、内容を訳出する。随時グループ討議も行い、全員が積極的に参加するスタイルで内容を完全に理解していく。	第１回　　オリエンテーション 第２回～第１４回 使用テキスト（随時配布）を購読 第１５回　総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。	出席日数、授業への参加、課題の取り組みを総合的に評価する。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅱ（再） 英語リーディング・ストラティジーズ b（再）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
マイケル・ジャクソンが亡くなった後に映画化となった *This Is It*（ワールドツアーのリハーサルを収録したもの)。ご覧になった方は多くいらっしゃると思います。もしこのコンサートツアーが現実に行われていたとしたら、コンサート最後の曲は“Man in the Mirror”の予定でした。 “Man in the Mirror” のショートフィルムには、マイケル本人はほんの数秒しか登場しません。その代わりに、20 世紀に起こった大事件や重要人物の様子が、数秒単位で紹介されています。 この授業では、ショートフィルムの映像に紹介されている事件の背景や人物が残した言葉を、丁寧に読んでいくことによって、マイケル・ジャクソンがこの曲にこめたメッセージを考えていきたいと考えています。	1.　ガイダンス Michael Jackson の“Man in the Mirror” 2 種類の SF を観る 2.　John F. Kennedy ① 3.　John F. Kennedy ② 4.　Robert Kennedy ① 5.　Robert Kennedy ② 6.　Robert Kennedy ③ 7.　Robert Kennedy ④ 8.　中間テスト 9.　Martin Luther King, Jr. ① 10. Martin Luther King, Jr. ② 11. John & Yoko ① 12. John & Yoko ② 13. Mother Teresa ① 14. Mother Teresa ② 15. 講義のまとめ ※　授業の進行状態によって、多少の変更も考えられます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
・プリントを配布します。	※　成績は以下の配分で評価します。 中間テスト４０％、期末テスト４０％、授業内発表２０％ ※　遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（HONORS）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
Reading Strategies Ⅲ（Honors）is an advanced level reading course designed to help students develop effective skills, strategies and practices for improving their reading and vocabulary. Based on a variety of readings selected for their sentiment and humor, as well as for their relevance to present-day society, it is the aim of the instructor that through the course of the semester students come to develop a genuine fondness for and interest in reading English. Focus readings will include essays, memoirs, contemporary fiction, and recently-published newspaper articles from authors/journalists Raymond Carver, Gary Shteyngart, David Sedaris, Amy Tan, Ernest Hemingway and Jonathan Franzen, among others.	1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review 15. Final Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of in-class and homework assignments (30%), and achievement on a final essay (30%).

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（HONORS）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
Reading Strategies Ⅳ（Honors）is an advanced level reading course designed to help students develop effective skills, strategies and practices for improving their reading and vocabulary. Based on a variety of readings selected for their sentiment and humor, as well as for their relevance to present-day society, it is the aim of the instructor that through the course of the semester students come to develop a genuine fondness for and interest in reading English. Focus readings will include essays, memoirs, contemporary fiction, and recently-published newspaper articles from authors/journalists Raymond Carver, Gary Shteyngart, David Sedaris, Amy Tan, Ernest Hemingway and Jonathan Franzen, among others.	1. Course Introduction 2. Quick easy reading – Recalling and retelling what you've read 3. Reading 1: Introduction to author and theme / First read 4. Reading 1: Vocabulary and comprehension exercises 5. Reading 1: Group discussion / Final read and review 6. Reading 2: Introduction to author and theme / First read 7. Reading 2: Vocabulary and comprehension exercises 8. Reading 2: Group discussion / Final read and review 9. Reading 3: Introduction to author and theme / First read 10. Reading 3: Vocabulary and comprehension exercises 11. Reading 3: Group discussion / Final read and review 12. Reading 4: Introduction to author and theme / First read 13. Reading 4: Vocabulary and comprehension exercises 14. Reading 4: Group discussion / Final read and review 15. Final Assessment
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), participation in classroom discussions (20%), the completion of in-class and homework assignments (30%), and achievement on a final essay (30%).

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（HONORS）	担当者	Ｔ．ヒル

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students develop their critical reading skills and the ability to discuss issues of contemporary importance. Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English. Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.	1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Religion 13. Religion 14. Education 15. Education
テキスト、参考文献	**評価方法**
Material will be taken from internationally respected newspapers.	Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, and the submission of a class notebook.

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（HONORS）	担当者	Ｔ．ヒル

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students develop their critical reading skills and the ability to discuss issues of contemporary importance. Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English. Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.	1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Religion 13. Religion 14. Education 15. Education
テキスト、参考文献	**評価方法**
Material will be taken from internationally respected newspapers.	Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, and the submission of a class notebook.

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
The overall objectives of the Reading Strategies III course are to: 1) Increase academic vocabulary. 2) Read a variety of reading material. 3) Develop effective reading skills. 4) Read materials outside of class. Throughout this course, we will be working towards the above objectives using the selected text and associated readings. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Introduction. Week 2: Selected readings. Week 3: Selected readings. Week 4: Selected readings. Week 5: Selected readings. Week 6: Selected readings. Week 7: Selected readings. Week 8: Selected readings. Week 9: Selected readings. Week 10: Selected readings. Week 11: Selected Readings/Presentations. Week 12: Selected Readings/Presentations. Week 13: Selected Readings/Presentations. Week 14: Selected Readings/Presentations. Week 15: Consolidation & Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Leeming, D, & J. Page. Myths, Legends, and Folktales of America: An Anthology. (Oxford University Press.)	Grading will be based on class participation, assignments, quizzes and a final assessment.

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
The overall objectives of the Reading Strategies III course are to: 1) Increase academic vocabulary. 2) Read a variety of reading material. 3) Develop effective reading skills. 4) Read materials outside of class. Throughout this course, we will be working towards the above objectives using the selected text and associated readings. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor. As attendance is essential for participating in this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Introduction. Week 2: Selected readings. Week 3: Selected readings. Week 4: Selected readings. Week 5: Selected readings. Week 6: Selected readings. Week 7: Selected readings. Week 8: Selected readings. Week 9: Selected readings. Week 10: Selected readings. Week 11: Selected Readings/Presentations. Week 12: Selected Readings/Presentations. Week 13: Selected Readings/Presentations. Week 14: Selected Readings/Presentations. Week 15: Consolidation & Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Leeming, D, & J. Page. Myths, Legends, and Folktales of America: An Anthology. (Oxford University Press.)	Grading will be based on class participation, assignments, quizzes, and a final assessment.

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
What does globalization really mean? コース名のとおり、読む力をつけるためのクラスです。春学期は、早くたくさん読めるようになるための訓練に焦点を置きます。 内容としては、グローバル化した現代の世界を、複眼的に捉える姿勢を身につけるのが狙いです。ひとつの出来事を複数の異なる視点から検討することで、自分自身の現在と生活の場を、長い歴史と世界のひろがりの中でとらえなおす意識を養っていただきたいのです。 教材には種々の新聞、および取り上げる事象に関連したエッセイを使用します。英国、合衆国、オーストラリア、カナダのみならず、インド亜大陸、アフリカ、カリブ海地域など、英語が第一言語、公用語､共通語である様々な場所に等しく注目しながら、テキストを選んでいきます。 なお授業の一部は英語で行います。その割合については、実際の授業のなかで調整していきます。	1. 導入 2. 「シングルストーリーの危険性」（チママンダ・アディーチェ、講演ヴィデオとスクリプト） 3～11 回 2010 年はじめぐらいから授業時までの間に起こった大きな世界の変化をとりあげ、複眼的に検討します。授業３回を１クールとします。どのようにして「読む力」をつけていくかは、紙幅の関係で詳しく述べることができませんので、授業内で説明します。wpm (words per minute)の測定をしながら、速読能力もあげていきます。 12. ミニ・プレゼンテーションの用意。 13. ミニ・プレゼンテーション 1 14. ミニ・プレゼンテーション 2 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用します。	出席　20% 提出物とミニプレゼンテーション 40 % 試験　40%

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
What does globalization really mean? 秋学期は Reading Strategies Ⅲで身につけたスキルを生かしつつ、精読に焦点を移します。テーマは春学期と同じ。複眼思考でグローバル社会について critical に考えていきましょう。5 回目からは、この主題についての入門書を読みますが、内容を理解するのみならず、読解を自分自身の疑問や批判へとつないでいってもらいます。 テキストにはエッセイ'The Algebra of Infinite Justice'と、以下に指定した本を使用します。春学期同様、授業の一部は英語で行う予定です。 'The Algebra of Infinite Justice'についての説明 このエッセイはインド人小説家 Aruhdhati Roy による、合衆国政府の軍事・政治政策への批判です。直接的には、9.11 の後、ブッシュ政権がすぐさまに展開した「無限の正義」作戦の傲慢と危険を指摘しています。Roy はインド在住インド人英語作家としてはじめて Booker 賞（英国でもっとも注目度の高い文学賞のひとつ）を受賞した女性の書き手です。	1. 導入+ The Algebra of Infinite Justice 1 2. The Algebra of Infinite Justice 2 3. The Algebra of Infinite Justice 3 4. The Algebra of Infinite Justice 4 *Globalization: A Very Short Introduction* を読む 5. Globalization: a contested concept 6. Globalization and history 7. <assessment 1> 8. The economic dimension of globalization 9. The cultural dimension of globalization 10. The ecological dimension of globalization 11. <assessment 2> 12. Ideologies of globalization 13. Assessing the future of globalization 14. <assessment 3> 15. Round-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
'The Algebra of Infinite Justice'についてはハンドアウトを用意。*Globalization: A Very Short Introduction* (Oxford University Press)は春学期終わりまでに共同購入する。	出席　20% 提出物　30% 試験　50%

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
This course will be conducted all in English. We will read, write, talk, and think in English. Mistakes are OK, but you are encouraged to use English as fully as possible. Our textbook is Nick Hornby's novel *Slam*. It is a story about Sam, fifteen-year-old, who lives in London and is good at skateboarding. In the beginning of the novel, he is perhaps a very ordinary boy, but when he starts dating with Alicia, something very serious happens (which is suggested in the title—"slam" means crash). We are going to see what happens to Sam, as we will read 10 to 20 pages in each class. At the same time, we will focus on the colloquial language Sam frequently uses. We will also make small groups and discuss topics such as cultural differences between UK and Japan. (Attendance is essential for this course. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.)	1. Introduction 2. Chapter 1 3. Ch. 2 4. Ch. 2 5. Ch. 3 6. Ch. 4 7. Ch. 5 8. Ch. 6 9. Ch. 6 10. Ch. 7 11. Ch. 8 12. Ch. 9 13. Ch. 9 14. Wrap up 1 15. Wrap up 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nick Hornby, *Slam* (London: Penguin, 2007) * Buy at DUO	Class participation, preparation, and a final assessment

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
We are going to read the latter part of *Slam*.	1. Introduction 2. Ch. 10 3. Ch. 11 4. Ch. 12 5. Ch. 13 6. Ch. 14 7. Ch. 14 8. Ch. 15 9. Ch. 16 10. Ch. 17 11. Ch. 18 12. Ch. 19 13. Ch. 20 14. Wrap up 1 15. Wrap up 2
テキスト、参考文献	**評価方法**
Nick Hornby, *Slam* (London: Penguin, 2007)	Class participation, preparation, and a final assessment

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
目的に応じた英文の読み方を習得しながら、語彙力や批判的読解力に加えて英語でのプレゼンテーションとライティングのスキルを高めるという、欲張りな授業目標を設定しています。これらを達成するために、(1) 徹底した音読練習（春学期)、(2) 英語による３分間スピーチの実践（秋学期)、(3) 中級レベルの英文の精読、(4) 教材の内容についてのプレゼンテーションとディスカッション、(5) 学習テーマの理解を深めるためのシミュレーション・ゲーム等のホリスティックな学習方法を用意しています。 春学期は、音読練習の意義と練習方法の説明、スキャニング、スキミング、メモやノートの取り方等の基本技術を学習（復習？）するところから始まります。次に、平易な文で書かれた伝統的な異文化間コミュニケーション論の教材を用いながら、要旨のまとめ方と英語でのプレゼンテーションの仕方について実践を通して学びます。更に、「異文化間コミュニケーション（論)」に関する様々な誤解を解消しながら、日本の大学生が英語でコミュニケートする際の問題点や弱点、強みについて考察します。こうした一連の学習の成果は、学期末に教材の書評（book review）を英語で執筆するという形で確認されることになります。	1. 導入 2. RS I&II の復習 3. 心を読む／読まれる 4. Culture and communication (pp. 1-7) 5. Intercultural communication (pp.8-16) 6. Verbal messages (pp.17-23) 7. Verbal messages (pp.23-31) 8. Verbal messages (pp.32-36) 9. Nonverbal communication (pp.37-45) 10. Nonverbal communication (pp.45-58) 11. Nonverbal communication (pp.58-67) 12. Becoming more effective (pp.68-76) 13. Becoming more effective (pp.76-83) 14. まとめ 15. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
サモーバー・L・A 他（2002）『現代英文テキスト　異文化との出会い』研究社。 国弘正雄、千田潤一（2004）『英会話・ぜったい・音読　続挑戦編』講談社。	英語でのプレゼンテーション（40%)、音読テスト（20%)、書評（英文で 500~1,000 語程度）(30%)、授業参加 (10%)

06 年度以降	Reading Strategies IV	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は、周囲の環境の変化に伴う戸惑いや葛藤について扱った寓話を異文化適応理論や文化理論の知見を借りながら批判的・分析的に読みます。寓話の精読と内容に関するプレゼンテーションやディスカッション、関連文献の精読、シミュレーション・ゲームへの参加により、留学、仕事、婚姻、或いは紛争や貧困などの理由で国や地域を越えて生活することの意味や、外国語を学んだり国際的（グローバル）な分野の学問をしたりすることの意義についての理解を深めます。学期末には、学習のまとめとして英語での３分間スピーチの発表と書評の執筆をしていただきます。 授業参加が非常に重視されますので、積極的に発言し意見交換をしながら語学力と思考力を向上させたい人の受講を望みます。また、授業担当者も英語の学習者であり、英語が支配的になっている国際的な場面での倫理的なコミュニケーションの在り方を模索中であること、授業は日英両言語で行われること、４分の１以上の欠席は不可になることを理解のうえ、授業に臨んでください。	1. 導入 2. *Who moved my cheese?*を独りで読む 3. あなたの異文化適応能力は？ 4. Culture shock and cross-cultural adjustment（Levine & Adelman, 1993） 5. A gathering (pp.21-24) 6. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 25-36) 7. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 37-46) 8. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 47-56) 9. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 57-66) 10. The story of Who Moved My Cheese? (pp. 67-76) 11. A discussion (pp. 77-94) 12. The story behind the story (pp.12-18) 13. カルチャーショックという名のプレゼント 14. まとめ 15. まとめ

テキスト、参考文献	評価方法
Johnson, S. (1998). *Who moved my cheese?* London: Vermilion. その他のプリント教材	英語でのプレゼンテーション（40%)、３分間スピーチ（20%)、書評（英文で 500~1,000 語程度）(30%)、授業参加（10%）

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の現代演劇の台本をテキストにして vocabulary の増やし、さまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考えながら、多種多様な英語の表現を覚えていこうと思います。また実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してみてください。 教室ではお互いの翻訳を確認しながら、テキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	毎回授業開始時に vocabulary テストを行います。 テキストはイギリスの現代演劇（farce）の台本ですが、〈ぶっくぎゃらりぃ DUO〉で購入下さい。 テキストを映像化したものがあるので、精読をした後、その日に読み終わった範囲を、映像で確認します（英語を聴きとったり、日本語字幕がある場合は、自分の訳と比較してみてください)。 教室で読むテキストとは別に、指定する演劇の観劇レポート（400 字以上 500 字以下）2 編の提出を求めます。 レポートに関することなど、授業計画の詳細は教室にて説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Michael Frayn: *Noises Off*(Samuel French,ISBN-0573619697) 参考文献は授業中に言及する予定	毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート（400-500 字）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。 レポートは 2 編必修です。未提出者には単位を認めません。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の現代演劇の台本をテキストにして vocabulary の増やし、さまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考えながら、多種多様な英語の表現を覚えていこうと思います。また実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してみてください。 教室ではお互いの翻訳を確認しながら、テキストを読んでいきます。きちんと辞書を引いて、日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	毎回授業開始時に vocabulary テストを行います。 テキストはイギリスの現代演劇（farce）の台本ですが、〈ぶっくぎゃらりぃ DUO〉で購入下さい。 Reading Strategies Ⅲからの続きを読みます。 テキストを映像化したものがあるので、精読をした後、その日に読み終わった範囲を、映像で確認します（英語を聴きとったり、日本語字幕がある場合は、自分の訳と比較してみてください)。 教室で読むテキストとは別に、指定する演劇の観劇レポート（400 字以上 500 字以下）2 編の提出を求めます。 レポートに関することなど、授業計画の詳細は教室にて説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Michael Frayn: *Noises Off*(Samuel French,ISBN-0573619697) 参考文献は授業中に言及する予定	毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート（400-500 字）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。 レポートは 2 編必修です。未提出者には単位を認めません。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
平均的な大学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎、各章毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。	最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米史に関するテキストをコピーして、その都度配布します。	筆記試験をします。平常点も３０％ほど考慮します。 欠席が授業回数の１／３を超えた場合、単位を与えません。遅刻は３回で欠席１回分にカウントします。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期と同じ。	最初の授業で説明します。 米・イスラエル関係史のテキストを使用します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
将来の専門分野研究につながる学術語彙を増やし、速読や精読に必要となる読解技術の向上を目指すことを本授業の目的とする。 本授業では、グローバリゼーションに関する入門書を主たるテキストとして使用し、基礎概念を学び著者の意図を正しく理解し、批評的な読み方を訓練する。 授業では、毎回の単語テストや発表（個人、グループ）を行う予定である。毎週読んできたものを前提に授業を進める。 秋学期は春学期と同じテキストを使用する予定でいる。	第 1 回　　オリエンテーション 第 2～3 回　Preface 第 4 ～6 回　Chapter 1 、 サマリー・ライティング 第 7～10 回　Chapter 2 、 サマリー・ライティング 第 11～14 回　Chapter 3、　サマリー・ライティング 第 15 回　　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（参考資料）Manfred B. Steger. *Globalization: A very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2009.	出席回数、授業態度、単語テスト、学期末試験の総合評価とする。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
将来の専門分野研究につながる学術語彙を増やし、速読や精読に必要となる読解技術の向上を目指すことを本授業の目的とする。 本授業では、グローバリゼーションに関する入門書を主たるテキストとして使用し、基礎概念を学び著者の意図を正しく理解し、批評的な読み方を訓練する。 授業では、毎回の単語テストや発表（個人、グループ）を行う予定である。毎週読んできたものを前提に授業を進める。 秋学期は春学期と同じテキストを使用する予定でいる。	第 1 回　　オリエンテーション 第 2～5 回　Chapter 4、サマリー・ライティング 第 6～9 回　Chapter 5、サマリー・ライティング 第 10 ~13 回　Chapter 6、サマリー・ライティング 第 14 回　　Assessing the Globalization 第 15 回　　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（参考資料）Manfred B. Steger. *Globalization: A very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2009.　テキストは教員が配布する。	出席回数、授業態度、単語テスト、学期末試験の総合評価とする。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
文法をいくら知識として覚えていても、その応用力がなければ、英語を十分に読みこなせるようにはならない。 「なんとなく解かる」という曖昧な読み方をつづけていたのでは、いつまでたっても、細かな内容やニュアンスを読み取れるようにはならないのである。そこで当講座では、英文法の応用力アップを目的として授業を進めていきたい。 なお、授業の３分の１以上を欠席した場合、単位は認められない。	当授業では、学生は文法の応用力アップを目的としていろいろな英文の解読に取り組むことになる。内容の委細については、今の時点では未定であるが、ＴＯＥＩＣ®の文法問題を広く用いたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	平常の授業での評価

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	出席、平常の授業での評価

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
Reading Classic Rock Classic Rock の中から代表的な 30 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。ロック・ミュージックの５０年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。 ２人１組のレポーターを中心に、個々の作品が生まれた歴史的・政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティヴに英語圏の文化を考える。	1. An Introduction 2. “America” by Paul Simon 3. “Eleanor Rigby” by the Beatles 4. “The Boxer” by Paul Simon 5. “Across the Universe” by the Beatles 6. “Me and Bobby McGee” by Janis Joplin 7. “Sympathy for the Devil” by Rolling Stones 8. “Sweet Baby James” by James Taylor 9. “Big Yellow Taxi” by Joni Mitchell 10. “At Seventeen” by Janis Ian 11. “The River” by Bruce Springsteen 12. “Good Night Saigon” by Billy Joel 13. “The Last Resort” by the Eagles 14. “The Pretender” by Jackson Browne 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントは担当者が用意する。	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決める。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはしない。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
Reading Classic Rock Classic Rock の中から代表的な 30 曲の歌詞を取り上げ、その作品から時代を読む。ロック・ミュージックの５０年の歴史から生まれた「歌われる現代詩」の言葉の魅力を、いわゆる現代詩とシンクロさせてみたい。 ２人１組のレポーターを中心に、個々の作品が生まれた歴史的・政治的・社会的・経済的背景を視野に入れながら、インタラクティヴに英語圏の文化を考える。 秋学期は、Bob Dylan の作品を取り上げる。	1. “Blowin’ in the wind” 2. “A Hard Rain’s A-Gonna Fall” 3. “With God on Our Side” 4. “My Back Pages” 5. “Mr. Tambourine Man” 6. “Like a rolling Stone” 7. “Desolation Row” 8. “I Want You” 9. “Sad-Eyed Lady of the Lowlands” 10. “All Along the Watchtower” 11. “Idiot Wind” 12. “Hurricane” 13. “One More Cup of Coffee (Valley Below)” 14. “Jokerman” 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Lyrics は、bobdylan.com よりダウンロード。	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決める。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはしない。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅲ	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：*Tuesdays with Morrie* を読む Mitch Albom の *Tuesdays with Morrie* は 2000 年にアメリカでベストセラーになったノンフィクションである。ジャーナリストの Mitch は、卒業後 20 年近くを経て、大学時代の恩師 Morrie の家に毎週火曜日に通って講義を受けることになる。ALS という難病にかかって死を前にした Morrie は、かつての教え子に最後の講義をする。 英語は平明だが、回想と現在、語り手と聞き手、内省と社会など、このノンフィクションの視点は多様に変化する。飾り気のないシンプルな言葉を通して、愛と死の意味や、大衆文化への批判など、大きな問題提起もなされている。 ただ内容を把握するだけにとどまらず、このベストセラーの語りの手法や読者をひきつけるテーマについて理解を深めることを目的とする。	1. 授業の進め方の説明、The Curriculum 2. The Syllabus, The Student 3. The Audiovisual, The Orientation 4. The Classroom, Taking Attendance 5. The First Tuesday, The Second Tuesday 6. The Third Tuesday, The Audiovisual, Pt 2 7. The Professor, The Fourth Tuesday 8. The Fifth Tuesday, The Sixth Tuesday 9. The Professor, Pt 2, The Seventh Tuesday 10. The Eighth Tuesday, The Ninth Tuesday 11. The Tenth Tuesday, The Eleventh Tuesday 12. The Audiovisual Pt 3, The Twelfth Tuesday 13. The Thirteenth Tuesday, The Fourteenth Tuesday 14. Graduation, Conclusion 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Mitch Albom, *Tuesdays with Morrie* (1997)	毎回、決められた範囲について小テストを行う。その成績によって評価を行う。

06 年度以降	Reading Strategies Ⅳ	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
テーマ：*Stone Cold* を読む イギリスでその年に出版された児童書で最も優れたものに与えられる Carnegie Medal を 1994 年に受賞している。児童書ではあるが、テーマは「ホームレス」であり、都市文化の冷酷さを、殺人事件を追うサスペンスとともに描いている。 内容を把握し、物語の展開を楽しむとともに、語り手二人という手法の面白さや、若者の視点で書かれている表現の特徴について理解を深めることをめざす。また若者の孤独と友情という普遍的テーマや、ホームレスと社会といった現代的な問題についても考える契機にしたい。	1. 授業の進め方の説明 2. pp. 1-10 3. pp. 11-21 4. pp. 22-35 5. pp. 36-50 6.Discussion and review 7. pp. 51-61 8. pp. 62-74 9. pp. 75-91 10. pp. 92-105 11.Discussion and review 12 pp. 106-116 13. pp. 117-132 14. Discussion and review 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert Swindells, *Stone Cold* (1993)	毎回、授業の中で小テストあるいは課題提出をしてもらう。その成績によって評価を行う。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（再） 英語専門講読入門 a　（再）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
日本の文化、特に神話について書かれた英文を読んで、文章読解力をつけるとともに、自国の文化についての理解を深める。 [精読] 以下に詳述するように精読を行い、英文読解力をつける。 １：　論理的接続語(logical connectors)について学び、文章の流れを正確に把握する力を身につける。 ２：　語彙数を増やすのは勿論のこと、言葉についての正確な知識を学ぶ。また、文脈から、あるいは接辞から、知らない言葉も推測することのできる力を身につける。 ３：　文中の言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読むことができるようになる。 [速読] 授業で精読した文章に関連する別の文章を読み、短い時間で、正確にその要旨をつかむ訓練をする。	1:　Introduction 2:　①Mythology and the Japanese World 3:　〃 4:　②Japanese Uniqueness 5:　〃 6:　③Japanese Topography and Geography 5:　〃 7:　④The Creation Myth 8:　〃 9:　〃 10: ⑤Japanese Population 11:　〃 12: ⑥Japanese History and Traditions 13:　〃 14:　〃 15:　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布　（初回にまとめて教材のプリントを配布しますので、受講希望者は必ず初回に出席して下さい。）	出席（30%）、期末試験(30%)、提出物(30%)、授業態度(10%)を総合的に評価。全体の 1/3 以上欠席した場合、期末試験の受験資格を失います。授業中の居眠りは欠席と見なします。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅳ（再） 英語専門講読入門 b　（再）	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、日本の文化、特に神話について書かれた英文を読んで、文章読解力をつけるとともに、日本の文化についての理解を深める。 [精読と表現] 以下に詳述するように精読を行い、文章を正確に理解し、更に、読んだ内容について自分の考えをまとめる力を身につける。 １：　論理的接続語(logical connectors)について学び、文章の流れを正確に把握する。 ２：　語彙数を増やすのは勿論のこと、言葉についての正確な知識を学ぶ。また、文脈から、あるいは接辞から、知らない言葉も推測することのできる力を身につける。 ３：　文中の言葉遣いや文中に込められた背景的知識にも注目して読むことができるようになる。 ４：　要点を正確に把握する。 ５：　自分の考えを簡潔に表わす。 [速読] 授業で精読した文章に関連する別の文章を読み、短い時間で、正確にその要旨をつかむ訓練をする。	1: ①Japanese Mythic Traditions 2:　〃 3:　〃 4: ②Great Tradition and the Little Traditions 5:　〃 6: ③External Sources of Japanese Traditions 7:　〃 8: ④Kojiki and Nihonshoki 〃 9: ⑤Outlying Myth Complexes 10:　〃 11:　〃 12:⑥Japanese Myth in the Modern World 13:　〃 14:　〃 15:　Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布　（初回にまとめて教材のプリントを配布しますので、受講希望者は必ず初回に出席して下さい。）	出席（30%）、期末試験(30%)、提出物(30%)、授業態度(10%)を総合的に評価。全体の 1/3 以上欠席した場合、期末試験の受験資格を失います。授業中の居眠りは欠席と見なします。

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies IV（再） 英語専門講読入門 b　（再）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では短編小説を精読していきます。英語学科に所属している学生としては「なんとなく分かる」で読み進めるのでは不足でしょう。ゆっくりでもいいので英語をきちんと分析しながら読み、文脈などを詳細に理解することや作品を味わうこと、そして言葉の使い方やニュアンスまで読み取れるようになることを授業の目的とします。 そのため、授業参加前に必ず辞書を引いて予習してくること、そして辞書を丹念に読むことは必須です。	1.　授業の概要 2－14.　作品精読 15.　春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
American Fantastic Tales: Terror and the Uncanny from the 1940s to Now. Peter Straub ed. New York: The Library of America, 2009. プリントを配布する。	授業への参加（40%）、小テストなどの課題（60%）

06 年度以降 03 年度以降	Reading Strategies Ⅲ（再） 英語専門講読入門 a　（再）	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では散文を精読していきます。英語学科に所属している学生としては「なんとなく分かる」で読み進めるのでは不足でしょう。ゆっくりでもいいので英語をきちんと分析しながら読み、文脈などを詳細に理解すること、そして言葉の使い方やニュアンスまで読み取れるようになることを授業の目的とします。 そのため、授業参加前に必ず辞書を引いて予習してくること、そして辞書を丹念に読むことは必須です。	1.　授業の概要 2－14.　作品精読 15.　秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
American Fantastic Tales: Terror and the Uncanny from the 1940s to Now. Peter Straub ed. New York: The Library of America, 2009. プリントを配布する。	授業への参加（40%）、小テストなどの課題（60%）

06 年度以降	Writing Strategies	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-term-long class in which students work on sentence-level writing so that they can review what they learned in high school and move on to the introductory academic writing. Accuracy is the main focus; however, students should be provided with some free writing exercises where they can practice fluency at the same time. The objectives of this class are to help students: 1. to write grammatical sentences. 2. to increase their awareness of the common grammatical problems in writing made by EFL students. 3. to introduce self-help strategies so that they can analyze their problems and revise their writing. (ex. Teachers should use an error awareness sheet in order to help their students become aware of what their errors are and to help them decide which errors to work on first.)	Recommended Topics: Verb tenses Sentence structure Modals (necessity, certainty etc.) Conditional Passives Relative Clauses Noun Clauses Free writing/Rush writing
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors.

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The students will be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Overall Objectives: 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences). 2. To teach the various patterns of paragraph organizations. 3. To help students write clear and focused structures. 4. To help students analyze their problems and revise their writing. Students should write at least four 150-word-long paragraphs and have a chance to revise them.	Recommended Topics: What is a paragraph? Planning what they write Topic vs. topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors.

06 年度以降	Paragraph Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The students will be taught how to write a unified, coherent paragraph which is a basic unit of composition common to most forms of academic, business, professional, and general-purpose writing in English. Overall Objectives: 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' paragraph (ex. topic sentence, supporting sentences). 2. To teach the various patterns of paragraph organizations. 3. To help students write clear and focused structures. 4. To help students analyze their problems and revise their writing. Students should write at least four 150-word-long paragraphs and have a chance to revise them.	Recommended Topics: What is a paragraph? Planning what they write Topic vs. topic sentence Writing a topic sentence of a paragraph Supporting topic sentences (ex. giving examples, enumeration, giving a definition, cause and effect, comparison and contrast) Revising what they write Free writing/ Rush writing
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors.

06 年度以降	Basic Essay Writing	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to develop students' writing and thinking abilities in English, progressing from production of shorter to longer academic texts, and from writing about familiar ideas to writing about more complex and academic ones. Overall Objectives: 1. To provide an overview of what constitutes a 'good' basic essay (ex. introduction, a thesis statement, supporting details, conclusion). 2. To teach the various patterns of essay organizations. 3. To help students plan and revise an essay. 4. To help students write clear and focused paragraphs. Students should write at least one 5-paragraph-level essay including an introduction and a conclusion and have a chance to revise it.	Recommended Topics: Brainstorming and narrowing down the topic Writing an introduction Writing cohesive paragraphs Writing a conclusion Narrating (ex. unforgettable event) Describing (ex. a person you admire, a favorite place, a celebration, a process) Explaining (ex. the origin of a name, your learning style) Informing (ex. an event, a famous person) Evaluating (ex. a movie, a story, an event, a person) Summarizing (ex. a movie, a story)
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course, so the decision is left to the discretion of individual instructors.	The decision is left to the discretion of individual instructors. However, not only the final product but also the process of writing should be evaluated.

06 年度以降	Basic Essay Writing（再）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, the students will be introduced to the basic structure of essay writing. This includes the following: proper use of the topic sentence, a supporting body and a conclusion reflecting the topic sentence. After mastering this basic structure, the students should be able to write a well organized essay on a variety of topics.　Note: This course shall focus more on structure and style than on grammar.	The schedule will be provided to the students after judging the ability of the class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Hand outs will be provided by the instructor.	Attendance,　5 essays

06 年度以降	Basic Essay Writing（再）	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is concentrated on essays. Students will observe and learn how to avoid common grammatical errors produced by second language learners of English. As students begin to write assignments, they will learn to: find ideas for their writing and express them in sentences, logically order sentences to form paragraphs, and strengthen their work through review and revision. On-line, video, and other sources including a text may be used in and outside of class.	1. Course Introduction / Assignment 2. Lesson 1 Assignment 3. Continued… 4. Lesson 2 Assignment 5. Continued… 6. Lesson 3 Assignment 7. Continued… 8. Mid-Term Assignment Due 9. Lesson 4 Assignment 10. Continued… 11. Lesson 5 Assignment 12. Continued… 13. Lesson Assignment 14. End-Term Assignment Due 15. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text: To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, participation, homework, and other assignments.

06 年度以降	E-learning I	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 英語学科 1 年 1，2 組と交流文化学科の学生を対象とする．Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着，向上させることを目的とする． [概要] ● 1 週目の説明会で，オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと ● 初回授業後すぐに PC での課題に取りかかることになる．自宅あるいは学内の PC を使用することになるが，学内の PC を利用するための ID とパスワードを常に携帯すること ● 通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし，自主的に学習を進めること ● 4 週目以降は隔週で対面授業（確認テスト）を行うので，指定教室に集合すること ● 計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので，十分注意すること	1. 全体ガイダンス，Criterion（1） 2. Criterion ガイダンス，Criterion（2） 3. 自習，Criterion（3） 4. ALC テスト 第 1 回，Criterion（4） 5. 自習，Criterion（5） 6. ALC テスト 第 2 回，Criterion（6） 7. 自習，Criterion（7） 8. ALC テスト 第 3 回，Criterion（8） 9. 自習，Criterion（9） 10. ALC テスト：中間，Criterion（10） 11. 自習，Criterion（11） 12. ALC テスト 第 4 回，Criterion（12） 13. 自習，Criterion（13） 14. ALC テスト 第 5 回，Criterion（14） 15. 自習
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン学習教材（*ALC NetAcademy 2*，*Criterion*）	（a）テストの得点，（b）課題の提出回数，（c）課題の評定から総合的に評価する．

06 年度以降	E-learning II	担当者	阿部　真

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 英語学科 1 年 1，2 組と交流文化学科の学生を対象とする．Reading Strategies, Paragraph Writing/Basic Essay Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着，向上させることを目的とする． [概要] ● 1 週目および 2 週目の説明会で，オンラインで提出するエッセイ（Criterion）に関する追加課題の説明をするので必ず出席すること ● 通常授業期間中は指定のオンライン教材にアクセスし，自主的に学習を進めること ● 3 週目以降は隔週で対面授業（確認テスト）を行うので，指定教室に集合すること ● 計画的に学習を進めないと単位の取得は難しいので，十分注意すること	1. 全体ガイダンス，Criterion（1） 2. Criterion ガイダンス，Criterion（1）review 3. ALC テスト 第 1 回，Criterion（2） 4. 自習，Criterion（2）review 5. ALC テスト 第 2 回，Criterion（3） 6. 自習，Criterion（3）review 7. ALC テスト 第 3 回，Criterion（4） 8. 自習，Criterion（4）review 9. ALC テスト：中間，Criterion（5） 10. 自習，Criterion（5）review 11. ALC テスト 第 4 回，Criterion（6） 12. 自習，Criterion（6）review 13. ALC テスト 第 5 回，Criterion（7） 14. 自習，Criterion（7）review 15. 自習
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン学習教材（*ALC NetAcademy 2*，*Criterion*）	（a）テストの得点，（b）課題の提出回数，（c）課題の評定から総合的に評価する．

06 年度以降	E-learning Ⅰ	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 英語学科 1 年 Group B と C の学生を対象とする．Reading Strategies, Writing Strategies/Paragraph Writing などの対面授業で教員から習ったスキルを自律学習によって定着，向上させることを目的とする． 【概要】 ・ 1 週目の説明会で、オンライン教材とその使用方法について指示するので指定教室に集合のこと ・ 2 週目は PC 教室で教材に実際にアクセスしてもらうので、大学のネットワークへのログインパスワードが分かるようにしておくこと ・ 通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし，自律学習を進める ・ 4 週目以降隔週に語彙リーディングに関するテストを行うので、指定教室に集合すること ・ テストのない週にはエッセイ（５段落程度の英作文）が課されるので取り組むこと ・ 学習内容は，語彙，リーディング，ライティング	1. 全体説明会 2. PC ガイダンス, Criterion (1) 3. 自習 4. ALC テスト(1)，Criterion (2) 5. 自習 6. ALC テスト(2)，Criterion (3) 7. 自習 8. ALC テスト(3)，Criterion (4) 9. 自習 10. ALC テスト(4) (中間試験), Criterion (5) 11. 自習 12. ALC テスト(5)，Criterion (6) 13. 自習 14. ALC テスト(6)，Criterion (7) 15. 自習 ALC テスト(7) (定期試験)
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材　（ALC と Criterion）	日々のオンライン学習の履歴，７回のテスト、７つのエッセイトピックに基づいて総合的に評価する

06 年度以降	E-learning Ⅱ	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
【目的】 E-learning Ⅰと同じ 【概要】 ・ 1 週目の説明会で、オンラインで提出するエッセイ(Criterion)に関する追加課題の説明をする ・ 通常授業期間中は学内もしくは自宅 PC から指定のオンライン教材にアクセスし，自律学習を進める ・ 隔週にテストを行うので指定教室に集合する ・ 学期末に教室でエッセイテストを行う ・ 学習内容は，語彙，リーディング，ライティング	1. PC ガイダンス 2. テスト(1)，Criterion (1) 3. 自習 4. テスト(2)，Criterion (2) 5. 自習 6. テスト(3)，Criterion (3) 7. 自習 8. ALC テスト(4) (中間試験), Criterion (4) 9. 自習 10. ALC テスト(5)，Criterion (5) 11. 自習 12. ALC テスト(6)，Criterion (6) 13. エッセイテスト 14. Criterion (7) 15. 自習 ALC テスト(7) (定期試験)
テキスト、参考文献	**評価方法**
オンライン教材　（ALC と Criterion）	日々のオンライン学習の履歴，７回のテスト、７つのエッセイトピックおよびエッセイテストに基づいて総合的に評価する

06 年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では，より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。 講義概要 CAL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。	各担当者による。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当者による。	各担当者による。

06 年度以降	Pronunciation Practice	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 コミュニケーションにおいて、相手の言ったことが聞き取れ、また自分の言ったことが相手に通じることはとても重要である。この授業では，より英語らしい音声について理解し、練習を通して英語の聴解能力と発音技能の向上を目指す。 講義概要 CAL 教室において、聞き取りと発音の演習を行う。日本語音声との比較も交えて英語音声の特徴について学び、特に日本語話者の苦手な点について、練習する。 具体的には、個々の音（母音・子音）、音の連結、ストレス、イントネーションなどの学習をし、語句、短文、または長文を使って発話練習をする。	各担当者による。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当者による。	各担当者による。

06 年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。 講義は、以下の内容からなる。 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. １と２の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEIC や TOEFL 等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。	授業予定は各担当教員から説明がなされる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が指示する。	各担当教員が開講時に説明する。

06 年度以降	Introductory Grammar	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
基本文法事項の継続的な学習を通して、英語学科の開設科目を受講するのに最低限求められる文法的知識を高めると共に、誤用の少ない英文を作成できる能力を養うことを目的とする。 講義は、以下の内容からなる。 1. 各担当教員による重要ポイントの解説と問題演習を行う。受講生が間違えやすい文法的事項や語句については、特に詳しく扱う。 2. 文法項目毎に重要な英文を各担当教員が選び、受講生は徹底した音読練習によって指定された英文を暗記する。 3. １と２の方法で重要文法項目を学習した後は、TOEIC や TOEFL 等の総合問題演習を繰り返し行うことで、文法的誤謬に対する感受性を高める練習を積む。	授業予定は各担当教員から説明がなされる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
各担当教員が指示する。	各担当教員が開講時に説明する。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （Japanese Art & Culture） 英語専門講読 a（Japanese Art & Culture）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. Noh and noh masks will also be discussed. Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced. Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.	Exhibitions for study during the spring semester will include one or two from the following: • **東京国立博物館**「特別展 写楽」 2011 年 4 月 5 日～5 月 15 日 • **根津美術館**「KORIN 展 国宝『燕子花図』とメトロポリタン美術館所蔵『八橋図』」 2011 年 4 月 16 日～5 月 15 日 • **三井記念美術館**「特別展 ホノルル美術館所蔵コレクション 葛飾北斎名品展」 2011 年 4 月 16 日～6 月 19 日 Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next. Class 15 will focus on review and assessment.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (25%) and a final essay (35%).

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （Japanese Art & Culture） 英語専門講読 b（Japanese Art & Culture）	担当者	A．ゾーリンジャー

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on the history and culture of Japanese art with emphasis on Edo-period painting. Noh and noh masks will also be discussed. Reading for the course is aimed at preparing students to attend related art exhibitions in the Tokyo metropolitan area during the course of the semester. Drawing from academic articles, museum catalogues, and texts, students will study the profiles and backgrounds of the featured artists; study the artists' characteristic painting styles; study the common themes and iconography of selected paintings; and study the cultural context from which the works of art were produced. Working together in small groups, students will routinely be called upon to summarize their reading, to respond to prepared comprehension questions, and to introduce additional supportive materials (imagery and text) for in-class discussion.	Exhibitions for study during the fall semester will include one or two from the following: • **MOA 美術館**「琳派展 光悦・光琳・乾山・抱一」 2011 年 10 月 14 日～11 月 16 日 • **出光美術館**「日本の美 発見VI 長谷川等伯と狩野派」 2011 年 10 月 29 日～12 月 18 日 • **三井記念美術館**「三井家伝来 能面と能装束 神と幽玄のかたち」 2011 年 11 月 23 日～1 月 28 日 Following a general introduction, classes 1 through 7 will comprise reading and discussion exercises directed toward the first exhibition, with classes 8 through 14 directed toward the next. Class 15 will focus on review and assessment.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Printouts of required reading materials will be provided by the instructor.	Final evaluations will be based on attendance (20%), the completion of homework assignments (20%), and achievement on quizzes (25%) and a final essay (35%).

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Language, Culture and Communication) 英語専門講読 a(Language, Culture and Communication)	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide a lot of reading opportunity to develop different reading skills. The reading skills in focus range from simple factual comprehension to interpretation and reasoning for implications. Materials will focus on the relation between language and culture. The choice of materials is based on the rationale that students today live in an ever globalizing world. Travel is a necessity. There is a great need to interrelate with diverse people of different language and culture backgrounds. The basic step, awareness of the issue, is the final goal, by reading materials on these and related topics.	1. Course orientation: scope of the lesson, class methods, evaluation, etc. 2. The joys of traveling 3. Various types/experiences of culture travelers (1) 4. Various types/experiences of culture travelers (2) 5. Culture interaction as a result of traveling 6. Culture interaction as a result of traveling 7. The culture shock experience: how to deal with it1. 8. The culture shock experience: how to deal with it2. 9. Foreigners in Japan: what they say! 10. Foreigners in Japan: why they say so!! 11. What's the difference? 12. The Japanese uniqueness (1) 13. The Japanese uniqueness (2) 14. Best of both worlds! 15. Summary and evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text and references will be announced on the first day of class.	Student grades will be based on a summative evaluation of class participation and end-of-term test or report. This class is student-centered. Reading and preparation are required.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Language, Culture and Communication) 英語専門講読 b(Language, Culture and Communication)	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of the lessons in the second term continue from those of the first term. This course aims to provide a lot of reading opportunity to develop different reading skills. The reading skills in focus range from simple factual comprehension to interpretation and reasoning for implications. Materials will focus on the relation between language and culture. The choice of materials is based on the rationale that students today live in an ever globalizing world. Travel is a necessity. There is a great need to interrelate with diverse people of different language and culture backgrounds. The basic step, awareness of the issue, is the final goal, by reading materials on these and related topics.	1. Course orientation: scope of the lessons, class methods, evaluation, etc. 2. Culture, language and communication style 3. Sweet interdependence "Amae" 4. Respectfulness and homogeneity 5. Relational identities 6. Levels of politeness: language honorifics 7. Frankness & friendliness in speech 8. Politeness & punctuality 9. Masculinity and Femininity (a culture perspective) 10. Masculinity and language use 11. Femininity and language use 12. Back chanelling 1: types of back chanelling 13. Back chanelling 2: psychological use in face-to-face communication 14. Back chanelling 3: cultural factors 15. Summary and evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Text will be announced on the first day of class.	Student grades will be based on a summative evaluation of class participation and end-of-term test or report. This class is student-centered. Reading & preparation are required.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （Linguistics & Teaching） 英語専門講読 a（Linguistics & Teaching）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language teaching and learning to better understand how and why the English language works, and to broaden their understanding of the various functions of English in the real world. By reading and discussing the text material, including prereading activities to enhance the reader's comprehension, and postreading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor. As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Introduction. Week 2: Chapter 1: Selected sections. Week 3: Chapter 1: Selected sections. Week 4: Chapter 1: Selected sections. Week 5: Chapter 1: Selected sections. Week 6: Chapter 2: Selected sections. Week 7: Chapter 2: Selected sections. Week 8: Chapter 2: Selected sections. Week 9: Chapter 2: Selected sections. Week 10: Chapter 3: Selected sections. Week 11: Chapter 3: Selected sections. Week 12: Chapter 3: Selected sections. Week 13: Chapter 3: Selected sections. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Andrews, L. *Linguistics for L2 Teachers*. (Routledge).	Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （Linguistics & Teaching） 英語専門講読 b（Linguistics & Teaching）	担当者	Ｊ．Ｊ．ダゲン

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students interested in language teaching and learning to better understand how and why the English language works, and to broaden their understanding of the various functions of English in the real world. By reading and discussing the text material, including prereading activities to enhance the reader's comprehension, and postreading activities to expand and elaborate the concepts and to help students to think in ways similar to the ways linguists think, it is hoped that students will come away from this course better prepared to meet the challenges and questions one might encounter in the language classroom. Students will be required to keep reading journals in which they will record their assignments as well as their own observations, opinions, and discussion of the text. These journals will be occasionally collected and checked by the instructor. As participation and attendance are essential for learning from this course, if you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.	Week 1: Introduction. Week 2: Chapter 4: Selected sections. Week 3: Chapter 4: Selected sections. Week 4: Chapter 4: Selected sections. Week 5: Chapter 4: Selected sections. Week 6: Chapter 5: Selected sections. Week 7: Chapter 5: Selected sections. Week 8: Chapter 5: Selected sections. Week 9: Chapter 5: Selected sections. Week 10: Chapter 6: Selected sections. Week 11: Chapter 6: Selected sections. Week 12: Chapter 6: Selected sections. Week 13: Chapter 6: Selected sections. Week 14: Consolidation. Week 15: Review.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Andrews, L. *Linguistics for L2 Teachers*. (Routledge).	Grades are based on in-class participation, assignments, and a final assessment based on the text and lecture.

06年度以降 03年度以降	英語専門講読Ⅰ (Origin and Evolution of Language) 英語専門講読a (Origin and Evolution of Language)	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we seem to know so little about its origins and evolution. In fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding of these questions. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution. A word of advice—This course will require careful reading of a text (*The Seeds of Speech*) and, possibly, a few short articles. Although the text is written with the general reader in mind, it is not an easy read, and, in order to pass the course, you will need to be able to understand, discuss, and write about the ideas covered in the book. Thus I would recommend this course only to students who are genuinely interested in these questions—the origin and evolution of language—and who are willing to devote the time and effort it takes to acquire an understanding of them.	1 Orientation 2-3 How did language begin: A natural curiosity 4-5 What is language for: A peculiar habit 6-7 Why do languages differ so much? The bother at Babel 8-9 Is language an independent skill? Distinct duties 10-11 The evolutionary background: The family tree 12 Test 13-15 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Seeds of Speech: Language origin and evolution. (2000) Jean Aitchison. Cambridge University Press.	Students will be evaluated according to the quality of their contributions to the class discussions, presentations, and a test.

06年度以降 03年度以降	英語専門講読Ⅱ (Origin and Evolution of Language) 英語専門講読b (Origin and Evolution of Language)	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
Language is the most extraordinary ability that humans possess, and yet, curiously, we seem to know so little about its origins and evolution. In fact, the past 30 years have seen fascinating developments in our understanding of these questions. These developments are found in sciences that range across many disciplines including biology, genetics, archeology, anthropology, psychology and, of course, linguistics. This course will survey the many perspectives that have enriched our understanding of language and its origin and evolution. A word of advice—This course will require careful reading of a text (*The Seeds of Speech*) and, possibly, a few short articles. Although the text is written with the general reader in mind, it is not an easy read, and, in order to pass the course, you will need to be able to understand, discuss, and write about the ideas covered in the book. Thus I would recommend this course only to students who are genuinely interested in these questions—the origin and evolution of language—and who are willing to devote the time and effort it takes to acquire an understanding of them.	1 Orientation 2-3 The basic requirements of language: A devious mind 4-5 Inherited ingredients: Broken air 6-7 First steps in language: Small beginnings 8-9 Expansion of language: The tower of speech 10-11 Extra attachments: Time travelling 12 Test 13-15 Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
The Seeds of Speech: Language origin and evolution. (2000) Jean Aitchison. Cambridge University Press.	Students will be evaluated according to the quality of their contributions to the class discussions, presentations, and a test.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （James Joyce） 英語専門講読 a（James Joyce）	担当者	M．フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce. During the spring term, we will focus on Joyce's collection of short stories, *Dubliners* and begin reading his semi-autobiographical novel *A Portrait of the Artist as a Young Man.* Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature. This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: The Sisters Week 3: Araby Week 4: Araby (video) Week 5: Eveline Week 6: Two Gallants Week 7: A Painful Case Week 8: The Dead Week 9: The Dead (video) Week 10: Review, Nora (video) Week 11: Nora (video) Week 12: Introduction to A Portrait of the Artist Week 13: Portrait, Chapter 1 Week 14: Portrait, Chapter 2 Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class. All of Joyce's works are in the public domain, so weekly readings will be sent to students via email.	Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （James Joyce） 英語専門講読 b（James Joyce）	担当者	M．フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the works of the Irish writer, James Joyce. During the fall term, we will finish *A Portrait of the Artist as a Young Man* and read excerpts from Joyce's most important novel, *Ulysses.* We will finish the course with a short introduction to Joyce's final and most enigmatic work, *Finnegans Wake.* Discussions of Joyce's work will focus on his innovative style and technique. More broadly, we will look at Joyce's role in the modernist movement, situating his work and its influence within the canon of English literature. This is a lecture-discussion style class. Students will be expected to complete weekly reading assignments in preparation for discussion. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Portrait, Chapter 3 Week 2: Portrait, Chapters 4 Week 3: Portrait 5 Week 4: Review of Portrait Week 5: Introduction to Ulysses Week 6: Telemachus, Nestor (video) Week 7: Calypso, Hades (video) Week 8: Cyclops, The Wandering Rocks (video) Week 9: The Sirens, Circe (video) Week 10: Ithaca Week 11: Penelope (video) Week 12: Review of Ulysses Week 13: Finnegans Wake Week 14: Finnegans Wake Week 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class. All of Joyce's works are in the public domain, so weekly readings will be sent to students via email.	Grades will be determined based on participation, quizzes, and a final paper.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （Language and the Mind） 英語専門講読 a（Language and the Mind）	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The course text for this class--*Language and the Mind*--sets out to answer a number of key questions concerning the unique ability humans have for communicating--language. * is language peculiar to humans * how do infants acquire language * how are words stored in the mind * how do we assemble words in order to express our thoughts * how do we succeed in learning foreign Languages These questions as well as many others concerning our uniqueness for language will be addressed. The course text will provide a foundation for the in-class lectures, workshops, and projects. Textbook is available on-line at amazon.co.jp 2,337 yen	Week 1: Orientation Week 2: Language and animals Week 3: Language and animals Week 4: Language and animals Week 5: Language and the brain Week 6: Language and the brain Week 7: Language and the grammar gene Week 8: Language and the grammar gene Week 9: Language and the child Week 10: Language and the child Week 11: Language and the disadvantaged Week 12: Language and the disadvantaged Week 13: Summation Week 14: Classroom Projects Week 15: Classroom Projects
テキスト、参考文献	**評価方法**
Language and the Brain (2004) John Field	Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （Language and the Mind） 英語専門講読 b（Language and the Mind）	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
The second semester is a continuation of the first semester. Students considering this class should keep in mind that they will need to read the assigned pages from the text each week, and be prepared to carry on extended discussions. Class time will be divided between reading, lectures, and discussions. Textbook is available on-line at amazon.co.jp 2,337 yen	Week 1: Second Semester Orientation Week 2: Storing words Week 3: Storing words Week 4: Finding words Week 5: Finding words Week 6: The writing process Week 7: The writing process Week 8: The speaking process Week 9: The speaking process Week 10: The reading process Week 11: The reading process Week 12: The listening process Week 13: The listening process Week 14: Classroom Projects Week 15: Classroom Projects
テキスト、参考文献	**評価方法**
Language and the Brain (2004) John Field	Grades are based on class participation, attendance, quizzes and presentations.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （国際機関とミレニアム開発目標) 英語専門講読 a（国際機関とミレニアム開発目標)	担当者	S．ロシート

講義目的、講義概要	授業計画
Aims to improve 1. Reading skills and specialized vocabulary related to international development 2. Knowledge of global issues related to poverty using the MDGs (ミレニアム開発目標) as a base 3. Understanding about what is being done to tackle these problems 4. Critical understanding of problems and approaches. 5. Develop communication skills Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion. Class format Instructor presentation – key issues. Group work – discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.	* Since we will be focusing on current issues – specific contents may change. Class 1 Introduction to course, Overview of international development and current global issues Class 2 What are the MDGs? Class 3 MDG 1 - poverty Class 4 Case studies on poverty and hunger Class 5 Quiz #1 Class 6 MDG 2 - universal education Paper #1 due Class 7 Case study on girl's education Class 8 MDG 3 – gender equity Class 9 Quiz #2 Class 10 MDG 4 & 5 – infant and maternal mortality Class 11 MDG 4 & 5 – connection to other MDGs Paper #2 due Class 12 Case studies on health issues Class 13 Overview of NGO-government collaboration Class 14 Quiz # 3 Class 15 Wrap up & Final Activity
テキスト、参考文献	**評価方法**
Online readings from OXFAM and 2015 Anyone without internet access should tell the instructor in class1	Active class participation, mid-term quiz, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （国際機関とミレニアム開発目標) 英語専門講読 b（国際機関とミレニアム開発目標)	担当者	S．ロシート

講義目的、講義概要	授業計画
Aims to improve 1. Reading skills and specialized vocabulary related to international development 2. Knowledge of global issues related to poverty using the MDGs (ミレニアム開発目標) as a base 3. Understanding about what is being done to tackle these problems 4. Critical understanding of problems and approaches. 5. Develop communication skills Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion. Class format Instructor presentation – key issues. Group work – discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.	* Since we will be focusing on current issues – specific contents may change. Class 1 Introduction to course, Overview of international development and current global issues Class 2 MDG 5 & 6 – maternal health and infectious diseases Class 3 AIDS & reproductive health issues Class 4 Neglected diseases Class 5 Quiz #1 Class 6 Class 8 MDG 7 – environmental sustainability overview Paper #1 due Class 7 Climate change and Carbon footprint Class 8 Water & sanitation issues Class 9 housing issues Class 10 Quiz #2 Class 11 MDG 8 – collaboration & international aid Class 12 Aid policy and foreign policy Paper #2 due Class 13 Collaboration and what the different sectors are doing Class 14 Quiz # 3 Class 15 Wrap up & Final Activity
テキスト、参考文献	**評価方法**
Online readings from OXFAM and 2015 Anyone without internet access should tell the instructor in class1	Active class participation, mid-term quiz, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （Pragmatics I） 英語専門講読 a（Pragmatics I）	担当者	T．ヒル

講義目的、講義概要	授業計画
Pragmatics is the study of meaning that is derived from the context. To understand the pragmatic meaning of an utterance it is necessary to take into account not just linguistic knowledge but also knowledge of the physical and social world. For example, when someone says 'It's hot in here!' they might mean 'Please open the window!' or 'Let's move to another room!' or perhaps 'You're wasting electricity!' depending on the context. A language user's pragmatic competence is their ability to understand what speakers actually mean, and their ability to produce, in each context, pragmatically appropriate utterances. In this course students will be expected to read the textbook, complete handouts that will be provided, and engage in class discussion on a number of pragmatic issues. One of these issues will be how to develop pragmatic competence in a second language, and how pragmatics can best be taught in the second language classroom.	1. Introduction 2. What is Pragmatics I 3. What is Pragmatics II 4. What is Pragmatics III 5. Entailment I 6. Entailment II 7. Entailment III 8. Presupposition I 9. Presupposition II 10. Presupposition III 11. The Co-operative principle I 12. The Co-operative principle II 13. The Co-operative principle III 14. Review I 15. Review II
テキスト、参考文献	**評価方法**
Pragmatics Routledge Language Workbooks Jean Stilwell Peccei	Evaluation will be based on attendance, class participation, and the submission of a number of written papers.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （Pragmatics II） 英語専門講読 b（Pragmatics II）	担当者	T．ヒル

講義目的、講義概要	授業計画
Pragmatics is the study of meaning that is derived from the context. To understand the pragmatic meaning of an utterance it is necessary to take into account not just linguistic knowledge but also knowledge of the physical and social world. For example, when someone says 'It's hot in here!' they might mean 'Please open the window!' or 'Let's move to another room!' or perhaps 'You're wasting electricity!' depending on the context. A language user's pragmatic competence is their ability to understand what speakers actually mean, and their ability to produce, in each context, pragmatically appropriate utterances. In this course students will be expected to read the textbook, complete handouts that will be provided, and engage in class discussion on a number of pragmatic issues. One of these issues will be how to develop pragmatic competence in a second language, and how pragmatics can best be taught in the second language classroom.	1. Review 2. Implicature I 3. Implicature II 4. Implicature III 5. Speech acts I 6. Speech acts II 7. Speech acts III 8. Politeness I 9. Politeness II 10. Politeness III 11. Making sense I 12. Making sense II 13. Pragmatics project I 14. Pragmatics project II 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Pragmatics Routledge Language Workbooks Jean Stilwell Peccei	Evaluation will be based on attendance, class participation, and the submission of a number of written papers.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（音声学概論と日本語の音声） 英語専門講読 a（音声学概論と日本語の音声）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 １年生の「英語音声学」で学んだことを基に、音声の一般的特徴と日本語音声について，今度は英語で読んでみる。 最初に英語例を中心に解説した音声学概論をおさらいし，次に，日本語の音声について，英語話者の視点から書かれた解説を読む。 普段無意識に話したり聞いたりしている日本語について，英語の視点も交えながら，客観的に考える経験をする。 ある程度まとまった分量を継続して読み進めることにより，英文の読解力と分析的な視点を養う。 講義概要 各学生は毎回の指定範囲の予習が前提となる。英文の構造とその内容を正確に理解するよう精読の練習をする。内容について，教員が補足・解説をし、質疑応答・議論を行う。 メッセージ テキストは Duo に若干数を注文しておく。自分でオンライン購入してもよい。 内容と文体に慣れるまで，また読む習慣がつくまで，最初は少し大変かもしれない。しかし，そこが我慢のしどころである。例年の受講者を見ていると，読み課題（質・量）には少しずつ慣れていくはずで、こつこつと努力を重ねることで、年度末には必ず読解力向上が実感できると思われる。 テキストは授業で初めて使用するもので，若干微細(ｵﾀｸ的)であり，未知の部分もあるが，進度や理解をチェックしながら進めて行くので，一緒に読んでみませんか。	1. Introduction, Ch 1.1 - 1.4 2. Ch 1.7 – 1.8 3. Ch 1.9 4. Ch 1.10 – 1.11 5. Ch 1.12, Exercises 6. Ch 2.1 – 2.5 7. Ch 2.6 – 2.7 8. Ch 2.11 9. Ch 2.12, Exercises 10. Ch 3.2 11. Ch 3.3 12. Ch 3 Exercises 13. Ch 4.1 – 4.3 14. Ch 4.4 – 4.6 15. Review exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Timothy J. Vance. 2008. *The Sounds of Japanese*. Cambridge. (ISBN: 978-0-521-61754-3) その他　配布資料	授業参加（準備・参加）、小テスト、発表、試験　等の総合評価による。 各項で最低限をクリアすること。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（音声知覚のしくみと発達入門） 英語専門講読 b（音声知覚のしくみと発達入門）	担当者	青柳　真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 春学期に引き続き読み進め，さらなる読解力を養う。 講義概要 春学期に同じ	1. Ch 5.1. 2. Ch 5.2 – 5.3 3. Ch 5.4 – 5.6 4. Ch 5 Exercises 5. Review questions 6. Ch 6.1 – 6.2 7. Ch 6.3 – 6.4 (1) 8. Ch 6.4 (2) 9. Ch 6.6 10. Ch 6 Exercises 11. Ch 7.1 – 7.2 (1) 12. Ch 7.2 (2) 13. Ch 8.1 (1) 14. Ch 8.2 (2) 15. Review Exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
Timothy J. Vance. 2008. *The Sounds of Japanese*. Cambridge. (ISBN: 978-0-521-61754-3) その他　配布資料	授業参加（準備・参加）、小テスト、発表、試験等の総合評価による。 各項で最低限をクリアすること。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 a(Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English.* You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Reflecting on your own learning 3. Language teaching methodology 1 4. Language teaching methodology 2 5. Teaching listening 1 6. Teaching listening 2 7. Teaching speaking 1 8. Teaching speaking 2 9. Teaching reading 1 10. Teaching reading 2 11. Teaching writing 1 12. Teaching writing 2 13. Discussion 14. Discussion 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムとハンドアウト使用 (cf. Practical English Language Teaching, D. Nunan, McGraw Hill)	oral presentations, reading assignments and summary, self evaluation

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Exploring Language Teaching) 英語専門講読 b(Exploring Language Teaching)	担当者	浅岡　千利世

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, you will learn practical ideas and techniques which you can use to make your own learning and teaching more effective and enjoyable for yourselves. *All the coursework will be conducted in English*. You will be encouraged to actively participate in the class activities. This course is recommended for students who are in the initial teacher training course.	1. Introduction 2. Teaching pronunciation 1 3. Teaching pronunciation 2 4. Teaching grammar 1 5. Teaching grammar 2 6. Teaching vocabulary 1 7. Teaching vocabulary 2 8. Content-based instruction 1 9. Content-based instruction 2 10. Learning styles and strategies 11. Classroom-based assessment 1 12. Classroom-based assessment 2 13. Discussion 14. Discussion 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義支援システムとハンドアウト使用 (cf. Practical English Language Teaching, D. Nunan, McGraw Hill)	oral presentations, reading assignments and summary, self evaluation

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (アメリカのポピュラー・ナショナリズム：理論編) 英語専門講読 a(アメリカのポピュラー・ナショナリズム：理論編)	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
ポピュラー・カルチャー研究として「アメリカ合衆国」なるものを分析することが、このクラスの目的です。 「外国語」と呼ばれるものを学ぶ私たちに強く見られる傾向の１つは、言語や文化や人間集団に国名を付けて理解・発話することです。「～語」「～文化」「～人」の「～」の部分に国名を入れてコミュニケーションする場合がそうです。また、より一般的には、国単位で世界を理解することが自然なことではなく、政治的習慣であることに気づかない場合もあります。 このクラスでは、「アメリカ合衆国」という国家を分析対象として取り上げ、国家という単位を「領土」としてだけでなく「意味」としても存続させている日常的でポピュラーな仕掛けを考察することを目指します。その手段として、春学期には、ナショナリズムの分析のための理論を学び、秋学期に学ぶ具体例の分析に備えます。 また、身近なナショナリズムの作用を感じていただくために、神社見学ツアーも予定しています。 グループ研究・発表が中心のため、そのような授業形式に興味のある学生にお勧めのクラスと言えます。 なお、テキストは初回の授業で共同購入手続きをすることも可能です。	1. Overview of the course; group formation 2. American nationalism: phenomenon 1 3. American nationalism: phenomenon 2 4. The problem (pp.1-6) 5. What is the nation? (pp.7-26) 6. The nation as social relation (pp.27-42) 7. Motherland, fatherland, and homeland (pp.43-56) 8. Field work: a shrine visit 9. The nation in history (pp.57-79) 10. Whose god is mightier? (pp.80-97) 11. Human Divisiveness (pp.98-115) 12. Conclusion (pp.116-120); task TBA 13. Consultation 14. Presentation 15. Feedback (履修人数によって若干の変更の可能性もあります)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Steven Grosby, *Nationalism: A Very Short Introduction* (Oxford University Press).	①出席状況 40%. ②授業への参加・貢献度 40%. ③学期末研究発表 20%.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (アメリカのポピュラー・ナショナリズム：応用編) 英語専門講読 b(アメリカのポピュラー・ナショナリズム：応用編)	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
映像教材や音楽ＣＤ（ロックンロール教材)、アメリカの基本文書などを使いながら、春学期に学んだナショナリズム理論に基づいて、「アメリカ国家」という共同体意識を存続させているポピュラーな戦略を読み解いていきます。 具体的には以下のことを行う予定です。 ①アメリカ国家の代表的な基本文書やシンボル、そしてそれらに関する簡単な参考文献をそれぞれ１～2 点読みます。国家などの歌は一緒に歌いますが、その目的は「テクスト」に馴染むために歌います。また、読んだ文章の一部を暗唱していただくこともあります。 ②これらの文書に表象されるアメリカの国家像や理念を批判的に分析することで、言語と文化と国家の政治的関係を学びます。 ③グループ活動を中心とし、発表形式も取り入れます。 ④講義とディスカッションは日本語で、研究発表は英語で行なっていただきます。	1. Overview of the course; group formation 2. America Rock 1-2 3. America Rock 3-4 4. America Rock 5-6 5. America Rock 7-8 6. America Rock 9-10 7. Mid-term presentation 8. (a) “The Star-Spangled Banner”; (b) “The Declaration of Independence” 9. (a) “The U.S. Constitution–Preamble”; (b) “The Emancipation Proclamation” 10. (a) “The Gettysburg Address”; (b) “The Pledge of Allegiance to the Flag” 11. (a) “The Great Seal of the U.S.”; (b) “God Bless the USA” 12. Consultation 13. Final presentation 14. Feedback 1 15. Feedback 2 (履修人数によって若干の変更の可能性もあります)
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。アメリカの子供向けビデオ教材や音楽 CD なども使用します。	①出席状況 40%. ②授業への参加・貢献度 30%. ③中間発表 10%、学期末研究発表 20%.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （現代における国際関係の展開） 英語専門講読 a（現代における国際関係の展開）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
本授業では、現代における国際関係の展開を時系列で追っていきます。第一次世界大戦の勃発から、冷戦後の世界まで、国際政治がどのように発展し、形成されてきたかを明らかにしていきます。 授業は、テキストに基づいて行い、受講者によるプレゼンテーションとその後のディスカッションを中心に進めます。受講者の人数によっては、プレゼンテーションをグループで行う可能性もあります。また、テキストの一部を翻訳して、受講者全員に適宜提出してもらいます。 なお、本授業は継続性が高いため、基本的には春学期と秋学期両方の履修を求めます。	第 1 回：オリエンテーション、プレゼンテーションの担当者を決定 第 2 回～第 14 回：受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションおよび質疑応答 第 15 回：まとめ テキスト： 有賀貞　『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年） 英文テキストは、国際関係の歴史を詳細に分析・解説したものです。受講者には、テキストに沿って以下の章からプレゼンテーションを担当してもらいます。 The Second Phase of World War I The World in Postwar Confusion The Return of Relative Stability The Collapse of the International Order The Beginning of War in East Asia and in Europe World War II after Pearl Harbor
テキスト、参考文献	**評価方法**
有賀貞　『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）	出席率、プレゼン内容、翻訳内容、ディスカッションへの参加状況を基に評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （現代における国際関係の展開） 英語専門講読 b（現代における国際関係の展開）	担当者	伊藤　兵馬

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および概要は、上記の英語専門講読 I と同様です。春学期に扱った年代以降の国際関係史を検討していきます。 授業は、テキストに基づいて行い、受講者によるプレゼンテーションとその後のディスカッションを中心に進めます。受講者の人数によっては、プレゼンテーションをグループで行う可能性もあります。また、テキストの一部を翻訳して、受講者全員に適宜提出してもらいます。 なお、本授業は継続性が高いため、基本的には春学期と秋学期両方の履修を求めます。	第 1 回：オリエンテーション、プレゼンテーションの担当者を決定 第 2 回～第 14 回：受講者によるプレゼンテーション、ディスカッションおよび質疑応答 第 15 回：まとめ テキスト： 有賀貞　『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年） 英文テキストは、国際関係の歴史を詳細に分析・解説したものです。受講者には、テキストに沿って以下の章からプレゼンテーションを担当してもらいます。 Turbulence in East Asia The Post-Stalin USSR and East-West Relations The Retreat of Western European Imperialism Vietnam and the Reorientation of American Foreign Policy The End of Cold War International Relations in the Post-Cold War Era
テキスト、参考文献	**評価方法**
有賀貞　『An International History of the Modern World 近現代世界の国際関係史』（研究社、2003 年）	出席率、プレゼン内容、翻訳内容、ディスカッションへの参加状況を基に評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I（小さき人々の歴史 －変化する英国社会を読むー） 英語専門講読 a（小さき人々の歴史 －変化する英国社会を読むー）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
2004 年の英国のベスト・セラーのひとつ、Andrea Levy の *Small Island*（全 439 頁）を読みます。長編小説を読むことで英語読解力を養うとともに、そこに描かれた変わりゆく英国の姿について学び、また歴史とは何かについても考察していきます。 読者が出会うのは、第二次世界大戦をきっかけとして、大きく変わっていく二つの「小さな島」、英国とジャマイカでの、普通の人々の激動の人生です。物語は、人種も、性別も、階級も異なる四人の主要登場人物の一人称の語りを交差させ、時間と場所を行き来しながら進行します。 四人を簡単に紹介しましょう。ホーテンス(Hortense)は薄い茶色の肌をしたジャマイカ生まれの女性。彼女の夫になるギルバード(Gilbert)も、ジャマイカ生まれの黒人です。残りの二人は英国白人で、クイニー(Queenie)は田舎の農場の娘。彼女が結婚するバーナード(Bernard)はロンドン生まれの銀行員です。第二次世界大戦と戦後のカリブ海からの移民という大きな歴史のうねりと、個々人のよりよき人生への小さな夢が、大西洋を隔てた場所に異なる背景をもって生まれた四人の人生をロンドンで交差させます。しかし、夢は願ったかたちでは実現しません。 （下段に続く）	1. Introduction –小さき人々の戦争と記憶の小説 2. Prologue—I thought I'd been to Africa. 3. <1948> chap1+2—幻滅のロンドン(1) 4. <Before>chap3-5—Hortense のジャマイカ、成長と失恋 5. chap6-8—Gilbert と Hortense 6. <1948>chap9&10—幻滅のロンドン(2) 7. <Before> chap11-14—英国空軍軍人 Gilbert の夢と失望 8. 調整 9. chap15-17—Gilbert と Queenie の出会い、差別と友情 10. chap18-19—Gilbert の再出発 11. <1948> chap20-22—それぞれの 1948。 Hortense, Gilbert &Queenie 12. <Before> chap23-24—Queenie の幼年時代と青春 13. chap25-27—Queenie と Bernard 出会い、結婚、すれ違う二人、そして戦争へ 14. chap28-29—戦場へと去る Berard と Queenie の恋 15. まとめの講義+レポート指導 （一回の授業では 30 頁ほどを読みます。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Andrea Levy, *Small Island* ＋ ハンドアウト テキストは版を統一するために、講師が一括して Amazon でとりよせ、第一回目の授業で購入していただきます。	授業への参加（単なる出席ではない）、小テスト、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II（小さき人々の歴史 －変化する英国社会を読むー） 英語専門講読 b（小さき人々の歴史 －変化する英国社会を読むー）	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
（上段の続き） 四人は歴史に翻弄され、自分自身の限界とともに懸命に人生を生きていくことになります。夢と挫折、苦い現実の受容と新たな希望、ままならぬ恋とその後の決断が、四つの異なる声で語られ、読者は登場人物に共感したり、反発したりしながら、物語世界に引き込まれていきます。 歴史とは何でしょう。年表に羅列されるいわゆる歴史上の出来事をつなげたものでしょうか。伝記にとりあげられうような人々の人生を総合したものでしょうか。*Small Island* を読むと、そうではなくて、生きられた人生の数だけ歴史の貌があるのだと実感することでしょう。 作者は両親が 1948 年に英国に移民してきた、ロンドン生まれのジャマイカ系英国人女性。移民第二世代のブラック・ブリティッシュの作家が描く、「小さき人々の歴史」を読みながら、英国社会の変化についても考察します。 授業は原則として、プレゼンテーションを中心に進めます。テキストを深く理解し、優れたプレゼンテーションを行うためには、本文の精読のみならず、歴史・文化・社会についての様々なリサーチも必要ですので、文献検索能力も身につけていただくつもりです。また数回の授業をのぞいて、授業時間の 50%ほどは英語で行ないます。	1. レポートへのコメント 2. <1948>chap30-32–日常の闘い：現実を知る Gilbert と強気の新参者 Hortense 3. chap33-34–三日目のロンドン：Hortense&数年ぶりのロンドン：行方不明の Bernard の帰還 4. <Before>chap35-38–Bernard の戦争 5. chap39-42–Bernard の戦争 6. chap43-45–Bernard の戦争 7. <1948> chap46-48–癒えぬ戦争の傷 8. 調整 9. chap49-51–Hortense の挫折 10. chap52-53–衝撃の事実：Queenie の恋の結果 11. chap54-55–誤解・告白・理解 12. chap56-57–誤解・告白・理解 13. chap58-59–それぞれの出発 14. 講義 Changing Britannia (1) 15. 講義 Changing Britannia (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期と同じ。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（モダニズムの巨匠たちに挑む） 英語専門講読 a（モダニズムの巨匠たちに挑む）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、２０世紀初頭に起った芸術運動、「モダニズム」の詩部門の巨匠たちの作品を読むことを主眼とする。 取り扱う詩人たちは、Ezra Pound、T. S. Eliot、Wallace Stevens、William Carlos Williams、そして西脇順三郎である。ひとくちに「モダニズム」といっても、上記５人の詩人たちは、共同して何らかの運動を作り上げたわけではないし、共通点は、２０世紀初頭、ロンドンかアメリカ東海岸にいた、というくらいだ。だが、大西洋をはさんで同じ時代の空気を吸い、作品を書いていた詩人たち、５人すべてに、とは言わないまでも、なんらかの共通する要素が、複数あるに違いない。 そこでこの授業では、まずは、「モダニズム」云々よりも、中高の国語の授業ですら飛ばされがちな「詩」を読むこと、ここに第一の力点をおく。そして、上記の詩人たちの作品を精読する。キーワードとして、“Traditionalist”、“Order”、“Synchronicity”、“Expatriate”、“Myth”などを挙げておく。春学期は、１９２０年代にロンドンに在住していた Pound、Eliot そして西脇を読む。 なお、「英米の詩（春学期）」と内容が重なる場合があることを、あらかじめ断っておく。	1. Introduction 2~6. Imagist short poems, “The Jewel-Stairs’ Grievance”、”Hugh Selwyn Mauberley”、 “Canto I” 7~11. “Preludes”、 “The Love Song of J. Alfred Prufrock”、 “Gerontion” 12~15 「天気」、「雨」、「太陽」、「眼」、「皿」、「しゅんらん」、 “January in Kyoto”
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは検討中。参考文献として、富山英俊編『アメリカン・モダニズム』（せりか書房）を挙げておく。	レポート。詳細は授業で伝える。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（モダニズムの巨匠たちに挑む） 英語専門講読 b（モダニズムの巨匠たちに挑む）	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、モダニズムの巨匠たちの詩作品を読む。テーマや目的などは、春学期と変わらないが、春学期に読んできたモダニズムの詩学が、モダニズム以降の詩人にどのように受け継がれてきたか、それも見てみたい。 秋学期は、Wallace Stevens、William Carlos Williams を読む予定であるが、途中で、１０月に来日に合わせて Gary Snyder も読む予定。	1. 春学期のレポート返却 2~6. “Anecdote of a Jar”、 “The Idea of Order at Key West”、 “Of Modern Poetry”、 “The Emperor of Ice-Cream”、Sunday Morning” 7~11. “Piute Creek”、 “Riprap”、 “For the Children”、 “The Snow on Saddle Mountain”、 “The Hump-Backed Flute Player” 12~15. “The Red Wheelbarrow”、“Nantucket”、“Poem”、 “Between Walls”、 “This Is Just to Say”、 “The Term”、 “Classic Scene”、 “Paterson, Preface”
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期におなじ。	春学期におなじ。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （ディズニー・アニメの歴史をたどる） 英語専門講読 a（ディズニー・アニメの歴史をたどる）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じ、『白雪姫』から『ジャングル・ブック』まで、Walt Disney 存命中の長編アニメーション映画を中心に、Disney 映画の軌跡をたどります。Disney 映画と、それを核として広がる壮大な Disney 文化の世界は、いまやアメリカの（そして日本を含めた世界の）ポップカルチャーを語る上では避けて通ることのできないものです。受講者のみなさんには、テキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。	1. 春学期コース・オリエンテーション 2. Launching the Animated Feature 3. Seven Dwarfs for Snow White 4. New Tools 1 5. New Tools 2 6. Disney's Folly 7. Pinocchio 8. Fantasia 9. Bambi 10. Economizing: Dumbo 11. The New Studio, The Strike, and the War 1 12. The New Studio, The Strike, and the War 2 13.Cinderella Restores the Glory 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas, Bob, *Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast*, Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。	出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （ディズニー・アニメの歴史をたどる） 英語専門講読 b（ディズニー・アニメの歴史をたどる）	担当者	大木　理恵子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期から引き続き、Walt Disney 研究の第一人者 Bob Thomas の著作を通じて、Disney 映画の軌跡をたどります。 秋学期は、Walt の存命中の作品だけでなく、Walt 亡き後のスタジオの作品（『リトル・マーメイド』まで）も扱います。受講者の皆さんには、引き続きテキストの内容を理解した上で、時代背景や、社会情勢を含め、20 世紀のアメリカ文化に広く目を向け、あらゆる文化研究の礎となる歴史観を築いて欲しいと考えています。 春学期と同じく、授業は、担当者によるプレゼンテーションを中心として進めます。担当者には、事前に必ずレジュメを用意すること、また、適宜プラスアルファの資料を用意し、パワーポイントなどのプレゼンテーションのツールを利用するなどして、効果的な発表を計画・実施することが求められます。 全員予習必須。なお、授業で扱われる作品は、授業外の時間を利用し、各自（skeptical な観かたで）視聴してから出席すること。入手困難なものについては、用意した資料を、授業内に視聴することもあります。	1. The Anthology Features 2. Alice, Peter, Lady and the Tramp 1 (Alice) 3. Alice, Peter, Lady and the Tramp 2 (Peter Pan) 4. Alice, Peter, Lady and the Tramp 3 (L&T) 5. Sleeping Beauty Awakens 6. Walt Disney's Last Films 7. Carrying on the Tradition 8. The Black Cauldron 9. A New Regime and a Rebirth 10. A New Regime and a Rebirth 11. Who Framed Roger Rabbit 12. Triumph: The Little Mermaid 13. The Rescuers Down Under 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Thomas, Bob, *Disney's Art of Animation: From Mickey Mouse to Beauty and the Beast*, Hyperion, New York, 1991. 他の参考文献等については、授業中に随時紹介。	出席、授業への貢献度、プレゼンテーションの内容、学期末に提出するペーパーなどから、総合的に評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （アニメ批評） 英語専門講読 a（アニメ批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 映画、とりわけアニメを諸哲学的立場から批評した論文を精読する。論文の精読を通して映像テクストの表象分析とはいかなるものであるかを考察する。講義においては以下の３点が探求のテーマとなる。１）理論とは何か、２）批評とは何か、３）表象（のレトリック）研究とは何か。これら３点のテーマについて、映画の綿密なテクスト分析を実践し、この映画の可能性に含まれた文化政治的意義を探っていく。 **講義概要** 映像という表象手段によってコミュニケートされる映画をテクストとして、レトリック理論の基礎としての諸哲学を学んでいく。映像という視覚レトリックの手段が哲学を織り込んでいく過程を、映画作品とその批評を綿密に読み込み、さらに理論的な背景を加味しながら理解していく。この講座の目的はあくまでもレトリック理論の探求であり、映画を**エンターテイメントとして楽しむことではない**。如何にして理論的な「読み」の重要性を映画というテクストを通じて見いだすことができるか。これが、学生が講義と活発な討論で探求する主題となる。したがって、テクストの新たな章に入る前には、その章を予習しておくだけでなく、題材となる映画も予め必ず各自で観ておくこと。これらの時間を要する予習への心構えがない学生は受講を遠慮すること。	1. Course Orientation 2. Just a Ghost in the Shell? 3. Just a Ghost in the Shell? 4. I am Tetsuo 5. I am Tetsuo 6. Nothing that Happens is Ever Forgotten 7. Nothing that Happens is Ever Forgotten 8. Why Nice Princesses don't Always Finish Last 9. Why Nice Princesses don't Always Finish Last 10. Just War is No Gouf 11. Just War is No Gouf 12. The Search for Vengeance 13. The Search for Vengeance 14. Wrap up 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Anime and Philosophy: Wide Eyed Wonder. ed. by Josef Steiff and Tristan D. Tamplin. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2010)他	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価する。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （アニメ批評） 英語専門講読 b（アニメ批評）	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
同上	1. Course Orientation 2. *Astro Boy* and the Atomic Age 3. *Astro Boy* and the Atomic Age 4. Grave of the Child Hero 5. Grave of the Child Hero 6. Cyborg Songs for an Existential Crisis 7. Cyborg Songs for an Existential Crisis 8. Cyborg Goddess 9. Cyborg Goddess 10. It's the End of the Species as We Know it, and I Feel Anxious 11. It's the End of the Species as We Know it, and I Feel Anxious 12. Sex and the Single Cyborg (From Robot Ghosts) 13. Sex and the Single Cyborg (From Robot Ghosts) 14. Wrap up 15. Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Anime and Philosophy: Wide Eyed Wonder. ed. by Josef Steiff and Tristan D. Tamplin. (Chicago; La Salle, Il: Open Court, 2010) 他	定期試験又はレポート、授業への参加度（発表・発言等）、出席状況（一定以上の欠席は不合格、遅刻２回は欠席１回に相当）等から総合的に評価する。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（ＹＡ小説と北アイルランド紛争） 英語専門講読 a（ＹＡ小説と北アイルランド紛争）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的（I と II で共通） 　私たちは小説や映画などのフィクションを通じて現実の問題について学ぶことがよくあります。しかしフィクションは現実をそのまま映し出しているわけではなく、登場人物の視点を通して、ある一定の角度から現実を切り取って見せている、と考えられます。 　本講義では、この点を意識しつつ、Siobhan Dowd の *Bog Child* という YA 小説（若い世代に向けて書かれた小説）を読みます。小説の主人公は大学受験を控えた少年ファーガス。北アイルランドで生まれ育った彼は、次第にいわゆる北アイルランド紛争に巻き込まれていきます。 　北アイルランド紛争と言えば、映画や小説で何度も描かれていますが、この小説はどのような点が新しいと言えるでしょうか？　またその新しさはどう評価できるでしょうか？　こうした問いについて、小説を読み進めながら、みんなで考えていきたいと思います。 講義概要（I と II で共通） 　毎回10～15ページ程度、1 年間かけて読み進めます。（下へ続く）	1. イントロダクション （全体の説明をして担当者を決めますので、受講を希望する人はかならず出席してください。） 2. One（以下、章番号） 3. Two 4. Three, Four 5. Five, Six 6. Seven 7. Eight 8. Nine, Ten 9. Eleven 10. Twelve, Thirteen, Fourteen 11. Fifteen, Sixteen 12. Seventeen, Eighteen 13. Nineteen, Twenty 14. Twenty-One, Twenty-Two 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Siobhan Dowd, *Bog Child* (2008) ＊ＤＵＯで購入すること	授業への参加、映画レビュー、定期試験を総合評価 （ただし４回を越えて欠席した場合は評価対象としない）

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（ＹＡ小説と北アイルランド紛争） 英語専門講読 b（ＹＡ小説と北アイルランド紛争）	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
（上から続く） 英語はそれほど難しくありませんが、口語が多く、日本とは異なる北アイルランドの風景描写も豊富なので、読む側は辞書を引いて丹念に意味を押さえ、イメージを視覚化することが求められます。 　毎回の授業開始時に、内容確認の小テストをします。その後、毎回の範囲についてグループ発表をしてもらいます。（グループ発表のやりかたは授業内で説明します。） 　また、授業とは別に、北アイルランド紛争を扱った映画を春学期・秋学期ともに観て、その映画評も提出してもらいます。	1. イントロダクション （担当者を決めるので、かならず出席のこと） 2. Twenty-Three, -Four, -Five 3. Twenty-Six, -Seven 4. Twenty-Eight, -Nine 5. Thirty, Thirty-One 6. Thirty-Two, -Three 7. Thirty-Four, -Five 8. Thirty-Six 9. Thirty-Seven, -Eight 10. Thirty-Nine, Forty, Forty-One 11. Forty-Two, -Three 12. Forty-Four 13. Forty-Five, -Six, -Seven 14. まとめ１ 15. まとめ２
テキスト、参考文献	**評価方法**
Siobhan Dowd, *Bog Child* (2008) ＊ＤＵＯで購入すること	授業への参加、映画レビュー、定期試験を総合評価 （ただし４回を越えて欠席した場合は評価対象としない）

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む) 英語専門講読 a(アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
『怒りの葡萄』(*The Grapes of Wrath*, 1939)、『エデンの東』(*The East of Eden,* 1952)の著者であり、1962 年にノーベル文学賞を受賞した John Steinbeck(1902-1968)は、20 世紀のアメリカ文学を語る際に忘れてはならない作家と言えよう。彼は上掲の二大作品の他、多様なジャンルにわたる数多くの作品を創作したが、この授業では、短編集『長い谷間』(*The Long Valley*, 1938)に収められた三部作"The Red Pony"を中心に彼の作品を扱ってゆく。 毎回作品を精読し、ストーリー展開を把握しながら、作品のテーマ、個々の文章表現や技巧、作家の視点、作品の時代背景等にも注意を払って、作品から多くのものを読み取ってゆきたい。特に、作品のテーマや文章表現についてはグループワークを通して意見交換を行なってゆく。更に、スタインベック自らが脚本を手掛けた映画『赤い子馬』(1949)と作品を比較したり、作品についての主要な評論も幾つか紹介し、読解を深めてゆきたい。 尚、授業には予習をして臨んで下さい。	1: Introduction: 作家 John Steinbeck と代表作品を紹介 2: 小説を読む楽しみについて 3: 1. "The Gift " 読解 4: 同上 5: 同上 6: 同上 7: 同上 8: 2. "The Great Mountains"読解 9: 同上 10: 同上 11: 同上 12: 批評を読む 13: 同上 14: 同上 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：John Steinbeck, *The Red Pony* (南雲堂) 参考文献：①John Steinbeck, *The Long Valley* (Penguin Classics) ／ ②スタインベック『スタインベック短編集』(新潮文庫)	出席（30%)、提出物（20%)、授業中の発表（20%)、期末レポート（30%）を総合的に評価。全体の 2/3 以上の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ(アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む) 英語専門講読 b(アメリカ文学:John Steinbeck の文学を読む)	担当者	金谷　優子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、The Red Pony を読み、更に作品についての評論も読んでゆく。また、作品と映画とを比較検討してゆく。 時間が許せば、スタインベックの他の作品も適宜紹介してゆきたい。 尚、授業には予習をして臨んで下さい。	1: 前期レポート返却とグループ発表 2: レポートについての教室発表 3: 3. "The Promise" 読解 4: 同上 5: 同上 6: 同上 7: "The Leader of the People" 読解 8: 同上 9: 同上 10: 同上 11: 映画『赤い子馬』を観る 12: 批評を読む 13: 同上 14: 同上 15: Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：John Steinbeck, *The Red Pony* (南雲堂) 参考文献：①John Steinbeck, *The Long Valley* (Penguin Classics) ／ ②スタインベック『スタインベック短編集』(新潮文庫)	出席（30%)、提出物（20%)、授業中の発表（20%)、期末レポート（30%）を総合的に評価。全体の 2/3 以上の出席が不可欠。授業中の居眠りは欠席とみなします。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係） 英語専門講読 a（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的は３つあります。第１に、国際関係論や地域研究（area studies）にとって不可欠な概念や表現を英語で理解すること、第２に、アジア太平洋地域の国際関係、政治、経済の基本的知識、および各国・地域の現状分析に必要な視点や手法を習得すること、第３に、効果的なプレゼンテーションのスキルを身につけ、磨くことです。 テキストに基づき各国の状況や同地域に横たわる諸問題を取り扱います。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。 なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ（春）とⅡ（秋）は継続して履修することを条件とします。また、本授業の受講者数には上限があります。初回の授業で１時間程度の英文読解力を計るためのテスト（国際政治経済の時事問題に関する英文和訳）を実施します。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回ー第 15 回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, *Regional Outlook: Southeast Asia 2011-2012*, ISEAS, 2011（近刊）.（150 ページ前後、価格は 2000 円程度）。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。 ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はない。	出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外する。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係） 英語専門講読 b（アジア太平洋地域の政治・経済・国際関係）	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
授業の目的および進め方については、英語専門講読Ⅰと同様です。授業は、受講者によるプレゼンテーション、質疑応答、討論を軸に進めます。また、週ごとに指定されたテキストのパートを精読し、その訳を毎週、受講者全員に提出してもらいます。さらに他の文献・資料で関連知識を補強したレポートの提出を定期的に求めます。当然のことながら、出席を重視します。 なお、金子担当の英語専門講読Ⅰ（春）とⅡ（秋）は継続性が強いため、本授業の履修については英語専門講読Ⅰ（春学期：金子担当）を履修していることを条件にします。また、本授業の受講者数には上限があります。	第１回：イントロダクション：シラバスを配布するとともに、第２回目以降の担当を決めます。 第２回ー第 15 回：テキストのパートに沿って受講者にプレゼンテーションをしてもらい、それに関する質疑応答およびディスカッションを行います。 テキスト： Institute of Southeast Asian Studies, *Southeast Asian Affairs 2012*, ISEAS, 2011（予定）.（350 ページ前後、価格は 2300 円程度）。 ・テキストの内容は、近年における東南アジア諸国の国際関係・政治・経済に関する主要な出来事についての国別、イシュー別の分析・解説。（内容の概略は以下の Web サイトで検索が可能：http://bookshop.iseas.edu.sg/） ・テキストは担当者が履修者決定後に一括注文します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
右の授業計画参照。担当者が一括注文するので受講者が手配する必要はありません。	出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価します。理由の如何を問わず、欠席回数が３回に達した時点で履修者リストから除外します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （生成文法入門） 英語専門講読 a（生成文法入門）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の１つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。	1　Introduction 2　Overview 3　Overview 4　Overview 5　Phrase Structure 6　Phrase Structure 7　Phrase Structure 8　Binding 9　Binding 10　Binding 11　Binding 12　Empty Pronoun PRO 13　Empty Pronoun PRO 14　Review 15　Review ※　上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。 ※　本講義の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社	出席＆授業参加率（30%）、レポート＆試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （生成文法入門） 英語専門講読 b（生成文法入門）	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
Noam Chomsky が提唱する理論、生成文法について読む授業です。現在もなおその構築が進行中である最新の言語理論ミニマリスト・プログラムへの橋渡しとなった統率束縛理論について読んでいきます。人間の脳内に生得的にそなわっており母語の獲得に大きな役割を果たすと説かれている生成文法の１つのモデルを理解することに主眼をおきます。統率束縛理論で提唱された文法モデルの特徴を簡潔に述べるならば、それ以前の理論では種々雑多な規則の集合といった印象の強かった文法のモデルに対し、限られた少数の理論で可能な限り多くの言語現象を説明するという目標に向って具体的な提案が成され始めたということです。 読み解いていく文献はその理解のための入門的位置づけになっているものを複数選ぶ予定ではありますが、理論の内容そのものを理解するのはいささか難しいと言っても過言ではありません。また角度を変えた視点からの考察により検討すべき課題も残されている点で更なる議論の必要にせまられる部分もあります。毎回それなりの量を読み進んでいくことになりますので予習を欠かさずに授業参加することを希望します。	1　Anaphors 2　Anaphors 3　Anaphors 4　Government 5　Government 6　Types of Subject 7　Types of Subject 8　Types of Subject 9　Pronouns 10　Pronouns 11　Pronouns 12　Referential Expressions 13　Referential Expressions 14　Review 15　Review ※　上記の授業進度は大体の目安として考えていますので、理解度に応じて変更を加えたりするなど柔軟性をもたせるつもりです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『チョムスキー理論辞典』研究社	出席＆授業参加率（30%）、レポート＆試験（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（地球市民のためのフェアトレード入門） 英語専門講読 a（地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
ローカルな視点から地球全体の課題を考えることを念頭に、先進国と途上国のフェアトレード（公正貿易）というテーマを春秋連続して学習します。フェアトレードとは、途上国の生産者（コーヒー、農産物、工芸品等）と先進国の消費者が、環境や文化に関する一定の理解に基づいて取引する地球版「産直」ともいえる活動です。私達も、ODA などの援助とは別なやり方で、貧困や地球環境の問題の解決・緩和に参加することができるのです。 大切なのは身の回りのできることから、グローバルな問題について考えていくという「発想」です。そして、英語を活用して、こうした事柄に対する「学び」を深めることの喜びを知っていただきたいと思います。 授業の進め方は、事前に配布した文献をもとに担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関するプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションをします。最後に教員が講評します。	1. 授業の進め方について 2. 教員によるレクチャー（予定） 3. Fair Trade: Why it's not just for coffee farmers anymore? 4. Fish don't know they are wet or how trading influences our lives 5. Why is Fair Trade so popular? 6. Fair Trade principles and practices 7. Fair Trade histories 8. ビデオと討論『おいしいコーヒーの真実』 9. Yes, but does it work? 10. Ordinary people making Fair Trade extraordinary 11. Will free trade ever be fair? 12. The future of Fair Trade 13. Daily life with Fair Trade 14. 教員によるレクチャー（予定） 15. 全体のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Jacqueline Decarlo, *Fair Trade: A Beginner's Guide* (Oneworld Publications, 2007) ※各自で購入して下さい。	出席点、レジメ、プレゼン、期末レポート。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（地球市民のためのフェアトレード入門） 英語専門講読 b（地球市民のためのフェアトレード入門）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の学習を踏まえ、さらに専門的な文献の輪読を行います。 取り上げる文献は、今のところ、フェアトレードに関する社会科学分野の雑誌論文、専門著書の章、報告書等を予定していますが、春学期文献の理解の状況次第では、より深い文献研究を行うために、特定の指定図書の輪読方式に変更する可能性もあります（現時点での候補作：D. Jaffee. *Brewing Justice: Fair Trade Coffee, Sustainability, And Survival*）。 いずれの場合でも、文献読解を反映したレジメ作成を中心に、輪読、発表、議論に発展させます。	授業では、担当する学生がレジュメを用意し、それに基づき文献の内容に関するプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションをもとに、教材のテーマに関連した事柄について、ディスカッションを行う。最後に、教員が講評とアドバイスを行う。
テキスト、参考文献	**評価方法**
※英語専門講読Ⅰの理解の状況を踏まえて、春学期の授業中に指示・手配します。	出席点、レジメ、プレゼン、期末レポート。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （異文化コミュニケーションの理論） 英語専門講読 a（異文化コミュニケーションの理論）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English. This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. ＊内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。	1. Introduction to the course 2. Introduction (pp. 1-9) 3. Challenges of living in a global society (pp. 11-20) 4. The necessity and benefits of IC (pp. 20-30) 5. Understanding communication (pp. 31-41) 6. Models of communication (pp. 41-54) 7. Understanding culture (pp. 55-66) 8. Characteristics of culture (pp. 66-76) 9. The influence of culture on perception (pp. 77-88) 10. Perception and IC (pp. 89-98) 11. Cultural orientations and behaviours (pp. 99-112) 12. Intercultural communication ethics (pp. 112-118) 13. Verbal communication and culture (pp. 119-128) 14. Cultural variations in verbal comm. (pp. 128-138) 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Liu, S., Volcic, Z. & Gallois, C. (2011). *Introducing intercultural communication: Global cultures and contexts.* Los Angels, CA: Sage. (318 pages)	Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （異文化コミュニケーションの理論） 英語専門講読 b（異文化コミュニケーションの理論）	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
This subject is aimed at helping students to understand key concepts and theories of interpersonal and intercultural communication, explore their assumptive foundations and applicability in different sociocultural and historical contexts and develop an (inter)active attitude towards 'cultural differences'. Towards these objectives, students will be asked to read at least 7,000 words every week, give short summary presentations, participate in discussions and write a term paper. All the coursework will be done in English. This subject is recommended for students who wish to practice English for academic and professional purposes, undertake research into interpersonal and intercultural communication, and most importantly, pursue the ethical dimensions of communication for intercultural harmony and personal/social development. ＊内容がかなり専門的なので、「異文化間コミュニケーション論 a, b」を履修済みであることが望ましい。	1. Introduction to the autumn semester 2. Nonvernal comm. and culture (pp. 139-151) 3. Influence of culture on NV comm. (pp. 151-156) 4. Categorisation, subgroups, and identities (pp. 157-169) 5. Identities and IC (pp. 169-175) 6. Developing relations with culturally different others (pp. 176-188) 7. Developing intercultural relationships (pp. 188-196) 8. Managing intercultural conflicts (pp. 197-207) 9. Conflict management styles and approaches (pp. 207-218) 10. Mass media, technology, and cultural change (pp. 219-232) 11. The mass media and cultural change (pp. 232-238) 12. Immigration and acculturation (pp. 239-250) 13. Cross-cultural adaptation (pp. 250-260) 14. Becoming an effective IC (pp. 261-278) 15. Wrap-up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Liu, S., Volcic, Z. & Gallois, C. (2011). *Introducing intercultural communication: Global cultures and contexts.* Los Angels, CA: Sage. (318 pages)	Participation (20%), oral presentations (40%) and term paper (40%)

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（オーストラリアの詩） 英語専門講読 a（オーストラリアの詩）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
専門講読Ⅰでは「オーストラリア」「先住民族アボリジニ」に焦点を当てて学習します。では、「オーストラリアを学ぶ」意義は何でしょう。まず、交流が深い国なのに研究や知識がまだ少ないこと。今でも表面的なイメージのみが流布している感があります。オーストラリアに旅行や留学する機会が昔よりも多くなったにもかかわらず、歴史や精神史などを知らないのでは、真の意味での交流が難しくなると思います。 それから、私たちは案外自分について理解していません。比較対象があって、初めて己が見えてくるものです。オーストラリアを学ぶことによって、改めて自分について考える良い機会になったらいいですね。（例えば「オーストラリア人とは誰を指すか？」といった問いは、そのまま日本に当てはめた場合どうなるのか、など。） この授業の講義目的は、「言葉の力を体感する」「オーストラリアをより知ることで真の交流を目指す」「オーストラリアを通して己を考える」また、発表形式の授業ですので「自分の言葉で考え、語る」ことになります。授業時間だけでなく、生きている間ずっと、皆さんのお役に立つことができたら最高に嬉しく思います。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	！！注意！！ 今年のこの授業は、春学期には開講せず秋学期のみとなります。こういった事情から、大変申し訳ありませんが、火曜３限（専門講読Ⅰ）と木曜２限（専門講読Ⅱ）を同時に受講する必要があります。 1. ガイダンス 2. オーストラリアの歴史① 3. オーストラリアの歴史② 4. アボリジニの歴史① 5. アボリジニの歴史② 6. アボリジニの神話・伝説① 7. アボリジニの神話・伝説② 8. 英訳されたアボリジニの詩① 9. 英訳されたアボリジニの詩② 10. 英語で書かれたアボリジニの詩① 11. 英語で書かれたアボリジニの詩② 12. 英語で書かれたアボリジニの詩③ 13. 英語で書かれたアボリジニの詩④ 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。 www.leafandletters.com	※学期末レポート（提出しなかった場合不可）、 授業での参加度（プレゼン発表＆発言）、出席状況 ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（オーストラリアの詩） 英語専門講読 b（オーストラリアの詩）	**担当者**	国見　晃子

講義目的、講義概要	**授業計画**
専門講読Ⅰでは「詩」よりもむしろ「オーストラリア」に焦点を当てた授業となりますが、専門講読Ⅱではいよいよ「詩」そのものを味わう機会が多くなります。決して多くはない言葉のなかに、膨大な思い（思考、時空間、知識 etc）を垣間見ることになるでしょう。 それにしても、「詩を学ぶ」ことは現代の時代にそぐわないと感じる方もいらっしゃるかもしれません。もっと実用的な知識を身につけるべきだと。確かに資格等の実用的な知識をつけることは必要です。その方が幾分不安も少なくなるでしょう。しかし、詩を学ぶことも、ある意味、実用的だと言えると思います。なぜかと言うと、詩を丁寧に読むと、「言葉の力」を体感することになるからです。そしてこの言葉の力は私たちの生き方に大きな影響を与えているからです。「詩を学ぶ＝生き方を学ぶ」と言えるかもしれません。 詩は娯楽だとか、生きる上で必須ではない、といった浮世離れしたイメージが詩にあるとしたら、詩を一面的にしか見ていないように感じます。詩って、案外、もっと生活に密接しているものなのですよ。 それでは、熱意のある方、お待ちしております！	！！注意！！ 今年のこの授業は、春学期には開講せず秋学期のみとなります。こういった事情から、大変申し訳ありませんが、火曜３限（専門講読Ⅰ）と木曜２限（専門講読Ⅱ）を同時に受講する必要があります。 1. ガイダンス 2. オーストラリアの詩、精読 3. オーストラリアの詩、精読 4. オーストラリアの詩、精読 5. オーストラリアの詩、精読 6. オーストラリアの詩、精読 7. オーストラリアの詩、精読 8. オーストラリアの詩、精読 9. オーストラリアの詩、精読 10. オーストラリアの詩、精読 11. オーストラリアの詩、精読 12. オーストラリアの詩、精読 13. オーストラリアの詩、精読 14. 講義のまとめ 15. 講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントして配布。 参考文献は授業で随時紹介。 www.leafandletters.com	※学期末レポート（提出しなかった場合不可）、 授業での参加度（プレゼン発表＆発言）、出席状況 ※ 遅刻３回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（英語圏の現代演劇） 英語専門講読 a（英語圏の現代演劇）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	毎回授業開始時に vocabulary テストを行います。 教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定ですが、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。 Reading Strategies Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ・Ⅳのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。 指定する演劇の観劇レポート（400 字以上 500 字以下）2 編に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ 初回（4 月 12 日）のテキストは中央棟 5 階 504 研究室前に置いてあります。vocabulary テストと精読の準備をして出席すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です	毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート（400-500 字程度）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは 2 編必修です。未提出者には単位を認めません。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（英語圏の現代演劇） 英語専門講読 b（英語圏の現代演劇）	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の現代演劇の台本をテキストにしてさまざまな英語の主として会話表現を学びます。生まれ育った環境が異なれば、人が使う言葉にも相異が生じます。背景となっている文化を考察し、多種多様な会話表現を読もうと思います。さらに実際の舞台を観て、演劇は面白いということを実感してください。どの台本も最初の 15-20 ページ目までしか教室では読みません。続きは自分で読んでください。テキストは出席者のみにプリントで配布します。教室ではお互いの翻訳を確認しながら、ロール・プレイ形式でテキストを精読していきます。きちんと辞書を引いて、舞台で交される話し言葉の日本語翻訳表現をノートに用意して出席することを求めます。事前の準備が不十分な人は、その場で退場してもらい、欠席扱いとします。遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として、理由の如何を問わず、単位を認めません。	毎回授業開始時に vocabulary テストを行います。 教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定ですが、上演予定のないミュージカル台本なども機会があれば読んでみようと思います。 Reading Strategies Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ・Ⅳのクラスよりも英語や内容が多少難しい作品がテキストとなっています。 指定する演劇の観劇レポート（400 字以上 500 字以下）2 編に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ 初回（9 月 27 日）のテキストは中央棟 5 階 504 研究室前に置いてあります。vocabulary テストと精読の準備をして出席すること。
テキスト、参考文献	**評価方法**
主として英米の現代演劇の台本を抜粋してプリントで配布します。参考文献は授業中に言及する予定です	毎回授業開始時に行う vocabulary テスト 60%。観劇レポート（400-500 字程度）2 編で 40%。学期末定期試験はしません。レポートは 2 編必修です。未提出者には単位を認めません。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Critically thinking things through) 英語専門講読 a(Critically thinking things through)	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
価値や意見の多様性を求めていく時代においては、論争的な話題について考えていくことが大事になります。この授業では、議論の分析・解釈・評価をおこなうことで、議論とは何か、論争にかかわるとは何かといったことを考えていきます。前期は基礎的な概念を学んだ上で、実際にその概念を使って議論を分析・解釈・評価してみます。 授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になります。まず重要な概念を学びそれを用いて考えていくという流れをとるため、学期が進むにつれて授業参加の重要性が増していきます。	1 Course Overview 2 What is argument?: opinion and argument 3 What is argument?: explanation and argument, burden of proof 4 Argument structure: the principle of charity 5 Argument structure: missing/hidden/unstated statement 6 Argument structure: tree-diagramming 7 Argument structure: tree-diagramming 8 Argument evaluation: acceptability 9 Argument evaluation: acceptability 10 Argument evaluation: relevance 11 Argument evaluation: relevance 12 Argument evaluation: strength 13 Argument evaluation: strength 14 Evaluating extended argument 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に配布する。	授業参加、小テスト、課題、試験の総合評価による。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Critically thinking things through) 英語専門講読 b(Critically thinking things through)	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続きです。目的や授業形態は春学期と同じです。この学期では対話の技法、因果関係、類推、視覚的議論に関して検討した後、社会的論争について実際考えてみます。 授業形式は講義、ケーススタディ、グループワーク、発表が中心になりますが、本学期はグループワークの比重が前期よりも高くなります。	1 Retrospect and Prospect 2 Dialectical shift 3 Dialectical shift 4 Dialectical shift 5 Causal reasoning/argument 6 Causal reasoning/argument 7 Causal reasoning/argument 8 Analogical reasoning/argument 9 Analogical reasoning/argument 10 Analogical reasoning/argument 11 Visual argument 12 Visual argument 13 Visual argument 14 Visual argument 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に配布する。	授業参加、小テスト、課題、試験の総合評価による。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （認知言語学） 英語専門講読 a（認知言語学）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは，認知言語学の立場から書かれた語の多義性，語の意味と文の意味の間の関係に関する論文である。 授業では，下記のテキストのはじめから 3 節の中ほどまでを読んでゆく（プリントを配布する）。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする，学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえさえすればそれでよし，というようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて，日本語らしさ，英語らしさについても学ぶことができるはずである。 学期末に行う定期試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みを認める予定はない。試験は論述式の予定である。	進度の目安は次の通りである。題目は，論文の節のタイトルに対応する。 １．オリエンテーション ２．Abstract ３．The protean nature of word ‘meaning’ 1 ４．The protean nature of word ‘meaning’ 2 ５．Towards a cognitive compositional semantics 1 ６．Towards a cognitive compositional semantics 2 ７．Towards a cognitive compositional semantics 3 ８．Towards a cognitive compositional semantics 4 ９．Towards a cognitive compositional semantics 5 １０．Lexical representation 1 １１．Lexical representation 2 １２．Lexical representation 3 １３．Lexical representation 4 １４．春学期のまとめ １５．春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Evans, Vyvyan (2006) “Lexical concepts, cognitive models and meaning-construction,” *Cognitive Linguistics* 17.4:491-534.	評価は定期試験期間中の試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（ただし，出席そのものが加点の対象となることはない）。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （認知言語学） 英語専門講読 b（認知言語学）	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語の読解力を高めることにある。使用するテキストは，認知言語学の立場から書かれた語の多義性，語の意味と文の意味の間の関係に関する論文である。 授業では，下記のテキストの 3 節の中ほどから終わりまでを読んでゆく（プリントを配布する）。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 英語を読む力は，鍛錬とか修練ということばによって特徴づけられるような，ときとして忍耐を必要とする，学びの過程なしには高められないように思う。個々の単語の意味を調べ，それを並べかえさえすればそれでよし，というようなことをせず，真の意味で英語が読めるようになることを目指したい。単なる情報収集を目的とするような読みとは違う丹念な読みを通じて，日本語らしさ，英語らしさについても学ぶことができるはずである。 学期末に行う定期試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みを認める予定はない。試験は論述式の予定である。	進度の目安は次の通りである。題目は，論文の節のタイトルに対応する。 １．Lexical representation 5 ２．Lexical representation 6 ３．Lexical representation 7 ４．Lexical concept integration 1 ５．Lexical concept integration 2 ６．Lexical concept integration 3 ７．Lexical concept integration 4 ８．Lexical concept integration 5 ９．Lexical concept integration 6 １０．Lexical concept integration 7 １１．Conclusion 1 １２．Conclusion 2 １３．Conclusion 3 １４．秋学期のまとめ １５．秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Evans, Vyvyan (2006) “Lexical concepts, cognitive models and meaning-construction,” *Cognitive Linguistics* 17.4:491-534.	評価は定期試験期間中の試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（ただし，出席そのものが加点の対象となることはない）。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （エリザベス・ビショップの詩を読む） 英語専門講読 a（エリザベス・ビショップの詩を読む）	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
前期ではエリザベス・ビショップ(Elizabeth Bishop, 1911-79)の詩を読む。 彼女の詩はとても繊細で、時には大変難しい。従って、詩の精読だけではなく、作品に対する代表的な批評も同時に読んでいく。履修する学生にはかなりの語学力＆忍耐力が必要とされる。 発表は一人一スタンザの割合で輪読していく。和訳の作成は勿論だが、文化的背景に関してもしっかりと調べてきてもらう。 なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。	1.　　イントロダクション 2～15. メディア英語（実践）
テキスト、参考文献	**評価方法**
詩：*The Complete Poems: 1927-1979* を購入すること。 批評：教員が配布プリントに随時引用する。	プリゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決める。4 回以上欠席した場合やレポートに不備がある場合に関しては評価対象外となる。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （ロバート・ブライの詩を読む） 英語専門講読 b（ロバート・ブライの詩を読む）	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
後期ではロバート・ブライ(Robert Bly, 1926-)の詩を読む。 エリザベス・ビショップと同様、彼の詩も大変難しい。従って、詩の精読だけではなく、作品に対する代表的な批評も同時に読んでいく。履修する学生にはかなりの語学力＆忍耐力が必要とされる。 発表は一人一スタンザの割合で輪読していく。和訳の作成は勿論だが、文化的背景に関してもしっかりと調べてきてもらう。 なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意。	1.　　イントロダクション 2～15. メディア英語（実践）
テキスト、参考文献	**評価方法**
詩：*Eating the Honey of Words: New and Selected Poems* を購入すること。 批評：教員が配布プリントに随時引用する。	プリゼンテーションとワープロによる 4,000 字程度の作品論を総合して決める。4 回以上欠席した場合やレポートに不備がある場合に関しては評価対象外となる。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（英国ユダヤ人史） 英語専門講読 a （英国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
学生の中には、英文の和訳が一応出来ても、意味が理解できていなかったり、内容を要約し、結論をひとことで表現する力が不足している者が少なくありません。英文の学術書を読み進む場合、パラグラフ毎の内容要約能力が常に求められます。そのため本授業では、学生側のそうした弱点を補強するために、各パラグラフ毎に内容の要旨をひとことで要約する能力を養う事を授業の目標といたします。 使用するテキストは英国ユダヤ人史の概説書です。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
高価なため、コピーを配布します。	毎回出席をとります。授業日数の１／３以上欠席された方は単位をあげません。遅刻３回で欠席１回にカウント。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（米国ユダヤ人史） 英語専門講読 b （米国ユダヤ人史）	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
米国ユダヤ人史の概説書を使用します。	最初の授業で説明します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ	春学期と同じ

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （物語を読んで楽しむ） 英語専門講読 a（物語を読んで楽しむ）	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。 物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためにいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。 言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえることを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、 右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。	J. Thurber の *The Unicorn in the Garden* と物語の面白さへの誘――寓話と現実 １．E. Hemingway の *The Killers* から読み始めます。 ２．前の授業の続き――読みと文学の解釈 ３．前の授業の続き――ドラマとしての語りの手法 ４． The *Catbird Seat* における現代の寓話と復讐 ５．前の授業の続き――語り手の視点と作者 ６．前の授業の続き――語りの面白さとは ７．Emma Brookes の *Visiting Time* の現代性とは ８．前の授業の続き――語り手の心の深刻さと変化 ９．R.Gunesekera の *Carapace* における男女の違い １０．前に授業の続き――物語の究極の意味とは １１．O. Wilde の *Happy Prince* の大人の童話とは １２．前の授業の続き――作者の本心を探る １３．前の授業の続き――作者とその時代の生き方 １４．L. Newlin の *Our Last Day in Venice* における親と子の関係 １５．前の授業の続き――関係的コミュニケーションとは 注意：この授業に参加したい学生は予習の分担ができないと次の予習予定者に迷惑がかかります。この分担約束が果たせない学生は受講しないでください。もし一回でも果たせなかった場合は不可とします。それだけ重要なのです。 また、自分で発表しないと授業に困難が生じます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはすべてプリント教材を使います。	出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3 分の２以上の出席がないと単位は出ない。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （物語を読んで楽しむ） 英語専門講読 b（物語を読んで楽しむ）	担当者	佐藤　勉

講義目的、講義概要	授業計画
優れた現代英米の物語（短編小説と呼んでもかまわない）を読んで、作品の構造や語りの技巧や物語内容などに触れ、文学の読み方はどのようなものか、という点に焦点を当てて考えてみる。 物語の面白さを感じ取りながら、読むための技術を身につけることを目指す。そのためにいろいろな物語を取り上げたいのだが、時間の都合で数編ということになるかも知れない。今年度はテキストを購入してそれを中心に読んでいく。読む物語の特徴が理解できるように読み進める積もりであるが、受講生に順番に読んでもらうので毎回出席すること大切である。 言葉のもつ表面的な意味や隠されている意味を掘り起こしたりして、作者が物語の語りにどんな技巧を駆使しているかを見極めていく。物語の面白さがどこからくるのかを理解してもらえることを期待している。授業では読み進める物語の解説とともに、 右に掲げた授業計画のメイン・トピックスを取り上げて解説をしながら読んでいくので、番号は必ずしも授業時間の回数ではない。	物語の語りの技巧を学ぶとともに、さまざまな人生における物語の意味と重要性を理解します １．F. Stockton の *The Lady or the Tiger* の語りの基本 ２．前の授業の続き ３．前の授業の続き ４．S.V. Benet の *By the Waters of Babylon* における教訓 ５．前の授業の続き ６．前の授業の続き ７．R. Gunesekera の “A House in the Country”の若者 ８．前の授業の続き ９．前の授業の続き １０．Bali Rai の *the White Towel* の問題点とは １１．前の授業の続き １２．前の授業の続き １３．T.Williams の *Portrait of a Girl in Glass* における人間の優しさと個性 １４．前の授業の続き １５．前の授業の続き 注意：この授業に参加したい学生は予習の分担ができないと次の予習予定者に迷惑がかかります。この分担約束が果たせない学生は受講しないでください。もし一回でも果たせなかった場合は不可とします。それだけ重要なのです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはすべてプリント教材を使います。	出席点と期末テストによります。平常点は順番制で当たりますので、その時やらなかった場合にはマイナス点として点数化します。3 分の２以上の出席がないと単位は出ない。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（現代国際関係論） 英語専門講読 a（現代国際関係論）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係論の中でも紛争、民主化、核拡散、気候変動などのイシューを扱う。教材としては、*Foreign Affairs*、*Current History*、*The New York Times*、*Foreign Policy* などに掲載された記事や論文を使用する。内容の濃い論文を通じて、国際社会の争点を理解し、分析する姿勢を身につける。 基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、グループ発表をしてもらう。 授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。 なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。	第 1 回　オリエンテーション、発表者決め 第 2～15 回　発表、ディスカッション （例） ・Richard N. Haass, The Age of Nonpolarity: What will Follow U.S. Dominance?, *Foreign Affairs*, May/June 2008. ・Evans S. Medeiros, Is Beijing Ready for Global Leadership? , *Current History*, September 2009. ・ Millennium Development Goals: At a Glance, UN Department of Public Information, April 2010.

テキスト、参考文献	評価方法
適宜配布する。	出席回数、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（現代国際関係論） 英語専門講読 b（現代国際関係論）	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、国際関係論の中でも紛争、民主化、核拡散、気候変動などのイシューを扱う。教材としては、*Foreign Affairs*、*Current History*、*The New York Times*、*Foreign Policy* などに掲載された記事や論文を使用する。内容の濃い論文を通じて、国際社会の争点を理解し、分析する姿勢を身につける。 基本的には発表とその後のディスカッションによって進める。受講者が多い場合には、2～3 名で 1 つのグループを形成し、グループによる発表をしてもらう。 授業への積極的な参加を求めるので、テキストをよく読んだ上で授業に臨んでもらいたい。必要に応じて映像資料を用い、理解の向上に努める。 なお、第 1 回目の授業で授業内容の詳細を説明し、また発表者を決めるので必ず出席すること。春学期と秋学期の両方の履修が望ましい。	第 1 回　オリエンテーション、発表者決め 第 2～15 回　発表、ディスカッション （例） ・Paul Kennedy, Asia's Rise: Rise and Fall, *The World Today*, August 2010. ・ Bernice Lee, Climate Change After Copenhagen: Beyond Doom and Gloom, *The World Today*, August 2010. ・Gettleman, Jeffrey. 'The Most Dangerous Place in the World,' *Foreign Policy*, March/April 2009..

テキスト、参考文献	評価方法
適宜配布する。	出席回数、授業への参加状況、発表、学期末レポートの総合評価とする。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （アメリカ小説） 英語専門講読 a（アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　まず第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。 講義概要 　ユダヤ系作家（Bernard Malamud 等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。 　授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらう場合があります。	第 1 週　授業の進め方などについての説明と「質問表」にもとづく討論による体験授業。 第 2 週　前週に配布した質問表による討論。 第 3 週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ 5 から 10 ページ程度読んでいく予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	不定期に課す課題、学期末の定期試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、出席点ではない）

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （アメリカ小説） 英語専門講読 b（アメリカ小説）	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　まず第一に「英語で」小説を読むことにより英語力の向上を図ること、第二に討論による作品理解を深めることを目的とします。 講義概要 　ユダヤ系作家（Bernard Malamud 等）の短編小説を数編読みます。各々の作品の技巧や主題を質問表に基づく討論を通じて考えていきます。 　授業は前の週までに配布する内容に関する質問表をもとに進めます。授業の前までにその週の範囲を読み、質問表に答えられるよう予習することが義務づけられます。授業では質問表をもとに質疑応答・討論を進めていきますが、積極的に討論に参加することが望まれます。また質問表の答えを小レポートとして提出してもらう場合があります。	第 1 週　春学期定期試験問題の返却と講評。春学期と同じく、質問表による討論。 第 2 週　質問表による討論。 第 3 週以降、同様な方法で毎週平均ほぼ 5 から 10 ページ程度読んでいく予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。	不定期に課す課題、学期末の定期試験、および平常点（授業・討論への貢献度で、出席点ではない）

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I (Applied Linguistics) 英語専門講読 a (Applied Linguistics)	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
応用言語学に含まれる研究分野は広いが、ここでは外国語としての英語教育に係わるテーマを取り上げ、関連した論文を読む。 言語研究の視点、言語の変化や消滅、言語教育、言語習得などの研究の現状を知り、そこで提唱されている理論の背景やその方法を検証してみる。 また、毎回授業時間の一部で speed reading の訓練を行う。Skimming, scanning も含め、読む目的に合った読み方に慣れることを目指す。 速読用のテキストは、受講者が決まってからテストを行い、そのレベルに合わせた教材を用いる。テキストはその後に指示する。課外に何冊かの本を読んで、発表してもらう。 英語教育に関心があり、英語での読書が好きな人向き。	1. Introduction 2. What is applied linguistics? 3. 〃 4. Prescribing and describing 5. 〃 6. Languages in the contemporary world 7. 〃 8. Book Report (1) 9. English language teaching 10. 〃 11. Language and communication 12. 〃 13. Second Language Acquisition 14. 〃 15. Book Report (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：Guy Cook, *Applied Linguistics*, OUP およびプリントを使用。速読用テキストは受講者決定後に授業時に指示する。 参考文献： 白畑知彦他　(2009)『改訂版　英語教育用語辞典』 大修館書店 その他トピック毎に随時紹介する。	研究発表（Presentation）20% Book Report　20% 期末テスト　60%

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II (Applied Linguistics) 英語専門講読 b (Applied Linguistics)	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に続いて、英語教育に関する論文を読み、現在どのようなことが研究されているか、理論と実践面から考える。その中から各自がテーマを決めて調べ、発表することを含める。 速読の訓練も引き続き行っていく。	1. Introduction 2. Listening 3. 〃 4. Speaking 5. 〃 6. Reading 7. 〃 8. Presentation (1) 9. Writing 10. 〃 11. Grammar 12. 〃 13. Vocabulary 14. 〃 15. Presentation (2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：Guy Cook, *Applied Linguistics*, OUP およびプリントを使用。 参考文献： 白畑知彦他 (2009)『改訂版　英語教育用語辞典』 大修館書店 その他トピック毎に随時紹介する。	研究発表（Presentation）20% Book Report　20% 期末テストとレポート　60%

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（イギリス児童文学） 英語専門講読 a（イギリス児童文学）	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
「習うより慣れよ。」（Use makes perfect.）の観点より、面白くて易しい英語を多読することを、目的とする。（昨年の実績は、課外のレポートも含めて 563 頁であった。） Lang (Andrew,1844-1922)の『色分け昔話集』（全１２巻）の内、『青色-昔話集』を読む。ラングはグリム同様編者に過ぎないが、中には翻訳・再話で少し変えているところもある。今回もなじみの話は少ないが、基本は同じ、夢とヒューマーとペイソスである。（１回２０頁相当を２人の共同責任で読んでもらう。） 参考文献 キャサリン・ブリグス編著　『妖精辞典』　平野敬一他訳 冨山房　１９９２年	1~15 The bronze Ring Prince Hyacinth and the Dear Little Princess East of the Son and West of the Moon The Yellow Dwarf Little Red Riding Hood The Sleeping Beauty in the Wood Cinderella ; or, the Little Glass Slipper Aladdin and the Wonderful Lamp The Tale of aYouth who Set out to Learn what Fear was Rumpelstiltzkin Beauty and the Beast The Master Maid Why the Sea is Salt The Master Cat; or, Puss in Boots Fericia and the Pot of Pinks

テキスト	評価方法
Lang,Andrew, *The Blue Fairy Book.* 1st World Library , 2007	期末試験をする。　それとは別に課外に２０頁程度のものを読んでいただく。詳細は教室で指示する。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（イギリス児童文学） 英語専門講読 b（イギリス児童文学）	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
同上	1~15 The White Cat The Water-lily. The Gold –spinners The Terrible Head The Story of Pretty Goldilocks The Story of Wittington The Wonderful Sheep Little Thumb The Forty Thieves Hansel and Grettel Snow-white and Rose-red The Goose-girl Toads and Diamonds Prince Darling Blue Beard Trusty John

テキスト、参考文献	評価方法
同上	同上

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （生成英語統語論への誘い） 英語専門講読 a（生成英語統語論への誘い）	担当者	鈴木　英一

講義目的・講義概要	授業計画
講義目的: 生成文法における英語の補文構造に見られる諸問題を，Ann BorkinがMichigan大学に提出した学位論文である，*Problems in Form and Function* (1984) の議論と主張を読みながら，どのように考えるのがよいかを考察する. **講義概要**: Ann Borkinは，補文の主語の目的語の位置への繰り上げ現象，“recognize A as B”におけるようなas-構造，asの前の名詞句とtoの前の名詞句の特徴，繰り上げ現象に見られる諸制約，“I believe John (to be) very tired.”に見られる「to be-削除」，“I believe (that) John is very tired.”に見られる「that-削除」という問題を扱っている. この授業では，Ann Borkinの著書を丁寧に読み，英語力の向上を目指しながら，生成統語論の重要なテーマを考察する.	1. Raising to Object Position. (1) 2. Raising to Object Position. (2) 3. Raising to Object Position. (3) 4. *As*-Constructions and Raising. (1) 5. *As*-Constructions and Raising. (2) 6. *As*-Constructions and Raising. (3) 7. *As*-Constructions and Raising. (4) 8. *As*-Constructions and Raising. (5) 9. The Object Status of Pre-*As* and Pre-*To* NPs. (1) 10. The Object Status of Pre-*As* and Pre-*To* NPs. (2) 11. The Object Status of Pre-*As* and Pre-*To* NPs. (3) 12. Constraints on What Can Be Raised. (1) 13. Constraints on What Can Be Raised. (2) 14. Constraints on What Can Be Raised. (3) 15. Summary, Questions and Discussions
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト: Ann Borkin (1984) *Problems in Form and Function*. Norwod, N.J.: Ablex Publishing Company.（使用個所を配布）	出席状況，授業の予習，授業中の発表，期末試験の成績を総合して評価する. なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （生成英語統語論への誘い） 英語専門講読 b（生成英語統語論への誘い）	担当者	鈴木　英一

講義目的・講義概要	授業計画
講義目的:（春学期と同じ） 生成文法における英語の補文構造に見られる諸問題を，Ann BorkinがMichigan大学に提出した学位論文である，*Problems in Form and Function* (1984) の議論と主張を読みながら，どのように考えるのがよいかを考察する. **講義概要**:（春学期と同じ） Ann Borkinは，補文の主語の目的語の位置への繰り上げ現象，“recognize A as B”におけるようなas-構造，asの前の名詞句とtoの前の名詞句の特徴，繰り上げ現象に見られる諸制約，“I believe John (to be) very tired.”に見られる「to be-削除」，“I believe (that) John is very tired.”に見られる「that-削除」という問題を扱っている. この授業では，Ann Borkinの著書を丁寧に読み，英語力の向上を目指しながら，生成統語論の重要なテーマを考察する.	1. Constraints on Complements Broken Up by Raising. (1) 2. Constraints on Complements Broken Up by Raising. (2) 3. Constraints on Complements Broken Up by Raising. (3) 4. Constraints on Complements Broken Up by Raising. (4) 5. Constraints on Complements Broken Up by Raising. (5) 6. *To Be* Deletion and *That* Deletion. (1) 7. *To Be* Deletion and *That* Deletion. (2) 8. *To Be* Deletion and *That* Deletion. (3) 9. Lexically Conditioned Constraints on Raising. (1) 10. Lexically Conditioned Constraints on Raising. (2) 11. Concluding Remarks 12. Coreference and Beheaded NPs. (1) 13. Coreference and Beheaded NPs. (2) 14. Coreference and Beheaded NPs. (3) 15. Summary, Questions and Discussions
テキスト・参考文献	**評価方法**
テキスト: Ann Borkin (1984) *Problems in Form and Function*. Norwod, N.J.: Ablex Publishing Company.（使用個所を配布）	出席状況，授業の予習，授業中の発表，期末試験の成績を総合して評価する. なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる.

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I（Deconstructing “Japaneseness”） 英語専門講読 a（Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションやポスト植民地主義的状況という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、チャイナタウン、国際結婚などを予定している。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。	1. 趣旨説明・グループ分け （初回の授業でグループ分けを行なうので、履修希望者は必ず出席すること。） 2. 各課題についての解説(1~2 回) 3. 基礎文献の講読・議論 個別の研究プロジェクトに取りかかる前の準備作業として、多文化・多民族という視点から日本社会を論じた文献の講読・議論を行なう。具体的には、テキスト欄に紹介した本のなかから、いくつかのチャプターを読んでいく。それゆえ、履修希望者はテキストを初回授業時までに用意しておくこと。なお扱う予定のチャプターは以下の通りである。 ・ Geographical and Generational Variations ・ Varieties in Work and Labor ・ Gender Stratification and the Family System ・ Minority Groups: Ethnicity and Discrimination ・ Popular Culture and Everyday Life
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sugimoto, Yoshio 2010. *An Introduction to Japanese Society (Third Edition)*. **Cambridge and New York: Cambridge University Press**.	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II（Deconstructing “Japaneseness”） 英語専門講読 b（Deconstructing “Japaneseness”）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
グローバリゼーションやポスト植民地主義的状況という視点から、現代日本について書かれた英語論文の読解・議論を通じて、現代日本の多民族・多文化的状況についての検討を行なう。受講者は複数のグループに分かれ、指定されたトピックのなかから研究テーマを設定する。それぞれのグループは、個別の研究テーマに関連する文献の読解・議論を行い、年度末に報告書を作成する。扱う題材は、アイヌ、在日コリアン、在日ムスリム、在日ブラジル人、国際結婚などを予定している。 本講義は、グループ作業を基本とした演習形式で行なわれるため、グループ作業に積極的に参加できる者のみ履修を認める。また、英語文献を教材資料として扱うが、「英語文献の講読」にとどまらず、グローバリゼーションと呼ばれる今日的状況を「文化」という視点から考えるための方法論的視座(文化人類学的・社会学的思考)を養うことを目的とする。 なお、週末等を利用して、本講義に関連した学外実習等を行なう可能性があるので注意されたい。	春学期の英語専門講読 I の成果を踏まえた上で、各グループごとに個々の研究プロジェクトに取りかかる。 ・各グループごとに、指定された英語論文等を読み込みながら、議論を行なう。 ・ 中間発表 学期半ばに各グループごとに中間発表をしてもらう。 ・最終発表 学期末に各グループごとに最終発表をしてもらい、その成果をもとに年度末レポートを作成する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
初回の授業で、論文リスト（基本的には学術雑誌所収論文）を配布するので、担当グループは各自図書館等でコピーすること。なお入手困難なものについては、担当者が配布する。	授業における発表・議論(50%)、期末レポート(50%)。 ただし、4 回以上の欠席（遅刻は 2 回で欠席 1 回に換算）で単位認定の資格を失う。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （コミュニケーションと異文化理解） 英語専門講読 a（コミュニケーションと異文化理解）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，異文化間コミュニケーション論の専門的な文献（書籍・論文）を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的にしています．すなわち，より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り，研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します．春学期は特に，一般コミュニケーションに関する基本的な知識を学習した上で，より専門的な文献の内容を理解することを目的にします． 授業は，グループワークが中心です．担当箇所についてのグループ発表の後，内容に関する質疑応答やディスカッション，担当者による補足説明と解説という形で進めていきます．グループ発表では，文献の内容を簡潔かつ具体的に説明することが求められます．コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し，その経験の中にあふれていて，学生諸君も必ず体験していることです．このことを念頭に置いて，受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし，毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています．目指すのは「学生の，学生による，学生のための授業」です．	1. 授業オリエンテーション 2. 基本文献講読（1）pp. 1-110　※ 教材配布 3. 基本文献講読（2）pp. 11-18　※ 教材配布 4. 基本文献講読（3）pp. 18-28　※ 教材配布 5. 基本文献講読（4）pp. 29-36　※ 教材配布 6. 基本文献講読（5）pp. 36-47　※ 教材配布 7. 基本文献講読（6）pp. 48-59　※ 教材配布 8. 基本文献講読（7）pp. 59-75　※ 教材配布 9. 基本文献講読（8）pp. 76-83　※ 教材配布 10. 中間まとめ＆グループ分け 11. 異文化コミュニケーションの研究意義① 12. 異文化コミュニケーションの研究意義② 13. 異文化コミュニケーションとは何か① 14. 異文化コミュニケーションとは何か② 15. 春学期のまとめ ※ 理解度等により，授業進度が変わることもあります．
テキスト、参考文献	**評価方法**
1）Klopf, W. D. & Ishii, S. (1988). Communicating Effectively Across Cultures. Tokyo: Nan'un-do. 2）その他にコピー教材を配布します．	グループワーク（準備，発表の仕方，発表内容），授業への貢献度（質疑応答．議論への参加），学期末レポートまたは試験により評価します．

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （コミュニケーションと異文化理解） 英語専門講読 b（コミュニケーションと異文化理解）	担当者	瀬戸　千尋

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では，コミュニケーション論における専門的な文献（書籍・論文）を読むのに必要な能力と知識を養うことを目的にしています．すなわち，より専門的な内容について書かれた英文を読む能力と専門書に見られる書き方のルールについて知り，研究方法や関連分野との関わりから知っておかなければならない知識についても学習します．秋学期では，特にいくつかの理論について書かれた文献を読むため，文献中に見られるそれぞれに概念やそれらの違い，およびその関連性を正しく理解しながら読み進めていくことを最大の目的にします． 授業は，グループワークが中心です．担当箇所についてのグループ発表の後，内容に関する質疑応答やディスカッション，担当者による補足説明と解説という形で進めていきます．コミュニケーション論で扱うことは日常生活と密接に関連し，その経験の中にあふれていて，学生諸君も必ず体験していることです．このことを念頭に置いて，受講するすべての学生による活発な議論によって活気あふれる教室にし，毎週の授業が楽しみになるようなものにして欲しいと思っています．目指すのは「学生の，学生による，学生のための授業」です．	1. 重要な文化的価値のパターン① 2. 重要な文化的価値のパターン② 3. 重要な文化的価値のパターン③ 4. 二元論の源泉：デカルト的世界観 5. 文化アイデンティティーの次元 6. 自己開示 7. Identity Management Theory ① 8. Identity Management Theory ② 9. Face-Negotiation Theory ① 10. Face-Negotiation Theory ② 11. Face-Negotiation Theory ③ 12. Expectancy Violation Theory ① 13. Expectancy Violation Theory ② 14. Expectancy Violation Theory ③ 15. 学期のまとめ＆レポート課題配布 ※ 理解度により，授業進度が変わることもあります．
テキスト、参考文献	**評価方法**
1）コピー教材を配布します． 2）心理学，社会学，物理学，統計学などの関連する分野の基本書や用語辞典など．	グループワーク（準備，発表の仕方，発表内容），授業への貢献度（質疑応答．議論への参加），学期末レポートまたは試験により評価します．

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（２０世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人） 英語専門講読 a（２０世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、２０世紀後半のアメリカの女性作家・詩人たちの作品（エッセイ、短篇小説、詩）を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。前期は主に日系アメリカ人とアフリカ系アメリカ人の歴史と文化、作品を取り上げる	１．ガイダンス ２．日系アメリカ人の歴史と文化 ３．映像や音楽に見られる日系アメリカ人 ４～６．日系アメリカ人の作品を読む ７．日系からアジア系へ ８．まとめ 復習テスト ９．アフリカ系アメリカ人の文化と歴史 １０～１３．アフリカ系アメリカ人の作品を読む １４．映像や音楽に見られるアフリカ系アメリカ人 １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。	小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（２０世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人） 英語専門講読 b（２０世紀アメリカ 行動する女性作家・詩人）	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、２０世紀後半のアメリカの女性作家・詩人たちの作品（エッセイ、短篇小説、詩）を、精読あるいは多読しながら、行動する女性たちの目に映ったアメリカ社会について探る。後期は主にネイティヴ・アメリカンとメキシコ系アメリカ人の歴史と文化、作品を取り上げる	１．ガイダンス ２．ネイティヴ・アメリカンの歴史と文化 ３～６．作品紹介と分析 ７．映像に見られるネイティヴ・アメリカン ８．まとめ 復習テスト ９．境界からの声―チカーナという生き方 １０～１３．作品紹介と分析 １４．映像に見られるチカーナ １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布。 参考文献については開講時に紹介。	小テスト、プレゼンテーションおよびレポートによる。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （グローバルな眼でアジアを読む） 英語専門講読 a（グローバルな眼でアジアを読む）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思います。 グループごとにプレゼンテーションを行ないます。４人～５人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。 グループは２週間を担当し、次のグループに交代します。 第１週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょう。 第２週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思います。	１．オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 ６つのグループを編成 グループ発表の日程を調整 ２．グループ発表のテーマ候補 以下の中から、グループごとに選びます。 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）など
テキスト、参考文献	**評価方法**
Asian Survey　(A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2011.	プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （グローバルな眼でアジアを読む） 英語専門講読 b（グローバルな眼でアジアを読む）	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、アジアの国々を一つずつ丁寧に取り上げ、最新の国際情報を獲得していきたいと思います。 グループごとにプレゼンテーションを行ないます。４人～５人でひとつのグループを作り、プレゼンの準備を一緒に行ないます。 グループは２週間を担当し、次のグループに交代します。 第１週目には、グループごとにプレゼン資料（レジュメ）を作成して、プレゼンテーションを行います。その際に、新聞や雑誌なども活用してみましょう。 第２週目では、テキストの英文に注目して英語力のアップを目指したいと思います。	１．オリエンテーション テキストの説明 テーマの選択 ６つのグループを編成 グループ発表の日程を調整 ２．グループ発表のテーマ候補 春学期に扱っていない国を、以下の中から選びます。 アジア動向の総論 北東アジア地域 日本、中国、台湾、韓国、北朝鮮、ロシアなど 南アジア地域 インド、パキスタン、アフガニスタン、スリランカ、バングラデシュ、ネパールなど 東南アジア地域 タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、カンボジア、ラオス、ミャンマー（ビルマ）など
テキスト、参考文献	**評価方法**
Asian Survey　(A Bimonthly Review of Contemporary Asian Affairs), University of California Press, January / February, 2011.	プレゼン資料、プレゼンテーション、出席回数、質疑応答への貢献度などによって評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （日本語学・対照言語学） 英語専門講読 a（日本語学・対照言語学）	担当者	担当者未定

講義目的、講義概要	授業計画
外国人に日本語を教える機会があると、私たちは日本語のことをよく知らないことに改めて気づかされます。私たちが外国語を使いこなせるようになるためには、日本語について理解する必要があるでしょう。 この授業では、英語で書かれた日本語学に関する入門書を読みながら、日本語について考えます。日本語と英語の共通点・相違点を知り、日本語の特徴を理解するとともに、それらの特徴を説明するために、言語学ではどのような分析がなされ、その分析にはどのような問題点があるかを概観します。同時に、英語の論文を読むために必要な実践的な読解力を養成します。受講者には予習した部分について質疑・発表をしてもらい、問題点について議論する形式となります。 春学期は、おもに統語論に関するトピックを取り上げます。 日本語学はもちろん、英語学、言語学、異文化理解等に関心のある学生の参加を期待します。	1．イントロダクション 2．再帰形 (1) 3．再帰形 (2) 4．再帰形 (3) 5．再帰形 (4) 6．再帰形 (5) 7．受身 (1) 8．受身 (2) 9．受身 (3) 10. 受身 (4) 11. かきまぜ (1) 12. かきまぜ (2) 13. かきまぜ (3) 14. かきまぜ (4) 15. まとめ おもな内容は、英語の oneself と日本語の「自分」にはどのようなちがいがあるか、日本語の「殺される」のようなふつうの受身と「雨に降られる」のような間接（迷惑）受身は同じものか、日本語の自由な語順はどのようにして生まれるのか、など。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Tsujimura, N. (ed.) (1999) *The Handbook of Japanese Linguistics*, Blackwell, Oxford. （プリント配布）	期末試験、出席、授業参加を総合的に評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （日本語学・対照言語学） 英語専門講読 b（日本語学・対照言語学）	担当者	担当者未定

講義目的、講義概要	授業計画
外国人に日本語を教える機会があると、私たちは日本語のことをよく知らないことに改めて気づかされます。私たちが外国語を使いこなせるようになるためには、日本語について理解する必要があるでしょう。 この授業では、英語で書かれた日本語学に関する入門書を読みながら、日本語について考えます。日本語と英語の共通点・相違点を知り、日本語の特徴を理解するとともに、それらの特徴を説明するために、言語学ではどのような分析がなされ、その分析にはどのような問題点があるかを概観します。同時に、英語の論文を読むために必要な実践的な読解力を養成します。受講者には予習した部分について質疑・発表してもらい、問題点について議論する形式となります。 秋学期は、おもに形態論・意味論に関するトピックを取り上げます。 日本語学はもちろん、英語学、言語学、異文化理解等に関心のある学生の参加を期待します。	1．イントロダクション 2．語形成 (1) 3．語形成 (2) 4．語形成 (3) 5．語形成 (4) 6．語彙意味論 (1) 7．語彙意味論 (2) 8．語彙意味論 (3) 9．テンスとアスペクト (1) 10. テンスとアスペクト (2) 11. テンスとアスペクト (3) 12. 数量詞と wh-構文 (1) 13. 数量詞と wh-構文 (2) 14. 数量詞と wh-構文 (3) 15. まとめ おもな内容は、「飛び出す」のような複合動詞はどのように作られるのか、英語 break／日本語「壊れる・壊す」のような使役交替にはどんな特徴があるか、日本語の「～た」は過去なのか完了なのか、英語の wh-句は文頭に移動するが日本語の疑問詞は移動するのか、など。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Tsujimura, N. (ed.) (1999) *The Handbook of Japanese Linguistics*, Blackwell, Oxford. （プリント配布）	期末試験、出席、授業参加を総合的に評価します。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （現代イギリス小説） 英語専門講読 a（現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、英国の作家ジョージ･オーエルの小説　*Nineteen Eighty-four*（1948 年作品）を読む。 ここで描かれているのは、ビッグ･ブラザーと呼ばれる独裁者が君臨する極度に非人間的な全体主義的管理社会である。世界は３つの超大国によって分割され、いつ終わるとも知れない戦争が続いている。人々の私生活は細部まで当局に監視され、思想は管理され、愛情を持つことすら禁止されている。歴史は権力者の都合に合わせて常に改ざんされ続ける。当局に背いた者は拷問により洗脳された後に、公衆の面前で自らの罪を告白したうえで処刑される。 人間の肉体的精神的自由を否定し過去も未来も自在にコントロールしようとする権力の出現に対してオーエルが鳴らした警鐘は決して今でも色あせていない。オーエルを読み解くキーワードは、「人間らしさ(“decency”)」である。この２０世紀を代表する問題作を読みながら、「人間らしく」あるとはどういうことかを考えたい。	毎回、講読を行う。講読の実際のやり方、進度については、参加者の様子をみて決定、調整する。折をみて、映画化された作品も授業内で紹介したい。学期末にレポートを課す。
テキスト、参考文献	**評価方法**
George Orwell *Nineteen Eighty-four* Penguin	出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （現代イギリス小説） 英語専門講読 b（現代イギリス小説）	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の続き。	春学期の続き。
テキスト、参考文献	**評価方法**
George Orwell *Nineteen Eighty-four* Penguin	出席、授業参加、課題の内容などから総合的に評価する。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（戦後国際政治史） 英語専門講読 a（戦後国際政治史）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。 毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてもらうので、予習が不可欠となる。なお授業終了後には、英文和訳や内容確認の小テストを毎週行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。 テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。自信のない学生には、永野が担当する「国際関係特殊講義」（春学期、木曜 2 限）の受講を勧める。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも 5 ページ分は読んでおくこと。**テキスト（もしくはコピー）を持参していないものの受講は認めない**。	1．　この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第 1 週） 2．　各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第 2～第 15 週）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert J. McMahon, *Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2003.	評価は次の 3 点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③小テスト（35%）。欠席が 4 回になった時点で不可。遅刻は 2 回で欠席とみなす。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（戦後国際政治史） 英語専門講読 b（戦後国際政治史）	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、第二次世界大戦後の国際関係に関する英語文献を読むことを通じて、国際関係に関する知識を習得することを目指す。 毎回の授業では、パラグラフごとに内容を確認しながら進めていく。出席者にはパラグラフの要約、ならびに教員からの質問に答えてらうので、予習が不可欠になる。なお授業終了後には、和文英訳の小テストを毎週行う。 使用するテキストは図書館に所蔵しているが、授業指定図書となるため館外貸し出しは不可。各自コピーするか、アマゾンなどで購入せよ。 テキストの英文は平易であるが、国際関係論についての基礎知識がないと読み進めることはできないし、教員の説明を聞いても理解できないだろう。特に 2 年生は要注意。 ＊なお、第一回目から授業を開始するので、少なくとも 5 ページ分は読んでおくこと。**テキスト（もしくはコピー）を持参していないものの受講は認めない**。	1．　この授業の進め方に関するオリエンテーション、ならびに授業開始（第 1 週） 2．　各章、各セクション、各パラグラフの内容確認（第 2～第 15 週）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert J. McMahon, *Cold War: A Very Short Introduction*, Oxford: Oxford University Press, 2003.	評価は次の 3 点による。①出欠(35%)、②授業の参加度・貢献度(30%)、③小テスト（35%）。欠席が 4 回になった時点で不可。遅刻は 2 回で欠席とみなす。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （インタビューやニュースのスクリプトを読む） 英語専門講読 a（インタビューやニュースのスクリプトを読む）	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
読んで理解できない英語は、当然、聴いても理解できない。ただこのことは、往々にして忘れられがちである。 当講座は、英会話以上の英語（スピーチ・レクチャー・インタビューetc）を聴いて理解できるようにするためにはどうしたらよいのか、そのスキルを会得するためのものである。このため、授業では、さまざまなジャンルのスクリプトを使って、聴解力アップのためのいろいろな読み方を体験してもらう。 なお、授業の３分の１以上を欠席した場合、単位は認められない。	聴解能力には、読解能力だけでなく、スピードもまた重要となってくる。そこで、学生には、文頭からの読み、予測読み、速読など（英語を聴いて理解するための読みの技術）を教えていきたい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回ごとにスクリプトのプリントを使用	出席、平常授業での評価による

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（インタビューやニュースのスクリプトを読む） 英語専門講読 b（インタビューやニュースのスクリプトを読む）	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上
テキスト、参考文献	**評価方法**
毎回ごとにスクリプトのプリントを使用	出席、平常授業での評価による

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （SLA 実証研究論文） 英語専門講読 a（SLA 実証研究論文）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 第二言語習得(SLA: second language acquisition)研究の中の，特に「実証的研究」を扱う英語論文を講読する．それにより，SLA に関する知識を得るとともに，研究論文で用いられる英語表現を知ることを目的とする．加えて，複雑ではあっても論理的な研究デザインを読み解くために繰り返し対象論文を読み，ロジカルな思考の訓練，さらなる英語力増強をも目指していく． [概要] 「人間はどのようにして自分の母語以外の言語（第二言語）を身に付けていくのか？」ということは，自身英語学習者であるわれわれにとって非常に身近なテーマである．また，より良い英語学習法・教育法を追い求めるなかで，教師や研究者たちはさまざまな「実証研究」を行っている．たとえば，「A という教え方と B という教え方のどちらが効果的なのか？」，「日本人の英語語彙力を正確に測るテストはどのように作ったらよいのか？」といったものである．本授業では，そのような実証研究論文を講読する．さらに，それらの研究結果，方法論について批評・議論も行う．	1. 【ガイダンス】，実証研究とは何か 2. 実証研究論文の一例 3. 論文（1）：内容理解の確認 4. 論文（1）：内容理解の確認 5. 論文（1）：ディスカッション 6. 論文（2）：内容理解の確認 7. 論文（2）：内容理解の確認 8. 論文（2）：ディスカッション 9. 論文（3）：内容理解の確認 10. 論文（3）：内容理解の確認 11. 論文（3）：ディスカッション 12. 論文（4）：内容理解の確認 13. 論文（4）：内容理解の確認 14. 論文（4）：ディスカッション 15. 【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本国内で出版された，日本人英語学習について取り扱った英語論文．その都度コピーを配布する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する． 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める．

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （SLA 実証研究論文） 英語専門講読 b（SLA 実証研究論文）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 春学期同様，SLA 研究の中の，特に「実証的研究」を行う研究論文を講読する． 秋学期は，より広い視野をもって SLA 研究を考えること，より洗練されかつ高度な英語を読むことを目指し，海外で出版された論文を講読する． [概要] 1）論文を読み，その内容について理解の確認を行う 2）その研究結果，方法論について批評・議論を行う 3）議論をもとに，より良い研究方法を提案する 秋学期はディスカッションを英語で行う．	1. 【ガイダンス】 2. 論文（1）：内容理解の確認 3. 論文（1）：内容理解の確認 4. 論文（1）：内容理解の確認 5. 論文（1）：ディスカッション 6. 論文（2）：内容理解の確認 7. 論文（2）：内容理解の確認 8. 論文（2）：内容理解の確認 9. 論文（2）：ディスカッション 10. 論文（3）：内容理解の確認 11. 論文（3）：内容理解の確認 12. 論文（3）：内容理解の確認 13. 論文（3）：ディスカッション 14. 最終レポート練習 15. 【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
日本国外で出版された，第二言語学習について取り扱った英語論文．その都度コピーを配布する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する． 欠席の場合は次回授業で特別課題の提出・発表を求める．

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（アメリカ現代詩を読む） 英語専門講読 a（アメリカ現代詩を読む）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダーの詩集『斧の柄』(*Axe Handles*, 1983) は、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論の形式で行い、レポートを提出してもらいます。 ヴィデオ映像やＣＤを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を、またレポートの書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html を参照ください。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。 付記： ２０１１年１０月２９日にスナイダーが来日し、谷川俊太郎とのポエトリー・リーディングが予定されています。	1. An introduction 2. “Axe Handles” & “For/From Lew” 3. “River in the Valley” & “Among” 4. “On Top” & “Berry Territory” 5. “Bows to Drouth” 6. “The Cool Around the Fire” & Changing Diapers” 7. “Beating the Average” & “Painting the North San Juan School” & “All in the Family” 8. “Fence Posts” & “So Old” 9. “Look Back” & “Soy Sauce” 10. “Beetle Trails” & “Walking Through Myoshin-ji” 11. “Fishing Catching Nothing” & “At the Ibaru Family Tomb” 12. “Strategic Air Command” & “Eastward Across Texas” 13. “Working on the ’58 Willys Pickup” & “Getting in the Wood” 14. “True Night” 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Gary Snyder, *Axe Handles*. Washington D. C.: Shoemaker & Hoard, 2005.　ISBN:1-59376-057-4 <amazon.co.jp>などで各自購入のこと。	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（アメリカ現代詩を読む） 英語専門講読 b（アメリカ現代詩を読む）	担当者	原　成吉

講義目的、講義概要	授業計画
ゲーリー・スナイダーの詩集『斧の柄』(Axe Handles, 1983) には、現在わたしたちが直面している環境問題を含めた地球という生命体「ガイア」についての作品が収められています。スナイダーは、エコロジー、神話、仏教、自分が暮らす場所、そしてウィルダネスへの旅をとおして得てきた経験と知識をこのテキストに織り込みました。 このクラスの目的は、スナイダーの詩をとおして、ガイアで暮らすためのこれからのライフスタイルを考えることです。授業は、学生による発表・討論の形式で行い、レポートを提出してもらいます。 ヴィデオ映像やＣＤを使って「声としての詩」—poetry performance についても紹介します。スナイダーについては、 http://www.english.uiuc.edu/maps/poets/s_z/snyder/snyder.htm を、またレポート書き方については、 http://www2.dokkyo.ac.jp/~esemi010/mla/mla.html を参照ください。 最初の授業でプリゼンのペアと担当作品を決めるので必ず出席のこと。	1. “Walked Two Days in Snow” & Geese Gone Beyond” 2. “Three Deer One Coyote Running in the Snow” & White Sticky” 3. “Old Pond” & “ 24: IV: $0075, 3:30 PM” & “ I: VI: 40077” 4. “The Grand Entry” & “ Under the Sign of Toki’s” 5. “Talking Late with Governor about the Budget” & “‘He Shot Arrows . . .’” 6. “Arts Council” & “‘What Have I Learned’” 7. “A Maul for Bill and Cindy’s Wedding” & “Alaska” 8. “Dillingham, Alaska, the Willow Tree Bar” & “Removing the Plate of the Pump” 9. “Glamor” & “ Ulru Wild Fig Song” 10. “Money Goes Upstream” & “Breasts” 11. “Old Rotting Tree Trunk Down” & “ For a Fifty-Year-Old Woman in Stockholm” 12. “Old Woman Nature” 13. “The Canyon Wren” 14. “For all” 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
Gary Snyder, *Axe Handles*. Washington D. C.: Shoemaker & Hoard, 2005.　ISBN: 1-59376-057-4 <amazon.co.jp>などで各自購入のこと。	プリゼンテーションとレポート（4,000 程度の作品論）によって決めます。ただし、欠席が授業回数の 1/3 を越えた場合は評価対象とはなりません。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく） 英語専門講読ａ（スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
この著者は、スヌーピーの漫画にはキリスト教のメッセージが描かれていると、述べている。 そこで、私たち読者は、そのメッセージとはいかなるものか、読み取ってみたい。	１回目、ガイダンスとテキストコピーの配布。 ２回目以後、最終回までは、その日の事情にそって進み具合は変ってくるが、テキストを読み合わせていく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要とあれば、その都度配布。	授業への参加と試験とによる。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく） 英語専門講読ｂ（スヌーピーから聖書のメッセージを読みとく）	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	初回から最終回まで春学期と同じように英文テキストを読み合わせていく。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に準じる。	授業への参加と試験とによる。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅰ（シェイクスピアを読む） 英語専門講読 a（シェイクスピアを読む）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
シェイクスピアの悲劇 *Julius Caesar*（『ジュリアス・シーザー』）を精読しながら、シェイクスピアの詩や作劇法に触れる。シェイクスピアを原文で読むおもしろさとむずかしさを実際に経験することを目的とする。 *Julius Caesar* はシェイクスピアが書いたローマの歴史を題材とした悲劇の一つである。ローマの内乱という国家の問題、その動乱の歴史の中に生きる一人ひとりの欲望や不安、大衆心理のもろさなどが描かれている。シェイクスピアの詩の言葉を丹念に読みながら、ドラマティックなアクションと内省的な心理表現とが結びつくシェイクスピアの作劇法を理解する。 近代初期の英語の韻文に初めて触れるという人も多いと思うので、現代の日常的な英語との語義や語法の違いなどを少しずつ説明しながら読みなれていく。またイギリス俳優による音声テープを聞き、セリフを音読して、韻文の音のパターンに慣れる。作品への理解を深めるために、シェイクスピア時代の劇場や社会的背景、あるいはシェイクスピアの他の作品についても、必要に応じて説明する。	1. シェイクスピアについての概説と授業の進め方の説明 2. 精読 3. 精読 4. 精読 5. 精読 6. 精読 7. 小テスト 8. 精読 9. 精読 10. 精読 11. 精読 12. 精読 13. 精読 14. 精読 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
大修館シェイクスピア双書　*Julius Caesar*	小テスト：40% 期末テスト：60%

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（シェイクスピアを読む） 英語専門講読 b（シェイクスピアを読む）	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期「英語専門講読Ⅰ」に同じ。	1. 精読 2. 精読 3. 精読 4. 精読 5. 精読 6. 精読 7. 精読 8. 小テスト 9. 精読 10. 精読 11. 精読 12. 精読 13. 精読 14. 精読 15. 精読
テキスト、参考文献	**評価方法**
大修館シェイクスピア双書　*Julius Caesar*	小テスト：40% 期末テスト：60%

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （国際連合の組織と機能） 英語専門講読 a（国際連合の組織と機能）	担当者	光辻　克馬

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、国際連合についての文献をテキストとして、（1）国際連合について知り、（2）国際関係分野に必要な英語能力を向上させることを目指します。 履修者は、毎週テキストの指定された部分を読んでくることが求められます。講義では関連する内容について、適宜解説を加えて行きます。また、理解を深めるために、プレゼンテーションしたり、討論したりもしたいと考えています。	第 1 回： イントロダクション：国際連合＆心得解説 第 2 回-第 15 回： 履修者による報告と討論 履修者がテキストを読むことを重視します。読めるペースで講義は進めたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
MJPeterson, The UN General Assembly テキストの入手方法については初回に説明します。	出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3 以上の出席が必要です。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 II （国際連合の組織と機能） 英語専門講読 b（国際連合の組織と機能）	担当者	光辻　克馬

講義目的、講義概要	授業計画
この講義は、国際連合についての文献をテキストとして、（1）国際連合について知り、（2）国際関係分野に必要な英語能力を向上させることを目指します。 履修者は、毎週テキストの指定された部分を読んでくることが求められます。講義では関連する内容について、適宜解説を加えて行きます。また、理解を深めるために、プレゼンテーションしたり、討論したりもしたいと考えています。	第 1 回： イントロダクション：国際連合＆心得解説 第 2 回-第 14 回： 履修者による報告と討論 第 15 回： みんなで総括 履修者がテキストを読むことを重視します。読めるペースで講義は進めたいと思います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
ECLuck, UN Security Council: Practics and Promise など。テキストの入手方法については初回に説明します。	出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3 以上の出席が必要です。

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読 I （黒人ミステリー作品を解読する） 英語専門講読 a（黒人ミステリー作品を解読する）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
アメリカ大陸における黒人社会の概要を理解したうえで、コンテンポラリーな大衆向け小説を読んでいく。ストーリーだけでなく、そこに描かれているディテールにも注意を払い、シンボリックな表現、小道具、ささやかな事柄を分析的にみていく。 主に、授業では Walter Mosley の短編集 Six Easy Pieces を読んでいくが、途中出てくるシーンをもとに、ポピュラーカルチャーについてさまざまな視点から分析してみる。	１アメリカ大陸の黒人（１） ２アメリカ大陸の黒人（２） ３米国とカリブ海の黒人 ４ショートミステリー（１） ５ショートミステリー（２） ６ショートミステリー（３） ７ショートミステリー（４） ８Six Easy Pieces ９Six Easy Pieces １０Six Easy Pieces １１Six Easy Pieces １２Six Easy Pieces １３Six Easy Pieces １４Six Easy Pieces １５Six Easy Pieces
テキスト、参考文献	**評価方法**
Walter Mosley ”Six Easy Pieces“ 2003. Washington Square Press.	授業中の態度　50% 期末試験　50%

06 年度以降 03 年度以降	英語専門講読Ⅱ（黒人ミステリー作品を解読する） 英語専門講読 b（黒人ミステリー作品を解読する）	担当者	三吉　美加

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、ミステリー小説を読んでいく。	１Six Easy Pieces ２Six Easy Pieces ３Six Easy Pieces ４Six Easy Pieces ５Six Easy Pieces ６Six Easy Pieces ７Six Easy Pieces ８Six Easy Pieces ９Six Easy Pieces １０Six Easy Pieces １１Six Easy Pieces １２Six Easy Pieces １３Six Easy Pieces １４Six Easy Pieces １５まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
Walter Mosley ”Six Easy Pieces“ 2003. Washington Square Press.	授業中の態度　50% 期末試験　50%

06 年度以降 03 年度以降	（火３） 英語専門講読 I（「管理される心」を日本人の感性で読み解く） 英語専門講読 a（「管理される心」を日本人の感性で読み解く）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
21 世紀は「心の時代」だと言われる。米国の社会学者 Arlie Russell Hochschild は航空会社の客室乗務員に焦点をあて「感情労働」という分野を説き感情社会学の領域を拓き深めた。　人間の感情すら売買の対象となる商品として管理される社会を女性ならではの鋭い視点で捉えた。 目に見えない空気に漂う意味や価値をも読み、「気遣い」、「もてなしの心」を持つ日本人の感性からは Hochschild の問題提起をどう捉えられるだろうか。 Gender（ジェンダー、性差）の現代的意味を考察し、航空産業のサービスから見えてくる新たな社会の構築に繋がる Paradigm（パラダイム）の探求を試みる。	1 回　ガイダンス；講義の進め方 2 回　グループ分け、講義；航空におけるサービスの位置 3～7 回　感情労働を捉える Part One Private Life Exploring the Managed Heart を中心に読み解く （7 回目はグループ発表、レジュメを用意する） 8 回　講義；エアーラインから見えるホスピタリティ 9～13 回　感情表現の虚と実 Managing Feeling を中心に読み解く （13 回目はグループ発表、レジュメを用意する） 14 回　講義；日本人から見る感情労働 15 回　個人発表（夫々の到達点）、全体のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
Arlie Russell Hochschild, *Managed Heart – Commercialization of Human Feeling* (University of California Press) 参考図書： Le Petit Prince (The Little Prince)他、講義の中で紹介する	出席、発表、授業への参画（５０%）、期末レポート（５０%）

06 年度以降 03 年度以降	（火３） 英語専門講読Ⅱ（「管理される心」を日本人の感性で読み解く） 英語専門講読 b（「管理される心」を日本人の感性で読み解く）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の考察を踏まえ、ジェンダーの現代的意味、次世代への架け橋となる「ホスピタリティ」の探求にも注力する。	1 回　講義の進め方、新グループ作り 2 回　講義；規制緩和とエアーラインのサービス競争 3～7 回 客室乗務員への道と訓練 Part Two Public Life Feeling Management を中心に読み解く （7 回目はグループ発表、レジュメを用意する） 8 回　講義；ジェンダー（性差）の発掘 9～13 回　客室乗務員の感情労働 Jobs and Emotional Labor Gender, Status, and Feeling を中心に読み解く 14 回　講義；日本人の感性がリードする社会 15 回　個人発表（夫々の到達点）、全体のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
Arlie Russell Hochschild, *Managed Heart – Commercialization of Human Feeling* (University of California Press) 参考図書：Le Petit Prince (The Little Prince)他、講義の中で紹介する	出席、発表、授業への参画（５０%）、期末レポート（５０%）

06 年度以降 03 年度以降	（木３） 英語専門講読Ｉ（オープンスカイと北東アジア共通航空市場） 英語専門講読 a（オープンスカイと北東アジア共通航空市場）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
今、日本の航空が激動の時期を向かえているのは誰の目にも分かる。どういういきさつの下でこうなったのか。そして今後どうなるのであろうか、否、どうすべきであろうか。 ・国際民間航空の枠組みは、第二次大戦中に、米国が中心となり連合国の国々によって作られ、今も世界を規制している。　他方、この航空の世界的な枠組みである「シカゴ・バミューダ体制」の生みの親の一方である米国はこの枠組みを脱し二国間でのオープンスカイを世界に拡め、又もう一方の親であるＥＵは 27 カ国でバリヤー・フリーの航空圏を作った。世界の空は規制のないオープンスカイに向けて大きく舵を切り始めたのである。 ・日本は伝統的な「シカゴ・バミューダ体制」の枠を脱しきれず、近隣諸国（韓国、中国など）との連携もなく一国主義の枠からも出ることがない。 ・講義計画に掲げるテキストを使用し、世界の空を規制する現行の枠組み、ＥＵ－ＵＳの新たな空への動き、日中韓、北東アジアの空のこれからを読み解く。 日本の「おもてなしの心」に発し、アジアで共有する「ホスピタリティ」が土台となる「東アジア共通航空市場」（仮称）の姿を考える。	1 回　オリエンテーション；講義の進め方 2 回　グループ分けと講義（シカゴ・バミューダ体制の基礎） 3～7 回　シカゴ・バミューダ体制を読み解く （7 回はグループ発表、レジュメを用意する） 8 回　講義；現行「シカゴ・バミューダ体制」の問題 9～13 回　現行体制の問題を読み解く （13 回はグループ発表、レジュメを用意する） 14 回　講義；世界の空の問題とＥＵで起きていること 15 回　まとめ、個人発表 テキスト ①“Chicago Regime Research Committee Report” by Japan International Transport Institute ②“The US-EU Agreement-A Path to a Global Aviation Agreement”　Issues in Aviation Law and Policy ③“Recent developments in China’s air transport：Implications for Northeast Asia Integration” by　Professor Anming Zhang, The University of British Columbia その他欧米における関連論文を都度紹介する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
講義計画の欄に記載のテキスト。　プリント教材の形で配布する。その他、講義の中で適宜プリントを配布する。	出席、発表、授業への参画（５０%）、期末レポート（５０%）

06 年度以降 03 年度以降	（木３） 英語専門講読Ⅱ（オープンスカイと北東アジア共通航空市場） 英語専門講読 b（オープンスカイと北東アジア共通航空市場）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の読み解き、考察をベースに、「北東アジア共通航空市場構想」に力点を向ける。同構想の基礎をなす、又理念ともなるアジアの精神、「ホスピタリティ」の考察にも注力する。	1 回　講義の進め方　新グループ作り 2 回　講義；ＥＵ単一航空市場について 3～7 回　テキスト①のＣｈ３、Ｃｈ４を中心に読み解く Hospitality についての議論を深める （7 回はグループ発表、レジュメを用意する） 8 回　講義；ＵＳ，ＥＵの戦略、ASEAN の動き 「日本から発信するホスピタリティ」について 9～13 回　テキスト②、③を読み解く （13 回はグループ発表、レジュメを用意する） 14 回　個人発表　北東アジア共通航空市場構想について 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ	出席、発表、授業への参画（５０%）、期末レポート（５０%）

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	D．H．ケネディ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-semester course to improve students' ability to write academic essays in English. Students will learn how to focus a topic, develop a thesis statement, collect and synthesize data, cite sources, and organize a clear and persuasive academic essay. The instructor will lead students step by step through the academic writing process, providing feedback along the way, toward multiple drafts of a 1,000 to 1,300-word final essay. Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback. Students are expected to spend lots of time for assignments outside class, and to be prepared, attentive, and active during class hours.	Tentative schedule: 1. Course introduction 2. Choosing and focusing a topic 3. Research skills 4. Writing a thesis statement and outline 5. Revising the thesis statement and outline 6. Writing the first draft 7. Revising organization: introduction, body, conclusion 8. Revising details: support, accuracy, and logic 9. Avoiding plagiarism: citing and quoting sources 10. Writing the second draft 11. Peer evaluation 12. Common problems with punctuation, grammar, and vocabulary 13. Editing for clarity and conciseness 14. Sharing final drafts 15. Feedback and comments
テキスト、参考文献	**評価方法**
Basic Steps to Writing Research Papers, by David E. Kluge and Matthew A. Taylor. 2007, Cengage Learning. ISBN 978-4-902902-89-1 (¥2,300)	Students will be graded according to their preparation outside class, participation in class, and the progress and quality of their academic essay.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	D．H．ケネディ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a one-semester course to improve students' ability to write academic essays in English. Students will learn how to focus a topic, develop a thesis statement, collect and synthesize data, cite sources, and organize a clear and persuasive academic essay. The instructor will lead students step by step through the academic writing process, providing feedback along the way, toward multiple drafts of a 1,000 to 1,300-word final essay. Class time will include lectures, brainstorming, discussion, short writing activities, and feedback. Students are expected to spend lots of time for assignments outside class, and to be prepared, attentive, and active during class hours.	Tentative schedule: 1. Course introduction 2. Choosing and focusing a topic 3. Research skills 4. Writing a thesis statement and outline 5. Revising the thesis statement and outline 6. Writing the first draft 7. Revising organization: introduction, body, conclusion 8. Revising details: support, accuracy, and logic 9. Avoiding plagiarism: citing and quoting sources 10. Writing the second draft 11. Peer evaluation 12. Common problems with punctuation, grammar, and vocabulary 13. Editing for clarity and conciseness 14. Sharing final drafts 15. Feedback and comments
テキスト、参考文献	**評価方法**
Basic Steps to Writing Research Papers, by David E. Kluge and Matthew A. Taylor. 2007, Cengage Learning. ISBN 978-4-902902-89-1 (¥2,300)	Students will be graded according to their preparation outside class, participation in class, and the progress and quality of their academic essay.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and Narrowing a Topic Week 3 The Five-Paragraph Essay Week 4 The Five-Paragraph Essay Week 5 Process Analysis Essays Week 6 Process Analysis Essays Week 7 Cause and Effect Essays Week 8 Cause and Effect Essays Week 9 Argumentative Essays Week 10 Argumentative Essays Week 11 Classification Essays Week 12 Classification Essays Week 13 Reaction Essays Week 14 Reaction Essays Week 15 Timed Essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
Effective Academic Writing 3, by Jason Davis and Rhonda Liss, published by Oxford University Press.	Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to refine students' ability to write academic essays. We will work on reviewing and expanding the skills acquired in the Basic Essay Writing course.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Selecting and Narrowing a Topic Week 3 The Five-Paragraph Essay Week 4 The Five-Paragraph Essay Week 5 Process Analysis Essays Week 6 Process Analysis Essays Week 7 Cause and Effect Essays Week 8 Cause and Effect Essays Week 9 Argumentative Essays Week 10 Argumentative Essays Week 11 Classification Essays Week 12 Classification Essays Week 13 Reaction Essays Week 14 Reaction Essays Week 15 Timed Essay
テキスト、参考文献	**評価方法**
Effective Academic Writing 3, by Jason Davis and Rhonda Liss, published by Oxford University Press.	Grades will be based on class participation (25%), homework writing activities (25%), final essay assignment (25%) and final timed essay (25%).

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing（火１） 英語エッセイ・ライティング a（火１）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
Learning to write in a foreign language takes time and effort, but it is very satisfying to be able to communicate your ideas in writing. The purpose of this course is to refine the skills acquired in the Basic Essay Writing course. Each student has a different level of skill in writing, but the only way to improve writing skills is to write. The course will introduce and give practice in collecting, organizing and presenting information in a written format in an academic environment. There will be a number of short assignments that students are encourage to resubmit after receiving feedback and one short final paper.	1. Introduction to the course 2. Review of writing basics 1 3. Review of writing basics 2 4. Critical reading 5. Summary skills 1 6. Summary skills 2 7. Book reports 8. Academic vocabulary 9. Choosing a topic - Outlining 10. Academic patterns 11. Citations and references 12. Introductions and conclusions 13. Checking the first draft 14. Sharing the final product 15. Final paper submission and wrap up This syllabus may be modified to better suit student needs
テキスト、参考文献	**評価方法**
All materials will be provided by the instructor Dictionaries will be discussed on the first day	Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing（火１） 英語エッセイ・ライティング b（火１）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to further refine academic writing skills. The more students practice, the more enjoyable writing will become. There will be a number of short class assignments designed to reinforce class content and to give students detailed feedback from the instructor. Students are encouraged to resubmit these assignments because it is common practice in academic writing to revise drafts before final submission. Students will also write one short paper on a topic of their choice.	1. Introduction to the course 2. Writing workshop 1 3. Writing workshop 2 4. Library research skills 5. Avoiding plagiarism 1 – summary and paraphrase 6. Topics, outlines and academic writing patterns 7. Topics, outlines and academic writing patterns 8. Avoiding plagiarism 2 – citations and references 9 Topics, outlines and academic writing patterns 10. Topics, outlines and academic writing patterns 11. Topics for the final paper 12. Questionnaires, graphs and tables 13. Checking the first draft 14. Sharing the final product 15. Final paper submission and wrap up This syllabus may be modified to better suit student needs
テキスト、参考文献	**評価方法**
All materials will be provided by the instructor Discussion of references	Attendance, preparation and participation in class 35%; Assignments and final paper 65%

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing（火２） 英語エッセイ・ライティング a（火２）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a designed to build on the writing skills acquired in the Basic Essay Writing course and to help students produce short but more academic pieces of writing. In this semester we will look again at the different types of essays that students can write, such as description, comparing and contrasting, or expressing and supporting opinions in English. We will look at how to gather information and ideas before writing and students will write a number of short assignments on different topics. At the end of the semester students will submit three revised essays as a final portfolio.	1. Introduction to the course 2. Review of academic writing basics 1 3. Review of academic writing basics 2 4. When do we need description, process and narrative? 5. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 6. How to support an opinion 7. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 8. Comparison and contrast in academic writing 9. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 10. Problem solving 11. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 12. Writing workshop – editing and rewriting 13. Writing workshop – common errors 14. Writing workshop – acquiring academic vocabulary 15. Portfolio submission and wrap up The content of this course may change slightly to suit the needs of the students.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Prints will be supplied by the instructor Reference materials will be discussed on the first day of Class.	In class participation 35%; Portfolio 65%

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing（火２） 英語エッセイ・ライティング b（火２）	担当者	Ｅ．Ｊ．ナオウミ

講義目的、講義概要	授業計画
This course is a designed to build on the writing skills acquired in the Basic Essay Writing course and to help students produce short but more academic pieces of writing. In this semester we will look again at the different types of essays that students can write, such as description, comparing and contrasting, or expressing and supporting opinions in English. We will look at how to gather information and ideas before writing and students will write a number of short assignments on different topics. At the end of the semester students will submit three revised essays as a final portfolio.	1. Introduction to the course 2. Review of academic writing basics 1 3. Review of academic writing basics 2 4. When do we need description, process and narrative? 5. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 6. How to support an opinion 7. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 8. Comparison and contrast in academic writing 9. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 10. Problem solving 11. Brainstorming, topic narrowing and essay outline 12. Writing workshop – editing and rewriting 13. Writing workshop – common errors 14. Writing workshop – acquiring academic vocabulary 15. Portfolio submission and wrap up The content of this course may change slightly to suit the needs of the students..
テキスト、参考文献	**評価方法**
Prints will be supplied by the instructor Reference materials will be discussed on the first day of Class.	In class participation 35%; Portfolio 65%

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve and refine academic writing skills. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills. Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement, in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life. Students will evaluate basic writing structures, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, Etymology and referencing in order to synthesize information to produce clear and coherent discourse.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start writing topic # 1 Week 2: Writing Topic # 2 Week 3: Writing Topic # 3 Week 4: Writing Topic # 4 Week 5: Writing Topic # 5 Week 6: Writing Topic # 6 Week 7: Quiz Week 8: Writing Topic # 7 Week 9: Writing Topic # 8 Week 10: Writing Topic # 9 Week 11: Writing Topic # 10 Week 12: Writing Topic # 11 Week 13: Writing Topic # 12 Week 14: Writing Topic # 13 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.	Attendance, weekly exercises, quizzes, participation, class writing activities and writing of a number of papers.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	E．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to improve and refine academic writing skills. Most importantly, we hope to have fun improving our writing skills. Students will complete weekly classroom activities, working on self-expression and looking for self-improvement, in order to help build the confidence and knowledge necessary for academic life. Students will evaluate basic writing structures, writing techniques, analyze and review writing models, summarize articles, proof writing techniques, Etymology and referencing in order to synthesize information to produce clear and coherent discourse.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start writing topic # 1 Week 2: Writing Topic # 2 Week 3: Writing Topic # 3 Week 4: Writing Topic # 4 Week 5: Writing Topic # 5 Week 6: Writing Topic # 6 Week 7: Quiz Week 8: Writing Topic # 7 Week 9: Writing Topic # 8 Week 10: Writing Topic # 9 Week 11: Writing Topic # 10 Week 12: Writing Topic # 11 Week 13: Writing Topic # 12 Week 14: Writing Topic # 13 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Notes and handouts will be provided every week. (Optional Text) Hogue & Oshima, Writing Academic English Level 4, 4th Edition, Pearson Education.	Attendance, weekly exercises, quizzes, participation, class writing activities and writing of a number of papers.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
As the saying goes, "Writing is thinking." Competence in academic writing promotes clarity and precision, and enables you to present your ideas logically and persuasively. It invites you to broaden your perspectives and deepen your understanding of the issues underlying your subject. Developing your academic writing skills takes time and practice, but it's worth the effort as these skills can be applied to other forms of communication. The prerequisite for this course is Basic Essay Writing. After a review of academic paragraph structure and the five-paragraph essay, you will undertake a longer piece of writing, a 1000-word essay. You will begin by collecting ideas and background information and developing perspectives on your chosen subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers. Finally, you will write at least two drafts of your extended essay, revising as appropriate. Outside sources will be noted and duly cited. You will not only be writing extended essays, but you will also do writing practices and exercises from the textbook. You will also analyze models of writing—successful essays that illustrate the fine-tuned integration of form and function. (N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)	1. Orientation 2. Paragraph structure (Chapt 1) 3. Unity and coherence (Chapt 2) 4. Supporting Details (Chapt 3) 5. From paragraph to essay (Chapt 4) 6. The process of academic writing (Appendix A) 7. The extended essay—Chronological order (Chapt 5) 8. Gathering ideas and background information 9. Developing an outline; thesis statement 10. First draft of extended essay due 11. Research and documentation of sources (Appendix E) 12. Revision 13. Revision 14. Revision 15. Final draft of extended essay due
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writing Academic English (4th Edition). 2006. Alice Oshima & Ann Hogue. Pearson Education.	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises and written homework, and their essays.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
As the saying goes, "Writing is thinking." Competence in academic writing promotes clarity and precision, and enables you to present your ideas logically and persuasively. It invites you to broaden your perspectives and deepen your understanding of the issues underlying your subject. Developing your academic writing skills takes time and practice, but it's worth the effort as these skills can be applied to other forms of communication. The prerequisite for this course is Basic Essay Writing. After a review of academic paragraph structure and the five-paragraph essay, you will undertake a longer piece of writing, a 1000-word essay. You will begin by collecting ideas and background information and developing perspectives on your chosen subject. You will prepare a detailed outline and have it evaluated by your peers. Finally, you will write at least two drafts of your extended essay, revising as appropriate. Outside sources will be noted and duly cited. You will not only be writing extended essays, but you will also do writing practices and exercises from the textbook. You will also analyze models of writing—successful essays that illustrate the fine-tuned integration of form and function. (N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)	1. Orientation 2. Paragraph structure (Chapt 1) 3. Unity and coherence (Chapt 2) 4. Supporting Details (Chapt 3) 5. From paragraph to essay (Chapt 4) 6. The process of academic writing (Appendix A) 7. The extended essay—Cause and effect (Chapt 6) 8. Gathering ideas and background information 9. Developing an outline; thesis statement 10. First draft of extended essay due 11. Research and documentation of sources (Appendix E) 12. Revision 13. Revision 14. Revision 15. Final draft of extended essay due
テキスト、参考文献	**評価方法**
Writing Academic English (4th Edition). 2006. Alice Oshima & Ann Hogue. Pearson Education.	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises and written homework, and their essays.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	Ｊ．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.	1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. In-class diagnostic writing and Chapter 1 3. Chapter 2: Review of paragraph basics. 4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2. 5. Chapter 3. Revising and editing. 6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook. 7. Chapter 4: The five-paragraph essay. 8. The process essay. 9. The division and classification essay. 10. In-class timed division and classification essay. 11. Causes and effects essay. 12. Finish chapter 7 13. The comparison/contrast essay 14.Problem – Solution Essays 15. Final in-class essay.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Ready To Write 3* Author: Blanchard and Root Publisher :Pearson/Longman	Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays..

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	Ｊ．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will enable students to become more proficient writers by encouraging them to explore and organize their ideas in writing.	1. Orientation with explanation of grading system and student requirements. 2. In-class diagnostic writing and Chapter 1 3. Chapter 2: Review of paragraph basics. 4. Organizing paragraphs. Finish chapter 2. 5. Chapter 3. Revising and editing. 6. Quiz covering the first 3 Chapters of the textbook. 7. Chapter 4: The five-paragraph essay. 8. The process essay. 9. The division and classification essay. 10. In-class timed division and classification essay. 11. Causes and effects essay. 12. Finish chapter 7 13. The comparison/contrast essay. 14.Problem – Solution Essays 15. Final in-class essay.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Ready To Write 3* Author: Blanchard and Root Publisher: Pearson/Longman	Students will be graded on attendance, quizzes and in-class essays.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	K. フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Academic Writing course students will develop their ability to write essays that have clear academic structure, style and language. Students will have two main assignments: 1) A 600-word advantages/disadvantages essay on the same topic as their peers that needs to reflect a clear understanding of appropriate paragraph division, style of introduction, thesis statement, development of body paragraphs, and style of conclusion. 2) A 1000-word essay on an academic topic of each student's choosing that expands on previously learned writing skills, incorporates sources, and reflects ability to paraphrase and summarize material. Both assignments involve discussion, brainstorming, outlining, drafting, peer review, redrafting, editing.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Discussion of first essay topic and assigned readings 4. Brainstorming/ Outlining for first essay 5. Incorporating paraphrase, summary and quotation 6. Peer review of first draft/ Revision 7. Example presentation and narrowing essay focus 8. Presentation/ Discussion of chosen essay topics 9. Presentation/ Discussion of chosen essay topics 10. Outlining of chosen essay topics and introduction 11. Analyzing thesis statements and topic sentences 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review 15. Return of final essays/Self-reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Grades are based on attendance, writing assignments, and classroom participation.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	K. フォード

講義目的、講義概要	授業計画
In this one-semester Academic Writing course students will develop their ability to write essays that have clear academic structure, style and language. Students will have two main assignments: 1) A 600-word advantages/disadvantages essay on the same topic as their peers that needs to reflect a clear understanding of appropriate paragraph division, style of introduction, thesis statement, development of body paragraphs, and style of conclusion. 2) A 1000-word essay on an academic topic of each student's choosing that expands on previously learned writing skills, incorporates sources, and reflects ability to paraphrase and summarize material. Both assignments involve discussion, brainstorming, outlining, drafting, peer review, and redrafting.	1. Course Introduction 2. Review of essay structure/ Analyzing model essays 3. Discussion of first essay topic and assigned readings 4. Brainstorming/ Outlining for first essay 5. Incorporating paraphrase, summary and quotation 6. Peer review of first draft/ Revision 7. Example presentation and narrowing essay focus 8. Presentation/ Discussion of chosen essay topics 9. Presentation/ Discussion of chosen essay topics 10. Outlining of chosen essay topics and introduction 11. Analyzing thesis statements and topic sentences 12. Revision and editing checklists 13. Peer review of latest draft 14. Final essay submission/Course review 15. Return of final essays/Self-reflection
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook is required for this course.	Evaluation is based on attendance, writing assignments, and classroom participation.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to refine students' ability to write academic essays and to synthesize information from multiple sources to produce clear and coherent discourse　Students will have ample chances to practice drafting and re-drafting essays for academic purposes.	1. Course Introduction 2. Brainstorming and topic selection 3. Organization 4.Collecting and synthesizing information 5 Paragraph to short essay 6.Descriptive essay 7.Narrative essay 8.Opinion essay 9.Peer evaluation 10.writing final draft 11.Comparison and contrast essay 12.Paraphrasing 13.Bibliography 14 In-text citations 15.Final Examination
テキスト、参考文献	**評価方法**
The textbook is to be announced	Evaluation will be based on attendance, assignments, and final examination.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
In this course, we will strive to provide the students will the fundamentals necessary to construct a well-organized, well-structured, persuasive essay in English. The students will also be taught the basics of how to document their research. The students will be asked to write persuasive essays on topics about which they have strong opinions (complete with additional information gleaned through research). After this course, it is hoped that the students will feel confident in writing short, well-constructed essays in English.	The students will work according to their own speed on a series of essays after consultation with the instructor.
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no text for this course. All handouts will be provided by the instructor.	The students will be graded on attendance, participation and the quality of their essays.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this class is to help students develop the skill of academic writing by learning how to construct an essay. The focus will be on the organization and presentation of ideas, and the clarity and intelligibility of the English itself. The typical class will usually consist of a short lecture, followed by the presentation and analysis of a model writing. The class will be taught entirely in English. Students will be expected to use English to discuss their own writing and model essays which will be analyzed in the class. Ample opportunities will be provided for students to revise their writings and for sharing them in class with their peers. By the end of this course, students will be more competent writers and better understand the process of writing academic essays.	Week1: Course Introduction Week 2: Analyzing sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies will be provided by the instructor.	Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M．ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
Points for further consideration: ・ Students will need an English-English dictionary ・ Students will be required to have a notebook	Week1: Course Introduction Week 2: Analyzing sources Week 3: Prewriting activities Week 4: Brainstorming and narrowing the topic Week 5: Writing a thesis statement Week 6: Organizing ideas; writing task Week 7: Writing an essay outline Week 8: Revising the outline Week 9: Writing the draft Week 10: Quoting other sources; writing task Week 11: Using statistics; writing task Week 12: Revising and Editing Week 13: Final draft due Week 14: Presentations Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Photocopies will be provided by the instructor.	Students will be evaluated on their writing assignments, adherence to deadlines, attendance, and their progress in writing.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	M．フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice. Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis. One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Summarizing Week 3: Summary Workshop Week 4: Responding Week 5: Responding Week 6: Response Workshop Week 7: Textual Analysis Week 8: Textual Analysis Week 9: Textual Analysis Workshop Week 10: Comparison & Contrast Week 11: Comparison & Contrast Week 12: Comparison & Contrast Week 13: Comparison & Contrast Workshop Week 14: Final Workshop Week 15: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class, but students should bring a dictionary each week.	Grades will be based on participation and written assignments.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	M．フッド

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to introduce students of English to the fundamental skills of academic writing and to internalize those skills through extensive practice. Assuming that students have already mastered basic sentence-level clarity and paragraph writing, our unit of composition will be the essay. As we learn how to write several different types of essays for academic purposes, we will practice the macro skills of development, organization, coherence, and micro skills of diction, style, and mechanics. At all levels and at all times, we will attend to audience analysis. One of our goals is to understand the reading/writing connection, using the writing of others as both sources for our own writing and as models of both good and bad writing. We will proceed to peer review activities, in which classmates help each other identify strengths and weaknesses. The ultimate goal is to create independent, self-critical writers. ATTENDANCE and PARTICIPATION are crucial to your success in this class. Students are expected to be ON TIME for class and use ENGLISH ONLY for discussion.	Week 1: Course Introduction & Discussion Week 2: Cause & Effect Week 3: Cause & Effect Week 4: Cause & Effect Workshop Week 5: Cause & Effect Workshop Week 6: Research Skills Week 7: Documentation & Plagiarism Week 8: Evaluating Sources Week 9: Problem Solving Week 10: Problem Solving Week 11: Problem Solving Week 12: Problem Solving Workshop Week 13: Problem Solving Workshop Week 14: Review Week 15: Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no text for this class, but students should bring a dictionary to class each week.	Grades will be determined based on participation and written assignments.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	P．ドーレ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of the 1st semester is to revise and improve the basic skills that the students already have. Various topics and exercises will be used during the semester to introduce basic academic writing skills. Students will be involved in peer evaluation and read each others writing and offer constructive feedback. Students thinking about this course should be prepared to share ideas and work together as a group with a common goal - making learning as interesting and as enjoyable as possible by taking their work seriously and meeting the challenge.	Week 1: Course Introduction, Overview, Getting to know you. Weeks 2-14: Below are topics to be covered during the semester. - Sentence structure - Conjunctions - Paragraph structure - Idea coherence - Supporting the main points of your essay - Research and documentation of sources - Other topics covered during the semester will be announced in the first class. Week 15: Revision and Final Paper
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced in the first class	Assessment details will be announced in the first class.

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This positive and active class is for students who are serious about improving their academic writing skills. The lessons will progress step by step allowing the students to improve their essay writing skills. In addition to essay writing, the class will contain many opportunities to debate and discuss important social and world issues. Students who study hard will be able to improve their writing and debating skills. In addition, it is hoped that the students will be able to increase their vocabulary levels. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English.	Below is a general outline of the course. Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Week 3 - 4, The thesis statement. Discussion topics Week 5 - 6, Writing an effective introduction. Discussion topics. Week 7 - 8, Unity in an essay. Discussion topics. Week 9 - 10, Concluding an essay. Discussion topics. Week 11 - 13, Other important points in essay writing. Discussion topics. Week 14 -15, Final assessments. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
This positive and active class is for students who are serious about improving their academic writing skills. The lessons will progress step by step allowing the students to improve their essay writing skills. In addition to essay writing, the class will contain many opportunities to debate and discuss important social and world issues. Students who study hard will be able to improve their writing and debating skills. In addition, it is hoped that the students will be able to increase their vocabulary levels. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English.	Below is a general outline of the course. Weeks 1 - 2, Introduction to the course, the teacher and students. Discussion topics. Weeks 3 - 4, The paragraph and review of short essay structure. Discussion topics. Weeks 5 - 7, Developing the 5 paragraph essay. Discussion topics. Weeks 8 - 10, Unity and coherence in an essay. Discussion topics. Weeks 11 -13, Editing your writing. Discussion topics. Week 14 -15, Final assessments. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary tests: 20%, Essay: 20%, Journal: 20%, Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%, Final assessment: 20%

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング a	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to learn to: a) write grammatically-correct English sentences; b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence); c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an ***International*** point of view; d) (depending on student abilities & desires) research and write compostions about Academic (university level) topics; and e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Writing about your part-time job. Week 2: Review/ practice of Introductions. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to* ***international*** *communication).* English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to correct English grammar and sentences.) Week 3: Writing about your (future) ***plans for Golden Week*** (including elaborating (explaining) about your plans. Week 4: ***"How was your Golden Week?"*** writing about what you did, during Golden Week. English re-writing exercises. Continuous assessments. Week 5: Finishing & re-drafting compositions about pre- and post-Golden Week activities. Continuous assessment. Week 6: Writing and explaining about your plans for **Mother's Day**. Writing about your mother...in ***English paragraph format***. Week 7: Re-drafting and completing compositions re: Mother's Day. Continuous assessment. Week 8: **Writing to express your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion and writing about News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 9: Writing to expressing your opinions, part two. Ongoing assessments. Re-writing exercises. Continuous assessment. Week 10: Writing (and talking) about your **hobbies**, with elaboration thereof. Week 11: Finalizing compositions re: hobbies (with elaboration). Optionally: *perhaps* student research/writing/discussion about a variety of themes which are of students interest, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more student-suggested topics of interest.) Continuous assessment. .Week 12: **"What kind of _____ do you like?"**: Discussing and writing about **music, movies, magazines, TV shows, books, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Week 13: International News exercise, and/or video exercise, with writing & discussion about that. Re-writing exercises. Week 14: Second drafts of composition re: current News topic and/or video. Ongoing assessment of students. Week 15: Writing, discussing, and elaborating about plans for the **Summer Break**. Final opportunity to submit final drafts of all compositions.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles; Internet research; some songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **write/speak/elaborate** (explain)**/communicate** in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 25%); class participation (20%); compositions (including several 'draft' versions) (40%); and attendance (15%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***, for ***any*** reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course* (**One late = 1/2 absence**); c) if you are late/absent, and somehow miss submiting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, *before* the deadline. *Late submissions will not be accepted.*

06 年度以降 03 年度以降	Academic Writing 英語エッセイ・ライティング b	担当者	R．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to learn to: a) write grammatically-correct English sentences; b) communicate and explain, verbally and also in written English, about a variety of International topics, using "EQ" (Emotional Intelligence); c) write English paragraphs that effectively explain/discuss a wide range of topics, from an ***International*** point of view; d) (depending on student abilities & desires) research and write compostions about Academic (university level) topics; and e) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively in English writing (and in English conversations as well).	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Discussing/communicating/writing/elaborating about your ***Summer Break***., using correct modern English. Sentence re-writing exercises. Week 2: Finishing & re-drafting the composition, re: Summer Break. Continuous assessment. Week 3: **"What do you usually do ...?"**: discussing, communicating, and writing about ***your usual activities*** on holidays/weekends/weeknights**.** English re-writing exercises (changing 'Wasei Eigo' sentences to grammatically- & cuturally-correct English sentences.) Week 4: "What do you usually do...?", part two. (A News topic of current interest might be chosen, instead, for students to write opinions about.) Perhaps selection of a research topic for an Academic essay. Ongoing assessments. Week 5: **Hallowe'en**: researching, discussing, and writing about this international 'festival'. Parts of a Hallowe'en video might be shown, to stimulate the imagination. Week 6: **"If you went to a Hallowe'en party, what would you dress up as?"**: using your imaginative abilities to write about a possible Hallowe'en costume, and about what you would do at such a party. Re-writing exercises. Week 7: Research, discussion, and writing about **Thanksgiving**. (A Song-listening exercise may be used, to stimulate discussion & writing.). Writing to answer the question, "*What are you thankful for?"* Week 8: Thanksgiving, part two: continuing to write (& re-draft) a composition about what you are thankful for. Continuous assessment. Week 9: Christmas writing & discussion--perhaps involving research about Christmas in various countries. (Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities.) Continuous assessments. Week 10: Finishing/Re-drafting Christmas compositions. Sentence re-writing exercises. Week 11:**"What are your plans for Christmas?"**: discussing and writing about student plans for Christmas.(A Christmas song exercise may be introduced, in order to stimulate thinking/discussion/writing.) Re-writing exercises. Week 12: Writing about Christmas plans, part two (final drafts re: Christmas plans). Parts of a Christmas video may be shown, in order to assist students to imagine Christmas possibilities. Continuous assessments. Week 13: Discussion & writing about **'How was your O Sho Gatsu?'**. Ongoing student assessment.. Week 14: Discussing and writing about **"New Year's Resolutions".** Continuous assessment. Week 15: Final drafts, re: *specific* New Year's Resolutions. Continuous assessment, and submission of final drafts of all compositions.
テキスト、参考文献	**評価方法**
To stimulate our writing and imagination, we may be using some videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, some songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	You will be assessed often--the 'ongoing assessment technique'. Your assessment will be based on: how well you **participate** in class; how well you **write/speak/elaborate** (explain)**/communicate** in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 25%); class participation (20%); compositions (including several 'draft' versions) (40%); and attendance (15%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes***, for ***any*** reason. Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course* (**One late = 1/2 absence**); c) if you are late/absent, and somehow miss submiting and assignment/homework, please make sure to e-mail that assignment/homework to your teacher, *before* the deadline. *Late submissions will not be accepted.*

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the first semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from English to Japanese. Particular attention will be given to common mistranslations and translation strategies. The materials used will mainly include poems (by Robert Frost, et al.), novels (Mark Twain's "Huckleberry Finn," etc.) newspaper and magazine articles (mainly from Newsweek and Newsweek Japan), along with Western movies (Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	1.1 Introduction 1.2 Document #1 1.3 Document #2 1.4 Document #3 1.5 Document #4 1.6 Document #5 1.7 Document #6 1.8 Document #7 1.9 Document #8 1.10 Document #9 1.11 Document #10 1.12 Document #11 1.13 Document #12 1.14/15 Final Examination and Self-Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Class participation 25%, Homework 25%, Final examination and self-evaluation 25%

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of the course during the second semester will be to give students the skill set to translate more effectively, focusing on translations from Japanese to English. Particular attention will be given to vocabulary nuance and word order. The materials used will include English translations of novels and essays by famous Japanese authors (including Matsuo Basho, Natsume Soseki, Yasunari Kawabata, Junichiro Tanizaki, Yukio Mishima, Shusaku Endo, Kobo Abe, Haruki Murakami, Banana Yoshimoto, et al.), along with movies based on those authors's works, and Japanese animations (looking at the English and Japanese subtitles). The format of the course will consist of lectures presenting the material chosen for the week, with students expected to do translations in class. Students will also be expected to compare and discuss their translations with each other in class. Homework will include trial translations, and a final essay examination will be given to test students' knowledge of what was learned in class, along with a self-evaluation. It is not necessary to take this class both semesters, though preference in student selection will be given to those students planning on doing so.	2.1 Introduction, Student Selection 2.2 Author #1 2.3 Author #2 2.4 Author #3 2.5 Author #4 2.6 Author #5 2.7 Author #6 2.8 Author #7 2.9 Author #8 2.10 Author #9 2.11 Author #10 2.12 Author #11 2.13 Author #12 2.14/15 Final Examination and Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Class participation 25%, Homework 25%, Final examination and self-evaluation 25%

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
このクラスでは、英語から日本語への翻訳を扱います。翻訳の基礎は、翻訳する対象が何であれ同じ。いわゆる業務文書も、報道文も、文学作品も、抽象度の高い評論文も、正確に原文を理解し、適切な日本語に置き換えていく、そのことにつきます。単純といえば単純なのですが、「正確な英文理解」には何が必要なのか、どうすれば「適切な日本語」に置き換えられるのか、具体的に考えていくと、いくつも解決すべき問題に出会います。問題を明瞭に意識し、効果的に翻訳力をつけるため、授業では、「英文を理解する」プロセスと「日本語で表現する」プロセスとを分かちがたいものと捉えたうえで、敢えて別々に焦点をあてて訓練を積んでいきます。またテキストの性質によっても、問題の性質は若干かわってきますので、そこにも注目していきます。また後半三分の一ではグループでミニ翻訳プロジェクトをやっていただきます。 受講生に求める英語力のレベル：*Guardian* 紙のトップ記事の英文の（文法）構造が、辞書を使って単語を調べれば理解できること。（時事的な内容が理解できなくても、文章を「翻訳」できなくてもかまいません）そこに達していない学生は、「翻訳」を勉強する前に基礎英語力をつけてください。授業内では原則として文法指導は行いません。	授業はひとつの教材について次の流れで行う。 教材の紹介（授業）→教材を読んで不明点を洗い出す＋翻訳開始（課題）→不明点を解決する（授業）→訳了＋提出（課題）→添削＋解説（授業）。 15 回の授業は以下のとおり。 1. 導入とトライアル（短い教材を対象に、上記の全プロセスの作業を行う）＋教材 1 の紹介 2～10. 教材 1 －8 までを上記のプロセスで訳了。 （第 2 回めの半分は図書館で辞書・事典の紹介を行う。適切なところで、11 回目以降のプロジェクトについての解説と下準備を行う。） 11～15. グループ・プロジェクト （邦訳されていない本を選び、一冊読了したうえで、最初の章、あるいは数頁を翻訳し、その本の書評の翻訳と、自分たちで作成した本の紹介文とともに提出。提出期限は 7 月 13 日。最終の授業で小冊子にして配布する。）
テキスト、参考文献	**評価方法**
1 回から 10 回までは、ハンドアウトおよびインターネットからのダウンロードを使用する。また、講師が実際に仕事としてやってきた業務翻訳から文学作品まで、翻訳の実際のプロセスも提示する。11 回以降のプロジェクト用には、自分が選んだ本を購入していただく。対象テキストは散文とする。辞書や参考書については、授業内で指示する。	出席 20% 教材 1～8 までの提出物の評価　50% グループ・プロジェクトの評価 30%

06 年度以降 03 年度以降	翻訳（木３） 翻訳 a（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」　(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・春学期は 50 番から 75 番を扱います。 翻訳家、通訳ガイド志望者は、併せ「翻訳(主に和文英訳)」(白川講師)「College Grammar」(府川教授)「通訳案内士の英語Ⅰ・Ⅱ」(日野教授)を計画的に受講されることをお勧めします。	1、翻訳という仕事① 2、わがイングランド 3、わがイングランド(続き) 4、わがイングランド(続き) 5、わがイングランド(続き) 6、若さと老いの感性 7、目の見える喜び 8、人間の心理 9、忘れっぽさ 10、友情論 11、幸せになるために 12、外国語を学ぶわけ 13、外国語を学ぶわけ 14、大都市混雑 15、翻訳のための文法① ＊各回、他に 1 題を扱います
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師の手作り。初回に渡します。 参考文献はありません。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳（木３） 翻訳 b（木３）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は、社会人の翻訳家志望者に実施している内容の一部をそのまま、意欲ある学生諸君に提供するものです。高級な英文エッセイを題材とします。 (1)掛かり方を示す構文分析　(2)一語一句おろそかにしない解説　(3)英文和訳での正解となる「原文に即した訳」　(4)原文と等価の日本語を目指す「モデル訳」　(5)一般的受講生の答案添削例、により、受講生は「一点の曇りなく英文を読み解く」ことができます。 英文を精読し、その理解をきちんとした日本語に置き換えてみることで、文法力・論理力・教養力・表現力が鍛えられます。翻訳家志望者のみならず、編集者・ジャーナリスト・語学教員志望者にも役立つでしょう。 また英検 1 級、通訳ガイド試験、TOEIC 高得点を狙う学生にも必須の英文読解力を涵養します。 二年(春、秋×2)かけて全 100 題を終了します。今・秋・学期は 76 番から 100 番を扱います。 翻訳家、通訳ガイド志望者は、併せ「翻訳(主に和文英訳)」(白川講師)「College Grammar」(府川教授)「通訳案内士の英語Ⅰ・Ⅱ」(日野教授)を計画的に受講されることをお勧めします。	1、翻訳という仕事② 2、幸福な人とは 3、歴史と歴史学 4、人間を人間たらしめているもの 5、イギリス文学の歩み 6、日本人の和 7、読書について 8、子どもの教育に必要なもの 9、無限について 10、シェークスピア評論 11、志の出版 12、教養人の傾向 13、無限について 14、日本人論 15、翻訳のための文法② ＊各回とも上記ほか 1 編を扱う
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は講師の手作り。初回に渡します。 参考文献はありません。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤日本語としての読みやすさ、を見ます。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳（木４） 翻訳 a（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座は初心者向きに、文法の根幹をおさらいしたあと、さまざまなジャンルの比較的やさしい英文を丁寧に読み解いてゆきます。「翻訳は日本語力の問題」といわれますが、それは原文を正確に理解した上でのこと。原文の正確な理解には、文法力だけでなく、論理力・調査力・教養力も必要です。これらを養う訓練を、翻訳を通じて行ないます。最終的には、原文と等価の読みやすい日本語をつくることを目指します。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。英語と表現力の基礎を固めたい人は、ここから入って下さい。 秋学期同時限(木 4)の、中級向けの出版翻訳クラスにつながります。	1、英語の規則　① 2、児童文学「幸福の王子」 I 3、児童文学「幸福の王子」 II 4、児童文学「ドリトル先生航海記」 I 5、児童文学「ドリトル先生航海記」 II 6、児童文学「不思議の国のアリス」 I 7、児童文学「不思議の国のアリス」 II 8、子供百科「フクロウの目」 9、子供百科「恐竜」 10、子供百科「宇宙」 11、ミュージカル「オクラホマ」 12、詩「虹の歌」 13、小説「マダム・ロゼット」 14、歴史「トロイ戦争」 15、歴史「ミノタウロス」
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳（木４） 翻訳 b（木４）	担当者	柴田　耕太郎

講義目的、講義概要	授業計画
この講座では、さまざまな分野の書籍の抜粋部分(200 ワイド程度)を精読したうえで、「商品として通用する訳文」づくりを訓練します。英文読解と表現力に自信のある学生の聴講を期待します。 木曜 3 時限の柴田講師の翻訳講座の姉妹編です。翻訳現場の厳しさを実感したい人の受講を期待します。 抽選に落ちても、単位にならなくても、他学部・他大学の学生でも、大学院生でも、もぐりの社会人でも、大学教員でも、意欲のある人は受講歓迎します。	1、英語の規則② 2、音楽「スライ・ストーン」 3、ロマンス小説「サラの冒険」 4、ロマンス小説「サラの冒険」(続き) 5、評論「日本人」 I 6、評論「日本人」 II 7、評伝「吉田寅次郎」 8、評伝「吉田寅次郎」(続き) 9、ジャック・ニコラウス自伝 10、精神世界「ミーガンの奇跡」 11、歴史「ギロチン」 12、短編小説「悲劇のはじまり」① 13、短編小説「悲劇のはじまり」② 14、短編小説「悲劇のはじまり」③ 15、短編小説「悲劇のはじまり」④
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは講師の手作り。初回時に渡します。 参考文献はありません。	期末に翻訳の試験。①文法的に正しいか　②日本語表現が正しいか　③文章の論理がとれているか　④用語の理解が正しいか　⑤よみやすい日本語か、を見ます。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　翻訳は言葉の置き換え作業ではありません。語学力・表現力・知性・感性・教養のすべてを総動員して取り組む作業です。 　このクラスでは、翻訳と英文和訳とはどのように違うのか、翻訳とは何かを学び、実践の場で役に立つ「翻訳」の基礎的なスキルを身につけます。 講義概要 　演習・名訳の解析・訳文の比較・グループ・ディスカッションや発表を通じ、さまざまな角度から翻訳の要諦を取り上げていきます。	第１回　オリエンテーション 第２回　英語と日本語の誤差　（１） 第３回　英語と日本語の誤差　（２） 第４回　翻訳とは 第５回　演習 第６回　演習 第７回　演習 第８回　演習 第９回　演習 第１０回　演習 第１１回　演習 第１２回　演習 第１３回　演習 第１４回　演習 第１５回　総括 各週に予定している内容は、必要に応じ適宜必要なテーマに差し替えることもあります。 辞書（英和・和英・英英）は毎回必ず持参してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。	出席日数、授業への参加、課題の取り組みを総合的に評価する。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	白川　貴子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　春学期に引き続き、翻訳と英文和訳とはどのように違うのか、翻訳とは何かを学び、実践の場で役に立つ「翻訳」の基礎的なスキルを身につけます。 講義概要 　秋学期は演習を主体に進めますが、詳しい内容については第１回の授業で説明します。グループ・ディスカッションや訳文の発表も行ってもらいますので、積極的に授業に参加する姿勢が求められます。	第１回　オリエンテーション 第２回～第１４回　演習 第１５回　総括 後期に取り上げる教材・進め方については、受講生の習熟度を考慮して決定します。 辞書（英和・和英・英英）は毎回必ず持参してください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。	出席日数、授業への参加、課題の取り組みを総合的に評価する。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、さまざまな分野の英文の翻訳を実践的に検討し、その可能性と問題点を明らかにします。 翻訳では、原文を的確な英語あるいは日本語に置き換える際に、目的や状況などを考慮する必要があります。また、翻訳語の字数やリズムについても工夫が求められる場合もあります。 授業では、主として文系英文および和文（新聞報道記事や雑誌記事、広告、字幕、歌詞、文芸作品）などの一部を取り上げながら、具体的に比較検討します。また、各学生の関心領域に沿った翻訳プレゼンテーションを行ってもらうことで、自分の翻訳した文章を、客観的に捉える訓練も行います。	第１回　ガイダンス 辞書について 第２回　翻訳の難しさと面白さについて 第３回　機械翻訳の可能性について 第４回　翻訳の実例比較検討 第５回　復習テスト 第６～１４回 　学生による翻訳プレゼンテーションとコメント交換 第１５回　まとめとテスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	高田　宣子

講義目的、講義概要	授業計画
翻訳言語における性別、階級、地域差、時代、民族などを考慮しながら、翻訳する際の問題点をさらに検証します。 授業では、各学生の関心分野から自由に翻訳題材を選び、各自の仮説に基づいたプレゼンテーションを行なってもらいます。また、発表内容について毎回ディスカッションを行います。 なお、後期のみ履修する学生を考慮し、初回授業はガイダンスおよび前期に行った内容についての復習とします。 また、履修者の人数および習熟度に合わせて授業内容を変更します。初回授業には必ず出席してください。	第１回　前期テストの講評および後期授業のガイダンス 第２回　日英および英日翻訳の実例検討 その１ 第３回　日英および英日翻訳の実例検討 その２ 第４～６回 　プレゼンテーションおよびディスカッション 第７回　復習テスト 第８～１４回 　プレゼンテーションおよびディスカッション 第１５回　 まとめとテスト
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント配布	コメント、プレゼンテーション、復習テストなどの合計点で決定する。なお、４回以上欠席した場合は、成績評価の対象としない

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本文に翻訳します。日本語の特徴を生かした自然な日本文にする訓練、研究をします。授業は下準備を必ずしておくことが不可欠です。自分の意見や解釈などを恥ずかしがらずに発表することを歓迎します。 英文を正確に読みとること、読みとった内容を適切に日本語に移しかえること、その日本語もわかりやすく読みやすいのが望ましいのです。翻訳の能力を本格的に身につけたいのなら、普段から日本語の語彙を広げること、文体というものに関心・興味を持っていないといけません。 翻訳の基礎は英語の読解力の基本がしっかりしていることです。翻訳は購読とははっきり違います。その自覚をもたずに漫然と授業を受ける学生が少なくありませんが、それではあまり身につきません。 教材には基礎的な能力養成に欠かせない語彙、文章構造を含んでいて、親しみやすいものを使います。 平常点を重視しますから遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。	最初の授業時に心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。	平常点、提出物、出席を総合評価する。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
文学作品や各種のエッセイや時事英語などを英文から日本文に翻訳します。日本語の特徴を生かした自然な日本文にする訓練、研究をします。授業は下準備を必ずしておくことが不可欠です。自分の意見や解釈などを恥ずかしがらずに発表することを歓迎します。 英文を正確に読みとること、読みとった内容を適切に日本語に移しかえること、その日本語もわかりやすく読みやすいのが望ましいのです。翻訳の能力を本格的に身につけたいのなら、普段から日本語の語彙を広げること、文体というものに関心・興味を持っていないといけません。 翻訳の基礎は英語の読解力の基本がしっかりしていることです。翻訳は購読とははっきり違います。その自覚をもたずに漫然と授業を受ける学生が少なくありませんが、それではあまり身につきません。 教材には基礎的な能力養成に欠かせない語彙、文章構造を含んでいて、親しみやすいものを使います。 平常点を重視しますから遅刻が多いようでは熱意のほどが疑われます。	最初の授業時に心構え、辞書の使い方、授業の進め方などについて話します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布する。参考文献は適宜指示する。	平常点、提出物、出席を総合評価する。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 a	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 春学期は Robert Graves 著 *Caligula* をテキストとして使用します。これは歴史大作 *I, Claudius* (1934) と *Claudius the God* (1934) から抜粋した抄本です。歴史作品でありながら平易な英語で書かれた生き生きとした描写が魅力で、会話も多いので翻訳する際に工夫のしがいがあるでしょう。 翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出していきましょう。	1. イントロダクション 2－14. 演習 15. 講義のまとめ 進度は遅いかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Robert Graves. *Caligula*. London: Penguin Books, 2005.	授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。

06 年度以降 03 年度以降	翻訳 翻訳 b	担当者	山中　章子

講義目的、講義概要	授業計画
一口に「翻訳する」といっても、単に意味の通る日本語に置き換えればよいというものではありません。英語が読めればよいというものではなく、登場人物の性格はもちろんのことその作品自体が背負っている文化的背景まで読み込まなければいけません。 秋学期は Aimee Bender 著 *Willful Creatures* をテキストとして使用します。この短編集には、日常を描いていながらどこか異次元を感じさせる作品が収められています。平易な言葉ですが翻訳しがいのある作品です。翻訳するにはまず作品と向き合うこと、つまり自分の解釈を固めてから翻訳することが求められます。その上で、自分が訳者であると同時に読者であることを忘れず、翻訳のみを読んで原作と同様の魅力を引き出す努力を怠らないように気をつけます。 授業では毎回全員から、前もって課題文（1~2 ページ）を提出してもらいます。学生訳の抜粋と、あらかじめこちらでチェックした提出課題を授業時に配布・返却するので、それを見ながら意見を出し、良い訳にするためのアイデアを出していきましょう。	1. イントロダクション 2－14. 演習 15. 講義のまとめ 進度は遅いかもしれませんが、その代わり一語一語をおろそかにせず、しつこいほど丁寧に読んでいきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
Aimee Bender. *Willful Creatures*. New York: Anchor Books, 2005.	授業内の提出課題・参加度（50%）、レポート（50%）の総合評価。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（月３） カレッジ・グラマー a（月３）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画２～６参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画７～１４参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. ガイダンス 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞Ⅰ 5. 述語動詞Ⅱ 6. 文の種類・８品詞 7. 名詞 8. 代名詞 9. 形容詞 10. 冠詞 11. 副詞・動詞 12. 助動詞 13. 接続詞 14. 前置詞 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の２／３以上の出席が必要である。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（月３） カレッジ・グラマー b（月３）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ（授業計画２～３参照）。次に、各構文について学ぶ（授業計画４～１４参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. ガイダンス 2. 時制 3. 呼応と時制の一致 4. 態 5. 不定詞 6. 分詞 7. 動名詞 8. 関係代名詞 9. 関係副詞 10. 仮定法 11. 話法（１） 12. 話法（２） 13. 比較 14. 否定 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の２／３以上の出席が必要である。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（月５） カレッジ・グラマー a（月５）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 春学期は、文の構成と文を構成する各要素について学習する。まず、文の構成について学ぶ（授業計画２～６参照）。次に、文の各要素について学ぶ（授業計画７～１４参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、秋学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、秋学期に単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. ガイダンス 2. 文 3. 主部・文型 4. 述語動詞Ⅰ 5. 述語動詞Ⅱ 6. 文の種類・８品詞 7. 名詞 8. 代名詞 9. 形容詞 10. 冠詞 11. 副詞・動詞 12. 助動詞 13. 接続詞 14. 前置詞 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト:安井稔 (1986) A Shorter Guide to English Grammar 開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の２／３以上の出席が必要である。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（月５） カレッジ・グラマー b（月５）	担当者	靭江　静

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 英文法は、「専門書を読む」、「論文を書く」、「自分の意見を表明する」、「他者の意見を聞く」ために必要な英語力の基礎である。本講義は、高等学校までに学んだ英文法の知識を踏まえながら、同時に更なる英文法の細部の知識を身につけ、総合的な英語力を養うことを目的とする。 講義概要 秋学期は、時制と構文について学習する。まず、時制について学ぶ（授業計画２～３参照）。次に、各構文について学ぶ（授業計画４～１４参照）。 この講義で学習する英文法は、総合的な英語力の基礎であると同時に英語学の基礎でもあるが、英語学の知識を講義参加の前提としない。予習を前提とした授業をし、学生の英語習熟度、学生の関心事項によって授業進度を変更することもある。 なお、春学期のカレッジグラマーでも同じ教科書を使用するが、扱う範囲が今学期と異なるので、春学期で単位取得済みの学生も今学期に履修可能とする。	1. ガイダンス 2. 時制 3. 呼応と時制の一致 4. 態 5. 不定詞 6. 分詞 7. 動名詞 8. 関係代名詞 9. 関係副詞 10. 仮定法 11. 話法（１） 12. 話法（２） 13. 比較 14. 否定 15. 講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト:安井稔 (1986) *A Shorter Guide to English Grammar* 開拓社 参考文献：安井稔 (1996)『英文法総覧（改訂版）』開拓社	出席状況、授業への貢献度、期末試験を総合して評価する。なお、単位認定のためには、全授業回数の２／３以上の出席が必要である。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。 また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・移動が関与する構文（1） 4・移動が関与する構文（2） 5・移動が関与する構文（3） 6・補部と付加部の区別（1） 7・補部と付加部の区別（2） 8・補部と付加部の区別（3） 9・条件の副詞節（1） 10・条件の副詞節（2） 11・条件の副詞節（3） 12・Be 動詞の機能（1） 13・Be 動詞の機能（2） 14・Be 動詞の機能（3） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（春学期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	出席＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	河原　宏之

講義目的、講義概要	授業計画
学校文法（School Grammar）と呼ばれる中学・高校で慣れ親しんだ英文法から更に一段高いレベルの英文法を学ぶことを目的とします。 一般的に広く認知されているに英文法の枠組から出発し、その発展型としての英文法の可能性を考察します。まず、基本例文などで馴染みの深いデータの観察から入り、これまでなされてきた英文法体系の一般化の方法を概観・検討します。それを踏まえた上で新たな視点から考察した結果、実はこれまで当然のこととして受け入れてきた英文法の在り方が実はまだまだ考察の余地があるものだということに気付かされます。 授業内容の性質上、英文法の公式を暗記したりするものではなく、英文法に興味があり、かつ深い考察力と理解力のある学生の参加が求められることを十分に留意して下さい。 また、学生側からの活発な意見交換の場にしたいとも考えていますので受身的に授業を受ける姿勢にならないことを希望します。	1・イントロダクション 2・学校文法の概観 3・解釈の曖昧性（1） 4・解釈の曖昧性（2） 5・SVOC 構文の下位区分（1） 6・SVOC 構文の下位区分（2） 7・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（1） 8・代名詞と再帰代名詞の指示解釈（2） 9・一般動詞の意味特性（1） 10・一般動詞の意味特性（2） 11・一般動詞の意味特性（3） 12・情報構造（1） 13・情報構造（2） 14・情報構造（3） 15・総復習 ※　上記内容が変更する場合もあります。 ※　初回授業は重要な解説をするので必ず出席してください。 ※　本講義（秋学期）の過去の受講経験者は登録を控えて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：初回授業にて指示します。 参考文献：『英語構文事典』大修館書店	出席＆授業参加率（30%）、試験、およびそれに順ずるもの（70%）の総合評価とします。出席は全体の 1/3 以上を欠席してしまうとその時点で単位認定不能となります。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英文法に対する理解を深めること，および，英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には，暗記の対象としてではなく，発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また，英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して，多くのものにとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 学期末に行う定期試験では，配布プリントやノートなどの持ち込みを認める予定はない。試験は論述式の予定である。	１．オリエンテーション ２．場所扱いか道具扱いか（１） ３．場所扱いか道具扱いか（２） ４．自動詞＋前置詞は他動詞か（１） ５．自動詞＋前置詞は他動詞か（２） ６．〈道具〉はいつ主語になれるか（１） ７．〈道具〉はいつ主語になれるか（２） ８．再帰代名詞の不思議（１） ９．再帰代名詞の不思議（２） １０．EAT AT は EAT とどう違うのか（１） １１．EAT AT は EAT とどう違うのか（２） １２．Mary hit John on the head.の構文（１） １３．Mary hit John on the head.の構文（２） １４．I did the book.＝「私はその本をした」？（１） １５．I did the book.＝「私はその本をした」？（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
中右実（1995-1998）「発見の英文法 連載１～７」『高校英語展望』第 8 号～第 14 号．小学館・尚学図書.	評価は定期試験期間中の試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（ただし，出席そのものが加点の対象となることはない）。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英文法に対する理解を深めること，および，英文法に対する理解の深め方を修得することである。学期末には，暗記の対象としてではなく，発見・理解の対象としての文法という見方を身につけることを目標としたい。また，英語表現とそれに対応する日本語表現の比較を通して，多くのものにとっての母語である日本語そのものに対する理解も深めたい。 学期末に行う定期試験では，配布プリントやノートなどの持ち込みを認める予定はない。試験は論述式の予定である。	１．オリエンテーション ２．「数の一致」はどのように決まるか（１） ３．「数の一致」はどのように決まるか（２） ４．絶対複数名詞 trousers の不思議（１） ５．絶対複数名詞 trousers の不思議（２） ６．何が可算名詞と質量名詞を分けるか（１） ７．何が可算名詞と質量名詞を分けるか（２） ８．何が可算名詞と質量名詞を分けるか（３） ９．秤の変遷：scales から scale への道（１） １０．秤の変遷：scales から scale への道（２） １１．なぜ in a car なのに on a bus なのか（１） １２．なぜ in a car なのに on a bus なのか（２） １３．なぜ in a car なのに on a bus なのか（３） １４．なぜ at night というのに at day とはいわないか（１） １５．なぜ at night というのに at day とはいわないか（２）
テキスト、参考文献	**評価方法**
中右実（1998-2001）「発見の英文法 連載８～２０」『高校英語展望』第 15 号～第 20 号．小学館・尚学図書.	評価は定期試験期間中の試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（ただし，出席そのものが加点の対象となることはない）。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（月 4） カレッジ・グラマー a（月 4）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. また, 英語の規則性を探求することを目的とする. **講義概要**: 英文法を学習する際に, トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である. 文全体から句, 句から語というような方式をとりながら, 春学期ではまず, 英文法の基本的な事項のうち, 文というものはどのようなものであるかを考える. 文は基本的な文, 拡張的な文, 派生的な文の三種類に分けられる. まず, 基本的な文は5文型によって説明することが可能である. 拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文であり, 重文や複文として学習する. さらに, 派生的な文の種類として, 疑問文, 感嘆文, 命令文などを学習する. 文の枠組みを捉えた上で, その構成要素である名詞, 形容詞, 冠詞, 副詞などを扱う.	1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」, 節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞, 不可算名詞, 集合名詞 9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞 10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 14. 助動詞, 助動詞の用法 15. 接続詞, 前置詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)　**参考書：安井稔**(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（月 4） カレッジ・グラマー b（月 4）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:(春学期と同じ) 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. また, 英語の規則性を探求することを目的とする. **講義概要**:(春学期の続き) 秋学期ではまず, 不定詞・分詞・動名詞を学習する. さらに, 不定詞と動詞の ing 分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する. 次に, 関係代名詞, 関係副詞を扱い, 制限的用法と非制限的用法について学習する. また, 英語において重要な時制を扱い, 英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する. さらに, 能動態と受動態について学ぶことにより、受動態の構造や意味上の特徴を学習する. 秋学期の後半では, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する. さらに, 英語の文の構成に重要な役割を果たしている仮定法, 比較表現, 否定表現の用法を学習する.	1. 不定詞 2. 分詞, 動名詞 3. 関係代名詞, 関係副詞 4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法 5. 現在完了の用法, 過去完了の用法 6. 進行形の用法 7. 能動態と受動態 8. 呼応と時制の一致 9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 10. 話法, 直接話法と間接話法 11. 比較, 原級の用法 12. 比較級の用法, 最上級の用法 13. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 14. 文の主語と情報構造, 15. 強調, 省略・挿入
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)　**参考書：安井稔**(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（金４） カレッジ・グラマー a（金４）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. また, 英語の規則性を探求することを目的とする. **講義概要**: 英文法を学習する際に, トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である. 文全体から句, 句から語というような方式をとりながら, 春学期ではまず, 英文法の基本的な事項のうち, 文というものはどのようなものであるかを考える. 文は基本的な文, 拡張的な文, 派生的な文の三種類に分けられる. まず, 基本的な文は5文型によって説明することが可能である. 拡張的な文は一つの文に二つ以上の節(主語＋述語)を含む文であり, 重文や複文として学習する. さらに, 派生的な文の種類として, 疑問文, 感嘆文, 命令文などを学習する. 文の枠組みを捉えた上で, その構成要素である名詞, 形容詞, 冠詞, 副詞などを扱う.	1. 文:主部を欠く文,「主部 + 述部」, 節・句・語 2. 主部:主部の要素と述部の要素 3. 文型:5文型, 5文型の拡張, 7文型 4. 述語動詞:述部, 述語動詞の種類, 等位叙述型, 補語 5. 述語動詞:自動詞型, 他動詞型, 他動詞型の述部 6. 文の種類:中心文型の文, 文の種類, 重文と複文 7. 文の種類:疑問文, 感嘆文, 命令文, 否定文 8. 名詞, 名詞の種類, 可算名詞, 不可算名詞, 集合名詞 9. 代名詞, 代名詞の種類, 人称代名詞, 再帰代名詞 10. 指示代名詞, 疑問代名詞, 不定代名詞 11. 形容詞, 形容詞の用法, 形容詞の語順, 数詞 12. 冠詞, 不定冠詞, 定冠詞, 無冠詞の用法 13. 副詞, 副詞の種類, 副詞の用法, 副詞の位置 14. 助動詞, 助動詞の用法 15. 接続詞, 前置詞
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)　**参考書：安井稔**(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar（金４） カレッジ・グラマー b（金４）	担当者	坂本　洋子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:(春学期と同じ) 読む・書く・話す・聞くという英語による全ての言語活動の基礎である英文法を身につけることを目的とする. また, 英語の規則性を探求することを目的とする. **講義概要**:(春学期の続き) 秋学期ではまず, 不定詞・分詞・動名詞を学習する. さらに, 不定詞と動詞の ing 分詞(いわゆる現在分詞)には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があることを学習する. 次に, 関係代名詞, 関係副詞を扱い, 制限的用法と非制限的用法について学習する. また, 英語において重要な時制を扱い, 英語において時の概念がどのように理解されているかを学習する. さらに, 能動態と受動態について学ぶことにより、受動態の構造や意味上の特徴を学習する. 秋学期の後半では, 複文に関わる現象として時制の一致や話法について学習する. さらに, 英語の文の構成に重要な役割を果たしている仮定法, 比較表現, 否定表現の用法を学習する.	1. 不定詞 2. 分詞, 動名詞 3. 関係代名詞, 関係副詞 4. 時制:現在時制の用法, 過去時制の用法 5. 現在完了の用法, 過去完了の用法 6. 進行形の用法 7. 能動態と受動態 8. 呼応と時制の一致 9. 仮定法, 直説法と仮定法, to 不定詞・前置詞・接続詞を用いた仮定表現 10. 話法, 直接話法と間接話法 11. 比較, 原級の用法 12. 比較級の用法, 最上級の用法 13. 否定, 部分否定と全体否定, 否定語の位置, 二重の否定 14. 文の主語と情報構造, 15. 強調, 省略・挿入
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar* (開拓社)　**参考書：安井稔**(1996)『英文法総覧(改訂版)』(開拓社)	出席状況, 授業における平常点, 期末試験の成績を総合して評価する. なお, 単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされる.

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的: 英文法は，英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである．文は語から構成され，複数の語が句を構成し，句が結合されて文となる．英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている．英語ができるようになるために，この授業では英文法を身に付けることを目的とする．さらに，英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し，その解説を行う． **講義概要**: 英文法を学習する際に，トップ・ダウン方式で文の構造を理解するという姿勢が重要である．文全体から句，句から語というような方式をとりながら，春学期ではまず，英文法の基本的な事項のうち，文というものはどのようなものがあるかを考える．文は基本的な文，拡張的な文，派生的な文の三種類に分けられ，基本的な文は5文型によって説明し，拡張的な文は一つの文に二つ以上の節（主語＋述語）を含む文であり，重文や複文として学習する．さらに，文の種類として，疑問文，感嘆文，命令文，受動文，時制などを学習する． 毎回の授業のために相当な分量の教科書の予習とTOEICの宿題をすることが必要です．予習と宿題を行える学生諸君の受講を強く期待します．初回のテキストは配布します．	1. 英文法の全体的構成：文型・文法 2. 文：主部を欠く文，「主部 + 述部」，節・句・語 3. 主部：主部の要素と述部の要素 4. 文型（1）：5文型 5. 文型（2）：5文型の拡張，7文型 6. 述語動詞（1）：述部，述語動詞の種類，等位叙述型，補語 7. 述語動詞（2）：自動詞型，自動詞・他動詞両用の動詞 8. 述語動詞（3）：他動詞型，他動詞型の述部 9. 文の種類（1）：文の種類，重文と複文 10. 文の種類（2）：疑問文，感嘆文 11. 文の種類（3）：命令文，否定文 12. 時制（1）：現在時制，過去時制 13. 時制（2）：現在完了形，過去完了形，進行形 14. 態：能動態と受動態の区別，受動態の用法 15. 授業内容のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社） **参考書**：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）	出席状況，予習と宿題の状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価します．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされます．

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	鈴木　英一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的:（春学期と同じ） 英文法は，英語の文の構成・内容を明らかにする仕組みである．文は語から構成され，複数の語が句を構成し，句が結合されて文となる．英文法は英語のすべての言語活動の基礎となっている．英語ができるようになるために，この授業では英文法を身に付けることを目的とする．さらに，英文法の実践的応用としてTOEICの文法問題を練習し，その解説を行う． **講義概要**: 秋学期は，文構成に関わる，呼応や時制の一致，話法，否定，強調，省略，挿入などを含む文を扱う．さらに，時制を含まない節として，不定詞・分詞・動名詞を取り上げ，不定詞と動詞のing形には名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法・動詞的用法の四つの用法があるとことを学習する．さらに，埋め込み文の一つとして関係詞節を学習する．最後に，文を構成する要素として，名詞・代名詞・形容詞・冠詞を学習する． 春・秋学期の継続履修が認められており，お勧めします．毎回の授業のために相当な分量の教科書の予習とTOEICの宿題をすることが必要です．予習と宿題を行える学生諸君の受講を強く期待します．初回のテキストは配布します．	1. 呼応と時制の一致：時制の一致，時制の一致の例外 2. 話法（1）：直接話法と間接話法 3. 話法（2）：疑問文と命令文の間接話法 4. 比較（1）：原級・比較級 5. 比較（2）：最上級 6. 否定：部分否定と全体否定，否定語の位置，二重の否定 7. 非定形節（1）：不定詞 8. 非定形節（2）：分詞，動名詞 9. 関係詞節（1）：関係代名詞節 10. 関係詞節（2）：関係副詞節 11. 名詞：名詞の種類，名詞の形，名詞の特徴 12. 代名詞：代名詞の種類，代名詞の用法 13. 形容詞：形容詞の用法，形容詞の語順，数詞 14. 冠詞：不定冠詞，定冠詞，無冠詞の用法 15. 授業内容のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：安井稔(1986) *A Shorter Guide to English Grammar*（開拓社） **参考書**：安井稔（1996）『英文法総覧（改訂版）』（開拓社）	出席状況，予習と宿題の状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価します．なお，単位の認定には授業回数の 2/3 以上の出席が必要とされます．

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の狙いは、専門学校ではなく、大学で英語を学ぶ学生として恥ずかしくない、きっちりとした語法の知識を身につけてもらうことです。そのためには「なぜそうは言えても、こうは言えないのか？」と素朴な疑問を抱くことが大切です。そうすると、次第に表面に見える英語現象を手がかりにし、水面下に潜む、ネイティブスピーカーが無意識に身につけてきた英語の感覚・イメージを探っていく習慣が身につき、結局はこの方法がもっとも効率の良い英語が学習方法である、ということがわかるようになります。この授業では、認知文法を基にしたテキストを使い、これまでの英語学習では何かすっきりしないと感じている人の素朴な疑問にできるだけ答えていきます。また、日本人と英米人の事態に対するとらえ方の違いにも言及するところがあるので、通訳案内士を目指す人にも役立つでしょう。	1. 和訳は英語をわからなくする 2. コミュニケーションに必要な文法とは？ 3. 訳すことで生ずる誤解 4. 日常語の中の比喩 5. 多義語の意味も、比喩によってつながっている 6. 続き 7. 形と意味 I （英語の基本構造） 8. a と the の使い方 9. 名詞の二つの用法 10. 時制の表現法 11. 法の概念(単純･進行･完了) 12. 過去形と丁寧表現 13. 動詞の二つの用法 14. 形と意味Ⅱ(並置) 15. 形と意味Ⅲ(倒置) ※受講希望者は、アマゾンの HP で目次などを見ておいて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
今井隆夫『イメージで捉える感覚英文法―認知文法を参照した英語学習法』開拓社 ¥1800	定期試験と課題および授業における参加度によります。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
「ドアをノックする」を英語では knock the door ではなく knock on the door ですが，ではなぜそう言うのかと問うと、「そう習ったから」としか答えない人がほとんどです。しかし、実はどうして on が必要なのかというような問い掛けこそが英語の勘を養う上でとても重要なことです。そしてこの問にたいする答（＝理屈）に「なるほど、そうなのか！」と納得することができれば、英語を学ぶことの知的好奇心を満たすことになり、それがひいては英語学習の強い動機づけにつながります。そうやって動機づけられた学習者は、「そういえば、ああいう言い方をするのも同じ理屈なのではないだろうか」という思考を通じ、ネイティブスピーカーが無意識に身につけた自然な感覚に迫るための「気づき」を持てるようになるのです。この授業では、そういった観点から、もう一度英文法を考えてみます。	1. 新しい英文法の必要性 2. BE, HAVE と進行形･受身形･完了形･アスペクト 3. GIVE と「二重目的語構文」 4. MAKE, HAVE と「使役構文」 5. BE と「第 2 文型」/ GET と「構文」の幅 6. TO と「不定詞」 7. ING と「現在分詞」「動名詞」 8. WH-と「疑問詞」「関係詞」 9. A. THE と「冠詞」の使用原理 10. IT, THAT と「形式主語(目的語)構文」 11. CAN, MAY, MUST, SHOULD と「法助動詞」 12. WILL と「未来の表現」 13. WOULD, USED TO と「過去の習慣」 14. WITH と「付帯状況」/ 前置詞と「感情表現」 15. AS と「比較」 ※受講希望者は、アマゾンの HP で目次などを見ておいて下さい。
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤芳明・田中茂範『レキシカル・グラマーへの招待』開拓社 ¥1800	定期試験と課題とおよび授業における参加度によります。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー a	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
母国語で表現したものを文字通り英語に直そうとすると英文にならないのは、誰しも経験することでしょう(英文を記して犯す間違いの 90 パーセント以上が日本語に引きずられることに関連していると思います)。ドイツ人やフランス人が英語を学ぶのと、トルコ人やモンゴル人や日本人が学ぶのとでは、方法はまるで異なるはずです(言語体系がまるで違うのですから)。私たちには文法の実践的知識が不可欠なのです。文法だけでなく、日本語と英語の発想が単語・フレーズ・文章すべてのレベルで大変違います。たとえば、今流行の聞き流すだけの学習法では I caught a cold. は容易にマスターできても I developed an ulcer は難しく、He makes a good speech は容易でも His spoken English is better than his written English(彼は英語を記すより話す方が上手)は難しいでしょう。二つの言語の発想の違いを比較する習慣を身につけるのは、必要不可欠なのです。英語を日本語にひきつけて比較するだけでなく、英語にひきつけて日本語を比較すること、その両方が運用能力向上に大変役立ちます。 授業に余裕があれば詩やエッセイの英訳にとり組んでみます。	外国語の習得はスポーツやお稽古事を身につけるのに似ていると思います。中級のレベルは初級のレベルをマスターしていないと決して身につきません。しっかりと基礎を習得していない場合、そこにたち戻って学習することが肝心なのです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　検討中	平素の小テストと平常点。

06 年度以降 03 年度以降	College Grammar カレッジ・グラマー b	担当者	藤田　永祐

講義目的、講義概要	授業計画
母国語で表現したものを文字通り英語に直そうとすると英文にならないのは、誰しも経験することでしょう(英文を記して犯す間違いの 90 パーセント以上が日本語に引きずられることに関連していると思います)。ドイツ人やフランス人が英語を学ぶのと、トルコ人やモンゴル人や日本人が学ぶのとでは、方法はまるで異なるはずです(言語体系がまるで違うのですから)。私たちには文法の実践的知識が不可欠なのです。文法だけでなく、日本語と英語の発想が単語・フレーズ・文章すべてのレベルで大変違います。たとえば、今流行の聞き流すだけの学習法では I caught a cold. は容易にマスターできても I developed an ulcer は難しく、He makes a good speech は容易でも His spoken English is better than his written English(彼は英語を記すより話す方が上手)は難しいでしょう。二つの言語の発想の違いを比較する習慣を身につけるのは、必要不可欠なのです。英語を日本語にひきつけて比較するだけでなく、英語にひきつけて日本語を比較すること、その両方が運用能力向上に大変役立ちます。 授業に余裕があれば詩やエッセイの英訳にとり組んでみます。	外国語の習得はスポーツやお稽古事を身につけるのに似ていると思います。中級のレベルは初級のレベルをマスターしていないと決して身につきません。しっかりと基礎を習得していない場合、そこにたち戻って学習することが肝心なのです。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト　検討中	平素の小テストと平常点。

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions. There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Consolidation Week 3 Giving opinions Week 4 Background introduction to the UK Week 5 Work and daily lives Week 6 Describing a place Week 7 Biographies: famous people Week 8 Biographies: famous people Week 9 Language development: conditionals Week 10 Roleplay: socializing Week 11 Language development: quiz Week 12 Listening project corrections Week 13 Listening project corrections Week 14 Review Week 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	D．ブラドリー

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to help students build their English language skills, in particular their comprehension ability. Using a variety of materials (AV, audio, text, etc.) for language development and discussion we will work to consolidate and extend listening and speaking skills and students will have the opportunity to share and present their thoughts and opinions through pairworks and group discussions. There will be a project to watch some TV clips and produce a tapescript and translation.	Week 1 Introduction to the course Week 2 Consolidation Week 3 Giving opinions Week 4 Discussion Week 5 Language development: phrasal verbs Week 6 Language and culture Week 7 Language and culture Week 8 Language development: social English Week 9 Language development: quiz Week 10 Some features of British culture Week 11 London taxi Week 12 Listening project corrections Week 13 Listening project corrections Week 14 Review Week 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
There will be no textbook. I will distribute handouts as necessary.	Grades will be based on class participation (60%) and a final assignment (40%). In particular, good attendance (75%) is a prerequisite for a final grade.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	D. マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.	Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.	Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	D. マッキャン

講義目的、講義概要	授業計画
Students on this course can expect to be given every opportunity to improve their English speaking and listening abilities, with reading and writing activities supporting this aim. The main goal will be to enable students to put structures, grammar and vocabulary they have already studied to practical use, and to develop strategies to communicate at an appropriate level in real-life situations. A variety of authentic language-learning materials will be put to use, and students will be encouraged to draw on their own day-to-day social and academic activities and interests as material for language practice. Through the use of pairing and group-based communicative activities, class members will have the chance to assist in creating a stress-free environment in which they can explore the possibilities of using English to assist their own personal, academic and professional development.	Instruction will be mainly topic-based, with emphasis on coherent development through a process-centred methodology in which students themselves play an active role in decision-making and input to course content. At the outset of the course, students will prepare a personalized introduction card which will be put to use in communicative activities throughout the semester. In addition to these interpersonal communication activities, time will be set aside in each lesson for students to use and improve their presentation, debate and group discussion skills.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials will be selected from authentic language sources, including newspapers, music and song, DVD and selected extracts from language teaching texts.	Assessment will be based on involvement, performance and attendance, with an end-of-term test designed to assess writing and speaking ability.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to improve students' communicative English in speaking and listening. The class will emphasize developing fluency for everyday speaking, improving listening comprehension, and developing effective presentation skills. Most of class time will be devoted to speaking. Students are expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Most of the listening will take place outside of class. Grades will be based on attendance and participation, listening tests, a class presentation and a speaking test at the end of the semester.	Week 1: Class orientation Week 2: Listening introduction Week 3: Small talk, family; self-introductions Week 4: Travel; interrupting Week 5: Music; natural openers and closings Week 6: Health; reported speech Week 7: Beliefs; responding naturally Week 8: Movies; inviting Week 9: Reading; speaking from notes Week 10: Presentation workshop Week 11: Presentation Week 12: Free time; pronunciation workshop Week 13: Restaurants; keeping a conversation going Week 14: Speaking test Week 15: Review and consultation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sound Bytes 2: Listening for Today's World (Pearson Longman)	20% attendance and participation 20% class presentation 40% listening tests 20% speaking test

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	Ｊ．スネール

講義目的、講義概要	授業計画
The aim of this course is to improve students' communicative English in speaking and listening. The class will emphasize developing fluency for everyday speaking, improving listening comprehension, and developing effective presentation skills. Most of class time will be devoted to speaking. Students are expected to be active and participate in a variety of speaking situations—in pairs, small groups, with the teacher, and before the class. Most of the listening will take place outside of class. Grades will be based on attendance and participation, listening tests, a class presentation and a speaking test at the end of the semester.	Week 1: Class orientation Week 2: Famous people; likes and dislikes Week 3: Comedy; telling a joke Week 4: Food; describing Japanese food Week 5: Fashion; tag questions Week 6: TV; talking about experiences Week 7: Sleep; pronunciation workshop Week 8: Work; informal vs. formal usage Week 9: Dating; describing Japanese things Week 10: Presentation workshop Week 11: Presentation Week 12: Technology and online; asking for advice Week 13: Review Week 14: Speaking test Week 15: Review and consultation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Sound Bytes 2: Listening for Today's World (Pearson Longman)	20% attendance and participation 20% class presentation 40% listening tests 20% speaking test

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（月５） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa（月５）	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may be assigned and can include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point individually and in groups depending on class size. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.	1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions 3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions 4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions 5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions 6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions 7. Mid-term 8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions 13. Final 14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews 15. Wrap-up of this semester's work. **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（水５） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa（水５）	担当者	Ｊ．Ａ．グレイ

講義目的、講義概要	授業計画
The purpose of this course is to provide students with opportunities to improve their abilities in English Communication. Students will be given opportunities to communicate with one another in English on a daily basis in order to build fluency and competence in interpersonal communication. Students will be working in groups and/or pairs in order to increase their individual communication time. Student presentations may be assigned and can include video projects using YouTube, movie maker, and/or power point individually and in groups depending on class size. Active participation by the individual is a must in order to develop confidence, improve ability, and enhance fluency in English.	1. Course Introduction / Demonstration/Assignment Choose Topics Today 2. Quiz 1 Class Presentations and Discussions 3. Quiz 2 Class Presentations and Discussions 4. Quiz 3 Class Presentations and Discussions 5. Quiz 4 Class Presentations and Discussions 6. Quiz 5 Class Presentations and Discussions 7. Mid-term 8. Quiz 6 Class Presentations and Discussions 9. Quiz 7 Class Presentations and Discussions 10. Quiz 8 Class Presentations and Discussions 11. Quiz 9 Class Presentations and Discussions 12. Quiz 10 Class Presentations and Discussions 13. Final 14. Late Assignments/Extra Credit/ Interviews 15. Wrap-up of this semester's work. **Scheduling and scoring may be changed at the instructor's discretion.**
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced	Grading: Students will be graded according to their attendance, attitude, quizzes and tests, participation, homework, special presentations, and notebook.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of the course is develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussions. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical Issues and guides them towards successful communication.	1. Introduction 2.Exchanging personal information 3.Personality Types 4.Appearances 5.Attitudes 6.Comparing experiences 7.Getting information 8. Events 9. Quiz 10. Movies 11.Music 12. Media 13.Japan 14. Globalization 15. Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation, and tests.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	K．ミーハン

講義目的、講義概要	授業計画
The objective of the course is to develop students English through meaningful discussion. This class will integrate reading, listening practice, and vocabulary building into all topic discussion. The course's integrated approach encourages students to share and compare different points of view on a wide range of topical issues and guides them towards successful communication.	1. Religions 2.Film and TV 3. Language 4 Poverty 5 War 6. Diet and nutrition 7. Green issues 8. Natural Disasters 9. Sexism 10. International Relations 11. Pax Americana 12. Leisure Time 13 Future Pans 14. Demographics 15.Test
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Grades will be based on attendance, class participation, and tests.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（月 1） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb（月 1）	担当者	L．K．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson	The weekly schedule will be provided after consultation with the class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.	Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（金１） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa（金１）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson	The weekly schedule will be provided after consultation with the class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.	Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（金１） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb（金１）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
Same as 1st semester.	Same as 1st semester.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Same as the 1st semester.	Same as the 1st semester.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（金３） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb（金３）	担当者	Ｌ．Ｋ．ハーキンス

講義目的、講義概要	授業計画
The goal of this course is to expose the class to contemporary English vocabulary, grammar and idioms, and to imbue the students with the confidence necessary to use them. This shall be accomplished through the use of film clips, from which selected portions will used to illustrate grammatical points, targeted vocabulary and idiomatic expressions. The students will also engage in discussions, both with each other and with the instructor, on topics related to the film clips and employing the language presented in the lesson	The weekly schedule will be provided after consultation with the class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text will be used for this class. All materials will be provided by the instructor.	Evaluation will consist of the following: attendance, participation, 2 tests and a presentation.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues from the textbook.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text – unit 2 continued Week 9: Discussions & text – unit 3 Week 10: Discussion & text – unit 3 continued Week 11: Discussion & text – unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text – unit 5 Week 14: Discussion & text – unit 5 continued Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues 3	Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	M. ダーリン

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this class are to improve students' confidence in using English for communication. Students will improve their speaking, listening and reading skills, mainly through small group discussion tasks. By choosing some class content, students will be encouraged to become more autonomous language learners. The typical class will consist of small group discussions. Each group will have a leader who will introduce a news article, summarize it and facilitate the discussion. The remainder of the class will be spent discussing issues in the textbook.	Week 1: Course Introduction Week 2: Small group discussion task Week 3: Assessing discussions Week 4: Language for discussions Week 5: Discussions & text - unit 1 Week 6: Discussions & text - unit 1 continued Week 7: Discussions & text - unit 2 Week 8: Discussions & text – unit 2 continued Week 9: Discussions & text – unit 3 Week 10: Discussion & text – unit 3 continued Week 11: Discussion & text – unit 4 Week 12: Discussion & text - unit 4 continued Week 13: Discussion & text – unit 5 Week 14: Discussion & text – unit 5 continued Week 15: Review and feedback
テキスト、参考文献	**評価方法**
Impact Issues 3	Students will be evaluated on their active participation, their ability to lead group discussions, tests, vocabulary notebooks and attendance.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	P．M．ホーネス

講義目的、講義概要	授業計画
This is an introductory course to communication. Students will get a chance to improve their fluency through many speaking exercises. Much of the material is based on previously learned concepts to help improve individual aspects of fluency. The main goal of the course is for students to participate in a free-flowing conversation of approximately 15 minutes without using any Japanese. In addition, students will be able to build their vocabulary, work on pronunciation and review grammatical concepts.	1 Introduction 2 Future, Suprasegmentals (intonation) 3 Simple Past 4 Alibi 5 Alibi 6 Culture Presentation: food & tourist attractions 7 Comparisons and superlatives 8 Conditionals 9 Conditionals 10 Reading presentation 11 Survey: Movies 12 Survey: Personality 13 Culture Presentation 14 Speaking tests 15 Speaking tests (written summaries due) Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Attendance (Absence = -5 points) 20 Participation Unit 10 Summary 10 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 30

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	P．M．ホーネス

講義目的、講義概要	授業計画
This is the second half of the introductory course to communication. In this semester, students will get more of chance to voice their opinions in different discussions. Most of the discussion topics will involve aspects of the English language or learning English. In weeks 9-11, students will have a chance to decide particular weekly topics. Although there is no assigned text for this course, students will be required to research for the discussion topics. The main goal of this class is for students to develop and form opinions on selected topics of discussion. Students should be able to express their opinions in English coherently without relying on Japanese for clarification.	1 Introduction 2 Survey: Bilinguals 3 Survey: Dating 4 Culture Presentation: language & art 5 Survey: MASK 6 School festival 7 Survey: Travel 8 Analyzing Poetry 9 Survey: Music 10 Music presentation 11 Fashion and design: Is there a universal concept? 12 Culture Presentation 13 Christmas party 14 Speaking tests (written summaries due) 15 Speaking tests Subject to change based on class's needs.
テキスト、参考文献	**評価方法**
None	Attendance (Absence = -5 points) 15 Participation In class 15 Summary 20 Presentations (3X10) 30 Speaking Test 20

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	Ｐ．アップス

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion and presentation skills. The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)	As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher. Most of the topics will be popular in the media. In 2010we discussed topics such as • Gun Control • Global Warming • Japanese Population • Japanese Education • Homelessness in the World • Religion Also please note there is homework after every class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.	1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion Homework

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	Ｐ．アップス

講義目的、講義概要	授業計画
The aims of this course are • To improve the students' knowledge of current English. • To improve the students' critical thinking skills • To improve the students' reading and speaking skills • To improve discussion and presentation skills. The topics studied in this course will be of current issues (Please note this will be an intermediate level course. Students will be expected to participate in the class)	As there is no textbook for the year the sequence on discussions will be decided by the students and the teacher. Most of the topics will be popular in the media. In 2010 we discussed topics such as • Computer • The Growth of English • Population • English Education • Homelessness in the World • Religion • Chocolate Also please note there is homework after every class.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text for this class. The teacher will provide handouts for each class.	1. Student Attendance 2. Student participation 3. Discussion Homework

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	P．ドーレ

講義目的、講義概要	授業計画
In your role as a company employee, you may be asked or required to lead a discussion or meeting. So, in this course we will look at how to organize information and people for a discussion, how to prepare your materials, and finally how to lead a discussion. Every student will lead one major discussion in class as well as being a member in several of your classmates discussions. You will need to submit drafts of your discussion topic to the teacher in advance of your discussion. You will also need to distribute the discussion information to all your discussion members in advance of the discussion date. (N.B. This syllabus may be modified as appropriate depending on the skill level, experience, and needs of the students.)	1. Orientation 2. Introduction to topic selection 3. Gathering ideas and background information 4. Developing your ideas and opinions 5. Introduction to question preparation 6. Introduction to effective discussion leadership 7. The process of leading a discussion 8. Introduction to effective discussion timing 9. Review of content so far 10. Large group discussion leadership 11. Review Large Group discussion leadership 12. Second Large Group discussion leadership 13. Review of second discussion leadership 14. In-class peer assessment and review session 15. In-class final written review
テキスト、参考文献	**評価方法**
To Be Announced in class	Students will be evaluated on the basis of class participation, exercises, homework, and their discussion leadership.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 minute presentation or submit an essay on any topic from British culture during the term.	UK Culture I 1. Introductory Class 2. Presentation Preparation 3. Introduction to Britain I 4. Introduction to Britain II 5. British Pop 6. London 7. The Train 8. Heathrow Airport 9. William Shakespeare 10. Tea 11. Climbers 12. Sherlock Holmes 13. The Purple Violin 14. Semester Evaluation 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended	30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 20% Presentation, 20% Essay,

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	Ｒ．Ｊ．バロウズ

講義目的、講義概要	授業計画
This is a context based course which seeks to: a) offer students an overview of British society, people & culture b) improve students analytical & critical abilities towards foreign & Japanese culture c) broaden students' communicative abilities via listening & conversation practice around a variety of topics & issues In addition to viewing & discussing UK culture video material, students will study related written material and grammar structures. In addition, students need to make a 5 minute presentation or submit an essay on any topic from British culture during the term.	UK Culture II 1. Summer / Spring Review 2. Fall Preview 3. The Seven Wonders of Britain 4. Wales 5. BBC World Service 6. The Mini 7. The Village 8. Agatha Christie 9. The Sea 10. Taxi 11. Public School 12. WOMAD 13. Semester Evaluation 14. UK Christmas 15. Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
A file or folder will be needed to keep photocopied handouts. An electronic dictionary is recommended	30 % Attendance & Punctuality, 30% In-Class Work, 20% Presentation, 20% Essay

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues with this dynamic and exiting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic will take between 3 to 4 weeks to cover. How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. First Semester Topics 1 Introduction to the course of studies. 2 Japanese work ethics. 3 Attitudes towards women. 4 Other gender issues. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	R．ジョーンズ

講義目的、講義概要	授業計画
Beat the Monday morning blues with this dynamic and exciting class! This class is for those students who are serious about discussing various issues in English. You should be quite confident in your English ability, but all students, who are prepared to try hard, are most welcome. Your English level should be pretty good, but a willingness to try your best is most important. Interesting topics will be covered in the lessons, there will be a lot of fun, and plenty of opportunities to speak English. You do not need a textbook in the class because materials will be given to you. Be prepared, because you must do most of the talking! Topics of social and world interest will be discussed in the lessons. At the end of the course, if you have studied hard, you will have increased your English speaking, listening and vocabulary abilities a great deal. In addition, the lessons will contain cultural aspects so that you will be able to understand more fully the differences between the UK (and other Western countries) and Japanese thinking on the issues covered. Motto for this class: Always try your best and never give up!	Below is a list of topics that may be covered. Each topic takes between 3 to 4 weeks to cover How far we get through these topics depends on the progress and pace of the class. Also the order of the topics may change, or new ones introduced, depending on the class. Much more information on the syllabus will be given in the first couple of classes at the start of the semester. Second Semester Topics 1 Brief introduction/welcome back to class. 2 Computers and society. 3 Ageing Society. 4 The Automobile. Important note: The class will always start on time, so do not come late. Also, please attend all the lessons. If you miss a class, be sure to find out what work you missed especially as there could be homework to do. It is not hard to get a good grade in this class as long as you are punctual, keep good attendance and do your best.
テキスト、参考文献	**評価方法**
No textbook will be used in this class. Printed material will be given to the students, thus each student should buy a clear folder with many pages in order to keep the handouts in good order. Please bring a good dictionary to all the lessons.	Your grade comes from: Class work, homework, vocabulary test and speeches: 40% End of term speaking tests: 40% Good attendance, trying hard in class, never late, speaking English: 20%

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（火１） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa（火１）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to **international** communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your ***future plans (for the Summer)***, in English. Pair practice. Final student presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（火１） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb（火１）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your ***Summer Break***, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: **"What do you usually do ...?"**: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: **Hallowe'en**: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive ***advice***, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Discussion about "**EQ**", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: **Thanksgiving**. Song-listening exercise. Student answersto *"What are you thankful for?"* Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: **"How often do you ...?"**: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: **Christmas,** and ***Christmas cultures*** in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about ***New Year's wishes and plans***. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: **"How was your Christmas?"** & **"How was your O Sho Gatsu?"**: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your **"New Year's Resolutions".** Final student presentations. Week 15: Review of *specific* New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: ***future plans*** for the February & March Break.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（火３） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa（火３）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; and d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (perhaps) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a ***tentative*** schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: **Introductions**, in modern English: eye contact; proper handshake; suitable follow-up questions. Practice of Introductions in English. Listening and/or video exercise, & discussion. Week 2: Review/ practice of Introductions, using aliases. Asking *student suggestions for topics/themes which they would like to learn & study (especially with respect to **international** communication.)* Week 3: Learning how to socialize with people from various cultures. What is "EQ"; and how can we best use it, to have *more effective communication*? **Expressing your opinions**, part one: "How do you feel about _____?" & "What do you think of _____?"[Discussion of News/Current topics/songs/videos. (Focus on striving to obtain and *communicate* a balanced Global viewpoint.)] Week 4: ***Communicating about future plans.*** "What are your plans for Golden Week?"/ "What are your plans for Mother's Day?" Week 5: "How was your Golden Week?" / "How was your Mother's Day?": **communicating a past experience**...and elaborating (explaining a lot). Song-Listening exercise re: Mother's day. Discussion of plans/hopes for Mother's Day. Week 6: Song/ video exercise. Expressing your opinions, part two. **Directions**: asking for and communicating *street directions*, in international English. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Week 7: Asking and telling other people about likes & dislikes. Pair practice, communicating. Perhaps: selecting and preparing for a class presentation. Ongoing assessment. Week 8: Discussing and communicating about your **hobbies**. Pair practice. Song-listening, and/or video watching/listening exercise. Continuous assessment. Week 9: Perhaps Student research/discussion about a variety of themes/books, such as: 'Global Warming' (a.k.a. 'Climate Change'); International Relations; 'GM' Food; Pros & Cons of the Internet; and many more current topics of interest. Pair practice, re: hobbies. Week 10: "What kind of _____ do you like?": Discussing and communicating about **movies, books, music, food, etc.**, in dynamic, modern English. Ongoing assessment of student abilities & class performance. Perhaps: refining possible presentation topics. Week 11: Examining & using of International vs. Domestic ***etiquette*** and ***manners***. Song exercise, International News exercise, and/or video exercise, with discussion. Preparations for making presentations. Week 12: Preparations for students' presentations. How to ask for and give: ***street directions***, and/or ***train directions***. Preparing for student presentations. Week 13: Continuous assessment. **Ways to meet new people** (using English); and how to continue/develop conversations with them. News, song-listening, and/or video exercise; with discussion thereof. Class presentations. Week 14: **Body Language & 'EQ'** Gestures & postures to be aware of, while travelling internationally. Pair practice. Listening exercise & discussion. Class presentations. Week 15: Ongoing assessment. Discussing & communicating your plans for the Summer, in English. Pair practice. Final student presentations.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using audio book listening exercises; videos/movies; copies of recent International News articles, Internet research, songs & song-listening exercises; International (travel) videos, and/or library materials. IF a textbook is truly necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English（火３） COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb（火３）	担当者	Ｒ．ダラム

講義目的、講義概要	授業計画
The purposes of the course are to show you how to: a) think in and communicate more effectively in modern English, using "EQ" (Emotional Intelligence); b) learn about and actively discuss **World Issues**, from an ***International*** point of view; c) enjoy *dynamic, interesting conversations* in smooth, Modern English; d) try to understand International humor; and (hopefully) try to use such humor effectively; and e) (if students are interested) research and 'give' (present) a *class presentation*.	(* Note: This is a *tentative* schedule. The items listed may change, depending on: student needs & requests; special festival days/occasions; recent News stories/events; and various other factors.) Week 1: Asking, replying, communicating, and elaborating about your ***Summer Break***, using modern English. Pair practice. Song-listening exercise, and/or video exercise, and/or News exercises. Week 2: **"What do you usually do ...?"**: discussing and communicating about your usual activities. Pair practice. (Perhaps: asking student suggestions for topics, themes, and festivals which they would like to learn about & study.) Continuous assessments. Week 3: "What do you usually do...?, part two. Discussing your usual practices on holidays/weekends/weeknights. More pair practice and discussion. Week 4: **Hallowe'en**: researching and discussing about this international 'festival'. Hallowe'en video. Ongoing assessment. Assignment of class presentations. Week 5: Researching and discussing 'Guy Fawkes Day' & Hallowe'en. Song/video/News exercise, and discussion thereof. Hallowe'en video, continued. Refinement and preparations for student presentations. Week 6: Asking and communicating how to ask for, give, and receive ***advice***, in English. Pair practice. Ongoing assessments. Week 7: Train and subway directions, part 2. Choosing a country and *Fall/Winter festival* about which to make a presentation. Discussion about "**EQ**", and its effect on success in International communication, and on business success. Ongoing assessment. Preparations for student presentations. Week 8: Research and discussion re: **Thanksgiving**. Song-listening exercise. Student answersto *"What are you thankful for?"* Preparations for student presentations. Week 9: Pair practice re: Thanksgiving. English-listening and discussion exercise. Preparations for presentations. Ongoing assessments. Preparations for student presentations. Week 10: Start of in-class 'demonstration' mini-presentations/rehearsals. Conversation practice/explanations. Song and/or video exercise. Preparations for student presentations. Week 11: **"How often do you ...?"**: discussing and communicating about activities, and frequency of doing those activities. Pair practice, and elaborating. Using dynamic English & "EQ" in conversations. Continuous assessments. Student presentations. Week 12: Finalizing preparations and practice for presentations. Song-listening activity and/or video, re: **Christmas,** and ***Christmas cultures*** in various countries. Class presentations. Week 13: Asking others, and elaborating about ***New Year's wishes and plans***. Class presentations. Christmas video and/or Christmas song exercise. Student presentations. Week 14: **"How was your Christmas?"** & **"How was your O Sho Gatsu?"**: discussing and communicating about your Winter Break. Pair practice. Discussing and talking about your **"New Year's Resolutions".** Week 15: Review of *specific* New Year's Resolutions. Discussing and elaborating about: ***future plans*** for the February & March Break.
テキスト、参考文献	**評価方法**
We may be using dynamic conversation topics; videos/movies; song-listening exercises and discussion thereof; International newspaper articles, Internet research, and/or research materials from the library. If a textbook is necessary, one will be chosen.	The instructor will use the ongoing assessment technique. You will be assessed often, on: how well you **participate** in class; how well you **speak and elaborate** (explain) in English, the ways in which you ***reason*** (think); how well you ***use*** the information taught to you; how well you *work together* with other class members; and so on. Your grade will be tentatively & approximately determined by: ongoing class assessments (approximately 30%); class participation (25%); homework/test(s)/presentations (25%); and attendance (20%). These percentages may vary, depending upon student abilities and needs. **Attendance** is ***CRUCIAL*** (very important) in this class. ***You must NOT miss more than three classes, for <u>any</u> reason.*** Please also keep in mind that: a) the lower your attendance, the lower your grade (& if more than three absences, your grade will be "F"); b) **lateness** *will also greatly affect your grade in this course.* (**One late = 1/2 absence**.)

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱa	担当者	Ｔ．ヒル

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance. Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English. Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and write a number of short papers on the issues that interest them most.	1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Religion 13. Religion 14. Education 15. Education
テキスト、参考文献	**評価方法**
Material will be taken from internationally respected newspapers.	Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, and the submission of a class notebook.

06 年度以降 03 年度以降	Communicative English COMMUNICATIVE ENGLISH Ⅱb	担当者	Ｔ．ヒル

講義目的、講義概要	授業計画
This course is designed to help students develop critical thinking skills and the ability to discuss issues of contemporary importance. Using newspapers, students will build up their vocabulary in a number of content areas, and will develop the ability to express their own opinions in both written and spoken English. Students will be expected to participate actively in class, do research in the library and on the internet, and a number of short papers on the issues that interest them most.	1. Introduction 2. Japanese politics 3. Japanese politics 4. World politics 5. World politics 6. Economics and business 7. Economics and business 8. Social issues 9. Social issues 10. Sport and Entertainment 11. Sport and Entertainment 12. Religion 13. Religion 14. Education 15. Education
テキスト、参考文献	**評価方法**
Material will be taken from internationally respected newspapers.	Evaluation will be based on attendance, class participation, a number of written papers, and the submission of a class notebook.

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　a	担当者	Ｃ．Ｂ．池口

講義目的、講義概要	授業計画
The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-to-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese. Classes in the first term will explore situations that show differences in thinking behavior and how these differences are reflected in the way people speak. Students will analyze and discuss different culture-style conversations. Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences. The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.	First Term: 1. Orientation class objectives, method and evaluation 2. How to avoid embarrassing conversation situations 3. Different Communication Styles 4. Sensitivity in conversations: does it help? 5. Practice 1 6. Be a Good Listener: a good advice? 7. Practice 2 8. Subtlety in Conversations: is it good? 9. Practice 3 10. Low-key expressions: do they help? 11. Practice 4 12. Frankness: when to and when not to? 13. Practice 5 14. Conversation Compliment: how to across cultures 15. Summary and Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　b	担当者	Ｃ．Ｂ．池口

講義目的、講義概要	授業計画
The overall aim of this course is teach students some important but often overlooked techniques in face-face communication. In the class, the term communication will be used to refer to communication style, focusing on differences between that of the Japanese and non-Japanese. Classes in the first term will explore situations that illustrate difference behavior and why these differences exist. Students will analyze and discuss various themes related to interpersonal communication. Classes in the second term will focus on various situations of virtue and polite manners. Students will analyze and discuss examples that illustrate these differences. The final goal of the course is to help improve fluency in the use of English language skills.	Second Term: 1. Orientation: class objectives, method and evaluation 2. Behavior differences 3. Group Practice 1 4. Identity: do you have a strong cultural identity? 5. Group Practice 2 6. Values: what are your lifestyle values? 7. Group Practice 3 8. Culture shock: what is your personality type? 9. Group Practice 4 10. Culture in language: do you believe in proverbs? 11. Body language and customs: do you know them? 12. Individualism: are you an individualist? 13. Politeness: are you a formal or a casual person? 14. Communication style: what's yours? 15. Summary and Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced on the first day of class.	Summative evaluation of class participation: discussion and reports, as well as term-end exams. Students are highly recommended to review each lesson and study beforehand.

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　a	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication and speaking skills. The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current and interesting topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions. Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English speaking, comprehension and knowledge.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic # 1 Week 2: Discussion Topic # 2 Week 3: Discussion Topic # 3 Week 4: Discussion Topic # 4 Week 5: Discussion Topic # 5 Week 6: Discussion Topic # 6 Week 7: Quiz Week 8: Discussion Topic # 7 Week 9: Discussion Topic # 8 Week 10: Discussion Topic # 9 Week 11: Discussion Topic # 10 Week 12: Discussion Topic # 11 Week 13: Discussion Topic # 12 Week 14: Discussion Topic # 13 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Discussion notes and handouts will be provided every week.	Attendance, discussion involvement, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　b	担当者	Ｅ．フランコ

講義目的、講義概要	授業計画
This course aims to provide friendly forums for student discussions in order to improve fluency in English communication and speaking skills. The class seeks to provide an enjoyable and interesting environment to discuss current and interesting topics and issues. Students are expected to collaborate and engage in friendly pair and group discussions. Students will complete weekly classroom activities using English newspaper articles covering current local and global issues in order to improve English speaking, comprehension and knowledge.	Week 1: Introduction, course outline, evaluation, requirements & start topic #1 Week 2: Discussion Topic # 2 Week 3: Discussion Topic # 3 Week 4: Discussion Topic # 4 Week 5: Discussion Topic # 5 Week 6: Discussion Topic # 6 Week 7: Quiz Week 8: Discussion Topic # 7 Week 9: Discussion Topic # 8 Week 10: Discussion Topic # 9 Week 11: Discussion Topic # 10 Week 12: Discussion Topic # 11 Week 13: Discussion Topic # 12 Week 14: Discussion Topic # 13 Week 15: Quiz
テキスト、参考文献	**評価方法**
Discussion notes and handouts will be provided every week.	Attendance, discussion involvement, weekly exercises, quizzes, presentation, and class participation.

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION a	担当者	J．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding, public speaking and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Introduction with explanation of the grading system and student requirements. 2. Cosmetic surgery: Is there too much emphasis on appearance these days? 3. Can man and woman be close without romance? 4. This session will focus on environmental issues. 5. Teenage life with student presentations. 6. Is plagiarism a crime? 7. Who's responsible for household duties? Vocabulary test on previous issues. 8. What are the options for pregnant teenagers? 9. Is it okay to go on dates for money? Quiz on previous issues. 10. How important is appearance in a relationship? 11. Should adult children move out? Quiz on previous issue. 12. Should employees go out with their bosses? 13. How should we deal with culture shock? Vocabulary test on previous issues. 14.The changing role of women in society. 15. Explanation of summer homework projects.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title*: Impact Issues 3* Author: Day, Shaules and Yamanaka Publisher: Pearson/Longman	Students will be grade on attendance, classroom participation, homework and tests.

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION b	担当者	J．ウォールドマン

講義目的、講義概要	授業計画
This course will focus on using oral skills to communicate effectively in English. The activities in this class will give students opportunities to express their ideas in English and help them to function in practical everyday situations. Facets that will be included in this course will be pronunciation, practical vocabulary necessary for communication, cultural understanding and learner strategies. The learner strategies will help students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.	1. Discussion will focus on summer projects. 2. The Confucian and Socratic methods of education will be the main focus of this class. 3. Is money more important than life style? 4. Story telling techniques. 5. The problems faced by immigrants. 6. Vocabulary test on previous issues. Student presentations. 7. Does technology create distance in relationships? 8. Who should work and who should stay at home? Quiz on previous issue. 9. Career choices. 10. Story telling techniques. 11. When is war justified? 12. The art of compromise. 13. When is it okay to get a divorce? Vocabulary test on previous issues. 14. Unrequited love. 15. Story telling techniques.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Title: *Impact Issues 3* Author: Day, Shaules and Yamanaka Publisher: Pearson/Longman	Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　a	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement.　It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life.　Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class.　This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 1 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 2 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 3 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 4 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course.	Grades will be based on attendance, participation, and projects

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　b	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This is a course aimed at those serious students who will one day need to use English as an important tool for professional and personal advancement.　It said that a great difficulty in learning a foreign language is your own language, which has been the tool for communicating your thoughts all your life.　Thus, this class will help students work in a strict English only environment, one which will promote confidence and skill in English usage. Classroom time will be utilized by having extended discussions based on student topics introduced at the start of each class.　This class will call on students to take an active role in the development of the class discussions.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Student-Discussion 5 Week 3: Presentation and Discussion Week 4: Discussion and Summation Week 5: Student-Discussion 6 Week 6: Presentation and Discussion Week 7: Discussion and Summation Week 8: Student-Discussion 7 Week 9: Presentation and Discussion Week 10: Discussion and Summation Week 11: Student-Discussion 8 Week 12: Presentation and Discussion Week 13: Discussion and Summation Week 14: Final Summations Week 15: Final Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course.	Grades will be based on attendance, participation, and projects

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　a	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
To be announced in the first class	To be announced in the first class
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced in the first class	To be announced in the first class

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　b	担当者	P．マッケビリー

講義目的、講義概要	授業計画
To be announced in the first class	To be announced in the first class
テキスト、参考文献	**評価方法**
To be announced in the first class	To be announced in the first class

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　a	担当者	Ｓ．ロシート

講義目的、講義概要	授業計画
Aims to improve 1. knowledge of social current issues in Japan 2. understanding about what nonprofit NGOs are doing to tackle these problems 3. ability to communicate about these issues 4. critical understanding 5. develop presentation skills Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion. Class format Instructor presentation – key issues. Group work – discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.	* Since we will be focusing on current issues – specific contents may change. * semester 1 will focus on Japan Class　1 Introduction to course, Overview of current social issues in Japan Class　2 What is a nonprofit NGO? Class　3 Aging in Japan Class　4 NGOs working on Aging Class　5 Youth issues Class　6 NGOs working with youth Class　7 Mid-term presentations Class　8 Home violence Class　9 NGOs helping families Class 10 Homelessness and new poverty in Japan Class 11 New comers in Japan Class 12 NGOs working on poverty and new comers Class 13 Gender Issues Class 14 Final Presentations Class 15 Final Presentations & Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Online readings Anyone without internet access should tell the instructor in class1	Active class participation, mid-term presentation, final project (paper and presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.

06 年度以降 03 年度以降	Discussion DISCUSSION　b	担当者	Ｓ．ロシート

講義目的、講義概要	授業計画
Aims to improve 1. knowledge of current global issues 2. understanding about what nonprofit NGOs are doing to tackle these problems 3. ability to communicate about these issues 4. critical understanding 5. develop presentation skills Weekly assignments: Each week students will complete short readings, which will form a based for class discussion. Class format Instructor presentation – key issues. Group work – discussion, review of readings and exercises. Participant presentation - present summaries, final project.	* Since we will be focusing on current issues – specific contents may change. * semester 2 will focus on international issues Class　1 Introduction to course, Overview of issues Class　2 What is poverty? What is hunger? Class　3 What can we do about hunger and poverty? Class　4 Youth making a difference around the world! Class　5 Presentations Class　6 Current global health issues Class　7 Introduction to AIDS Class　8 Education about AIDS Class　9 Presentations Class 10 Conflict and peace Class 11 Child Labor Class 12 Smart shopping: Fair trade and organics Class 13 Microfinance Class 14 Final Presentations Class 15 Final Presentations & Wrap up
テキスト、参考文献	**評価方法**
Online readings Anyone without internet access should tell the instructor in class1	Active class participation, mid-term presentation, final project (paper, presentation) and regular completion of assignments. Attendance of 75% is required to pass.

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking Ⅰ PUBLIC SPEAKING Ⅰa	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.	1 Introduction: The Physical Message 2 Posture and Eye Contact 3 Informative Speech 4 Gestures 4 Layout Speech 5 Voice Infection 6 Demonstration 7 Introduction to the Story Message 8 The Introduction 9 Persuasive Speech 10 The Body 11 Transition and Sequencers 12 Home town speech 13 Positive Theory Formulation 14 Final Speeches I 15 Final Speeches II
テキスト、参考文献	**評価方法**
Prints from speeches and speech based texts	Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking Ⅱ PUBLIC SPEAKING Ⅰb	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
In the class we will focus on three messages in public speaking: the Visual Message, the Physical Message and the Story Message. We will video students with a camera and evaluate their performance in class. Students will be expected to use Power Point in making presentations.	1 Review of Term One 2 Persuasive Speech: The Body 3 The Conclusion 4 Persuasive Speech: The Conclusion 5 Introduction to the Visual Message 6 Making Visual Aids 7 Explaining Visual Aids 8 Full Presentation of the Persuasive Speech with Visual Aids 9 Power Point Introduction 10 Video Taping Part One 11 Video Taping Part Two 12 Critique of Taping 13 Story message 14 Final Evaluation I 15 Final Evaluation II
テキスト、参考文献	**評価方法**
Prints from Speech based text	Weekly participation in speeches and the email receipt of student speeches.

06年度以降 03年度以降	Public Speaking Ⅰ PUBLIC SPEAKING Ⅰa	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.	Assessment will be based on classroom participation, written assignments, and speeches and presentations.

06年度以降 03年度以降	Public Speaking Ⅱ PUBLIC SPEAKING Ⅰb	担当者	Ｊ．Ｎ．ウェンデル

講義目的、講義概要	授業計画
This course will develop both the language skills and strategies necessary to give effective speeches and presentations in English. First, we will examine the elements of effective public speaking and communication through discussions and the analysis of examples of speeches and presentations. Students will then give their own speeches and presentations, both on assigned topics and on topics of their own choosing. An important part of effective public speaking is having sufficient command of background information on your topics, so students can expect to do a fair amount of background reading and research during the semester.	1 Orientation 2-3 Elements of public speaking 4-5 Effective speeches—examples and discussion 6-8 Student speeches 9-11 Effective presentations—examples and discussion 12-14 Student presentations 15 Reflection and summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
There is no set textbook. Instructional materials and handouts will be distributed to students throughout the semester.	Assessment will be based on classroom participation, written assignments, and speeches and presentations.

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking Ⅰ PUBLIC SPEAKING Ⅰa	担当者	Ｊ．フォルカス

講義目的、講義概要	授業計画
This semester we concentrate on the skills required to speak effectively in public. These include mastering posture, gesture and eye-contact, learning how to 'persuade' an audience, and learning how to use our voices strategically.	Part 1: Non-verbal skills Part 2: Verbal skills Part 3: Becoming persuasive Part 4: Putting it all together
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course.	Assessment will be conducted on a continuous basis during the semester. Class activities, homework assignments and class participation will form the basis of the final grade.

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking Ⅱ PUBLIC SPEAKING Ⅰb	担当者	Ｊ．フォルカス

講義目的、講義概要	授業計画
This semester begins by briefly reviewing the skills learned in semester 1, and then moves on to more advanced topics. These include 'Using Power Point' effectively, and 'Exploring different types of rhetoric'	Part 1: Review of basic skills Part 2: Exploring different types of rhetoric Part 3: Using Power Point Part 4: Final Speeches
テキスト、参考文献	**評価方法**
There are no set texts for this course.	Assessment will be conducted on a continuous basis during the semester. Class activities, homework assignments and class participation will form the basis of the final grade.

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking Ⅰ PUBLIC SPEAKING Ⅰa	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 「異文化コミュニケーション」という言葉がよく聞かれる今日、どうしたら英語で上手くコミュニケーションがとれるようになるのでしょうか。この授業では、自分の伝えたい事を言葉のみでなく、Physical Message, Visual Message, Story Message によって如何により効果的にプリゼンテーションが出来るようになるかを学びます。 講義概要： プリゼンテーションをする時のコミュニケーションの方法と段階を上記の三つに分けます。それぞれのメッセージは'What', 'Why', 'How', 'Practice' の四項目から成り、更に'Performance'と'Evaluation' のセクションで自分のプリゼンテーションを通じて、又クラスメイトのプリゼンテーションを聞き、如何に改善すべきかを自ら学びとります。 カラーの愉快なイラストを使いながら、１００パーセント学習者参加型の演習方法で授業を進めていきます。 進度は皆さんの様子を見ながら必要に応じて調整していきます。DVD が大きな助けとなるでしょう。	1. Introduction 2. [I] THE PHYSICAL MESSAGE: What is Physical Message? 3. Posture and Eye Contact 4. Informative Speech 5. Performance 6. Gestures 7. Layout Speech 8. Performance 9. Voice Inflection 10. Demonstration Speech 11. Performance 12. [II] THE VISUAL MESSAGE: Effective Visuals (1) 13. Effective Visuals (2) 14. Performance(1) 15. Performance(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：Harrington,D. & LeBeau, C. , *Speaking of Speech – New Edition-Basic Presentation Skills for Beginners.* MACMILLAN LANGUAGEHOUSE, 2009. 2500 円 + 税	出席状況、授業への参加度、宿題、発表、試験などから総合的に評価します。主に授業中のプリゼンテーションを最重要視するので、出席は最も重要。

06 年度以降 03 年度以降	Public Speaking Ⅱ PUBLIC SPEAKING Ⅰb	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 春学期と同じ。 講義概要： 春学期に引き続く。 **注意**： 何らかの理由で秋学期から履修する場合は、春学期の授業内容を理解し、且つ実際にそこまでの段階のパフォーマンスが出来るようにしておく必要があります。秋学期の最初の授業で指導致します。	1. [II] THE VISUAL MESSAGE （春学期の続き） Explaining Visuals (1) 2. Explaining Visuals (2) 3. Performance 4. [III] THE STORY MESSAGE: What is Story Message? Presentation Structure 5. Introduction What is the Story Message? 6. Introductory Phrases Model Introduction 7. Performance (Introduction) 8. The Body Evidence 9. Transitions 10. Sequencers 11. Performance (Body) 12. The Conclusion – How to Make a Conclusion? 13. Performance (Conclusion) 14. Final performance(1) 15. Final performance(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期に同じ。	春学期に同じ。

06 年度以降 03 年度以降	Debate I DEBATE Ⅰa	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
The class aims to familiarize students with the principles of debate. It will teach students the rules and procedures involved and provide hands-on exercises in formulating appropriate proposition and constructing arguments based on a prescribed format.	1. Introduction to the course: brainstorming 2. Preliminary Exercises: how arguments take place 3. How does debate differ from discussion? 4. Why is debate necessary? 5. Format and procedures 1: Propositions 6. Format and procedures 2: Constructive Argument 7. Format and procedures 3: Affirmative Constructive 8. Format and procedures 4: Negative Constructive 9. Cross-examination 10. Rebuttal and Refutation 11. Classroom Debate 12. Practice Debate 1 13. Practice Debate 2 14. Graded Debate 1 15. Graded Debate and Summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
References: Enjoy Debating. Eichosha Speech Communication for International Students	Evaluation is based on summative performance on weekly attendance, submission of requirements, and participation in exercises and debates.

06 年度以降 03 年度以降	Debate Ⅱ DEBATE Ⅰb	担当者	C．B．池口

講義目的、講義概要	授業計画
The class aims to familiarize students with the principles of debate. It will teach students the rules and procedures involved and provide hands-on exercises in formulating appropriate proposition and constructing arguments based on a prescribed format.	1. Introduction to the course: brainstorming 2. Preliminary Exercises: how arguments take place 3. How does debate differ from discussion? 4. Why is debate necessary? 5. Format and procedures 1: Propositions 6. Format and procedures 2: Constructive Argument 7. Format and procedures 3: Affirmative Constructive 8. Format and procedures 4: Negative Constructive 9. Cross-examination 10. Rebuttal and Refutation 11. Classroom Debate 12. Practice Debate 1 13. Practice Debate 2 14. Graded Debate 1 15. Graded Debate and Summary
テキスト、参考文献	**評価方法**
References: Enjoy Debating. Eichosha Speech Communication for International Students	Evaluation is based on summative performance on weekly attendance, submission of requirements, and participation in exercises and debates.

06 年度以降 03 年度以降	Debate Ⅰ DEBATE Ⅰa	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 1 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 2 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 3 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 4 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No Text is required for this course.	Grades will be based on attendance, participation, and projects

06 年度以降 03 年度以降	Debate Ⅱ DEBATE Ⅰb	担当者	N．H．ジョスト

講義目的、講義概要	授業計画
This class is designed with two basic goals in mind: 1) to help students develop debating skills--to understand issues; to articulate or defend their views on those issues; and, 2) to help students improve their overall language skills--speaking, listening, and critical thinking. Debate topics will be decided in advanced, and will include a variety of topics--challenging, yet enjoyable. Additionally, we will watch some of the famous debates in Western history evaluating them from a critical point of view, looking at debating style, techniques, reasoning and speaking skills and overall persuasiveness of the candidates.	Week 1: Class Introduction and overview Week 2: Mini Lecture on Debating Week 3: Debate Preparations 5 Week 4: Debate & Summations Week 5: Mini Lecture on Debating Week 6: Debate Preparations 6 Week 7: Debate & Summations Week 8: Mini Lecture on Debating Week 9: Debate Preparations 7 Week 10: Debate & Summations Week 11: Mini Lecture on Debating Week 12: Debate Preparations 8 Week 13: Debate & Summations Week 14: Final Group Summations Week 15: Final Group Summations
テキスト、参考文献	**評価方法**
No text is required for this course.	Grades will be based on attendance, participation, and projects

06 年度以降 03 年度以降	通訳 I 通訳 I a	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
通訳の基礎訓練というのは、コミュニケーション能力としての総合的語学力をアップするためシステマティックなトレーニングにほかならない。 このため、様々な方法で、リーディング、リスニング、スピーキングの技術を強化していくための練習を具体的に行っていく。 　なお、授業の３分の１以上を欠席した場合、単位は認められない。	１～2 回は通訳全般についての話。３回目以降から実際のトレーニングに入るが、その内容は次のとおり： リピーティング、クイック・レスポンス、シャドーイング、ボキャビル、サイト・トランスレーション、サラマイゼーション、ワンセンテンスからパラグラフ通訳、リテンション、通訳メモの取り方 etc.
テキスト、参考文献	評価方法
プリントを使用する予定	平常の授業から、通訳技術をどれくらい身に付けたかで評価する。授業はステップ・アップ形式で進むので欠席すると大変不利。

06 年度以降 03 年度以降	通訳 I 通訳 I b	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
同上	同上 ただし、春学期よりも内容の種類と難易度が増す。
テキスト、参考文献	評価方法
同上	同上

06 年度以降 03 年度以降	通訳 Ⅰ（金４） 通訳 Ⅰａ（金４）	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は、通訳として必要な次の３つの能力を身につけることです。一年後のめあてとしては、理解できた内容であればすべて即座に通訳できる能力を身につけることです。 ① 英語を聴き取ること ② 要点をメモすること ③ 即座に、的確、かつ、丁寧な日本語に通訳する （通訳に必須不可欠な「敬語」の使い方を学習する） あなたは上記②と③を学んだことがありますか。②や③に自信が無い学生にはぜひ学習してもらいたいと思います。 教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。 実践的な訓練を継続する中で、100%の力を出すためには、自分の緊張感をコントロールし、無意識のうちにその緊張感を楽しめるようになります。	＜第１回＞ 皆さんの英語力を把握するため、TOEIC（TOEFL,英検等もあれば）スコアのコピーを持参して下さい。 また、一回目は、皆さんにとって、記念すべき初めての通訳への挑戦ですので、USB フラッシュメモリーを忘れないようにして下さい。 ＜第２回以降～＞ CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行います。 春学期の教材は、災害や事故、選挙、事件などの現場からの臨場感たっぷりの実況中継を教材として使います。ただし、本物の報道英語ではなく、語彙が制限されているfiction なので、メモ取り練習や逐次通訳にぴったりのレベルの教材です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
いろいろな教材を使用しますので、主に、プリントで配布しますが、１回目の授業で１冊はテキストを指定します。	授業中の通訳、毎週のディクテーションの宿題、定期試験の総合評価

06 年度以降 03 年度以降	通訳 Ⅰ（金４） 通訳 Ⅰｂ（金４）	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に引き続き、CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。 秋学期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。現場からの実況中継がそれらしい日本語で通訳できるようになるでしょう。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。	＜第１回＞ 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。 ＜第２回以降～＞ 上記の春学期に準じます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
前期のテキストとプリント配布。	授業中の通訳、毎週のディクテーションの宿題、定期試験の総合評価

06 年度以降 03 年度以降	通訳 Ⅰ（金５） 通訳 Ⅰａ（金５）	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
講義の目的は、通訳として必要な次の３つの能力を身につけることです。一年後のめあてとしては、理解できた内容であればすべて即座に通訳できる能力を身につけることです。 ① 英語を聴き取ること ② 要点をメモすること ③ 即座に、的確、かつ、丁寧な日本語に通訳する （通訳に必須不可欠な「敬語」の使い方を学習する） あなたは上記②と③を学んだことがありますか。②や③に自信が無い学生にはぜひ学習してもらいたいと思います。 教員が通訳訓練学校で受けた訓練方法をそのまま教室で再現し、逐次通訳の実践的トレーニングを行います。 実践的な訓練を継続する中で、100%の力を出すためには、自分の緊張感をコントロールし、無意識のうちにその緊張感を楽しめるようになります。	＜第１回＞ 皆さんの英語力を把握するため、TOEIC（TOEFL,英検等もあれば）スコアのコピーを持参して下さい。 また、一回目は、皆さんにとって、記念すべき初めての通訳への挑戦ですので、USB フラッシュメモリーを忘れないようにして下さい。 ＜第２回以降～＞ CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら実際に逐次通訳を行います。 前期の教材は、災害や事故、選挙、事件などの現場からの臨場感たっぷりの実況中継を教材として使います。ただし、本物の報道英語ではなく、語彙が制限されている fiction なので、メモ取り練習や逐次通訳にぴったりのレベルの教材です。
テキスト、参考文献	**評価方法**
いろいろな教材を使用しますので、主に、プリントで配布しますが、１回目の授業で１冊はテキストを指定します。	授業中の通訳、毎週のディクテーションの宿題、定期試験の総合評価

06 年度以降 03 年度以降	通訳 Ⅰ（金５） 通訳 Ⅰｂ（金５）	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
前期に引き続き、CALL 教室で英語教材を放送し、各自メモを取りながら、実際に逐次通訳を行い、各自のパフォーマンスは録音する、という実践的な訓練を積み重ねます。 後期になると、逐次通訳がそれなりに形になってきます。現場からの実況中継がそれらしい日本語で通訳できるようになるでしょう。クタクタになりながらも、緊張感と達成感を楽しんでいる学生が多いようです。	＜第１回＞ 各自、夏休みについてスピーチをし、誰かがそのスピーチの通訳を担当する。 ＜第２回以降～＞ 上記の春学期に準じます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
前期のテキストとプリント配布。	授業中の通訳、毎週のディクテーションの宿題、定期試験の総合評価

06 年度以降 03 年度以降	通訳 Ⅱ 通訳 Ⅱa	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度から、以下のように一新しました。 昨年までは、通訳Ⅰの advanced　level と捉え、難易度の高い授業でしたが、今年度からは、レベル的には通訳Ⅰよりやや難易度が上がる程度にし、長時間通訳し続けることができるようになることを講義の目的とします。 講義概要は以下のようになります。 ① 通訳の現場のように、教材をぶっつけ本番で訳す練習をします。 ② 通訳Ⅰでは、細切れに通訳を録音しましたが、通訳Ⅱでは、長い時間通訳し続ける訓練をします。 ③ その教材を用いて同時通訳の方法を学びます。 毎月１回の割合で同時通訳教室を使用します。	全員、１回目の授業で、TOEIC（TOEFL,英検等もあれば）スコアのコピーと USB フラッシュメモリーを持ってくること。 「通訳Ⅰ」を履修していることが望ましいですが、TOEIC スコア 800 以上の英語力があれば、いきなり「通訳Ⅱ」から始めても問題ありません。 逐次通訳と同時通訳の実践的な訓練を行う「学生参加型」の授業です。 最初の教材は、distinguished people（著名人）。 1.Barack Obama　4.Charles Chaplin 2.Haruki Murakami　5.Tiger woods 3.Guccio Gucci　6.Nelson Mandela 徐々にレベルを上げていき、White House や Department of State のホームページを学習し、通訳の教材として、みなさんの英語力でも十分使用できることを学びます。

テキスト、参考文献	評価方法
教材は多岐にわたるので、主にプリントで配布しますが、１回目の授業で１冊はテキストを指定します。	授業中の通訳、ディクテーションの課題、定期試験の総合評価

06 年度以降 03 年度以降	通訳 Ⅱ 通訳 Ⅱb	担当者	原口　友子

講義目的、講義概要	授業計画
昨年度から、以下のように一新しました。 昨年までは、通訳Ⅰの advanced　level と捉え、難易度の高い授業でしたが、今年度からは、レベル的には通訳Ⅰと同じにし、長時間通訳し続けることができるようになることを講義の目的とします。 講義概要は以下のようになります。 ① 通訳Ⅰでは、細切れに通訳を録音しましたが、通訳Ⅱでは、長い時間通訳し続ける訓練をします。 ② その教材を用いて同時通訳の方法を学びます。 毎月１回の割合で同時通訳教室を使用します。	CALL 教室は皆さんの通訳や shadowing を録音することができるので、月 3 回はこちらで授業を行います。一方、同時通訳室は録音できませんが、同時通訳ブースがあるので、月１回使用し、3 回分の授業の発表の場として使用します。

テキスト、参考文献	評価方法
前期同様、テキストとプリント配布。	授業中の通訳、ディクテーションの課題、定期試験の総合評価

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。**「英語ビジネス・コミュニケーション」**とあるように、**「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」**の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 **Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。 **水曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。**一緒に勉強しましょう。	１.講義の説明 ２.ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） ３.ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」と練習問題） ４.効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」） ５.効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」と練習問題） ６.よく使用される表現（その１―「取引の申込み」） ７.よく使用される表現（その２―「引合い」） ８.よく使用される表現（その３―「オファー」） ９.よく使用される表現（その４―「信用状」） １０．よく使用される表現（その５―「積出し」） １１．よく使用される表現（その６―「クレーム」） １２．英文 Business Writing 実践練習問題（その１） １３．英文 Business Writing 実践練習問題（その２） １４．英文履歴書と英文カバーレターの書き方 １５．まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢達郎著 『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年）	学期末の試験（70%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（30%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（火３） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠb（火３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあって、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌・インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。**本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない、全くの初心者である英語学科の学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済を」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。同時に、例えば、**「円高なのに、なぜ原油・綿花・小麦・大豆・コーヒー豆と言った外国からの輸入品が値上がりするのでしょうか」。**それには理由があるのです。こういう勉場もしていきます。**水曜３限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で１年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。**	１．講義の説明 2.「英字新聞の特徴について（１）」 3.「英字新聞の特徴について（２）」 4.「Headline の読み方実践練習（１）」 5.「Headline の読み方実践練習（２）」 6.「Lead の読み方実践練習（１）」 7.「Lead の読み方実践練習（２）」 8.「Lead の読み方実践練習（３）」 9.「Lead の読み方実践練習（４）」 10.「本格的な経済記事の読み方実践練習（１）」 11.「本格的な経済記事の読み方実践練習（２）」 12.「国際経済記事の読み方実践練習（１）」 13.「国際経済記事の読み方実践練習（２）」 14.「国際経済記事の読み方実践練習（３）」 15. まとめ 随時、授業中に経済用語等について分かりやすく解説・説明していきます。尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（30%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
「英文経済記事の読み方」をテーマにして授業を進めていきたい。国際化時代にあって、外国からの経済情報を素早く、しかも正確に得ることは極めて重要なことである。しかし、TOEIC で 900 点を取得しても、英文の経済情報を英字新聞・雑誌･インターネット等で読みこなす英語力はほとんどないのが現状と言ってよいでしょう。英文経済記事をある程度読めたらどんなに素晴らしいことでしょう。**本講義では、「英文経済記事」に馴染みのない、全くの初心者である英語学科の学生に、「英語で初歩的な経済記事を読みこなす能力」を養成することを目標とし、分かりやすく、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。最初は、日本で発行されている英字新聞の国内の経済記事を中心として基本的な勉強をしていきます。後半は、「国際経済を」を交えて経済記事全般について本格的に勉強していきます。同時に、例えば、**「円高なのに、なぜ原油・綿花・小麦・大豆・コーヒー豆と言った外国からの輸入品が値上がりするのでしょうか」。**それには理由があるのです。こういう勉場もしていきます。**火曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。**	1. 講義の説明 2.「英字新聞の特徴について（１）」 3.「英字新聞の特徴について（２）」 4.「Headline の読み方実践練習（１）」 5.「Headline の読み方実践練習（２）」 6.「Lead の読み方実践練習（１）」 7.「Lead の読み方実践練習（２）」 8.「Lead の読み方実践練習（３）」 9.「Lead の読み方実践練習（４）」 10.「本格的な経済記事の読み方実践練習（１）」 11.「本格的な経済記事の読み方実践練習（２）」 12.「国際経済記事の読み方実践練習（１）」 13.「国際経済記事の読み方実践練習（２）」 14.「国際経済記事の読み方実践練習（３）」 15. まとめ 随時、授業中に経済用語等について分かりやすく解説・説明していきます。尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（30%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（水３） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠb（水３）	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
国際化時代にあって、異文化諸国とのビジネス・コミュニケーションを円滑にし、国際ビジネスを成功させ、誤解から生ずる摩擦を起こさせないための手段として、国際語としての英語の重要性は極めて高い。しかし、学生の大半が大学を卒業しても簡単な英文レター（メール）さえ書けないのが現状である。簡単なビジネスレターやメールを英語で書けたらどんなに素晴らしいことでしょう。**「英語ビジネス・コミュニケーション」**とあるように、**「英語＋ビジネス＋コミュニケーション」**の三つの学問を同時に行う奥の深い学問です。ビジネス英語に馴染みのない初心者に英文 **Business Writing の基本を分かりやすく解説し、指導していきます。** 具体的に講義を説明します。本講義では英文貿易通信の基本をテキストを使用して、取引関係の樹立から成立・履行・求償・解決までを講義し、基本的なビジネスレターの書き方を指導する。また、就職活動に必要な英文履歴書とカバーレターの書き方を分かりやすく講義いたします。 **火曜 3 限の英語ビジネス・コミュニケーションを同時に履修すると、半期で 1 年分の英語ビジネス・コミュニケーションが勉強できるように工夫いたしました。また、通年でも同様の勉強ができます。**一緒に勉強しましょう。	１.講義の説明 ２.ビジネスレターの形式（「ビジネスレターの構成要素」） ３.ビジネスレターの形式（「スタイル・句読点」と練習問題） ４.効果的なビジネスレターの書き方（「読みやすさ・明瞭性・簡潔さ・具体性・”You” Attitude・礼儀正しさ」） ５.効果的なビジネスレターの書き方（「偏見のない言葉の使用・能動態・積極性・Personal Touch」と練習問題） ６.よく使用される表現（その１―「取引の申込み」） ７.よく使用される表現（その２―「引合い」） ８.よく使用される表現（その３―「オファー」） ９.よく使用される表現（その４―「信用状」） １０．よく使用される表現（その５―「積出し」） １１．よく使用される表現（その６―「クレーム」） １２．英文 Business Writing 実践練習問題（その１） １３．英文 Business Writing 実践練習問題（その２） １４．英文履歴書と英文カバーレターの書き方 １５．まとめ 尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
海老沢達郎著『BUSINESS WRITING　英文ビジネスレター入門』（金星堂、2007 年）	学期末の試験（70%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（30%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（春学期は Unit1~12）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン（skeleton plan）、および専門語彙(technical terms)を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。また、毎月１回（春学期は５月、６月、7 月の最初の授業時の予定)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト（vocabulary check）を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：　このシラバスは**木曜日 3 時限**の授業のものです。杉山担当のもう１つの同一名称科目とは内容が異なります。	1. 春学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3. 「市況」の実務知識と通信文の読解・作成 4. 「取引先の発見」の実務知識と通信文の読解・作成 （第１回語彙力診断テストを実施します） 5. 「取引の申込み」の実務知識と通信文の読解・作成 6. 「信用照会」の実務知識と通信文の読解・作成 7. 「引合い」の実務知識と通信文の読解・作成 8. 「引合いに対する返事」の実務知識と通信文の読解・作成 （第２回語彙力診断テストを実施します） 9. 「オファー」の実務知識と通信文の読解・作成 10. 「カウンター・オファー」の実務知識と通信文の読解・作成 11. 「注文」の実務知識と通信文の読解・作成 12. 「注文の受諾」の実務知識と通信文の読解・作成 （第３回語彙力診断テストを実施します） 13. 「注文の謝絶」の実務知識と通信文の読解・作成 14. 「成約」の実務知識と通信文の読解・作成 15. 春学期の授業の総復習を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
(テキスト)　杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講』(三恵社、2007 年）および配布プリント （参考書）　杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メールパーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)	出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木３） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠb（木３）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
時系列的な貿易取引の流れに沿って、各取引段階における英語のビジネス通信文（Business Correspondence）を読解し作成する技術を身につけるとともに、貿易実務に関する基礎知識を幅広く習得することがねらいです。 具体的には、まず、貿易取引の段階ごとに（右記参照）、下記のテキストに収録されているビジネス通信文の内容を詳細に検討します。さらに、それぞれの単元（秋学期は Unit13~21）における実務知識、通信文のスケルトン・プラン(skeleton plan)、および専門語彙（technical terms)を学ぶとともに、通信文の読解（英文和訳)と作成（和文英訳）の訓練を行います。また、毎月１回（秋学期は 10 月、11 月、12 月の最初の授業時の予定)、テキストを出題範囲とする語彙力診断テスト（vocabulary check）を実施しますので、履修者は教室外で自主的に語彙力増強に努めなければなりません。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：　このシラバスは**木曜日 3 時限**の授業のものです。杉山担当のもう１つの同一名称科目とは内容が異なります。	1. 秋学期の授業内容と授業計画を詳しく説明します。 2. ビジネス・コミュニケーションの概念、目的、文体上の特徴、専門語彙などについて詳しく説明します。 3. 「信用状の開設と訂正」の実務知識と通信文の読解・作成 4. 「海上保険」の実務知識と通信文の読解・作成 （第４回語彙力診断テストを実施します） 5. 「輸出手配」の実務知識と通信文の読解・作成 6. 「船積み」の実務知識と通信文の読解・作成 7. 「輸入手配」の実務知識と通信文の読解・作成 8. 「決済」の実務知識と通信文の読解・作成 （第５回語彙力診断テストを実施します） 9. 「クレーム」の実務知識と通信文の読解・作成 10. 「クレーム調整」の実務知識と通信文の読解・作成 11. 「会社社交文」（推薦状）の読解・作成 12. 「会社社交文」（案内状）の読解・作成 （第６回語彙力診断テストを実施します） 13. 「会社社交文」（礼状）の読解・作成 14. 「会社社交文」（見舞状）の読解・作成 15. 秋学期の総復習を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
(テキスト)　杉山晴信『英文ビジネス通信実践演習２１講』(三恵社、2007 年）および配布プリント （参考書）　杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メールパーフェクトブック』(すばる舎、2009 年)	出席状況、授業貢献度、語彙力診断テストの得点など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品 の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。春学期は、成約にいたるまでの段階に登場する代表的なビジネス文書として、レター・オブ・インテント（Letter of Intent ; LOI）、スポット売買契約(One-shot Sales Contract) の表面約款と裏面約款、長期売買契約書(Long-term Sales Contract) 、取扱説明書(Instruction Manual) などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。	1. 春学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2. LOI の意義と目的や作成上の注意点について説明し，実際のサンプルを検討します。 3. 同上 4. LOI 作成の実習を行います。 5. 同上 6. スポット売買契約書の目的や作成上の注意点について説明し、実際の「表面約款」のサンプルを検討します。 7. スポット売買契約書の「裏面約款」、すなわち「一般取引条件」の目的や作成上の注意点について説明し、実際のサンプルを逐条的に検討します。 8. 同上 9. 長期売買契約書について説明し、実際のサンプルを「実質条項」を中心に検討します。 10. 同上 11. 製造物責任（Product Liability）の観点から、英文取扱説明書作成上の注意点について詳しく説明します。 12. 同上 13. “Plain English”での取扱説明書作成の方略を検討します。 14. 同上 15. 春学期の授業の総復習を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（木４） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠb（木４）	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
国際商取引、特に貿易取引を学ぶために必要なことは、端的に言って、「モノ・カネ・カミ」の流れを理解することに尽きます。この授業では、このうちの「カミ」、すなわち各種の英語による貿易関係書類、および関連する英文ビジネス文書(Business Documents) の読解と作成の要領を学びながら、貿易実務の基礎知識を習得します。 具体的には、工業製品の輸出入を想定して、貿易取引の各段階に登場する代表的な貿易関係書類と関連文書のサンプルを教材に用いて、各々の書類の意義と目的、作成者と提出先、記載事項、読解と作成の注意点など、書類に関する実務的な知識を学びながら貿易取引の流れを理解し、その後で当該書類を実際に読解あるいは作成する実習を行います。秋学期は、履行および決済の段階に登場する代表的なビジネス文書として、商業送り状(Commercial Invoice)、包装明細書（Packing List）、船荷証券（Bill of Lading; B/L）、保険証券（Insurance Policy）等の船積書類、輸出申告書と輸入(納税)申告書、荷為替信用状（Documentary Letter of Credit; L/C）などを扱います。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。 **＊注意**：このシラバスは**木曜日４時限**の授業のものです。	1. 秋学期の授業内容・授業計画を詳しく説明します。 2. 各種の船積書類(Shipping Documents; S/D)の意義と目的、作成上または読解上の注意点等を説明します。 3. 商業送り状と梱包明細書の実際のサンプルを検討します。 4. 商業送り状と梱包明細書を作成する実習を行います。 5. 船荷証券と保険証券の実際のサンプルを検討します。 6. 船荷証券と保険証券の記載事項を読解する実習を行います。 7. 輸出通関および輸入通関について詳しく説明します。 8. 輸出申告書（Export Declaration; E/D）を作成する実習を行います。 9. 同上 10. 輸入(納税)申告書（Import Declaration; I/D）作成する実習を行います。 11. 同上 12. 荷為替信用状による決済の仕組を詳しく説明します。 13. 荷為替信用状の実際のサンプルを検討し、信用状の記載事項を読解する実習を行います。 14. 同上 15 秋学期の授業の総復習を行います。
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意するプリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール　パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況、授業貢献度、提出物の提出状況など、平常点を第一に尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　プリント⑦ 14　プリント⑧ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月１） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（月１）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約１（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 10-15　プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３蘇構成で、参加型の授業である。また、夏休み前の授業では、黒板を使っての演習が多くなる。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　ビジネス英語の特徴 2　プリント①（英文ビジネスコラム） 3　国際取引概略Ⅰ 4　プリント② 5　国際取引概略Ⅱ 6　プリント③ 7　引合（inquiry） 8　プリント④ 9　オファーⅠ（offer） 10　プリント⑤ 11　オファーⅡ 12　プリント⑥ 13　プリント⑦ 14　プリント⑧ 15　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション（月２） 英語ビジネス・コミュニケーションⅠa（月２）	担当者	信　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
目的 ビジネス英語という英語はない。要は、ビジネスの現場で使われる英語（English for business）である。企業に勤務して、痛感することは平均的な英語力の不足で、多忙な業務を通じて英語力伸ばすと言うことはきわめて困難である。やはり、英語力の基本は大学時代に学ぶ必要がある。このコースは、基本的に英語力をつけることをメインにし、最低限度の実務の内容を取り上げる科目である。ビジネスに関しても、自主的に興味を持ち、取り組んでもらう姿勢が求められる。 講義概要 基本的に演習科目で、授業の進め方は、宿題と教科書、それにプリント（英文ビジネスコラム）の３蘇構成で、参加型の授業である。将来、企業に就職を希望し、ビジネスセンスをすこしでも養いたいと希望する学生を優先する。担当講師自身の、企業を含め長い英語圏での生活経験、それに昔、アメリカでの MBA 課程で学んだり、教えたりした経験を生かせればと思う。レベル的には、TOEIC の 650 点、英検の準１級を目標に定めたい。とにかく明るく、楽しいクラスにしたい。積極的な発言歓迎。なお、授業計画はあくまで取り上げる内容の参考で、進行具合などにより変更がありうる。	下記の授業計画はあくまで暫定的なもので進行状況により変更することがある。 1　契約１（contract） 2　プリント⑦ 3　契約Ⅱ 4　プリント⑧ 5　クレームⅠ（claim） 6　プリント⑨ 7　クレームⅡ 8　プリント⑩ 9　企業内組織の英語 10-15　プレゼンテーションの実習 授業と平行して、10 月下旬からはリサーチペーパーの作成を予定。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストは指定しないが、参考書として以下のものが勧められる。『マルチトピックのビジネス英語』信　達郎他、南雲堂フェニックス、『ビジネスレターが書ける英単語・例文辞典』、信　達郎著、南雲堂フェニックス	受講姿勢 25%、発表／リサーチレポート 25%。ペーパーテスト 50%。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーションⅡa	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。特に、貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務の全体にわたって満遍なく、かつ細かく勉強することを狙いとします。 春学期には、貿易の基本概念に加え、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分して、右記のように、その前半（貿易マーケティング段階、取引関係創設段階、成約段階）を詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 春学期の授業内容および授業計画の説明 2. 貿易の基本概念(1)：比較優位、貿易形態など 3. 貿易の基本概念(2)：貿易関係機関、関税など 4. 貿易の基本概念(3)：貿易実務の遂行手順の概観 5. 貿易の基本概念(4)：ビジネス・コミュニケーションが貿易取引の遂行と促進に果たしている役割 6. 貿易マーケティング段階:市場調査（market research）と販売戦略調査（marketing research） 7. 取引関係創設段階(1)：取引先選定と引合い 8. 取引関係創設段階(2)：銀行への信用照会 9. 取引関係創設段階(3)：商業興信所への信用照会 10. 成約段階(1)：一般取引条件（general terms and conditions）のうち、いわゆる「主要５条件」（品質・数量・価格・船積・決済）と保険に関する規定 11. 成約段階(2)：一般取引条件のうち、当事者関係、準拠法、定型貿易条件などに関する規定 12. 成約段階(3)：一般取引条件のうち、不可抗力、クレーム、仲裁などに関する規定 13. 成約段階(4)：オファー、カウンター・オファー、発注と受注 14. 成約段階(5)：各種契約関係書類 15. 春学期の授業の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意する資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06 年度以降 03 年度以降	英語ビジネス・コミュニケーション実務 英語ビジネス・コミュニケーションⅡb	担当者	杉山　晴信

講義目的、講義概要	授業計画
英語と日本語による豊富な参考資料を活用して、貿易実務に関する一巡の手続き、制度、法令等を学びます。特に、貿易や国際物流に興味のある人、貿易商社への就職を希望する人、日本貿易実務検定協会の貿易実務検定試験や日商ビジネス英語検定試験を目指す人、通関士国家試験の受験を検討している人などに有益な情報を提供できるように、貿易実務の全体にわたって満遍なく、かつ細かく勉強することを狙いとします。 秋学期には、貿易取引の流れを特に輸出者の視点から時系列的に 6 つのステージに区分して、右記のように、その後半（履行段階、決済段階、クレームおよびクレーム調整の段階）を詳しく学習します。 履修者はあらかじめ参考資料の所定の箇所を丹念に読んでくるものとし、授業は参考資料の内容を講義で敷衍する形で進めます。また、固有名詞の変更など若干の調整を加えた現物のビジネス文書に実際に触れていただき、それらを読解したり、新規に作成したりする実習の機会も可能な限り作ります。 なお、右記の授業計画は、授業の進捗状況によって多少の変更があるかもしれません。	1. 秋学期の授業内容および授業計画の説明 2. 履行段階(1)：インコタームズによる売主と買主の義務 3. 履行段階(2)：許可、承認等の取得および通関手続き 4. 履行段階(3)：海上輸送に関する実務知識と手続き 5. 履行段階(4)：航空輸送に関する実務知識と手続き 6. 履行段階(5)：複合輸送に関する実務知識と手続き 7. 履行段階(6)：貨物海上保険に関する実務知識と手続き 8. 履行段階(7)：　同上 9. 履行段階(8)：各種の運送書類（船荷証券、海上運送状、航空運送状、複合運送証券等） 10. 決済段階(1)：為替リスクの回避法 11. 決済段階(2)：信用状（Letter of Credit; L/C）と荷為替手形（Documentary Draft） 12. 決済段階(3)：荷為替手形によらない決済 13. クレームおよびクレーム調整の段階(1)：苦情(complaint)とクレーム(claim)の相違、クレームの種類、クレームの予防法など 14. クレームおよびクレーム調整の段階(2)：クレーム調整、和解、訴訟、仲裁など 15. 秋学期の授業の総復習
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）当方で用意する資料プリント （参考書）杉山晴信『貿易実務の英語　ビジネス英文メール パーフェクトブック』（すばる舎、2009 年）	出席状況や授業貢献度といった平常点を第一の尺度とし、定期試験の結果を加味して決定します。

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅰ（月３） メディア英語 Ⅰa（月３）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Miltary 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅰ（月３） メディア英語 Ⅰb（月３）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅰ（金２） メディア英語 Ⅰa（金２）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1. Introduction to the class 2. Mosque building ban 3. Sharia Law ban 4. Confederate History revision 5. Reconciliation of slavery issues 6. Sons of the Confederacy lobbyists 7. Birther issues 8. Picture Manipulation 9. Alcoholism in Russia 10. Koran Burning 11. CNN Vs Fox false Allegations 12. Women in the Miltary 13. Bullying 14. Sarah Palin Fact Vs, Fiction 15. Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅰ（金２） メディア英語 Ⅰb（金２）	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
This course will raise the level of understanding of students to current events in English through the use of the Internet, CNN and YOU TUBE. Music, movies, and world events will all be examined both at the linguistic and the non linguistic level. Students will have quizzes biweekly and will be expected to present opinions in class on video clips viewed. All homework will be submitted by email.	1. Introduction to the class 2. Mistaking bath room pictures as child pornography 3. Conspiracy Theories 4. Tea Party Racists 5. Michele Bachman misquotes 6. Christine O'Donnell Constitutional misconceptions 7. Afghanistan War Atrocities 8. Pakistan border conflicts 9. European racism of Muslims 10. Doubts of Obama's religion 11. Arizona Immigration law 12. Sex Education 13. Whale Hunting 14. Ritual Dolphin Killings 15. Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is aimed at students whose English is at an intermediate level. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa.	1.1 Documentary (or article) #1 1.2 Documentary (or article) #1 1.3 Essay #1 1.4 Documentary (or article) #2 1.5 Documentary (or article) #2 1.6 Essay #2 1.7 Documentary (or article) #3 1.8 Documentary (or article) #3 1.9 Essay #3 1.10 Documentary (or article) #4 1.11 Documentary (or article) #4 1.12 Essay #4 1.13 Final preparation 1.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English I is aimed at students whose English is at an intermediate level. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories, as well as travel guides (online and other). The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. Preference will be given to students taking the first-semester course as well.	2.1 Documentary (or article) #1 2.2 Documentary (or article) #1 2.3 Essay #1 2.4 Documentary (or article) #2 2.5 Documentary (or article) #2 2.6 Essay #2 2.7 Documentary (or article) #3 2.8 Documentary (or article) #3 2.9 Essay #3 2.10 Documentary (or article) #4 2.11 Documentary (or article) #4 2.12 Essay #4 2.13 Final preparation 2.14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅰ メディア英語 Ⅰa	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
今年度、**春学期は「映画で学ぶ言葉と文化」**と題して、メディアの一つである**「映画」**を取り上げて講義いたします。外国映画を見る場合に、言葉だけでは映画を十分に理解できない場合があります。従って、時代背景・映画の題材と言った「外国の文化」を学んでいきます。また、**「日本語字幕と音声英語の違い」**、**「原作小説との比較」**などを通して、**「映画で学ぶ言葉と文化」**を分かりやすく講義していきます。同時に、就活や社会に出て必要な**「考える力」**を養います。学生諸君にとっては、きっと**「目から鱗が落ちる」**講義となるでしょう。 　取り上げる映画は、アメリカの文豪でノーベル賞作家のジョン・スタインベック原作・ジョン・フォード監督・ヘンリー・フォンダ主演の**『怒りの葡萄―The Grapes of Wrath 』**(1940 年度アカデミー賞監督賞）とイギリスの大作家グレアム・グリーン原作・キャロル・リード監督・オーソン・ウェルズ主演の**『第三の男―The Third Man 』**（1950 年アカデミー賞撮影賞）を取り上げます。 　このように今年度は**半期完結型の講義**といたしました。授業に出席し、積極的な学生の参加を望みます。一緒に勉強していきましょう。	１．講義の説明 ２．「ジョン・スタインベック」について講義 ３．「怒りの葡萄」観賞（その 1） ４．「怒りの葡萄」観賞（その 2）と「レポート」提出 ５．「怒りの葡萄（その１）」部分観賞と講義 ６．「怒りの葡萄（その 2）」部分観賞と講義 ７．「怒りの葡萄（その 3）」部分観賞と講義、「レポート」提出 ８．「グレアム・グリーン」について講義 ９．「第三の男」観賞（その 1） １０．第三の男」観賞（その 2）と「レポート」提出 １１．「第三の男（その 1）」部分観賞と講義 １２．「第三の男（その２）」部分観賞と講義 １３．「第三の男（その３）」部分観賞と講義、「レポート提出 １４．「オーソン・ウェルズ」について講義 １５．まとめ 　尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	レポート（60%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（40%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅰ メディア英語 Ⅰb	担当者	海老沢　達郎

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期は**「英字新聞丸かじり」**と題して、メディアの一つである**「英字新聞」**を取り上げて、英字新聞に馴染みのない学生に、**「英字新聞の基本的な読み方」**を講義していきます。 本講義ではプリントを使用して、英字新聞を読む意義・英字新聞の特徴・Headline（見出し）の読み方、Lead（記事の第１節）の読み方の基本をまず指導していきます。次に、具体的に、社会面・政治面・経済面・国際面の記事の読み方、社説の読み方などを勉強していき、英字新聞全体をある程度読みこなす力を養成していきたいと思っています。同時に、春学期と同じように**「考える力」**を養います。例えば、**"…Japan's host nation support to cover expenses for U.S. bases in Japan."** という英字新聞の記事の下線部は日本語では、**「接受国支援」**と訳しますが、これでは意味がよく分かりません。分かりやすい日本語にしたらどうなるでしょうか。こういう勉強もしていきます。 学期の終わりには、英字新聞をある程度読めるようになっていると確信しております。**将来に役立つ実践的なメディア英語の講義であると同時に、アカデミックな講義を目指します。**このように今年度は**半期完結型の講義**といたしました。積極的な学生の参加を望みます。	１．講義の説明 ２．「英字新聞の特徴・Headline の読み方（その１）」 ３．「Headline の読み方（その２）」 ４．「Headline の読み方実践練習（その１）」 ５．「Headline の読み方実践練習（その２）」 ６．「Lead の読み方実践練習（その１）」 ７．「Lead の読み方実践練習（その２）」 ８．「Lead の読み方実践練習（その 3)」 ９．「Lead の読み方実践練習（その４）」 １０．「英字新聞政治面の記事の読み方実践練習」 １１．「英字新聞経済面の記事の読み方実践練習」 １２．「英字新聞国際面の記事の読み方実践練習」 １３．「英字新聞社説の読み方実践練習（その１）」 １４．「英字新聞社説の読み方実践練習（その２）」 １５．まとめ 　尚、授業計画は大体の目安であり、この通り授業が進むとは限らない。 **　また、英語ビジネスコミュニケーションと併せて履修すると、国際コミュニケーションを体系的に学習することができます。**
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント使用	学期末の試験（70%）を中心にして、これに出席・授業への貢献度（30%）を参考にして総合的に評価する。尚、欠席は 5 回までとする。

06年度以降 03年度以降	メディア英語Ⅰ　（火４） メディア英語Ⅰａ（火４）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
「メディア英語を学ぶ」とは何を意味するのでしょうか。 ・英字新聞・雑誌やネットの記事を効率よく読む学習 （頻出単語なども、項目ごとに暗記したりする） ・テレビ・ラジオの音声を学習教材にして学ぶ （ニュースや演説のみならず、ＣＭも題材になりえる） ・マス・メディアの流す記事を鵜呑みにせず、懐疑的に読む訓練 「メディア英語学習法」のいくつか例を挙げてみましたが、学習者の目的・興味によって、「メディア英語の学習法」は様々な方法があると思います。 今年のこの授業では、日々のニュースや現在世界で起こっている様々な出来事を、表面的ではなく深く理解するために、その発端となった重大事件や現在に至るまでの経緯、関連した歴史上重要な演説や論争を学習します。「世界経済」「世界政治」「人種問題・民主化問題」「冷戦以後の激動の時代」をテーマとして取り扱います。背景知識をしっかり理解した上で、自分自身の意見を言えるように論理的思考を身につけることも、この授業の目的となります。	1. ガイダンス 2. 公民権運動：黒人差別を乗り越えて 3. ９．１１：テロリズムの脅威 4. アポロ計画：月への到達と宇宙開発戦争 5. 大恐慌とサブプライムローン 6. ソ連の解体：独立国家共同体（CIS）誕生の光と影 7. EU誕生：勇気ある将来への投資 8. 中間テスト 9. ベルリンの壁崩壊：冷戦の象徴、壁の崩壊が意味するもの 10. 中国民主化運動：文化大革命・天安門事件・言語統制 11. 朝鮮戦争：同じ民族が争う悲劇 12. ベトナム戦争：その始まりと米軍介入の真相 13. 高度経済戦争：日本が起こした奇跡の高度経済成長 14. 中東情勢：血だらけのパレスチナの大地 15. キューバ危機：世界は第三次世界大戦の危機にあった
テキスト、参考文献	**評価方法**
植田十三他著『Global Dynamics:世界情勢を英語で読む』（センゲージラーニング、2011年） ISBN: 978-4-86312-183-6	※ 成績は以下の配分で評価します。 中間試験３５％、期末試験３５％、授業内での発表３０％ ※ 遅刻3回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06年度以降 03年度以降	メディア英語Ⅰ　（木４） メディア英語Ⅰb（木４）	担当者	国見　晃子

講義目的、講義概要	授業計画
「メディア英語を学ぶ」とは何を意味するのでしょうか。 ・英字新聞・雑誌やネットの記事を効率よく読む学習 （頻出単語なども、項目ごとに暗記したりする） ・テレビ・ラジオの音声を学習教材にして学ぶ （ニュースや演説のみならず、ＣＭも題材になりえる） ・マス・メディアの流す記事を鵜呑みにせず、懐疑的に読む訓練 「メディア英語学習法」のいくつか例を挙げてみましたが、学習者の目的・興味によって、「メディア英語の学習法」は様々な方法があると思います。 今年のこの授業では、日々のニュースや現在世界で起こっている様々な出来事を、表面的ではなく深く理解するために、その発端となった重大事件や現在に至るまでの経緯、関連した歴史上重要な演説や論争を学習します。「世界経済」「世界政治」「人種問題・民主化問題」「冷戦以後の激動の時代」をテーマとして取り扱います。背景知識をしっかり理解した上で、自分自身の意見を言えるように論理的思考を身につけることも、この授業の目的となります。	1. ガイダンス 2. 公民権運動：黒人差別を乗り越えて 3. ９．１１：テロリズムの脅威 4. アポロ計画：月への到達と宇宙開発戦争 5. 大恐慌とサブプライムローン 6. ソ連の解体：独立国家共同体（CIS）誕生の光と影 7. EU誕生：勇気ある将来への投資 8. 中間テスト 9. ベルリンの壁崩壊：冷戦の象徴、壁の崩壊が意味するもの 10. 中国民主化運動：文化大革命・天安門事件・言語統制 11. 朝鮮戦争：同じ民族が争う悲劇 12. ベトナム戦争：その始まりと米軍介入の真相 13. 高度経済戦争：日本が起こした奇跡の高度経済成長 14. 中東情勢：血だらけのパレスチナの大地 15. キューバ危機：世界は第三次世界大戦の危機にあった
テキスト、参考文献	**評価方法**
植田十三他著『Global Dynamics:世界情勢を英語で読む』（センゲージラーニング、2011年） ISBN: 978-4-86312-183-6	※ 成績は以下の配分で評価します。 中間試験３５％、期末試験３５％、授業内での発表３０％ ※ 遅刻3回（３０分以内）で１回の欠席とみなします。 欠席５回した時点で単位取得が不可能となります。

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I a	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
新聞やインターネット等に載せられている情報を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。なお、“軸”としてはまだホットな（?）話題であろうオバマ大統領を中心として展開していく予定。時間があれば、映画などを通じてアメリカにおける人種間の軋轢を紹介していく。 なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意です。	1.　　イントロダクション 2～15. メディア英語（実践）
テキスト、参考文献	**評価方法**
① テキストはプリントにて配布。 ② 辞書は毎回必ず持参してくること。 （『リーダーズ英和辞典』以上のレベルのものが望ましい）	出席・発表・学期末のレポートを総合して決める。4 回以上欠席した場合やレポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合に関しては評価対象外となるので注意。

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 I メディア英語 I b	担当者	小林　愛明

講義目的、講義概要	授業計画
新聞やインターネット等に載せられている情報を通じて、様々な「メディア」の英語を読み・聴き・理解する術を習得していく。なお、“軸”としてはまだホットな（?）話題であろうオバマ大統領を中心として展開していく予定。時間があれば、映画などを通じてアメリカにおける人種間の軋轢を紹介していく。 なお、発表を無断で欠席したり、同じ班の人に対して無責任な行動を取ったりした場合には評価対象外となるので要注意です。	1.　　イントロダクション 2～15. メディア英語（実践）
テキスト、参考文献	**評価方法**
① テキストはプリントにて配布。 ② 辞書は毎回必ず持参してくること。 （『リーダーズ英和辞典』以上のレベルのものが望ましい）	出席・発表・学期末のレポートを総合して決める。4 回以上欠席した場合やレポートに不備（資料の無断盗用など）がある場合に関しては評価対象外となるので注意。

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱa	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. By the end of the Spring term students should be able to use POWER POINT for at least one presentation PER TERM! The use of email to submit homework is COMPULSORY. Those who cannot nor will not need not apply to this class.	1 Introduction 2 Route 66, Weekly Current Event 3 The American RED Cross, Weekly Current Event 4 The Boston Ballet, Weekly Current Event 5 Comedy, Weekly Current Event 6 Political Protest, Weekly Current Event 7 The Yellow Pages, Weekly Current Event 8 The Dangers of Fast Food, Weekly Current Event 9 The JOYS of Italian Cooking, Weekly Current Event 10 Healthy Life Styles, Weekly Current Event 11 Supermarkets, Weekly Current Event 12 Apples in the US Northwest, Weekly Current Event 14 Social Welfare Change 15 Final Evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱb	担当者	Ａ．Ｒ．ファルヴォ

講義目的、講義概要	授業計画
The focus of this course will be to raise the consciousness of students to current events in English through the use of the Internet, the media and the entertainment community in the English speaking world. Music, movies, and world events will all be analyzed both at the linguistic and the supra linguistic level. Students will be expected to make weekly presentations and interviews. Students will use POWER POINT for at least one presentation this term. As in the Spring term, students will submit homework by email.	1 Introduction 2 Tennessee, Weekly Current Event 3 The Special Olympics, Weekly Current Event 4 Sports Shoes, Weekly Current Event 5 Charities for Children, Weekly Current Event 6 Health and Comedy, Weekly Current Event 7 Broadway Musical, Weekly Current Event 8 Country Western Singers, Weekly Current Event 9 Space Exploration, Weekly Current Event 10 Analysis of Commercial 11 You tube music analysis 12 Critique of Viral video 13 The Cove 14 Whaling Issues 15 Final Presentations
テキスト、参考文献	**評価方法**
Weekly Prints (usually transcripts from video clips) will be sent by email to class participants.	Weekly participation in class activities, written assignments submitted by email and other forms of constant evaluation

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 II メディア英語 IIa	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is aimed at students whose English is at an advanced level. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on political and economic/business stories, with a focus on Japan. Possible documentaries to be shown include "Hiroshima" (BBC) and "The Cove." The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English II course cannot take Media English I in the same year, and vice versa.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 II メディア英語 IIb	担当者	P．ネルム

講義目的、講義概要	授業計画
Media English II is aimed at students whose English is at an advanced level. The aim of this course is to introduce students to the various types of English used in the media world, especially newspapers, magazines, and documentaries. The emphasis of this semester will be on cultural and entertainment stories, as well as travel guides (online and other). The format of the course will be for students to read/listen to/watch prepared materials every week, to participate actively in discussions and debates, and to submit written one-page essays as requested. At the end of the term, students will make final presentations and write self-evaluations. Students taking my Media English I course cannot take Media English II in the same year, and vice versa. Preference will be given to students taking the first-semester course as well.	1 Documentary (or article) #1 2 Documentary (or article) #1 3 Essay #1 4 Documentary (or article) #2 5 Documentary (or article) #2 6 Essay #2 7 Documentary (or article) #3 8 Documentary (or article) #3 9 Essay #3 10 Documentary (or article) #4 11 Documentary (or article) #4 12 Essay #4 13 Final preparation 14/15 Final presentation, Self-evaluation
テキスト、参考文献	**評価方法**
Materials to be handed out in class weekly.	Attendance 25% (maximum number of absences=4), Participation 25%, Essays 25%, Final presentation and self-evaluation 25%

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱa	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
英字新聞の記事を読む。いろいろな内容の報道記事や特集記事を読むことを通して一般社会で必要とされる英語の語彙力を養成する。予習してきた事を確認するために、毎回簡単な単語テストを行う。教材については、次の授業で使う記事のコピーを毎回配布するので、出来るだけ欠席しないことが大切である。授業では英文記事を和訳しながら内容理解に努めたい。	毎回、授業の初めに単語小テストを行う。授業では主に和訳をしながら記事を読み進める。
テキスト、参考文献	**評価方法**
次の授業で使う教材を毎回配布する。	主として単語小テストの結果の平均点により評価する。

06 年度以降 03 年度以降	メディア英語 Ⅱ メディア英語 Ⅱb	担当者	東郷　公徳

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に同じ。	春学期に同じ。
テキスト、参考文献	**評価方法**
次の授業で使う教材を毎回配布する。	主として単語小テストの平均点により評価する。

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： 公開後 60 年を経ても今尚その輝きを失わない名画、「カサブランカ」。（アカデミー賞受賞）第二次世界大戦のヨーロッパ、モロッコを舞台に繰り広げられる物語をＤＶＤで観賞し、生き生きとしたオーセンテイックな使える英語を学び、発表などを通じて実際に使えるようにしていきます。時代的背景の中で深みのある台詞でつづられていくストーリーを楽しみながら学べると思います。 講義概要： DVD を見てスクリプトをよく理解し、Exercise で確認します。チャプターごとに好きな表現を選び、ペアでスキットを作成し発表して、生きた英語を身につけていきます。	1. Introduction 2. Unit 1. I'll Die in Casablanca 3. Unit 2. Where Were You Last Night? 4. Unit 3 Yeah? What's His Name? Afternoon Tea Break 1 5. Unit 4. Play "As Time Goes By" 6. Unit 5. Here's Looking at You, Kid. 7. Unit 6. Kiss Me As If It Were the Last Time Afternoon Tea Break 2 8. Unit 7. Your Story Had Me a Little Confused 9. Unit 8. Nobody Ever Loved Me That Much 10. Unit 9. This Café Is Closed Until Further Notice! Afternoon Tea Break 3 11. Unit 10. I Wish I Didn't Love You So Much 12. Unit 11. She Isn't Just Any Woman 13. Unit 12. We Always Have Paris 14. まとめ(1) 15. まとめ(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ed. by Hiromi Akimoto/Mayumi Hamada. *Casablanca -- Cool and Unforgettable English.* Macmillan Languagehouse, ￥2500　＋税	出席状況、授業への参加度、宿題、発表、エッセイ提出等から総合的に評価します。授業中のプリゼンテーションも重要視しますので、出席は最も重要。

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	門倉　弘枝

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的： ３つの有名なアメリカ映画，マーガレット　ミッチェルの「風と共に去りぬ」、ルイザ　メイ　オルコットの「若草物語」，ライマン　フランク　ボームの「オズの魔法使い」を通してアメリカの歴史的、社会的、文化的背景を理解し、アメリカの心を感じとることが出来れば嬉しいと思います。 講義概要： ＤＶＤを観て、練習問題をして内容の理解を確認します。それからその場面場面にちりばめられた多くの英語表現を学び、それらの表現を使い各自スキットを作成して発表することにより実際に使えるようにしていきます。	1. Introduction 2. "Gone With the Wind" Unit 1. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review 3. Unit 2. Same as Above 4.Unit 3. " 5.Unit 4. Vocabulary Exercises/Scene 1,2, 3/Summary 6."Little Women" Unit 5. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review 7. Unit 6. Same as above 8. Unit 7. " 9. Unit 8 Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Summary 10."The Wizard of Oz" Unit 9. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/Review 11. Unit 10. Same as Above 12. Unit 11. " 13.Unit 12. Vocabulary Exercises/Scene 1, 2, 3/ Summary 13.Performance 14. まとめ　（1） 15. まとめ　（2）
テキスト、参考文献	**評価方法**
Ed. by M. Ishizuka, M. Kobayashi, M. Maass, M. Nagasaki. *American Spirits in Movies* . Seibido. ¥2400.	春学期に同じ。

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 a	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、2006 年に公開された映画「プラダを着た悪魔(The Devil Wears Prada)」を題材に、映像をみながら実践的な英語力の向上をはかることにある。ジャーナリスト志望の主人公アンディが「悪魔」のように厳しいファッション雑誌の編集長の下で直向きに働き、成長していく姿を描いた物語である。この映画は、同世代の女性の共感をよび、日本でも大きな話題となった。 授業では、シネマの歴史、分類、手法などにつきまず説明する。その上で、実際に映像をみながら、リスニング、内容の把握、シャドーイングなどを行う。最後の授業では、2～3 人のグループにわかれて、発表をしてもらう。発表の詳細については、第 1 回目の授業にて述べる。	第 1 回　ガイダンス 第 2 回　シネマについて① 第 3 回　シネマについて② 第 4 回　シネマについて③ 第 5 回　Andy Meets Miranda 第 6 回　Andy's First Day at Runway 第 7 回　Miranda, the Almighty 第 8 回　Andy's Metamorphosis 第 9 回　Andy Performs a Miracle 第 10 回　Andy's Stock Goes Up 第 11 回　Andy's Dilemma 第 12 回　A Night in Paris 第 13 回　A Plot against Miranda 第 14 回　Andy's Final Choice 第 15 回　発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
Aline Brosh McKenna 著、神谷久美子／Kim R.Kanel 編『プラダを着た悪魔』松柏社、2010 年	出席回数、授業への貢献度、発表、レポートによる総合評価

06 年度以降 03 年度以降	シネマ英語 シネマ英語 b	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
1999 年のアカデミー賞作品賞受賞作 *Shakespeare in Love* を取り上げる。 この作品はイギリス現代劇作家の一人 Tom Stoppard が脚本を手がけた。Stoppard は言葉のずれや音の遊びを利用して、虚実の境目の曖昧さを知的に表現することにたけた作家である。*Shakespeare in Love* はロマンティックな恋愛を描く娯楽作品であるとともに、歴史的事実とフィクションを複雑に交錯させた知的遊戯にあふれた作品でもある。一つの映画の中で Shakespeare の戯曲の台詞と Stoppard の脚本の言葉が混じり合い、時代を超えた二人の作家の共同作品ともなっている。 丹念にこの作品を分析していくことにより、Stoppard の言語遊戯やそれを映像化する手法への理解を深めることを目的とする。	1. 授業の進め方の説明、概説 2. Chapter 1 3. Chapter 2 4. Chapter 3 5. Chapter 4 6. Chapter 5 7. Chapter 6 8. Chapter 7 9. Chapter 8 10. Chapter 9 11. Chapter 10 12. Chapter 11 13. Chapter 12 14. Chapter 13 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
香西史子編、*Shakespeare in Love* （柏松社）	平常点（授業中の課題など）：40% 期末テスト：60%

06 年度以降 03 年度以降	英語学の世界 英語学概論 b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、言語学の最近の発展から得られた知見を利用し、英語の特質を探り当てて英語そのものの理解を深め、英語についての知識を増やすことにあります。したがって、高校時代に習ってきた表現が「なぜそう言えるのに、こうは言えないの？」という素朴な疑問に対して、それなりに「なるほど！」と納得のいく理由のあることを説明していきます。 この授業を受けると、例えば日本語で「ジョンにタバコをやめるよう説得したけれど、やめなかった」と言えても、“*I persuaded John out of smoking, but he didn't quit smoking.”と言えない理由や、“I'm standing (　) the street.”のカッコに in も on も入るけど、意味が違うことが分かるようになります。役に立つ、本質的知識を身につけ、その過程で、ことばが人間であることの大事な証（あかし）であることを理解してほしいと思っています。 <続きは下をご覧ください>	1. 英語と日本語の情報構造 2. 情報の新旧と冠詞 3. 情報構造と書き換え構文 4. 英語受動文 5. GET 受身と BE 受身 6. 自動詞構文と他動詞構文 7. 動詞の意味と構文（結果構文） 8. 動詞の意味と構文（二重目的語構文） 9. 動詞の意味と構文（壁塗り構文） 10. 動詞の意味と構文（tough 構文と中間構文） 11. 動詞の意味ネットワーク 12. 前置詞の意味 13. 続き 14. 前置詞の意味ネットワーク 15. アスペクト（進行相と完了相） ※ 上のトピックに多少の変更を加える場合は、第 1 回目の授業で提示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：第 2 週目からは講義支援ポータルサイトを通じて配布しますので、各自で印字して下さい。 参考書：授業中に適宜紹介します。	課題と小テストおよび定期試験で決める。 ただし、**抜き打ち小テストで 6 割（可）以上取れない場合は、定期試験の受験ができない**ので注意すること。

06 年度以降 03 年度以降	英語学の世界 英語学概論 b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的と内容は春学期と同じです。 もう少し、この授業を受けると分かるようになる例を挙げておきます。 (1) 沸くのは「やかん」ではなく「お湯」なのに、英語も日本語も「やかんが沸く」と言う。 a. The kettle is boiling. b. ヤカンが煮えくり返っている。 (2) ‘write Mary a letter’と‘write a letter to Mary’は同じ意味だと習ったのに、b は言えない。 a. John wrote a letter to Mary, but later he tore it up. b.*John wrote Mary a letter, but later he tore it up. (3) [疲れている人に向かって]「一所懸命働いたから疲れを感じるのさ」という場合には a のほうがよい。 a. You feel tired because you've worked hard. b.??Because you've worked hard, you feel tired. (4) 受動文で get と be のどちらを使ったらよいのか。 a. Criminals must {get/?be} arrested to prove their machismo. b. Criminals must {?get/be} arrested to keep the streets safe.	1. 英語と日本語の情報構造 2. 情報の新旧と冠詞 3. 情報構造と書き換え構文 4. 英語受動文 5. GET 受身と BE 受身 6. 自動詞構文と他動詞構文 7. 動詞の意味と構文（結果構文） 8. 動詞の意味と構文（二重目的語構文） 9. 動詞の意味と構文（壁塗り構文） 10. 動詞の意味と構文（tough 構文と中間構文） 11. 動詞の意味ネットワーク 12. 前置詞の意味 13. 続き 14. 前置詞の意味ネットワーク 15. アスペクト（進行相と完了相） ※ 上のトピックに多少の変更を加える場合は、第 1 回目の授業で提示する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：第 2 週目からは講義支援ポータルサイトを通じて配布しますので、各自で印字して下さい。 参考書：授業中に適宜紹介します。	課題と小テストおよび定期試験で決める。 ただし、**抜き打ち小テストで 6 割（可）以上取れない場合は、定期試験の受験ができない**ので注意すること。

03 年度以降	言語情報処理Ｉa	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う．われわれ日本人が話す，あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり，ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる．たとえば「流暢さ」，「使用する単語の種類」，「使用する文法の複雑さ」，「正確さ」などである．この授業は，これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする．それにより，自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり，将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は，生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを目指す．**英語学習に強い興味関心がある人**，**教職を目指す人**に最適な内容と考える． [概要] ごく基本的な言語学の知識の講義から始め，その後は１人１台のコンピューターを使い，演習を中心に授業を進める．自分で学習者言語データを収集したり，その分析結果をレポートにまとめたりすることも課題となる．コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが，授業を通して学習することも十分可能.	1.　【ガイダンス】 2.　言語の基本（1）：品詞 3.　言語の基本（2）：形態素，単語，句，節 4.　学習者言語の分析：語彙力とは何か（1） 5.　学習者言語の分析：語彙力とは何か（2） 6.　学習者言語の分析：語彙力とは何か（3） 7.　学習者言語の分析：文法力とは何か（1） 8.　学習者言語の分析：文法力とは何か（2） 9.　学習者言語の分析：文法力とは何か（3） 10.　学習者言語の分析：流暢さとは何か（1） 11.　学習者言語の分析：流暢さとは何か（2） 12.　学習者言語の分析：流暢さとは何か（3） 13.　最終レポート準備（1） 14.　最終レポート準備（2） 15.　【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する.	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する．欠席の場合でも必ず課題を提出すること.

03 年度以降	言語情報処理Ｉb	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 春学期に引き続き，学習者言語の分析を行う．それにより，英語学習を進める上で直面する困難点を，具体的数量的に把握する視点や分析方法を身につける. [概要] 春学期の内容を総合的に復習し，それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める．そのため，春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい．秋学期から履修する場合は，言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい. 授業においては，実際に学習者言語のデータ収集を行い，その分析を進めていく．受講人数によって，グループ活動または個人活動になるが，学生の作業，演習，発表が中心になる.	1.　【ガイダンス】 2.　学習者言語の分析の視点（1）：概要 3.　学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ 4.　学習者言語の分析の視点（3）：語彙力 5.　学習者言語の分析の視点（4）：文法力 6.　学習者言語の分析の視点（5）：正確性 7.　データ収集と学習者コーパスの作成（1） 8.　データ収集と学習者コーパスの作成（2） 9.　学習者コーパスの加工：tagging（1） 10.　学習者コーパスの加工：tagging（2） 11.　分析（1） 12.　分析（2） 13.　プレゼンテーション（1） 14.　プレゼンテーション（2） 15.　【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する.	出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する．欠席の場合でも必ず課題を提出すること.

03 年度以降	言語情報処理Ｉa	担当者	吉成　雄一郎

講義目的，講義概要	授業計画
（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です） 本講義では，最終的にはコンピュータというメガネを通して，「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば，皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時，どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが，必ずしも近くにいるとは限りませんし，聞く相手によって答えが揺れることもあります。 そんな時に，一つのヒントを与えてくれるものが，「コーパス」です。コーパスというのは，コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで，普通の辞書では得られない例文を見つけたり，また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。 本講義では，まず春学期に情報処理の基本的な考え方，発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析 **（下に続く↓）**	1　講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2　言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3　計算(計算式，計算式のコピー，セルの相対参照，絶対参照等) 4　Excel 関数(算術・統計関数を中心に) 5　Excel 関数(文字列操作関数を中心に) 6　Excel 関数(論理関数を中心に) 7　Excel 関数のネスト(1) 8　Excel 関数のネスト(2) 9　Excel 関数のネスト(3) 10　データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索) 11　データベース処理(クロス集計とピボットテーブル) 12　データベース上のデータの蓄積方法 13　自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など 14　データベースの活用 15　まとめと演習
テキスト，参考文献	**評価方法**
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

03 年度以降	言語情報処理Ｉb	担当者	吉成　雄一郎

講義目的，講義概要	授業計画
には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが，それらのツールは特定の処理には適しているものの，汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく，あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。 秋学期は，春学期に学んだ Excel の知識を活用して，学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から，コーパスの構築の仕方，および Excel で KWIC Concordance を実現する手法，および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに，本格的なコーパス，約 1 億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は，コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。 本講義で修得したコンピュータを使った見方と，構築した自分専用のコーパスは，講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。	1　講義のガイダンス：コーパスとその応用 2　Access 上にデータを格納 3　Access のデータを引き出して Excel で分析 4　コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。 5　コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。 6　コンコーダンスラインの利用(3)：演習 7　品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて，より精密な分析を試みる。また，自動タグ付けも試みる。 8　タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。 9　品詞の使われ方と英文の特徴 10　「文体」をどうとらえるか。－文の長さ－ 11　語彙の出現情報から何を読み取るか(1) 12　語彙の出現情報から何を読み取るか(2) 13　語彙の出現情報から何を読み取るか(3) 14　最先端のコーパスの現状：体験アクセス 15　まとめと演習
テキスト，参考文献	**評価方法**
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末レポートおよび２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

03 年度以降	言語情報処理Ⅱa	担当者	吉成　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「言語情報処理Ⅱ」は「言語情報処理Ⅰ」の履修を前提としません。はじめての人も受講を歓迎します。 現代社会にあって、外国語を習得することと同様に学生時代に身につけておきたい能力が情報処理です。英語が使えることに加えて、コンピュータが使いこなせなければ、どのような分野で仕事をしていても、速く、正確に遂行することができます。 この講義では、英語を使って、将来教職に就きたい人、ビジネスの第一線で働きたい人、研究職に就きたい人などを対象に、基本的な情報処理について学びます。単にスキルを身につけるというだけでなく、情報処理するということはどのようなことなのかをアカデミックに、しかも楽しく勉強します。できれば通年で履修してもらいたいと思います。もちろん、はじめての人にもわかりやすくゆっくりと進めます。 春学期には、基本的な情報処理の考え方を学びます。使うソフトは主に、Microsoft Excel ですが、PowerPoint や Word などの連携などにも触れたいと思います。	1　講義のガイダンス：言語情報処理とは何か 2　言語情報処理とコーパス・表計算一巡り 3　計算(計算式、計算式のコピー、セルの相対参照、絶対参照等) 4　Excel 関数の扱い 5　Excel 関数のネスト 6　データベース処理 7　データベース上のデータの蓄積方法 8　PowerPoint や Word との連携 ＊9 回目から 15 回目は、受講生の皆さんの関心、理解度、反応によって、コンテンツを提供していきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

03 年度以降	言語情報処理Ⅱb	担当者	吉成　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
「言語情報処理Ⅱ」ははじめての人の受講を歓迎します。ただし、IIb から始めるのではなく、なるべく IIa から履修することを推奨します。 「新しい英語学習法が開発されて、3 ヶ月で TOEIC のスコアが 100 点アップしました！」こんな教材の宣伝文句を聞いたら、気になりますよね。ただ、100 点アップした人が、たった 1 人だったと聞いたら、がっかりしますね。10 人だったら、50 人だったら、どうでしょう。一体どのような形で説明を聞いたら、納得できますか？ 統計は実は専用ソフトを使うといろいろな統計上の計算はできますが、その考え方を理解していないととんでもない結果を出してしまう危険もあります。 本講義では、春学期に学んだ Microsoft Excel(以下 Excel)を使って、データの処理の仕方を学んでいきます。また、処理した結果をグラフ化したり、Word に貼り付けてレポートを作ったり、PowerPoint で表示させてみましょう。分からないことは何でも質問してください。 この講義が終わることには、Excel の使い方に精通しているだけでなく、統計処理の基本概念が身についていることでしょう。この知識は将来、きっと様々なところで役に立つと思います。	1　講義のガイダンス：Excel と統計 2　統計って何？平均にだまされるな 3　ばらつきって何？ 4　度数分布 6　信頼区間 7　カイ 2 乗分布 8　「偏差値」とは何だったのか 9　仮説を立てよう！ 10　t 検定(対応しないデータ) 11　t 検定(対応するデータ) ＊9 回目から 15 回目は、受講生の皆さんの関心、理解度、反応によって、コンテンツを提供していきます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。	学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

09 年度以降 06 年度以降 03 年度以降	実践英語音声学 英語発音教授法 スピーチ・クリニック	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。 実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、連接、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書も一部教材として用い、発音指導の実践をする。 聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を行い、課外用に dictation の宿題を課す。USB を用意すること。 英語教育に関心のある２年生以上を対象とする**半期完結科目**。免許課程登録者でなくても履修可。 **受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。** 定員は２５名。受講希望者は春学期の最初の授業に必ず出席すること。	1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. 〃 4. 〃 (Presentation) 5. 英語の子音の特徴 6. 〃 7. 〃 (Presentation) 8. まとめ（対話や散文等を用いた練習), 音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. 〃 (Presentation) 11. 英語のイントネーション 12. 〃 (Presentation) 13. 英語の音変化 14. 〃 (Presentation) 15. まとめ（対話や散文等を用いた練習), 音声提出(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントおよび『５分間　英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, *Teaching American English Pronunciation*, OUP.　その他、授業中に随時紹介する。	出席状況　2/3 以上出席していること 平常点：Presentation ＆Quiz 10%、宿題　20% 音声提出：20% 期末試験：50%

09 年度以降 06 年度以降 03 年度以降	実践英語音声学 英語発音教授法 スピーチ・クリニック	担当者	清水　由理子

講義目的、講義概要	授業計画
コミュニケーション重視の教育の中で、発音指導は欠かせないものになっており、英語習得の初期段階でしっかりと発音指導をしておかなければならない。そのためにも自分の発音を再確認し、自信をもって教えられるようにすることを目的とする。 実践を通して、子音、母音、弱形、音の同化、連接、強勢とリズム、抑揚などについて発音仕方の再確認とその教授法を学ぶ。講義にはプリントを用いるが、中学校・高校の教科書も一部教材として用い、発音指導の実践をする。 聞き取りの力をつけるために授業時に Quiz を行い、課外用に dictation の宿題を課す。USB を用意すること。 英語教育に関心のある２年生以上を対象とする**半期完結科目**。免許課程登録者でなくても履修可。 **受講希望者は、英語音声学の基礎知識があること、発音記号を少なくとも読めることが必要である。** 定員は２５名。受講希望者は秋学期の最初の授業に必ず出席すること。	1. Introduction 2. Pre-test, 英語の母音の特徴 3. 〃 4. 〃 (Presentation) 5. 英語の子音の特徴 6. 〃 7. 〃 (Presentation) 8. まとめ（対話や散文等を用いた練習), 音声提出(1) 9. 英語の強勢とリズム 10. 〃 (Presentation) 11. 英語のイントネーション 12. 〃 (Presentation) 13. 英語の音変化 14. 〃 (Presentation) 15. まとめ（対話や散文等を用いた練習), 音声提出(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントおよび『５分間　英語発音』南雲堂 参考文献：P. Avery and S. Ehrlich, *Teaching American English Pronunciation*, OUP.　その他、授業中に随時紹介する。	出席状況　2/3 以上出席していること 平常点：Presentation ＆Quiz 10%、宿題　20% 音声提出：20% 期末試験：50%

03 年度以降	音声・音韻論 a	担当者	青柳 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 1年生の「英語音声学」で学んだことを基にさらに発展させ，英語と日本語を中心に様々な音の特徴や変化についてそのしくみや法則を考えていく。 音声には音声的な側面と音韻的な側面が表裏一体となって存在する。音声は常に変化する量的なもので千差万別であり，空中に音波としての実体がある。一方，音韻はその変化する音声に，A なら A，B なら B という質的(非量的)な記号を当てて脳に格納されている抽象的実体である。 音声の特徴や変化の法則性(音韻)について、その背後にある音声実態(音声)の多様性を紹介しながら、音声と音韻の関係という言語音声の表裏一体性について導入を試みる。 講義概要 毎回の読み課題や練習課題をもとに、解説・補足の講義をする。クイズで理解を確認する。予習、出席、提出などに積極的な参加が求められる。 メッセージ ２年秋に音声学ゼミ入志望（2, 3 次希望でも）の可能性がある学生は是非学んで欲しい。（下欄に続く）	1. 音声学と音韻論，第 1 章 音と文字 2. 第 2 章 子音の調音 3. 第 3 章 母音の調音 (1) 4. 母音の調音 (2) 5. 母音の有標性、子音の有標性、Exercises 6. 第 4 章 音と意味 (1) 7. 音と意味 (2) 8. 音素と異音，Exercises 10. 第 6 章 音節と音の並び方 （音韻的分節、音声的分節、分綴法） 11. 第 10 章語アクセント 12. 語アクセント (2)、第二アクセント、無アクセント 13. 音節とモーラ (1)（Reading assignment） 14. 音節とモーラ (2) 15. Review Exercises
テキスト、参考文献	**評価方法**
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館 (1999) (ISBN4-469-21232-6)， その他 配布資料 (参考書) 窪薗晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版 (1998)	出席、クイズ、課題、期末試験の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。

03 年度以降	音声・音韻論 b	担当者	青柳 真紀子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 春学期に同じ。 講義概要 春学期に同じ。 メッセージ ２年秋に音声学ゼミ入志望（2, 3 次希望でも）の可能性がある学生は是非学んで欲しい。 また、春学期と学習内容は変わるので秋のみの受講もあり得るし歓迎ではあるが、春の内容が前提となることもあるので、その分、各自補足が必要になるであろう（春に足し算を学んで、秋に掛け算を学ぶと、秋に足し算なしでは問題が語りにくいようなもの)。	1. Review セグメント，音節，Exercises 2. フット，アクセント（語，句)，Exercises 3. 第 11 章 リズムとイントネーション (1) 4. リズムとイントネーション (2) 5. 第 5 章 音声特徴 弁別素性 6. 第 7 章 音韻現象を探る (1) 7. 音韻現象を探る (2)，Exercises 8. 第 8 章 同化現象 9. 同化現象 (2) 10. 第 9 章 形態音素 (1) 11. 形態音素 (2) 12. Review Exercises 13. 音韻表示と音声実現 14. 音声と統語構造，意味構造とのインターフェース 15. 音声と音韻の研究
テキスト、参考文献	**評価方法**
川越いつえ『英語の音声を科学する』大修館 (1999) (ISBN4-469-21232-6)， その他 配布資料 (参考書) 窪薗晴夫『音声学・音韻論』くろしお出版 (1998)	出席、毎回の課題、期末テスト・課題の総合評価による。各項目において最低限をクリアすること。

06 年度以降 03 年度以降	シンタクス a 統語論 a	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
皆さんは中高 6 年間英語を学び、かなりの文法知識を持っていることと思う. しかし、いざ英語でまとまった文章を書いたり、家庭教師として英文解釈の説明をしようとすると、その知識のあやふやさに気づくことがあるのではないだろうか. この授業では、英語の文構造（＝シンタクス）を分析的に整理していく. 分析的に英語を見直していくことによって、実用的な英語力が高まるだけでなく、私たちが無意識に使っている日本語とも多くの共通性があることを知ることになるだろう. さらに、何語であれ言語は私たちの知的活動に不可欠なものなので、英語のシンタクスを学ぶことにより、人間とは何かについても考察して行きたい. 扱う英語のデータは主に単文である. 授業は講義形式で進めるが、講義の後半には講義内容に関する英語のデータを受講者に分析して提出してもらう. 次週に返却して解説する. 期末試験はこの提出課題を積み重ねたものになる.	1. シンタクスとは？ 2. 句構造 3. X-bar Syntax （一般句構造理論） 4. X-bar Syntax （一般句構造理論） 5. X-bar Syntax （一般句構造理論） 6. 幼児が持つ高度な認知能力について 7. 主要部による語彙選択 8. 節の内部構造 9. 節の内部構造 10. 主語と助動詞の倒置 11. 本動詞・助動詞と時制辞の分布 12. 動詞句の省略 13. Yes/No 疑問文・Wh 疑問文 14. Yes/No 疑問文・Wh 疑問文 15. 質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし。 参考文献は*Transformational Syntax* (A. Radford, CUP). *Introduction to Government and Binding Theory* (L. Haegeman, Blackwell).『生成文法の基礎』（中村捷他、研究社）	定期試験による．授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である．定期試験は授業の課題に沿って出題される．

06 年度以降 03 年度以降	シンタクス b 統語論 b	担当者	安井　美代子

講義目的、講義概要	授業計画
春学期の「シンタクス a」を履修した人を対象にするが、参考文献を自分で読む等の準備をすれば理解可能である. 扱うデータは主に that 節や不定詞節を含む英語の複文である.	1. シンタクス a 定期試験の解説など 2. 機能範疇と語彙範疇 3. persuade と expect の統語的差異 4. likely と eager の統語的差異 5. 不定詞補文一般について 6. 名詞句の分布と格理論 7. 格理論と名詞句移動 8. 格理論と名詞句移動 9. 言語障害について 10. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 11. himself などの再帰形と先行詞の構造的関係 12. 名詞句移動の局所性 13. 名詞句移動の局所性 14. he などの代名詞と先行詞との構造的関係 15. 質問
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストなし。 参考文献は*Transformational Syntax* (A. Radford, CUP). *Introduction to Government and Binding Theory* (L. Haegeman, Blackwell).『生成文法の基礎』（中村捷他、研究社）	定期試験による．授業での課題は評価対象としないが、講義を理解する上で非常に重要である．定期試験は授業の課題に沿って出題される．

03 年度以降	意味論 a	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業のねらいは、認知言語学という言語学の 1 分野に関心を持ってもらうことにある。認知言語学とは、ものごとのとらえ方と、ことばの仕組みや働きとが密接に関係しているとみなす考え方をとる言語学です。認知、つまりものごとのとらえ方とは、人間が世界を認識する方法です。世界は人間の認識によって意味が与えられます。物に形や色、匂いを感じ取り、それらを記憶し、出来事に真偽・正邪・善悪の判断を下すことで世界が現れてきます。人間は感覚し、記憶し、判断する生き物です。そうした認識の方法が言語の仕組みやはたらきに影響を及ぼし、また逆に、言語のほうが認識の仕方に影響を与えることがあります。認識と言語の関係をとらえること、これが認知言語学の目的で、それを紹介するのがこの授業とテキストの目的です。	1. 言語学(linguistics) 2. 認知(cognition) 3. 認知言語学(cognitive linguistics) 4. カテゴリー化(categorization) 5. プロトタイプ(prototype) 6. 家族的類似性(family resemblance) 7. スキーマ(schema) 8. 言語カテゴリー(linguistic category) 9. 他動性と動作主(transitivity and agent) 10. 続き 11. 構文(construction) 12. 続き 13. 多義性(polysemy) 14. メタファーメトニミー(metaphor/metonymy) 15. ことばの変化(change in language) ※ 上のトピックに変更を加える場合は、第 1 回目の授業で提示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉村公宏『はじめての認知言語学』研究社 ¥2200	課題と小テストおよび定期試験で決めます。

03 年度以降	意味論 b	担当者	府川　謹也

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では認知意味論(cognitive semantics)を扱います。認知意味論とは，ごくおおざっぱないい方をすれば、意味の問題を知覚や認識との関連で捉える意味理論です。認知意味論の立場をとる学者にはフィルモア、レイコフ、ラネカーらがいますが、これらの学者の意味に関する考え方には相違点もありますが、いくつかの共通した意味研究へのアプローチとして、①意味を言語使用者の外界認識の産物として捉える、②言語的意味と百科事典的知識の無理な区別をしない、③意味に経験などからの動機づけを求める、ことがあります。授業では、テキストに沿って、この認知意味論の研究を概観します。	1. 認知意味論とは何か 2. 語の意味 (1)チェックリスト意味論 3. (2)プロトタイプ 4. (3)イメージ・スキーマ 5. (4)フレーム 6. 意味の拡張 (1)メタファー 7. (2)シネクドキー　(3)メトニミー 8. (4)意味拡張の具体例 (5)主体化 9. 文法化における意味変化 10. 多義性（をめぐる諸問題） 11. out/over の多義性 12. 拡張とスキーマに基づくネットワーク･モデル 13. メタファー表現の意味と概念化 14. 伝統的メタファーの問題点 15. 概念メタファーとその実在性 ※ 上のトピックに変更を加える場合は、第 1 回目の授業で提示します。
テキスト、参考文献	**評価方法**
松本曜(編)『認知意味論』大修館書店 ¥2400	課題と小テストおよび定期試験で決めます。

03 年度以降	英語学特殊講義 a	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
ことば（英語と日本語）の背後に存在する仕組みの一部を理解すること，および，そのような仕組みに対して与えうる根拠を明らかにすることを目的とする。合わせて，言語学で用いられる典型的な論証の型を身に付けることを目指したい。 拠って立つ理論的枠組みは広義の認知主義に基づく言語学である。その基本的な考え方については講義で解説するが，英語学入門で学んだであろう事柄は前提としたい。 配布資料には英語の文献も含まれることになるので，予習は必須である。 学期末に行う定期試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みを認める予定はない。試験は論述式の予定である。	１．オリエンテーション，講義の概要 ２．概念意味論（Jackendoff (1991)）（１） ３．概念意味論（Jackendoff (1991)）（２） ４．概念意味論（Jackendoff (1991)）（３） ５．Jackendoff (1991)の分析の拡張（１） ６．Jackendoff (1991)の分析の拡張（２） ７．Jackendoff (1991)の分析の拡張（３） ８．認知意味論（１） ９．認知意味論（２） １０．認知意味論（３） １１．同じ種類のモノと異なる種類のモノ（１） １２．同じ種類のモノと異なる種類のモノ（２） １３．同じ種類のモノと異なる種類のモノ（３） １４．春学期のまとめ １５．春学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリントによる。	評価は定期試験期間中の試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（ただし，出席そのものが加点の対象となることはない）。

03 年度以降	英語学特殊講義 b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
ことば（英語と日本語）の背後に存在する仕組みの一部を理解すること，および，そのような仕組みに対して与えうる根拠を明らかにすることを目的とする。合わせて，言語学で用いられる典型的な論証の型を身に付けることを目指したい。 拠って立つ理論的枠組みは広義の認知主義に基づく言語学である。その基本的な考え方については講義で解説するが，英語学入門で学んだであろう事柄は前提としたい。 配布資料には英語の文献も含まれることになるので，予習は必須である。 学期末に行う定期試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みを認める予定はない。試験は論述式の予定である。	１．オリエンテーション，春学期の復習，講義の概要 ２．同じ種類のコトと異なる種類のコト（１） ３．同じ種類のコトと異なる種類のコト（２） ４．同じ種類のコトと異なる種類のコト（３） ５．認知文法論（１） ６．認知文法論（２） ７．認知文法論（３） ８．素性分析の問題点（１） ９．素性分析の問題点（２） １０．素性分析の問題点（３） １１．合計を表す文と数を数える能力（１） １２．合計を表す文と数を数える能力（２） １３．合計を表す文と数を数える能力（３） １４．秋学期のまとめ １５．秋学期のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
配布プリントによる。	評価は定期試験期間中の試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（ただし，出席そのものが加点の対象となることはない）。

03 年度以降	英語学文献研究 a	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語学に関する知識を増やすことではなく，英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術，単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方，有意義な問題設定の仕方，説得力のある議論の方法などを身につけることを目標としたい。合わせて，英語そのものについての理解を深めることも目指したい。 授業では，下記のテキストを一行一行丹念に読み進めてゆく（プリントを配布する）。なお，ここでいう「読み」とは，「情報として読む」ということではなく，「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては，内田義彦の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 学期末に行う定期試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みを認める予定はない。試験は論述式の予定である。	進度の目安は次の通りである。題目は，論文の節のタイトルに対応する。 1. オリエンテーション，講義の概要 2. Introductory Remarks 1 3. Introductory Remarks 2 4. Introductory Remarks 3. 5. Introductory Remarks 4 6. Delimiting the Problem 1 7. Delimiting the Problem 2 8. Delimiting the Problem 3 9. Delimiting the Problem 4 10. Properties Ascribed by Grammarians 1 11. Properties Ascribed by Grammarians 2 12. Properties Ascribed by Grammarians 3 13. Properties Ascribed by Grammarians 4 14. 春学期のまとめ 15. 春学期のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) “The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English,” *Glossa* 10.2: 200-240.	評価は定期試験期間中の試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（ただし，出席そのものが加点の対象となることはない）。

03 年度以降	英語学文献研究 b	担当者	小早川　暁

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は，英語学に関する知識を増やすことではなく，英語学という知的営みに参加できるようになることである。先行研究の正確な理解に必要な読みの技術，単なる揚げ足取りでない問題点の見つけ方，有意義な問題設定の仕方，説得力のある議論の方法などを身につけることを目標としたい。合わせて，英語そのものについての理解を深めることも目指したい。 授業では，下記のテキストを一行一行丹念に読み進めてゆく（プリントを配布する）。なお，ここでいう「読み」とは，「情報として読む」ということではなく，「古典として読む」ということである（この二通りの読みについては，内田義彦の『読書と社会科学』（岩波新書）を参照）。受講生は，あらかじめ割り当てられた部分について発表することになる。 学期末に行う定期試験では，配布プリントやノート，辞書などの持ち込みを認める予定はない。試験は論述式の予定である。	進度の目安は次の通りである。題目は，論文の節のタイトルに対応する。 1. オリエンテーション，春学期の復習，講義の概要 2. The Analysis of the Plain and Ing Forms 1 3. The Analysis of the Plain and Ing Forms 2 4. The Analysis of the Plain and Ing Forms 3 5. The Analysis of the Plain and Ing Forms 4 6. The Analysis of the Plain and Ing Forms 5 7. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 1 8. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 2 9. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 3 10. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 4 11. Inferences from the Meaning of the Sensory Verb 5 12. Conclusion 1 13. Conclusion 2 14. 秋学期のまとめ 15. 秋学期のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
Kirsner, Robert S., Charles N. Li, and Sandra A. Thompson (1976) “The Role of Pragmatic Inference in Semantics: A Study of Sensory Verb Complements in English,” *Glossa* 10.2: 200-240.	評価は定期試験期間中の試験による。なお，単位認定にあたっては，授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要である（ただし，出席そのものが加点の対象となることはない）。

03 年度以降	英語学文献研究 a	担当者	鈴木　英一

講義目的・講義概要	授業計画
講義目的: 今年度のテーマは〈英語 Wh 移動の文法〉であり，Wh 移動に関する古典的名著である Noam Chomsky (1977) “On Wh-Movements”を読みながら，英語の Wh 要素を含む構文を考察する. **講義概要**: 生成文法理論では，文の要素の移動にはNP移動，Wh移動，主要部移動の三種類があると仮定されている．英語のNP移動は，目的語や補文主語の位置にある名詞句(NP)を主語の位置に移動する操作である．Wh移動は，Wh要素を文頭に移動する操作である．主要部移動は助動詞や動詞を主語の位置を超えて移動する操作である. Chomskyは“On Wh-Movements”において，具体的にWh要素が生じているWh疑問文や関係詞節や感嘆文だけでなく，Wh要素が実際には現れていない構文もWh移動という操作によって説明しようと試みている.	1. 生成文法の概要(1)：拡大標準理論 2. 生成文法の概要(2)：核心文法 3. 生成文法の概要(3)：二つの移動規則と三つの解釈規則 4. 生成文法の概要(4)：規則に適用される諸条件 5. 移動規則の一般的特徴 6. 解釈規則と諸条件 7. 移動規則と解釈規則と痕跡理論 8. 痕跡理論と痕跡の位置づけ 9. Wh移動規則の一般的特徴 10. 比較構文形成規則 11. 話題化規則 12. 話題化構文と左方転移構文の違い 13. 分裂文 14. 間接疑問文---定形間接疑問文と不定詞間接疑問文 15. 授業のまとめと質疑応答
テキスト・参考文献	評価方法
テキスト: Noam Chomsky (1977) “On Wh-Movements”. 参考文献：長谷川欣佑(2004)『生成文法の方法』研究社，斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)(1995)『英文法への誘い』(開拓社)，鈴木英一(1990)『統語論』(開拓社).	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる.

03 年度以降	英語学文献研究 b	担当者	鈴木　英一

講義目的・講義概要	授業計画
講義目的:(春学期と同じ) 今年度のテーマは〈英語 Wh 移動の文法〉であり，Wh 移動に関する古典的名著である Noam Chomsky (1977) “On Wh-Movements”を読みながら，英語の Wh 要素を含む構文を考察する. **講義概要**:(春学期のつづき) Chomskyは“On Wh-Movements”において，具体的にWh要素が生じているWh疑問文や関係詞節や感嘆文だけでなく，Wh要素が実際には現れていない難易構文・比較構文・話題化構文・分裂文もWh移動という操作によって説明しようと試みている. Chomskyの“On Wh-Movements”の説明に続いて，Emmon Bachの“Comments on the Paper by Chomsky”を読んで，Chomskyの主張の意義と問題点を考察する.	1. 難易構文 2. 難易構文にみられるWh移動の特徴 3. 難易構文におけるfor-前置詞句の特徴 4. 規則に適用される諸制約の一般化 5. 指定主語条件と名詞句制約 6. 非主語名詞句からのWh移動 7. 比較構造形成のもう一つの規則 8. Chomskyに同意できる点(1)：全体性，変数 9. Chomskyに同意できる点(2)：疑問詞，限量詞 10. 疑問点と問題点(1)：規則の種類，簡潔化の代償 11. 疑問点と問題点(2)：文法の校正，移動規則の痕跡理論 12. 理論的な問題点(1)：命題島条件と指定主語条件 13. 理論的な問題点(2)：下接の条件と形容詞補文の分析 14. 循環節点に関して 15. 授業のまとめと質疑応答
テキスト・参考文献	評価方法
テキスト: Noam Chomsky (1977) “On Wh-Movements”. 参考文献：長谷川欣佑(2004)『生成文法の方法』研究社，斎藤武生・原口庄輔・鈴木英一(編)(1995)『英文法への誘い』(開拓社)，鈴木英一(1990)『統語論』(開拓社).	出席状況，授業における平常点，期末試験の成績を総合して評価する．なお，単位の認定には授業回数の2/3以上の出席が必要とされる.

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の文学・文化 英語圏の文学・文化概論 b	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
イギリスの歴史から 3 つの時代を取り上げ、それぞれの時代の文化について理解を深めることを目指す。3 つの時代はいずれも女王が君主となり、新たな文化が生み出された時代である。それぞれの時代の文化について、文学、宗教、科学の 3 つの視点から論じる。 取り上げる 3 つの時代は下記のとおりである。 1. エリザベス一世の時代 2. ヴィクトリアの時代 3. エリザベス二世の時代 この 3 人の女王の治世は、初期近代(early-modern)、近代(modern)、ポストモダン(postmodern)と区分される時代にあたっている。それぞれの時代の文化を理解することによって、近代がどのように成立し、変容してきたのかが見えてくる。それぞれの時代の様相を示す英文テキストを読みながら、各時代の文化について考えていきたい。	1. Elizabeth I の時代(1)：宗教改革と近代の始まり 2. Elizabeth I の時代(2)：Shakespeare と近代英語 3. Elizabeth I の時代(3)：Shakespeare と London の劇場 4. Elizabeth I の時代(4)：Bacon と近代科学の始まり 5. Victoria の時代(1)：世界の工場と大英帝国 6. Victoria の時代(2)：Dickens を読んだ中流市民 7. Victoria の時代(3)：Dickens が描いた貧困層 8. Victoria の時代(4)：Darwin と進化論 9. Elizabeth II の時代(1)：Pax Britannica の終焉 10. Elizabeth II の時代(2)：Beckett と不条理演劇 11. Elizabeth II の時代(3)：The Beatles と若者文化 12. Elizabeth II の時代(4)：羊の Dolly と遺伝子の時代 13. Elizabeth II の時代(5)：Bridget Jones と消費社会 14. まとめ(1) 15. まとめ(2)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはプリントを配布する。 参考文献は授業中に紹介する。	学期末試験の成績で評価する。

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の文学・文化 英語圏の文学・文化概論 b	担当者	片山　亜紀

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ハリポタだけではもったいない。イギリス文学にはファンタジーの伝統が脈々と流れています。この講義ではイギリス文学の中のファンタスティックな作品を体系的にたどり、それぞれの作品が発表された時代状況と照らし合わせながら、個々の作品、および背景となるイギリスの社会や文化への理解を深めます。作品の一部を原文で味わうこともします。 講義概要 狭義のファンタジーは「魔法や妖精が出てくる物語」ですが、この講義では「異世界への想像力を駆使した物語」と広義にとらえ、叙事詩、伝説、神話、ユートピア文学、ＳＦ文学、ゴシック、マジック・リアリズムなど多様なジャンルを含めます。 第一回目の講義でファンタジーの概説をして、二回目以降のやりかたの説明をしますので、受講を希望する人は第一回目からかならず出席してください。	1. イントロダクション 2. *Beowulf* 3. Malory, *Le Morte d'Arthur* 4. More's *Utopia* and Shakespeare's *The Tempest* 5. Milton's *Paradise Lost* and Bunyan's *The Pilgrim's Progress* 6. Travelogues: Robinson Crusoe, Gulliver, and Oroonoko 7. Dickens, *A Christmas Carol* 8. Rossetti, *Goblin Market* 9. Lear, and Carroll's "Alice" books 10. H.G. Wells, *The First Men in the Moon* 11. Lewis, *The Chronicles of Narnia* 12. Three Dystopian Stories: Huxley, Orwell, and Atwood 13. Carter, *The Magic Toyshop* 14. まとめ１ 15. まとめ２
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中に提示します。	授業内レポートと定期試験 （ただし４回を越えて欠席した場合は評価対象としない）

03 年度以降	英語圏の小説 a	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：次の三点を焦点に、world literature を視野におきながら英語圏の小説について考えます。 1. 小説というメディアが、異なる時代、異なる文化のなかでどのように産出され、受容されてきたか。 2. 英語圏拡大の歴史とポストコロニアルの文学地図。（言語についても考察します） 3. 歴史と世界のひろがりのなかで、テキスト同士が、あるいはテキストと現実とがいかに響きあっているか。 講義概要：小説という表現媒体が確立しはじめた17世紀末、18世紀はじめから現代まで、ほぼ時間軸にそって講義を進めますが、必要に応じて時代を行きつ戻りつすることがあります。講義で使用するテキストは、事前に配布しますので、必ずあらかじめ読んでおいてください。 注意事項：TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。	1. 奇なるもの、小説？ (1) 2. 奇なるもの、小説？ (2) 3. 英語圏の拡大　(1) 4. English Bestsellers of all time (1) 5. English Bestsellers of all time　(2) 6. 英語圏の拡大　(2) 7. 国民文学と政治的無意識 8. 小説の新たな挑戦　(1) 9. 小説の新たな挑戦　(2) 10. 語り返す言葉たちの登場、ポストコロニアルの文学地図(1) 11. ポストコロニアルの文学地図　(2) 12. ポストコロニアルの文学地図　(3) 13. ポストコロニアルの文学地図　(4) 14. テキストの思わぬ旅路　(1) 15. テキストの思わぬ旅路　(2) ＋　英語文学の現在。
テキスト、参考文献	**評価方法**
ハンドアウトを使用します。参考文献については、授業内で紹介します。	出席　30% 定期試験　70%

03 年度以降	英語圏の小説 b	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アメリカ小説の特徴・概略を知り、「主要な」作家たちの作品にできるだけ直接触れる（小説、短編小説などの抜粋を実際に読んでもらう）ことで学生諸君にアメリカ小説の魅力を発見してもらい、小説を通じてアメリカの文化を考える。 講義概要 　まず、アメリカ小説の歴史、概略を解説し、その後、リアリズム小説、モダニズム小説、現代の多文化共生を意識した黒人作家・ユダヤ系作家などの代表的な小説を取り上げ、鑑賞、解説を試みる。配布された作品(抜粋)の理解を深めることに重点を置く。 　講義形式が主であるが、希望があれば、学生諸君による作家や作品に関するプレゼン形式も採り入れる予定。 　なお、昨年度単位取得者の履修は許可しません。	1：　アメリカ小説の概略　(歴史・文化・社会) 2：　アメリカ小説の創生期 3：　アメリカン・ルネッサンス 4：リアリズム小説１（第一世代と第二世代のリアリズム作家たち) 5: リアリズム小説２　(Mark Twain と *The Adventures of Huckleberry Finn*) 6：　リアリズム小説３　(Naturalism) 7：　モダニズム小説１(アメリカ小説のモダニストたち) 8: モダニズム小説２(William Faulkner と"That Evening Sun") 9：　モダニズム小説３("That Evening Sun") 10：　モダニズム小説４(William Faulkner と *The Sound and the Fury*) 11：　多文化主義小説１(多文化主義とアメリカ小説) 12：　多文化主義小説２(黒人作家とユダヤ系作家) 13：　多文化主義小説３(Bernard Malamud と"The First Seven Years") 14：　多文化主義小説４("The First Seven Years") 15：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：プリントを使用 参考書：随時、授業にて紹介する	定期試験とメールによる作品理解のための複数回のミニレポート。定期試験を重視する。

03 年度以降	英語圏の詩 a	担当者	遠藤　朋之

講義目的、講義概要	授業計画
「アメリカ詩史」をどこから始めるか、これは大問題だ。「アメリカ文学概論」などで耳にしたであろう Anne Bradstreet から始めるか？ この授業では、 Native American（いわゆるインディアン）の口承詩から始める。そして、着地点は、獨協に２度も来てポエトリー・リーディングをした、ピュリッツァー賞、ボリンゲン賞受賞の大詩人、 Gary Snyder だ。さて、ネイティヴ・アメリカン の詩と、Snyder の詩、その間になにがあったのか、それ が重要だ。なぜ、Snyder と Native American の詩がつな がるのか、そのあいだに、どのような詩が書かれてきたの か、それを考察する。もちろん、すべてを扱うことはでき ないので、代表的な詩人の作品を精読する。詩は、れっき とした言語芸術だ。「さくら、さくら、今、咲き誇る」と いった表現に感動するのは、誰かが言ってから、日本文化 の常套となったものを、再確認して安心しているだけだ。 この授業では、太古、そして１９世紀、２０世紀の「前衛」、 つまり、だれも言ったことのなかった表現をした詩人たち の言語表現を、現在まで、大まかにたどる。	授業へは予習をして、なおかつ、頭をカラにしてくること。受講生にはときおり、質問をする。7，80人のまえでも、はっきりと自分の考えを、恥ずかしがらずに言えるようにすること。 第１回：Introduction 第２回：Native American の詩 第３回：Walt Whitman, “Poets to Come!,” “I Hear America Singing” など 第４回： Emily Dickinson, “Because I could not stop for Death,” “I taste a liquor never brewed” など 第５回： Robert Frost, “Stopping by Woods on a Snowy Evening,” “After Apple-Picking” など 第６回 : Ezra Pound, Imagism 期の短詩、”Hugh Selwyn Mauberley I” など 第７回：Ezra Pound の *The Cantos* のいくつか 第８回：William Carlos Williams, “The RedWheelbarrow,” “Nantucket,” “Poem” などの初期の短詩 第９回：Wallace Stevens, “The Snow Man,” “Thirteen Ways of Looking at a Blackbird” 第１０回：H. D., “Oread,” “Heat” など 第１１回：T. S. Eliot, “Preludes” など 第１２回：Robert Lowell, “For the Union Dead” など 第１３回：Sylvia Plath, “Daddy,” “Lady Lazarus” 第１４回：Gary Snyder, “Magpie’s Song,”“For the Children” など 第１５回：モダニズムからポストモダンへの移行、そのまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
開講時に指示する。	学期末のレポート。

03 年度以降	英語圏の詩 b	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
イギリス詩入門 **講義の目的** ワーズワス（W.Wordsworth 1770-1850）の『水仙』などの易しい英詩を導入にして、基本的な英詩を分析し、味わう力を養うと共に、やや古い英詩についても鑑賞し得る能力を身に付けることを目的とする。扱う題材は全てイギリス詩である。 **講義概要** 初めは導入として、詩形や易しい詩、特にマザーグースについて講ずる。次いで現代詩を垣間見た後、ロマン派に焦点を当てる。そして最後にグレイ、ミルトン、シェークスピアの代表的な詩について管見する。なるべく video などの視聴覚教材を利用する。 **参考文献** 新井明著　『英詩鑑賞入門』　研究社　１９８７	１．詩形について ２．＜マザーグース＞　I ３．＜マザーグース＞　II　（video 鑑賞） ４．＜現代英詩アラカルト＞I　T.S.Eliot（1888-1965）（DVD,video 鑑賞、字幕なし、以下同じ） ５．＜同＞II　T.Hughes(1930-1985))など（video 鑑賞） ６．Alfred Tennyson(1809-92),Robert Browing(1812-89) ７．＜ロマン派の曙＞　W.Blake(1757-1827), video 鑑賞 ８．＜ロマン派の詩＞　I　ワーズワス、DVD,video 鑑賞 ９．＜ロマン派の詩＞　II　S.T.Coleridge(1772-1834)と G.G. Byron(1788-1824)　DVD 鑑賞 10．＜ロマン派の詩＞　III　P. B. Shelley(1792-1822)と J. Keats(1795-1821) DVD 鑑賞 11．＜ロマン派の詩＞　総括　解説と video 鑑賞 12．Thomas Gray(1716-1771), “Elegy Written in a Country Churchyard”(1751)を読む。　Video 鑑賞 13．John　Milton(1608-74) *Paradise Lost*(1667)のさわり、ソネット２３．DVD,Video 鑑賞 14．William Shakespeare(1564-1616)，解説 DVD,video 鑑賞 15．総括および試験について
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：薬師川虹一他編『マザーグースと美しい英詩』北星堂　１９８７ （プリント）	テストを課す。　数回の video は、時に字幕なしなので、100%の理解は求めないが、リスニング・テストとして努力具合を見、平常点とする。

03 年度以降	英語圏の演劇 a	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として理由の如何を問わず、単位を認めません。	毎回授業開始時に英語の語彙テストを、終了前に内容把握テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）2 編に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ a」は英語学科と国際教養学部の学生は「英語圏の演劇 a」として登録してください。 テキストの英文プリントは TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート 2 編で 60%。授業時のテストで 40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

03 年度以降	英語圏の演劇 b	担当者	児嶋　一男

講義目的、講義概要	授業計画
英米の劇作品の台本（抜粋英文プリント）を読みながら、現代の英米文化や作品の時代の社会風潮が、どういうふうに演劇に示されているかについて考えてみましょう。 テキスト（英文プリント）を毎回配布します。よく読んでから、出席してください。日本語に翻訳した台本を本読みするパフォーマンスを、順番に実施してもらう場合があります。 なるべく実際の上演を観られるものをとりあげます。また、英米や時代にかかわらず、有名な作品や話題の作品、歌舞伎などもとりあげます。実際に劇場に観に行って、芝居は楽しいライヴ・パフォーマンスであることを知って下さい。 遅刻はすべて欠席扱いとします。公欠扱いはありません。 授業回数の 3 分の 1 以上を欠席した場合、原則として理由の如何を問わず、単位を認めません。	毎回授業開始時に英語の語彙テストを、終了前に内容把握テストを行います。教室で読むテキストは、実際の上演舞台が観られる戯曲作品をなるべく選ぶようにして、その上演スケジュールに合わせて授業を進めていく予定です。 指定する演劇の観劇レポート（700 字以上 800 字以内）2 編に関することなど、詳細は教室にて説明します。 ＊＊＊注意事項＊＊＊ 全学共通授業科目「おもしろまじめな芝居のミカタ b」は英語学科と国際教養学部の学生は「英語圏の演劇 b」として登録してください。 テキストの英文プリントは TOEIC600 点程度かそれ以上の英語力を前提としています。600 点以下でも受講できますが、その分、時間をかけて課題に取り組んでください。
テキスト、参考文献	**評価方法**
英米の現代演劇の台本抜粋をプリントで配布します。 参考文献は授業中に言及する予定です。	観劇レポート 2 編で 60%。授業時のテストで 40%。学期末定期試験はしない。レポート（必修）未提出者には単位を認めません。

03 年度以降	英語圏の社会と思想 a	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
アングロ＝サクソンの文化がキリスト教化されていく過程の在り方を述べる。 なお、授業時には、名簿の番号順に着席していただく。	１．ガイダンス（父性神と母性神） ２．ヘレニズムとヘブライズム ３．ローマン＝ブリテン：ケルト人とキリスト教 ４．ローマ帝国のキリスト教化の過程：ドナティスト論争 ５．イングランドのキリスト教化 ６．デーン人とアルフレッド大王 ７．カロリング王朝とイングランドのキリスト教 ８．グレゴリウス７世の教会改革 ９．イングランドの教会改革 １０．中世の異端 １１．地獄堕ちへの恐怖 １２．黒死病と農民一揆 １３．教皇権の栄光と下降 １４．中世末期：唯名論論争とイングランド宗教改革前史 １５．まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはない。参考文献は必要とあれば授業中に示す。	出席の少ない者は不合格とする。 更に、出席合格者は試験の結果で評価する。

03 年度以降	英語圏の社会と思想 b	担当者	福井　嘉彦

講義目的、講義概要	授業計画
春学期に準じる。	１．ルター：我ここに立つ ２．ジュネーブの人カルヴァンとイングランド人 ３．イングランドの宗教改革：ヘンリー８世 ４．エドワード王のプロテスタント化とメアリー女王のカトリック教皇主義復興 ５．エリザベス１世の宗教改革 ６．ピューリタンの反撃と英国国教会の樹立 ７．スチュワート王朝の国教会 ８．国王の処刑とピューリタニズム ９．ピルグリム＝ファーザーズ １０．王政復古から名誉革命以降 １１．啓蒙主義時代 １２．19世紀以降現代 １３．アメリカの場合（１） １４．アメリカの場合（２） １５．まとめ 以上の各項を述べる予定。 ただし、若干の変化がありうる。
テキスト、参考文献	**評価方法**
春学期と同じ。	春学期に準じる。

03年度以降	英語圏の歴史 a	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
映画を入り口にしながら、アメリカを代表するエスニックグループの歴史と現状を学ぶことをこの講義の目的とします。 毎回 10 本近い映像ソフトを担当者が持参し、具体的場面をピックアップしながら、各エスニックグループが抱えているジレンマ、課題などを解説してゆきます。つまり、エスニック・ヒストリーの専門家からみた各映像作品のみどころ、眼目を紹介するというスタイルです。 かつて高名な映画評論家は「映画を通じて人生を知った」と語ったことがあったが、人種関係史を専攻とする担当者にとって映画は自分の研究対象に対して構築してきたイメージを再確認するための手段といえるのです。この授業では 20 年間にわたる担当者の研究成果をあますところなくお伝えします。	1．はじめに 2．先住民インディアン 3．越境するヒスパニック 4．今を生きる黒人 5．歴史の中の黒人 6．　〃 7．等身大のユダヤ人 8．反ユダヤ主義とユダヤ系ギャングスター 9．歴史の中のユダヤ人 10. アジア系－日系、中国系、韓国系－ 11. ホワイト・エスニック－アイルランド系、イタリア系、など過去において蔑視された白人集団 12. 異人種・異教徒間カップル 13. 〃　〃 14. おわりに 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行著、『映画で学ぶエスニック・アメリカ』（2008 年 NTT 選書）1,600 円	評価はクイズ形式による筆記試験（8 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。

03年度以降	英語圏の歴史 b	担当者	佐藤　唯行

講義目的、講義概要	授業計画
国際情勢の中で中東がかつてなかった程重みを増す今日、中東政策はアメリカ外交の大きな柱となっている。その米中東政策に力をふるっているのがユダヤ・ロビーである。秋学期の授業ではこのユダヤ・ロビーを中心に同盟関係にあるキリスト教右派等に焦点をすえることで、これまで見えてこなかったアメリカ政治史の特質を解明する。 「ユダヤの視点でみるアメリカ政治史」が春学期後半のテーマとなる。 前半は彼らがアメリカの地でパワーエリートに成り上がる以前、中世から近代の英国で負け犬として「下積み」をすごした時代を概観する。	1．中世英国のユダヤ人金融 2．中世英国からのユダヤ人追放 3．隠れユダヤ教徒の足跡 1290～1656 4．千年王国とユダヤ人再入国 5．17～18世紀英国の外国貿易とユダヤ人 6．英国人地主貴族社会への同化現象 7．移民排斥と反ユダヤ暴動発生のメカニズム 8．英国ファシスト勢力との対決 9．ユダヤ・ロビーとオバマ政権 10. キリスト教右派との同床異夢の同盟 11. ユダヤ人議員団の実力 12. ユダヤ・マネーの仕組 13. 歴代政権とユダヤ人社会 FDR～LBJ 14. 〃　〃　〃　ニクソン以後 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
佐藤唯行著『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（2009 年 新潮文庫）438 円 佐藤唯行著、『英国ユダヤ人』（1995年 講談社選書）1,600円	評価はクイズ形式による筆記試験（8 択 20 問）によってのみ決定する。試験はテキストの持ち込み可。出席はとらない。

03 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ a	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
『アメリカの現在』 「エリア・スタディーズ」の目的とは、ある地域の、ある時代について、歴史、政治、社会、文学など、多角的な視点と学際的な手法によって理解を深めることである。 今年度春学期は「アメリカの現在」に焦点をあてる。他民族国家アメリカにおけるユダヤ人、アメリカ先住民、アイルランド系移民などの民族の問題が今日のアメリカの社会・政治・外交・経済にどのように関わっているのか、またそれぞれの民族に固有な文化が多様に共存する状況の問題点とは何かといった視点から講義を行う。 その世界覇権に陰りが出ているとはいえ、アメリカ合衆国は最も影響力の大きな国家であり、現在のアメリカ合衆国の問題を考えることは、グローバルな視点で現在の世界について考えることにつながる。アメリカ合衆国の現在について理解を深めながら、今日の世界についての問題意識を新たにすることが本講義の目的である。 注：5 月 17 日は外国語学部主催で *Much Ado About Nothing* の上演が予定されている。当日、この授業で上演前の講義を行う。	1. イントロダクション (前沢) 2. 同盟成立、共和党とユダヤ人社会 (佐藤) 3. オバマ政権とユダヤ・ロビー (佐藤) 4. キリスト教右派のとの同盟 (佐藤) 5. 張り子の虎か？アラブ・ロビー：弟分、在欧ユダヤ・ロビー (佐藤) 6. *Much Ado about Nothing* (Pre-performance Lecture) 7. アメリカ先住民とアメリカ合州国(1) (原) 8. アメリカ先住民とアメリカ合州国(2) (原) 9. アメリカ先住民とアメリカ合州国(3) (原) 10. アメリカ先住民とアメリカ合州国(4) (原) 11. Irish Americans ——映画 *Titanic* などより(児嶋) 12. 大統領選挙と Irish Americans ——映画 *JFK* などより (児嶋) 13. 多文化主義をめぐる議論(1) (島田) 14. 多文化主義をめぐる議論(2) (島田) 15. アメリカとイギリス—「特別な関係」か？(前沢)
テキスト、参考文献	**評価方法**
第 2 回目から第 5 回目の授業では、教科書として『アメリカはなぜイスラエルを偏愛するのか』（新潮文庫）を使用する。そのほかの講義については授業中に指示する。	毎回の授業でのコメント：25% 定期試験成績：75%

03 年度以降	英語圏のエリア・スタディーズ b	担当者	前沢　浩子

講義目的、講義概要	授業計画
『イギリスの現在』 フィッシュ・アンド・チップスと『ハリーポッター』の国イギリスというイメージは、富士山、桜、鮨…という日本のイメージと同じくらい紋切り型で、観光誘致ポスターのようなイメージに過ぎない。国際金融都市ロンドンを首都とし、オリンピック開催を来年に控えたイギリスは、世界に対し次々と新しい文化や情報を発信する創造的エネルギーと、またそれにともなう問題点を多く抱え込んだ先進国の一つである。 この「イギリスの現在」について、4 人の教師が講義をする。歴史上、常に緊張感をはらんだ関係を持ってきた隣国アイルランド、ジェンダーやセックスの問題、多民族と多文化の共存、クリエイティブ・インダストリーと政治の関係といった視点から講義を行う。 現代のイギリスが抱える新しい問題は、古い伝統や長い歴史と無関係ではない。イギリスの現在について理解を深めながら、それらの問題を歴史的なパースペクティブの中でとらえることが本講義の目的である。	1. イギリスのアイルランド植民地—映画 *Michael Collins* などより (児嶋) 2. イギリス文学とアイルランド—映画 *Planet of the Apes* などより (児嶋) 3.シングルマザーの苦闘—映画 *Secrets and Lies* より (片山) 4. 妊娠中絶の物語—映画 *Vera Drake* より (片山) 5. 男たちの問題 (片山) 6. 新しい男たち—Nick Hornby を中心に (片山) 7. 1998 年　Has London been the place for you? (上野) 8. 2000 年　Millenium Grin--混成のイギリス (上野) 9. 2005 年　Londonistan (上野) 10. British とは誰か (上野) 11. グローバリゼーションとヘリテージ映画 (前沢) 12. ブレアの文化政策 (前沢) 13. ダイアナの死とセレブリティの時代 (前沢) 14. シェイクスピアと新しいメディア (前沢) 15. まとめ (前沢)
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストとして授業中にハンドアウトを配布する。 参考書は授業中に適宜紹介する。	毎回の授業でのコメント：25% 定期試験成績：75%

03 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 a	担当者	島田　啓一

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 　アメリカのノーベル文学賞受賞作家、William Faulkner の代表作 *The Sound and the Fury* (1931)について学び、この作品の技巧や主題を考えます。 講義概要 　「意識の流れ」という手法を駆使して、南部の旧家コンプソン家の没落と崩壊を描いた難解なこの小説を、部分的に読みながら、Faulkuner の技巧や主題に焦点を当て、解説します。 　授業はあらかじめ配布したプリントを予習してきてもらい、講義形式だけではなく、質疑応答、希望者によるプレゼン形式などもとりいれる予定です。またミニ・レポートを提出してもらう場合があります。	1：作家と作品について 2：April 7, 1928 (1)：Benjy について 3：April 7, 1928 (2) 4：April 7, 1928 (3) 5：April 7, 1928 (4) 6：June 2, 1910 (1)：Quentin について 7：June 2, 1910 (2) 8：June 2, 1910 (3) 9：April 6, 1928 (1)：　Jason について 10：April 6, 1928 (2) 11：April 6, 1928 (3) 12：April 8, 1928 (1)：Dilsey について 13：April 8, 1928 (2) 14：April 8, 1928 (3) 15：まとめ：Caddy について
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリントを配布します。以下の url で、ハイパーテキスト版を見ることができます： http://www.usask.ca/english/faulkner/	不定期に課す課題、学期末の定期試験、および平常点（プレゼンや授業・討論への貢献度で、出席点ではない）

03 年度以降	英語圏の文学・文化特殊講義 b	担当者	Ｊ．Ｃ．アラード

講義目的、講義概要	授業計画
This seminar will be a study of Old English language and literature. Reading will be drawn from *Beowulf & Other Stories* (*B&OS*), edited by Richard North and Joe Allard. We shall also use the *Longman Anthology of Old English, Old Icelandic and Anglo-Norman Literature*, edited by Richard North, Joe Allard nd Patricia Gillies. The seminar will be an introduction to the Old English language (using Chapter 10 of *B&OS*). We will also consider the problems and rewards of literary translation.	1. Introduction: the history of the English language; matters of translation. 2. Old English (Anglo-Saxon) pronunciation and grammar. 3. Old English grammar and structure. 4. Old English survival in *Beowulf*. 5. *Beowulf :The Monsters and the Critics*, J.R.R. Tolkien, the reception and influence of the poem, *The Lord of the Rings*. 6. Other heroic poems: *Deor* and *Widsith*. 7. Riddles and laments: *The Seafarer* and *The Wanderer*. 8. More riddles and laments. 9. Christianity in the period: *The Dream of the Rood*. 10. More Christian literature and influence. 11. King Alfred and his books. 12. The Viking wars and the *Anglo-Saxon Chronicle*. 13 *The Battle of Brunanburh*: Anglo-Saxons and Vikings working together. 14. *The Battle of Maldon* and the University of Essex. 15. Review, conclusions and discussions of work for the future.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Beowulf & Other Stories, edited by Richard North and Joe Allard, Longman, 2007. ISBN: 978-1-4058-3572-5. *The Longman Anthology of Old English, Old Icelandic and Anglo-Norman Literature*, edited by Richard North and Joe Allard, Longman, forthcoming Spring 2011. ISBN:978-140-824-7709.	One essay at the end of the semester; one examination.

03 年度以降	英語圏の文学・文化文献研究 a	担当者	白鳥　正孝

講義目的、講義概要	授業計画
ここで言う文献研究とは、英語で書かれた作品および文化的に重要な文章を理解するために不可欠な歴史的、文化的な変遷や文学的な側面としての英語を対象とする研究を意味する。 この授業は大きく２つの部分からなる。第１には、文献研究を実際に実践していただく。初めに導入として、レポートの書き方や論文の書き方について若干講じ、次いで学生諸君に「自由レポート」として１０００字程度のレポートを毎回書いてきてもらい、そしてそれを皆の前で発表し提出し、翌週には、文献をチェックして返される。 第２には、西欧文化の１部である英語圏の文化の基盤となっている聖書、ギリシャ神話、マザー・グースなどを渉猟する。教材は全てプリントで配布され、授業の半分は、これの読解に当てられる。	１．文献研究入門 A. レポートの書き方、文献のつけ方 B. 論文の書き方、A.　日本語　B. 英語 2―15 実践　A. 自由レポート Ｂ．プリント読解 a. The Bible b. Greek Mythology c. Nursery rhymes d. Proverbs e. Miscellaneous
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント（授業の初めに配布する）	学期末のテスト（70%）と自由レポート(30%)による。

03 年度以降	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	Ｊ．Ｃ．アラード

講義目的、講義概要	授業計画
This seminar will be a study of Icelandic language and literature. Reading will be drawn from *Beowulf & Other Stories* (*B&OS*), edited by Richard North and Joe Allard. We shall also use the *Longman Anthology of Old English, Old Icelandic and Anglo-Norman Literature*, edited by Richard North, Joe Allard and Patricia Gillies and *Icelandic Poetry in the translations of Bernard Scudder*, selected, edited and introduced by Joe Allard and Sigrún Eirísdóttir. The seminar will be an introduction to Icelandic literature and language We will consider the sagas, the medieval Eddic and Skaldic poetry, and the development of Icelandic poetry through the ages.	1. Introduction: the history of Iceland and the Icelandic language; matters of survival and translation. 2. Oral tradition and the coming of literacy 3. Heathen and Christian: Old Norse mythology and the Eddas. 4. *The Poetic Edda* and Snorri's *Prose Edda*: *The Prophecy* and the Skalds. 5. Icelandic sagas: where they're from, what they're about. *Laxdæla Saga*. 6. Vikings and poets: *Egil's Saga*. 7. *Egil's Saga* again. 8. An introduction to *Njál's Saga*. 9. An introduction to *Grettir's Saga*. 10. Icelandic poetry c870-1600: Middle Ages to the Reformation. 11. The 17th and 18th centuries: The Age of Learning and the Enlightenment. 12. The 19th and early 20th centuries: Romanticism, Naturalism and Nationalism. 13. The rise of Modernism: mid-20th century. 14. Modernism and beyond: early 21st century. 15. Review, conclusions and discussions of work for the future.
テキスト、参考文献	**評価方法**
Beowulf & Other Stories, edited by Richard North and Joe Allard, Longman, 2007. ISBN: 978-1-4058-3572-5. *The Longman Anthology of Old English, Old Icelandic and Anglo-Norman Literature*, edited by Richard North and Joe Allard, Longman, forthcoming Spring 2011. ISBN: 978-140-824-7709. *Icelandic Poetry (c870-2006) in the translations of Bernard Scudder*, selected, edited, and introduced by Joe Allard and Sigrún Á. Eiríksdóttir. Leifur Eiríksson Publishers, Reykjavík, forthcoming Spring 2011.	One essay at the end of the semester; one examination.

03 年度以降	英語圏の文学・文化文献研究 b	担当者	上野　直子

講義目的、講義概要	授業計画
現代の英語圏、すなわちポストコロニアルの英語圏の文学と文化を考えるうえで欠かせない、古典ともいえる評論を読む。古典といっても、現代思想の文献であるから、1980年代以降に書かれたものが中心となる。 最初に全体を見渡すため、さまざまな問題系(*1)を提示し、それぞれについての短い解説文を読んだあと、「エスニシティー」、「人種」、「歴史」、「ディアスポラ」の４テーマに絞って論文を読む。論文は長さによってオリジナルを読む場合もあれば、抜粋を読む場合もある。 受講生は毎回の文献を予習し、学期中に少なくとも一回の発表を行う。最終的には自分のテーマをみつけ、小論文を書く。論文作成指導は適宜行う。 ＊１．上記に挙げた四つ以外の問題系は、以下のとおり。普遍性と差異、表象と抵抗、ナショナリズム、ハイブリディティー、土着性、フェミニズム、言語、体とパフォーマンス、場所、教育、生産と消費、グローバリゼーション、環境、聖なるもの。	1. 概論１ 2. 概論２ 3. 概論３ 4. エスニシティー　1 5. エスニシティー　2 6. 人種　1 7. 人種　2 8. Mid-term assessment ＋　論文指導 9. 歴史　1 10. 歴史　2 11. ディアスポラ　1 12. ディアスポラ　2 13. ディアスポラ　3 14. ディアスポラ　4 15. Final assessment + 論文最終指導

テキスト、参考文献	評価方法
秋学期の授業なので、9 月 1 日までには授業支援システムに掲示する。入手法のオプションも合わせて掲示するので、講師が用意すると指定されているものを覗いては、各自、入手すること。	出席　20% 発表　20% Mid-term と final の小試験　30% 小論文　30%

03 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間のコミュニケーション」という字面通りの意味でよいのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化（間）」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。 本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。 講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定個所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。	1. Intercultural communication: A very short introduction 2. 異文化間コミュニケーション論の落し穴 3. Key concepts (基本教材: pp. 2-5) 4. Communication and culture (基本教材: pp. 6-10) 5. Identity and cultural resources (基本教材: pp. 10-15) 6. Discourse, identity and agency (基本教材: pp. 16-20) 7. Otherisation and culturist traps (基本教材: pp. 21-25) 8. Language, meaning and culture (基本教材: pp. 25-30) 9. Power, identity and discourse (基本教材: pp. 30-35) 10. Representation: 'International understanding' as ideology (基本教材: pp. 36-41) 11. Dominant/counter discourse: 'Intercultural competence' (基本教材: pp. 41-47) 12. Disciplines for intercultural communication (基本教材: pp. 48-49) 13. ケース・スタディーズ 14. まとめ 15. まとめ ＜主要参考文献＞ 伊佐雅子 監修（2007）『多文化社会と異文化コミュニケーション』（改訂新版）三修社。 稲賀繁美 編著（2000）『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 津田幸男・関根久雄 編著（2002）『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント教材を使用します。（講義支援システムより各種教材をダウンロードしてください。）	英語によるエッセーの試験（100%）

03 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	工藤　和宏

講義目的、講義概要	授業計画
「グローバル化時代」を生きる「私たち」にとって、「異文化間コミュニケーション」は「不可避な現象」であると広く捉えられているようです。しかし、「異文化間コミュニケーション」とは一体何を意味するのでしょうか。「異なる文化の間のコミュニケーション」という字面通りの意味でよいのでしょうか。あるいは、何か特別な知的・身体的営為なのでしょうか。そもそも「異文化」や「コミュニケーション」とは何でしょうか。「異文化（間）」と言う時、既に何らかの偏った前提が潜んではいないのでしょうか。そして、学問としての「異文化間コミュニケーション論」が目指すもの、「私たち」がこの学問をすることの意義とは何なのでしょうか。 本講義では、講義担当者や受講生による語り、「異文化」体験、「異文化間コミュニケーション論」の解体と再構築という作業を通して、これらの問いについての考察を進めると共に、受講生の問題意識を触発してみたいと思います。 講義内容についての意見を毎回求めますので、英文テキストの指定個所を事前に読み、疑問点を明らかにしてから講義に出席してください。	1. Intercultural communication: A very short introduction 2. 異文化間コミュニケーション論の落し穴 3. Key concepts (基本教材: pp. 2-5) 4. Communication and culture (基本教材: pp. 6-10) 5. Identity and cultural resources (基本教材: pp. 10-15) 6. Discourse, identity and agency (基本教材: pp. 16-20) 7. Otherisation and culturist traps (基本教材: pp. 21-25) 8. Language, meaning and culture (基本教材: pp. 25-30) 9. Power, identity and discourse (基本教材: pp. 30-35) 10. Representation: 'International understanding' as ideology (基本教材: pp. 36-41) 11. Dominant/counter discourse: 'Intercultural competence' (基本教材: pp. 41-47) 12. Disciplines for intercultural communication (基本教材: pp. 48-49) 13. ケース・スタディーズ 14. まとめ 15. まとめ ＜主要参考文献＞ 伊佐雅子 監修（2007）『多文化社会と異文化コミュニケーション』（改訂新版）三修社。 稲賀繁美 編著（2000）『異文化理解の倫理にむけて』名古屋大学出版会。 津田幸男・関根久雄 編著（2002）『グローバル・コミュニケーション論』ナカニシヤ出版。
テキスト、参考文献	**評価方法**
プリント教材を使用します。（講義支援システムより各種教材をダウンロードしてください。）	英語によるエッセーの試験（100%）

03 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	授業計画
異文化間コミュニケーション研究の重要性を理解していくことが当講座の目的。このため文化とコミュニケーションを広範囲な視点から見ていきたい。その大まかな内容は、文化と価値観、文化と言語行動、文化と非言語行動のかかわりについてである。	1．ガイダンス 2．コミュニケーションとは何か 3．異文化コミュニケーションから何を学ぶか 4．異文化コミュニケーションと心理世界 5．異文化コミュニケーションの難しさ 6．異文化コミュニケーションの歴史 7．異文化コミュニケーションの重要性 8．異文化コミュニケーション研究のスタート 9．異文化コミュニケーションの背景 10．異文化コミュニケーションの現状 11．異文化コミュニケーションの体験 12．異文化コミュニケーションと国際英語の時代① 13．異文化コミュニケーションと国際英語の時代② 14．文化とグローバル化 15．まとめ
テキスト、参考文献	評価方法
『異文化コミュニケーション入門』丸善ライブラリー	毎回の授業内容に関するターム・ペーパーによる。

03 年度以降	異文化間コミュニケーション論 a,b	担当者	鍋倉　健悦

講義目的、講義概要	**授業計画**
同　上	同　上
テキスト、参考文献	**評価方法**
同　上	同　上

06 年度以降 03 年度以降	メディア・コミュニケーション論 a マス・コミュニケーション論 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 本講義の主目的は、多様なメディアが溢れ出る現代社会を理解する為に必要な理論とその歴史的考察を進めていく。メディアと現代社会の関係を考える際に注意しなくてはならないのは、コミュニケーションを単純にメッセージの送受信の過程や効果、もしくは伝達の技術装置として捉えてはいけない点にある。 メディアはマイノリティを排除したり、規範を自然のこととして受け入れさせる力を持つと考えられることが多い。しかし、現代のメディア研究では、文化規範に抑圧的な力が備わっていると仮定することは出来ないことは常識である。 したがって、メディア研究には、文化に批判的に介入する為の理論と歴史的研究の理解が肝心となる。メディアを１つのコミュニケーション実践としてとらえ、そこに見いだされる文化を批判的に読み解く必要がある。我々が日々接している情報や媒体を自明視させる文化の成り立ちに注目することで、文化を構成するコミュニケーションの書き換えの為の実践を学んでいく。	1. コース概要 2. メディアとは何か（第１章） 3. メディアの時代　メディアの理論（第２章） 4. マス・コミュニケーション理論の展開とその限界（第４章） 5. メディア革命と知覚の近代（第５章） 6. カルチュラル・スタディーズの介入（第６章） 7. カルチュラル・スタディーズの介入（第６章） 8. カルチュラル・スタディーズの介入（第６章） 9. 新聞と近代ジャーナリズム（第７章） 10. 誰が映画を誕生させたのか（第９章） 11. テレビが家にやって来た（第１１章） 12. 電話が誕生したのはいつだったのか（第８章） 13. ケータイが変える都市の風景（第１２章） 14. パソコンとネットワーク化する市民社会（第１３章）／グローバル・メディアとは何か（第１４章） 15. 前期総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
吉見俊哉『メディア文化論』有斐閣　２００４年	評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。

06 年度以降 03 年度以降	メディア・コミュニケーション論 b マス・コミュニケーション論 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
前期の講義を踏まえて、メディアを限定した上で、多様な分析の理論と手法を学ぶ。	1. コース・オリエンテーション 2ー15. 映像資料や文献を使用した具体的なメディアの分析と分析の為の理論の学習
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業で指示する。	評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。

03 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
①スピーチ・コミュニケーションとは、スピーチ（広義の「発話」）をコミュニケーション過程に投じることによって、既存の文化に「政治的」に参加する行為です。ここでいう「政治」とは、職業としての政治ではなく、批判精神を持って、既存の思考や行動様式、言説や規範などについて、自分の立ち位置を確立した上で、意見を述べていくという意味です。このようなことができなければ、グローバル化によって様々な文化や思惑がぶつかり合う社会生活において、日々の語学訓練の成果を十分活かすことはできないでしょう。このクラスでは、こうした意識を高かめていくためのスピーチ・コミュニケーション訓練を行います。 ②テキストの指定箇所を読んでから講義に出席することを前提に、講義では補足説明や応用解説を行います。（テキストの内容をリピートすることはありません。）理論解説の事例として、主にテレビ番組やテレビ CM、映画などの映像資料を用います。 ③授業時間外でのグループ活動が必要となるため、活動に参加できる学生を対象とします。	1. 講義概要 2. 管理されるコミュニケーション 3. 言説・法・文化とコミュニケーション 4. コミュニケーションという力 5. メディア 6. 個人・家族 7. ジェンダー・セクシュアリティ 8. 文化 9. コミュニケーション分析の進め方１ 10. コミュニケーション分析の進め方２ 11. コミュニケーション分析の進め方３ 12. 研究発表 Day 1 13. 研究発表 Day 2 14. 応用分析会１ 15. 応用分析会２ （研究グループ数によっては変更の可能性もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
板場良久＆池田理知子編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房）	①応用分析（20%） ②研究活動（参加＋発表＋審査 80%）

03 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	板場　良久

講義目的、講義概要	授業計画
①春学期の「スピーチ・コミュニケーション論 a」を受講した学生を対象にしますが、それ以外の学生でも努力をすれば十分についていける内容です。 ②テキストの指定箇所を読んでから講義に出席することを前提に、講義では補足説明や応用解説を行います。（テキストの内容をリピートすることはありません。）理論解説の事例として、主にテレビ番組やテレビ CM、映画などの映像資料を用います。 ③授業時間外のループ活動が不可欠となるため、活動に参加できる学生を対象としています。	1. 講義概要 2. 管理されるコミュニケーション 3. 記号 4. 教育 5. 精神 6. 社会思想としてのコミュニケーション 7. 事例研究１ 8. 事例研究２ 9. コミュニケーション分析の進め方１ 10. コミュニケーション分析の進め方２ 11. コミュニケーション分析の進め方３ 12. 研究発表 Day 1 13. 研究発表 Day 2 14. 応用分析会１ 15. 応用分析会２ （研究グループ数によっては変更の可能性もあります）
テキスト、参考文献	**評価方法**
板場良久＆池田理知子編『よくわかるコミュニケーション学』（ミネルヴァ書房）	①応用分析（20%） ②研究活動（参加＋発表＋審査 80%）

03 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 a	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 現代のコミュニケ―ション論の様々な方向性を概観する。権力概念を中心としたコミュニケーション論を基に、文化テクストを解読することを学ぶ。 **講義概要** 取り上げられるトピックは我々のコミュニケーションを規定している権力の磁場を構成している。現代コミュニケーションの問題の中心は権力関係にある。そこで、メディアやレトリック等のスピーチ・コミュニケーション研究にとって重要な理論的概念を『現代コミュニケーション学』（有斐閣）を通じて講義する。コミュニケーションの分析にとって重要な権力概念を、＜今＞に生きる自らの問題として把握し批評する視点を学習する。	1　オリエンテーション：スピーチ・コミュニケーション研究の視点 2　時計時間の支配 3　空間と権力 4　アイデンティティの問い 5　レトリックと権力 6　レトリックと権力 7　家庭内コミュニケーション 8　ジェンダーとコミュニケーション 9　ジェンダーとコミュニケーション １０　テクノロジーとコミュニケーション １１　テクノロジーとコミュニケーション １２　メディアのレトリック １３　メディアのレトリック １４　多文化主義とコミュニケーション １５　グローバル化と日本社会／前期総括
テキスト、参考文献	**評価方法**
池田理知子編『現代コミュニケーション学』有斐閣、2006.	評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。

03 年度以降	スピーチ・コミュニケーション論 b	担当者	柿田　秀樹

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 講義の目的は諸レトリック理論家の思想を学生が理解／実践できるようになることである。講義における学生の目標は以下の２点である。第一に口承、文学、さらには電子メディアを媒介した表象のレトリックを分析する為の多種多様な学術的前提を理解すること。第二にそれら前提に基づいた特定の理論を批評実践に応用できるようになることである。 **講義概要** 本講義は様々なレトリック分析と批評理論を理解するための専門科目である。スピーチ・コミュニケーション論 b では、２０世紀のレトリック批評への諸アプローチを紹介する。これらの批評理論研究を通じて、現代のレトリックが実践される複雑な社会・文化状況を改めて識別することが促される。スピーチ・コミュニケーション論 a と継続性のある講義なので、すべての学生がスピーチ・コミュニケーション論 a の講義で学習したことを既に理解していることを前提に講義を進めていく。	1　オリエンテーション／フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 2　フェルディナン・ド・ソシュールと記号論 3　ハイデガーと存在論 4　ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L.オースティンと発話行為理論 5　ルードリッヒ・ヴィトゲンシュタインと言語ゲーム／J. L.オースティンと発話行為理論 6　精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク 7　精神分析学とレトリック：フロイト、ラカン、ケネス・バーク 8　ミシェル・フーコーと表象 9　ミシェル・フーコーと表象 １０　ミシェル・フーコーと表象 １１　ミシェル・フーコーと表象 １２　エドワード・サイードとオリエンタリズム １３　エドワード・サイードとオリエンタリズム １４　スチュアート・ホールと文化研究 １５　後期総括
参考文献	**評価方法**
立川健二・山田広昭『現代言語論――ソシュール　フロイト　ウィトゲンシュタイン』新曜社 土田土則・神郡悦子・伊藤直哉『現代文学理論――テクスト・読み・世界』新曜社	評価は定期試験又はレポート及び不定期に課す課題等による総合評価。

03 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
Argumentation Theories Argumentation(議論研究)はコミュニケーション研究の中ではディベート教育と密接に関連しながら発展してきたが、哲学や言語学では異なった状況下で発展してきた。本講義は、歴史的な視点を用いて議論研究の理論的導入をおこなうことを通し、議論研究の諸理論を検討していく。 前期は現在の議論研究に影響を与えているペレルマンとオルブレッツ・テュテカの「新しいレトリック」、トゥールミンの議論へのアプローチを簡単に紹介した後、アメリカのコミュニケーション研究における議論研究･教育の実例を紹介する。これらの研究者のアプローチを理解する際には、(1)議論とはなにか、(2)よい･望ましい議論とはどういったものか、(3)可能な研究・教育プログラムはどのような形をとった(とりうるのか)という点を取り上げるが、これらの理論的･教育的発展に社会・政治状況が及ぼした影響も講義する。 議論研究という研究分野が余り発達していない現状もあり、読書課題は多くが英語となる。受講生は授業前に課題を読み終え、意見･質問を考えてくることが求められる。	1 Course Overview: Argumentation in the United States, Canada, and the Netherlands 2-5 Historical Figures: Chaim Perelman & Lucie Olbrechts-Tyteca's New Rhetoric Project--logic, dialectic, and rhetori 6-9 Historical Figures: Stephen Toulmin--layout of argument 10-14 Argumentation and debate: American communication studies 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に紹介、配布する。	授業参加 30%　試験 30%　レポート 40%

03 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
Argumentation Theories 本学期は前期の講義に基づき、80 年中盤以降の議論研究の発展を検討する。この時代においては、米国のコミュニケーション研究者、北米(特にカナダ)の哲学者、ヨーロッパ(特にオランダ)の語用論研究者の交流が進み、共通の研究課題に取り組むようになってきている。すべての研究課題を包括的に話すことは不可能であるため、カナダ・ヨーロッパの理論の紹介として、推論・議論のパターン(argumentation schemes)、行為・目的を中核に捉える対話的議論の理論(pragmatic theory/new dialectic)、視覚的議論(visual argument)、フェミニズムと議論を取り上げて講義していく。 議論研究という研究分野が余り発達していない現状もあり、読書課題はほとんど英語となる。受講生は授業前に課題を読み終え、意見･質問を考えてくることが求められる。	1 Retrospect and prospect 2-4 Argumentation schemes 5-7 Pragmatic argumentation theory 8-11 Visual argument 12-14 Feminism and argumentation 15 Review
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に紹介、配布する。	授業参加 30%　試験 30%　レポート 40%

03 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 a	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的 「よき日本人こそが よき世界人」（天野貞祐）を知っていますか。諸君が日本人であるというアイデンティティをどのように獲得するか分からないが、先ずは日本の文化・社会を知ろう。 ○講義概要「コミュニケーション」という視点から日本文化・社会を再検討、再確認、再評価してみよう。	１．講義概要説明 ２．コミュニケーション研究とは？ ３．文化と社会 ４．社会的コミュニケーション ５．文化的コミュニケーション ６．言語的特徴① ７．同上② ８．非言語的特徴① ９．同上② １０．　ビジネスにおける特徴① １１．　同上② １２．　歴史的特徴① １３．　同上② １４．　同上③ １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は随時配布する	・個人レポート：２０％、Ｇレポート：３０％ ・出席点：１５％、定期試験：３５％

03 年度以降	コミュニケーション論特殊講義 b	担当者	町田　喜義

講義目的、講義概要	授業計画
○講義目的 春学期と同じ ○講義概要 春学期と同じ	１．講義概要説明 ２．社会化とは？ ３．文化化とは？ ４．個人と集団① ５．同上② ６．同上③ ７．同上④ ８．イノベーションの普及過程① ９．同上② １０．　異文化屈折：日韓に横たわるもの １１．　同上② １２．　同上③ １３．　同上④ １４．　同上⑤ １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教材は随時配布する	・個人レポート：２０％、Ｇレポート：３０％ ・出席点：１５％、定期試験：３５％

03 年度以降	コミュニケーション論文献研究 a（月 4）	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
オーラルヒストリー インタビューを用いて得られる語りをもとに「歴史」を記録し、執筆すること。「オーラルヒストリー」という副題の本授業では、この 2 点に関する理論的考察と実践をおこないます。歴史とコミュニケーションはいかに関わるのか、「文字」と「声」の資料をどのように位置づけていくべきなのか？「声」を掘り起こすとはどういうことなのか？インタビューという形態と「記憶」や「記録」の兼ね合いをどう考えていくべきなのか？これらの比較的理論的な考察に加えて、インタビュー計画、インタビューの質問の執筆、インタビューが関わる研究の倫理的側面など、実践に関わることも考察・実施します。歴史やコミュニケーションに関心のある学生、インタビュー実践が関わる仕事に関心のある学生の方は受講してみてください。 本学期は読書課題(主に日本語)に基づく毎週のクラス討議、関連文献調査に基づくプロジェクト設定、質問の作成などをおこなっていただきます。	1 授業概要の説明 2 歴史とは、オーラルヒストリーとは 3 歴史とは、オーラルヒストリーとは 4 プロジェクト検討 5 質問の作成・研究上の倫理規定・著作(権)について 6 声と文字 7 声と文字 8 記憶 9 記憶 10 記憶 11 オーラルヒストリー事例検討 12 オーラルヒストリー事例検討 13 オーラルヒストリー事例検討 14 発表 15 発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業時に紹介する。	授業参加、発表、レポートをもとに総合的に判断する。

03 年度以降	コミュニケーション論文献研究 b（月 4）	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
オーラルヒストリー インタビューを用いて得られる語りをもとに「歴史」を記録し、執筆すること。「オーラルヒストリー」という副題の本授業では、この 2 点に関する理論的考察を伴う実践をおこないます。 本学期は読書課題(主に日本語)に基づく毎週のクラス討議を引き続きおこなう一方、先学期のプロジェクトをさらに進めて、インタビュー実践、記録の口述筆記、最終論文を執筆していただきます。受講者は、インタビューのために録音機器の準備をすること。	1 授業概要の説明 2 語ること、表現すること 3 語ること、表現すること 4 オーラルヒストリー事例検討 5 オーラルヒストリー事例検討 6 オーラルヒストリー事例検討 7 インタビュー結果報告 8 インタビュー結果報告 9 記録すること 10 記録すること 11 オーラルヒストリー事例検討 12 オーラルヒストリー事例検討 13 オーラルヒストリー事例検討 14 最終発表 15 最終発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
最初の授業時に紹介する。	授業参加、発表、レポートをもとに総合的に判断する。

03 年度以降	コミュニケーション論文献研究 a（木２）	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
Signs and Symbols この授業では、コミュニケーション研究にとって重要な焦点のひとつである「記号･象徴･表象・言説･シンボル･サイン」といったことばで語られる概念を、異なる領域の研究者がどのように捉えてきたのかをクラスで討議し、さまざまなアプローチを把握していくことを目指す。 前期はフェルディナン・ド・ソシュール、チャールズ・サンダース・パースという記号論(学)の創始者がどのように記号の問題を捉えていたのかを把握した後、コミュニケーション研究に大きな影響を与えた、ケネス・バーク、リチャード・ウィーバーのレトリック･象徴に関する理論を検討する。これらのアプローチを理解する際には、(1)理論的に重要な用語は何か、(2)どのようにしてその重要な用語を用いてコミュニケーションを分析･解釈していけるのかということを取り上げて検討していく。 読書課題は日本語と英語で、受講生は授業前に課題を読み終え、意見･質問を考えてくることが求められる。主に一次文献を扱うので読みやすいとは限らないが、講義と授業内の討議を通してできる限り明確化していくことを試みる。	1 Course Overview 2 ソシュールの言語記号の理論 3 ソシュールの言語記号の理論 4 パースの記号理論 5 パースの記号理論 6 パースの記号理論 7 ケネス･バークのレトリック論 8 ケネス･バークのレトリック論 9 ケネス･バークのレトリック論 10 ケネス･バークのレトリック論 11 リチャード･ウィーバーのレトリック論 12 リチャード･ウィーバーのレトリック論 13 リチャード･ウィーバーのレトリック論 14 発表 15 発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に紹介、配布する。	授業参加、発表、レポートをもとに総合的に判断する。

03 年度以降	コミュニケーション論文献研究 b（木２）	担当者	小西　卓三

講義目的、講義概要	授業計画
Signs and Symbols 前期に引き続いて「記号･象徴･表象・言説･シンボル･サイン」について検討します。この学期は、記号論やレトリックといったことばをことばを使わないにもかかわらず、コミュニケーション研究に影響を与えてきた研究者の理論をクラスで討議し、その成り立ちとコミュニケーション研究に対する影響の理解を目指す。 最初の授業で前期に行ったことを振り返り研究上の課題を把握した後、公共性(圏)に関するユルゲン・ハーバマスの著作とその批判を読むことで、授業の方向付けをします。その後、公共性(圏)の成立が孕んだ問題を言説の面から検討するミシェル・フーコー、その影響下にあるエドワード・サイードの文学論を検討する。 読書課題は日本語と英語で、受講生は授業前に課題を読み終え、意見･質問を考えてくることが求められる。主に一次文献を扱うので読みやすいとは限らないが、講義と授業内の討議を通してできる限り明確化していくことを試みる。	1 Retrospect and Prospect 2 ユルゲン・ハーバマスの公共圏に関わる理論 3 ユルゲン・ハーバマスの公共圏に関わる理論 4 ユルゲン・ハーバマスの公共圏に関わる理論 5 公共圏とジェンダー 6 公共圏とジェンダー 7 公共圏とジェンダー 8 ミシェル・フーコーの力と言説に関する理論 9 ミシェル・フーコーの力と言説に関する理論 10 ミシェル・フーコーの力と言説に関する理論 11 エドワード・サイードの文学論 12 エドワード・サイードの文学論 13 エドワード・サイードの文学論 14 発表 15 発表
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業時に紹介、配布する。	授業参加、発表、レポートをもとに総合的に判断する。

06 年度以降 03 年度以降	グローバル社会論 a,b 国際社会論 a,b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目標は、学生が一年時に学習した国際関係論の基礎から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。 本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組みとしての主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体的に取り上げ、理論的アプローチを適用することでグローバル社会の実態の把握にせまる。	第 1 回　ガイダンス、グローバル化する国際社会 第 2 回　国際政治の理論とは何か 第 3 回　国際政治の分析枠組み①国際関係 第 4 回　国際政治の分析枠組み②国家 第 5 回　国際政治の分析枠組み③個人 第 6 回　国際政治アプローチ①現実主義 第 7 回　国際政治アプローチ②理想主義 第 8 回　国際政治アプローチ③コンストラクティズム 第 9 回　（前半まとめ）中間テスト 第 10 回　安全保障②伝統的安全保障 第 11 回　安全保障①人間の安全保障 第 12 回　国際経済 第 13 回　地球環境 第 14 回　貧困と開発 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指定する。	出席回数、中間テスト、学期末試験の総合評価とする。 欠席は 4 回までとする。

06 年度以降 03 年度以降	グローバル社会論 a,b 国際社会論 a,b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義の目標は、学生が一年時に学習した国際関係論の基礎から更に理解を深めること、また国際政治理論を用いて国際社会を分析できるようになることである。 本講義では、グローバル化の進む国際社会の本質的な動きを理解するための手がかりとして、国際社会の構成枠組みとしての主体、ならびに分析視点としての理論について学ぶ。その上で、安全保障、国際経済、環境問題など近年の国際社会が直面するさまざまな問題を具体的に取り上げ、理論的アプローチを適用することでグローバル社会の実態の把握にせまる。	第 1 回　ガイダンス、グローバル化する国際社会 第 2 回　国際政治の理論とは何か 第 3 回　国際政治の分析枠組み①国際関係 第 4 回　国際政治の分析枠組み②国家 第 5 回　国際政治の分析枠組み③個人 第 6 回　国際政治アプローチ①現実主義 第 7 回　国際政治アプローチ②理想主義 第 8 回　国際政治アプローチ③コンストラクティズム 第 9 回　（前半まとめ）中間テスト 第 10 回　安全保障②伝統的安全保障 第 11 回　安全保障①人間の安全保障 第 12 回　国際経済 第 13 回　地球環境 第 14 回　貧困と開発 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指定する	出席回数、中間テスト、学期末試験の総合評価とする。 欠席は 4 回までとする。

06 年度以降 03 年度以降	グローバル社会論 a,b 国際社会論 a,b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。 授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。 国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。 国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。 この授業では、そのノウハウを伝えていきます。 ご一緒に、国際問題を料理してみましょう。	1　国際情報ツール「ニュースの見方」 グローバル社会を見る眼 2　国際社会の誕生――大航海時代のスタート 3　国際システム 4　国際システム 5　国際社会と国内社会の相違 6　国際社会と国内社会の相違 7　政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性 8　まとめ 9　米英欧の世界観 １０　イギリスの思想家 １１　ヨーロッパの思想家 １２　国際社会の比較 １３　国際社会の比較 １４　国際社会の比較 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバル社会論資料集』	評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットです。

06 年度以降 03 年度以降	グローバル社会論 a,b 国際社会論 a,b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。 授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。 国際ニュースを見た後、授業の後半では「グローバル社会を見る眼」を養いましょう。これに関連したトピックを取り上げ、用語の解説も行います。 国際問題を「料理」に例えれば、食材（国際問題）をどのように料理（分析）するかが鍵となります。料理でもイタリアン、フレンチ、中華、日本料理では味覚が異なります。料理方法が異なれば、国際問題の見方も多様化します。 この授業では、そのノウハウを伝えていきます。 ご一緒に、国際問題を料理してみましょう。	1　国際情報ツール「ニュースの見方」 グローバル社会を見る眼 2　国際社会の誕生――大航海時代のスタート 3　国際システム 4　国際システム 5　国際社会と国内社会の相違 6　国際社会と国内社会の相違 7　政治過程：恋愛・結婚・ファミリー 権威：権力＋正統性 8　まとめ 9　米英欧の世界観 １０　イギリスの思想家 １１　ヨーロッパの思想家 １２　国際社会の比較 １３　国際社会の比較 １４　国際社会の比較 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
『グローバル社会論資料集』	評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットです。

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の国際関係 a 国際関係史 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の問題意識】 今般、日本の外交・安全保障分野の専門家の間で、防衛協力のパートナーとしてのオーストラリアに対する関心がこれまでになく高まってきている。6 年ぶりとなる「防衛計画の大綱（防衛大綱）」（2010 年 12 月 17 日閣議決定）でも、政府は中国の台頭を念頭に、日米同盟の深化とともに、オーストラリアなど友好国との防衛協力強化を謳っている。 こうした関心の高まりとは裏腹に、オーストラリアに対する理解は浅いのが現状である。本講義では、オーストラリアがどのような歴史を歩んできたのかを概観し、同国に対する理解を深める一助となることを願うものである。 【講義概要】 春学期の講義では、イギリスによるオーストラリア植民地の形成（18 世紀後半）から、第二次世界大戦終結までのオーストラリアの歴史を、イギリス（英帝国）やアメリカ、アジア地域との関係性のなかで概観していく。 本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。	第 1 回：イントロダクションーオーストラリアを学ぶ意義 第 2 回：植民地オーストラリア①ー植民地の誕生と発展 第 3 回：植民地オーストラリア② ー大英帝国とオーストラリア 第 4 回：ゴールドラッシュと白豪主義政策 第 5 回：多文化主義社会オーストラリア 第 6 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ー「二つのナショナリズム」 第 7 回： 20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ー第一次世界大戦とアンザック精神 第 8 回：20 世紀初頭の戦争とオーストラリア ー第一次世界大戦とオーストラリア国内社会 第 9 回： 第二次世界大戦ーアジア国際関係と黄禍論 第 10 回：２つの捕虜収容所①ーアンボン捕虜収容所 第 11 回：２つの捕虜収容所②ーカウラ捕虜収容所 第 12 回：対日講和問題とオーストラリア 第 13 回：オーストラリアにおける先住民問題① ー1970 年代まで 第 14 回：オーストラリアにおける先住民問題② ーラッド首相の「謝罪演説」まで 第 15 回：総括と質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：永野隆行他編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

06 年度以降 03 年度以降	英語圏の国際関係 b 国際関係史 b	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【講義の問題意識】 今般、日本の外交・安全保障分野の専門家の間で、防衛協力のパートナーとしてのオーストラリアに対する関心がこれまでになく高まってきている。6 年ぶりとなる「防衛計画の大綱（防衛大綱）」（2010 年 12 月 17 日閣議決定）でも、政府は中国の台頭を念頭に、日米同盟の深化とともに、オーストラリアなど友好国との防衛協力強化を謳っている。 こうした関心の高まりとは裏腹に、オーストラリアに対する理解は浅いのが現状である。本講義では、戦後のアジアにおいてオーストラリアがどのような外交を展開してきたのかを概観し、日豪協力の今後を考える一助となることを願うものである。 【講義概要】 秋学期の講義では、第二次世界大戦後のオーストラリアの外交・安全保障を中心に見ていく。オーストラリアは、第二次世界大戦を契機に、イギリスからアメリカ合衆国へと自らの安全保障の拠り所を変換させ、さらに日本を含めたアジアとの関係を深化させていった。こうした流れに沿いながら、オーストラリアの歴史を概観していく。 春学期同様、本講義はパワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。必要に応じて、映像資料を用いる。なお、抜き打ち的にテキストの内容についての小テストを数回実施する。	第 1 回：イントロダクション ーオーストラリア外交を見る眼 第 2 回：チフリー労働党政権の外交 ー新たな国際関係構築の模索 第 3 回：アンザス同盟の実現 第 4 回：冷戦下のアジア① ー中国の誕生、マラヤ暴動、朝鮮戦争 第一次インドシナ危機 第 5 回：冷戦下のアジア② ーイギリスのアジアの戦争「対決政策」 第 6 回：冷戦下のアジア③ ーアメリカのアジアの戦争「ベトナム戦争」 第 7 回：ポストベトナムのオーストラリア外交 第 8 回：冷戦末期から冷戦後のオーストラリア外交 ーオーストラリアの「アジア化」 第 9 回：ミドルパワー外交①PKO、多国間主義 第 10 回：ミドルパワー外交②移民、難民、援助 第 11 回：ミドルパワー外交③核軍縮 第 12 回：ミドルパワー外交④国際テロとの戦い 第 13 回：日豪関係の歴史的展開ー敵国から同盟国へ 第 14 回：ギラード労働党政権の政治と外交 第 15 回：21 世紀オーストラリア外交の行方＆質疑応答
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：永野隆行ほか編著『オーストラリア入門』東京大学出版会、2007 年。 参考文献：講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布	不定期に実施する数回の小テストの実施（30%）と学期末の定期試験（70%）による評価。

06 年度以降 03 年度以降	国際開発論 国際開発協力論 a	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
本講義は、開発途上国における貧困および開発の実態を明らかにし、さらにグローバル化時代において開発途上国が直面する課題と可能性について検討します。 講義は３つのシリーズから構成されます。第１の「開発途上国の貧困」では、貧困の実態を紹介するとともにその要因を多面的に捉えます。第２の「開発途上国の開発とその実態」では、途上国が独立以来歩んできた発展の過程を後付けたうえで、経済成長重視政策の問題点やグローバリゼーションが開発途上国に与えている影響に関して検討し、さらに近年目覚まし中国の経済発展の実態について、その弊害を含めて探ります。第３の「グローバル化時代の国際開発」では、グローバル化時代における開発の新たなトレンドを探りつつ、新たな開発の方向性やビジネスの可能性について考えます。 なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用します。	１．イントロダクション：開発と国際関係 **＜開発途上国の貧困＞** ２．貧困の現状／歴史的要因（1）：植民地支配の影響 ３．歴史的要因（2）：アジアにおける植民統治 ４．政治的要因（1）：民主主義と開発 ５．政治的要因（2）：開発独裁体制 ６．社会・文化的要因：インド・カースト制度 **＜開発途上国の開発とその実態＞** ７．経済開発の方法とパターン ８．高度経済成長の要因と弊害 ９．開発途上国にとってのグローバリゼーション 10．中国経済発展の光と影（1）発展の勢い 11．中国経済発展の光と影（2）弊害と矛盾 **＜グローバル化時代の国際開発＞** 12．国際ビジネスの新展開（1）：ツーリズム関連産業 13．国際ビジネスの新展開（2）：ポップカルチャー 14．国際ビジネスの新展開（3）：イスラム関連産業 15．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。	学期末試験の成績を中心に評価を行います。

06 年度以降 03 年度以降	国際協力論 国際開発協力論 b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
毎回、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみます。 国際ニュースに加えて、観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目し、CNN や BBC を楽しみます。 国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半は国際協力に関連した２つのトピックを取り上げます。 第１のトピックは、グローバル社会における先進国と発展途上国の関係を、オーストラリアに注目して、国際協力の視点から取り上げます。 第２のトピックは、国際テロです。世界は９・１１テロ事件によって大きく変化し、国際協力のあり方も見直されるようになりました。	１　国際情報ツール「ニュースの見方」 ２　オーストラリアは、どんな国 ＜国際協力の表とウラ＞ ３　国境を越える ４　国境を越える ５　国内の紛争 ６　国内の紛争 ７　地域の協力 ８　ニッチ外交 ９　まとめ ＜国際リスクを考えてみよう＞ １０　国際テロ １１　国際テロ １２　国際テロ １３　テロ対策と国際協力 １４　テロ対策と国際協力 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
竹田いさみ『物語オーストラリアの歴史』(中公新書)	評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットです。

06 年度以降	国際交流論	担当者	小松　諄悦

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、芸術交流、日本語教育、日本研究・知的交流の三分野における、国際文化交流事業の実践を検証します。 分野ごとの文化交流事業の実践を学習しながら、文化交流政策、文化交流の目的についても、考察していきたいと思います。 国際環境の変化が、いかに文化交流に影響を与えるかも、検討したいと考えています。	１．講義の概要（国際交流と国際交流基金） ２．国際文化交流の歴史 ３．国際交流基金の歴史 ４．芸術交流 ５．芸術交流の実践 ６．芸術交流の実践（2） ７．日本語教育 ８．日本語教育の実践 ９．日本研究 １０．日本研究事業の実践 １１．知的交流 １２．知的交流の実践 １３．知的交流の実践（2） １４．国際環境の変化と国際文化交流の変遷 １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、授業でレジュメを配布	期末レポートによって評価（80%）するが、出席率も考慮に入れる（20%）。

09 年度以降	国際ツーリズム論	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 我々の身近な生活の一部になっている観光は、「人類のもっとも望ましい基本的活動」だとされる。ツーリズムによる文化や人の交流が国際社会に及ぼす影響を学び、地に足の着いた国際ツーリズムのあり方を考察する。 講義概要 アフリカの地から始まった「人類の偉大な旅」、17 世紀、英国貴族の子弟が指導者としての識見を身につける為のイタリア旅行(Grand Tour)、明治期、岩倉遣欧使節団の渡航、ベルリンの壁の崩壊に繋がった東ドイツ個人旅行の自由化等々、国際ツーリズムが持つ社会を動かす力を考察し、訪日外国人旅行者数の少ない日本のツーリズムの姿も視野に入れながら、国際ツーリズムの実像を掴む。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。	１．ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ；講義内容、進め方、成績評価について ２．国際ツーリズムの持つ力、ベルリンの壁の崩壊 ３．“Grand Tour”　を考える ４．インバウンド観光の始点と促進の背景 ５．観光収支と国際ツーリズム ６．海外渡航の解禁とアウトバウンド観光の位置づけ ７．ディスカッション；「何故日本には人が来ない？」 ８．国際ツーリズムの原動力；日本の魅力、「和」 ９．国際ツーリズムの資源としてのソフトパワー １０．エコロジーとエコツーリズム １１．世界遺産を考える １２．国際ツーリズムとホスピタリティ １３．内発的発展論から見る日本のツーリズムの先 １４．ＥＵに学ぶ東アジアバリヤーフリー・ツーリズム圏 １５．夫々の到達点、全体講義のまとめ （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。事前に通知する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：小林寛子『エコツーリズムってなに？』（河出書房）、白幡洋三郎『旅行のススメ』（中公新書）、山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）他	期末試験（７０％）に、出席状況、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。

06 年度以降	国際 NGO・ボランティア論	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
グローバル化、多極化、多様化といった現象が進む現代社会において、様々な面で国際協力の重要性が高まっています。また、国際協力を担う主体も多様化し、国家、国際機関、企業などとともに非政府組織（NGO）やボランティア組織にも注目が集まっています。本講義では、国際協力、とりわけ開発援助における NGO の機能と役割に注目しながら、現代の国際社会が抱える開発協力の諸問題について考えます。 本講義は４つのシリーズから構成されます。第１の「開発援助の仕組みと展開」では、政府開発援助（ODA）の現状を把握するとともに、ODA の新たなトレンドと課題を探ります。第２の「NGO の役割と課題」では NGO やボランティア組織のあり方について歴史的背景を踏まえながら捉え、さらに開発と NGO との関係について具体的なケースを取り上げながら考えます。第３の「国際協力の新たなテーマと NGO」では、近年注目されている国際協力の幾つかの側面に着目しながら、新たな NGO の役割と課題について検討します。最後に、「日本の NGO 活動」として、日本における国際協力 NGO に焦点を当て、歴史、実態、課題について検討します。	１．イントロダクション：国際協力・開発援助・NGO ＜開発援助の仕組みと展開＞ ２．ODA の仕組みとトレンド ３．日本の ODA の特徴 ４．日本の援助実績と問題点 ５．日本の ODA の課題 ＜NGO の役割と課題＞ ６．国際援助の新たなテーマと NGO ７．NGO の定義と歴史的経緯 ８．NGO の機能と途上国での役割 ９．開発と NGO：ケーススタディ(1)バングラデシュ 10．開発と NGO：ケーススタディ(2)マレーシア ＜国際協力の新たなテーマと NGO＞ 11．マイクロクレジットという方法 12．ジェンダー問題と開発 13．地球環境問題と国際協力 ＜日本の NGO 活動＞ 14．市民活動の歴史と国際協力 NGO 15．国際協力 NGO の実態と課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
共通のテキストは指定しません。授業の中で参考文献を適宜指摘します。	学期末試験の成績を中心に評価を行います。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
ほぼ毎回の授業で、アメリカ CNN ニュースや、イギリス BBC ニュースを見て、解説します。授業当日に放映されたニュースをリアルタイムで見ながら、世界のトレンドをつかみましょう。 ＣＮＮやＢＢＣで放映される観光、ホテル、エアラインの PR 情報に注目して、観光、宿泊、航空産業の世界的な動向もつかみましょう。エアライン時刻表や海外旅行パンフレットを読み解きます。 国際ニュースは授業の前半で見ますが、後半はツーリズム・リスクに関連したトピックを取り上げます。この授業では「ツーリズム」を「移動すること」と解釈し、移動のリスクを冒して暴れ回った海賊に光をあてます。 W・ディズニー映画「カリブの海賊」を手掛かりに、世界の危険な海を舞台に、航海のリスクを抱えつつ、歴史に登場した海賊の正体に迫ります。	１　オリエンテーション ２　ディズニー映画「カリブの海賊」鑑賞、解説 ３　ディズニー映画「カリブの海賊」鑑賞、解説 ４　ディズニー映画の鑑賞、海賊の用語解説 ５　海賊ドレークの世界一周 ６　海洋覇権のゆくえ――海賊の役割 ７　海洋覇権のゆくえ――海賊の役割 ８　まとめ ９　スパイス争奪戦――海賊の「東インド会社」 １０　スパイス争奪戦――海賊ビジネス １１　コーヒーから「午後の紅茶」へ １２　砂糖生産――海賊の「密輸」ビジネス １３　国名・カレンダー(暦)・宗教勢力―用語解説 １４　ディズニー映画「カリブの海賊」鑑賞、解説 １５　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
竹田いさみ『世界史をつくった海賊』（ちくま新書）	評価方法は、登録作業の出席点、中間テスト、期末試験の３点セットです。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係特殊講義 a 国際関係論特殊講義 a	担当者	永野　隆行

講義目的、講義概要	授業計画
【本講義の目標】 本講義の目的は、20 世紀の国際関係の歴史の全体像を把握し、それを 21 世紀の国際関係の理解に役立てることである。国際政治の現象の理解に必要なのは、理論的な枠組みと歴史的背景である。前者の理論的枠組みについては、「グローバル社会論」（国際コース必修科目）を中心に講義がなされているが、歴史関連科目については、学生諸君が学ぶ機会は限られており、この講義が歴史的知識を習得する機会を与える一つとなるだろう。 【講義概要】 本講義では、第二次世界大戦後の歴史を主として冷戦という観点から振り返っていくが、「核兵器」、「脱植民地化」、「経済」、「文化」、「市民社会」などテーマを絞って過去およそ 50 年間の歴史を振り返りたい。 本講義は、パワーポイントを利用し、同時に簡単なレジメを配布する。また必要に応じて映像資料を用いる。抜き打ちで出欠調査を兼ねたリアクションペーパーの提出を求める。	第 1 回：イントロダクションー歴史を学ぶとは？ 第 2 回：20 世紀はどんな時代であったか ーナショナリズムの時代 第 3 回：20 世紀はどんな時代であったか ー大量破壊兵器の時代 第 4 回：20 世紀はどんな時代であったか ー国際関係の多民族化・多文化化 第 5 回：20 世紀はどんな時代であったか ー資本主義経済のグローバル化 第 6 回：冷戦とは何であったのか① 第 7 回：冷戦とは何であったのか② 第 8 回：冷戦の開始・冷戦の起源 第 9 回：冷戦の展開と激化 第 10 回：冷戦と日本 第 11 回：冷戦と経済 第 12 回：冷戦と文化 第 13 回：冷戦と市民社会 第 14 回：冷戦の終焉と 21 世紀の国際関係 第 15 回：まとめ（質疑応答）
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。 講義第一回目に詳しい参考文献リストを配布します。	抜き打ち的に実施するリアクションペーパーの提出（30%）と学期末試験（論述形式、70%）による。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	小松　諄悦

講義目的、講義概要	授業計画
「国際交流論」で分野ごとに検証した国際文化交流事業の実践を、この講義では、日本にとって重要な地域（東南アジア）・国（中国、韓国、アメリカ）ごとの、国際文化交流事業の実践を検証します。 アメリカ、中国、韓国、東南アジアの、それぞれの現代史と特性、日本との関係史を考察しながら、その特性に応じた、適正な文化交流事業を検討していきたいと思います。 近年注目されている東アジア共同体の中核をなすべき「東アジア文化共同体」構想についての私論も展開する。	１．講義の概要 ２．国際文化交流の歴史 ３．アメリカの特性 ４．日米関係の近現代史 ５．日米文化交流の実践 ６．中国の近現代史 ７．日中関係の歴史 ８．日中文化交流の実践 ９．韓国の近現代史 １０．日韓関係の近現代史 １１．日韓文化交流の実践 １２．東南アジアの近現代史 １３．日本と東南アジアとの関係史 １４．東南アジアとの文化交流の実践 １５．東アジア文化共同体（授業のまとめ）
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じ、授業でレジュメを配布	期末レポートによって評価（80%）するが、出席率も考慮に入れる（20%）。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係特殊講義 b 国際関係論特殊講義 b	担当者	佐野　康子

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、サハラ以南アフリカ諸国に焦点を当て、政治、経済、社会などさまざまな側面からアフリカの実情を把握し、グローバル社会の中でのアフリカ諸国の位置づけを試みる。 数多くのアフリカ諸国が独立を果たした 1960 年は「アフリカの年」と呼ばれる。独立から四半世紀を経過した今なお、アフリカ諸国は良くも悪くも国際社会の関心の的となっている。 国際社会の安全と平和の推進に大きな役割を担う国連安保理の議題の約 6 割がアフリカ関連事項であるという事実がこれを裏付ける。本講義では、現代アフリカを理解するのに必要な視点ならびに情報を提供する。映像資料を積極的に使用することで学生の理解向上に努めたい。	第 1 回　ガイダンス 第 2～4 回　歴史 第 5～7 回　国際支援の動向 第 8～9 回　紛争と平和構築 第 10 回　民主主義とガバナンス 第 11 回　食糧問題 第 12 回　地域協力 第 13 回　女性と人権 第 14 回　環境問題 第 15 回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜配布する。	出席と学期末試験の総合評価とする。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 a 国際関係論文献研究 a	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、国際関係分野で卒論を執筆しようとする学生諸君を対象に、卒論をはじめとするアカデミックな論文を作成するために必要な知識・ノウハウの習得、ならびに英文を含めた資料・文献の選び方、読み方の習熟を目指します。 具体的には、（1）論文・レポートの書き方（形式論および方法論)、（2）リサーチの方法と資料の選択、（3）資料・文献の読解と解釈、といった点を学ぶとともにそれらのトレーニングを行います。リサーチと資料・文献読解のテーマとしては特定の国のカントリー・リスクや重要な時事問題などを取り上げます。 受講者にはほぼ毎週レポートの提出や事前リサーチを課し、それらの報告を基に授業を進めます。受講希望者は、初回の授業の際に下記の要領に従って書いたレポートを持参してください(授業の材料に使います)。＊テーマ:「在日外国人問題」、字数：2 千字以内（A4 で 2 枚以内に収める)、条件：サブタイトルは各自付ける。また、テーマに関して自らの体験談を一部に必ず盛り込む。 この授業は金子担当の国際関係文献研究ｂ（秋学期）と極めて継続性が強いため、a,b の継続履修を強く推奨します。	1．イントロダクション 2ー7. 論文の書き方： 各受講者が提出したレポートを題材に、論文・レポートを書く際に不可欠なルールやレベルの高いレポートの書き方について、テキストを利用しながら解説する。また、受講者から提出された論文・レポートを受講者全員で添削しながら、アカデミックな論文の書き方について考える。 8ー12. リサーチの方法： 特定のテーマについて、いかに的確かつバランス良く資料（書籍、定期刊行物、インターネットなど）を収集できるかについて考え、トレーニングする。 13ー15. 資料・文献の読解： テキストとして、例えば、CIA,*The World Factbook* や時事問題に関する英文および邦文の雑誌、新聞を用いて、専門的用語・概念を学ぶとともに読解力の向上を図る。
テキスト、参考文献	**評価方法**
河野哲也『レポート・論文の書き方入門』慶應大学出版会、2002 年（事前に用意する必要はない)。その他、教材として英文の書籍、定期刊行物、ホームページ資料などを適宜使用。	出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が 3 回に達した時点で履修者リストから除外する。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	金子　芳樹

講義目的、講義概要	授業計画
この授業の目的は、春学期の「国際関係文献研 a」に引き続き、国際関係分野で卒論を執筆しようとする学生諸君を対象に、卒論をはじめとするアカデミックな論文を作成するために必要な知識・ノウハウの習得、ならびに英文を含めた資料・文献の選び方、読み方の習熟を目指します。 具体的には、（1）論文・レポートの書き方（形式論および方法論)、（2）リサーチの方法と資料の選択、（3）資料・文献の読解と解釈、といった点について習得を図るとともにそれらのトレーニングを行います。リサーチと資料・文献読解のテーマとしては特定の国のカントリー・リスクや重要な時事問題などを取り上げます。 受講者には、ほぼ毎週レポートの提出や事前リサーチを課し、それらの報告を基に授業を進めます。また、受講者には、夏季休暇を利用して、ある程度の長さのレポートを書いてきてもらい、それを授業の素材として活用します。 金子担当の国際関係文献研究 a（春学期）との継続性が強いため、本授業の履修については a, b の継続履修を強く推奨します。	1．イントロダクション 2ー4. 論文の書き方（1）： 各受講者が提出したレポートを題材に、論文・レポートを書く際に不可欠なルールやさらにレベルの高いレポートの書き方について、テキストを利用しながら解説する。また、受講者から提出された論文・レポートを受講者全員で添削しながら、他者の文章に対する校正力、批判力を養う。 5ー8．論文の書き方（2）： 論文執筆の上で必要となるルールを習得し、アカデミックな論文を書くための具体的なノウハウを会得する。 9ー11. リサーチの方法： 特定のテーマについて、いかに的確かつバランス良く資料収集できるようトレーニングする。 12ー15. 資料・文献の読解： テキストとして、時事問題に関する英文および邦文の雑誌、新聞を用いて、専門的用語・概念を学ぶとともに読解力の向上を図る。特に、英文の読解、解釈については課題を課し、それを基に授業を進める。
テキスト、参考文献	**評価方法**
櫻井雅夫『レポート・論文の書き方　上級』慶應大学出版会、1998 年（事前に用意する必要はない)。その他、教材として英文の書籍、定期刊行物、ホームページ資料などを適宜使用。	出席率、レポート内容、プレゼン内容、討論への参加状況を基に評価する。理由の如何を問わず、欠席回数が 3 回に達した時点で履修者リストから除外する。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 a 国際関係論文献研究 a	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、以下の３つの目標が設定されています。 第１の目標は、グローバル化した国際関係の中で、主要メディアが取り上げたトピック（新聞・雑誌記事）に注目して討論することです。 第２の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第３の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 テキストは、英語圏を中心に発行された新聞、週刊誌、月刊誌に掲載された記事です。 毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。 課題テーマに関するプレゼン資料（レジュメ）を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。重複履修は原則として出来ません。	受講生の人数が確定した後、プレゼンテーションのテーマと発表者を適宜、受講生と相談しながら決めます。最終的に６つのグループを作ります。 第１回　　オリエンテーション （授業の進め方、テーマに関する事例の紹介） 第２回～７回 受講生によるプレゼンと討論 第８回　　まとめ 第９～１４回 受講生によるプレゼンと討論 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜配布します。	出席回数、プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	竹田　いさみ

講義目的、講義概要	授業計画
この授業では、以下の３つの目標が設定されています。 第１の目標は、グローバル化した国際関係の中で、主要メディアが取り上げたトピック（新聞・雑誌記事）に注目して討論することです。 第２の目標は、英語の運用能力を高めることです。 第３の目標は、受講生が積極的に発言する「場」を作り、受身ではなくて参加型の授業にすることです。 テキストは、英語圏を中心に発行された新聞、週刊誌、月刊誌に掲載された記事です。 毎回の授業は、基本的にすべて英語で行います。とりわけ授業では、英語によるプレゼンテーション能力の開発に、力点が置かれています。 課題テーマに関するプレゼン資料（レジュメ）を用意し、プレゼンテーションした受講生のみが、評価の対象となります。重複履修は原則として出来ません。	受講生の人数が確定した後、プレゼンテーションのテーマと発表者を適宜、受講生と相談しながら決めます。最終的に６つのグループを作ります。 第１回　　オリエンテーション （授業の進め方、テーマに関する事例の紹介） 第２回～７回 受講生によるプレゼンと討論 第８回　　まとめ 第９～１４回 受講生によるプレゼンと討論 第１５回　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜配布します。	出席回数、プレゼンテーションの準備、授業への貢献度などで評価します。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 a 国際関係論文献研究 a	担当者	光辻　克馬

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際関係について英語で書かれた研究論文、雑誌論文などを読むことで、（1）国際関係についての基本的な見方を学び、（2）国際関係分野に必要な英語能力を向上させることを目指します。 講義は、基本的には履修者による報告と討論で構成します。必要に応じて解説を加えます。テーマとしては、「国際関係の構造」「国際平和と戦争」などを予定しています。	第 1 回： イントロダクション：国際関係論＆心得解説 第 2 回-第 14 回： 履修者による報告と討論 第 15 回： みんなで総括 履修者の国際関係、世界史分野の知識量に応じて、適宜解説を加えながら進めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
文献のコピーはこちらで用意します。	出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3 以上の出席が必要です。

06 年度以降 03 年度以降	国際関係文献研究 b 国際関係論文献研究 b	担当者	光辻　克馬

講義目的、講義概要	授業計画
この講義では、国際関係について英語で書かれた研究論文、雑誌論文などを読むことで、（1）国際関係についての基本的な見方を学び、（2）国際関係分野に必要な英語能力を向上させることを目指します。 講義は、基本的には履修者による報告と討論で構成します。必要に応じて解説を加えます。テーマとしては、「民族問題」「環境問題」などを予定しています。	第 1 回： イントロダクション：国際関係論＆心得解説 第 2 回-第 14 回： 履修者による報告と討論 第 15 回： みんなで総括 履修者の国際関係、世界史分野の知識量に応じて、適宜解説を加えながら進めます。
テキスト、参考文献	**評価方法**
文献のコピーはこちらで用意します。	出席状況、プレゼンテーションの内容、討論への貢献度などにより評価します。単位取得のためには、2/3 以上の出席が必要です。

交 流 文 化 論

（０９年度以降入学者）

09 年度以降	交流文化論（サステイナブル・ツーリズム論）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
秋学期の「市民参加のまちづくり論」との継続性を念頭におきつつ、「サスティナブル・ツーリズム論」の講義を行います。 近年、成長の持続化の追求から、持続可能な社会を形成しようとするパラダイムシフトの兆しがみられます。環境や健康に配慮した持続可能（sustainable）なライフスタイルの一部として、グリーンツーリズムなど自然を楽しみ、学び、地域の人々と交流する新しいツーリズムの形態が注目されるようになってきました。この流れは、ドイツ、フランス、イギリスなど西欧に始まり、アメリカ、そして日本へと展開してきました。 本講義は、「サスティナブル・ツーリズム論」として、欧米、日本のグリーンツーリズム、アグリツーリズム、エコミュージアムなどの歴史、事例、課題を知ることより、ポスト産業化社会における多様な価値実現の手法としてのツーリズムの意義を学びます。グローカルな視点から、ツーリズムを通して、地球環境や地域づくりの問題を考えていきます。 なお、サスティナブル・ツーリズムには、途上国におけるエコツーリズム、エスノツーリズムなども含まれますが、本講義では、主として、先進国におけるサスティナブル・ツーリズムを取り上げます（他の講義との重複をさけるため）。	１．講義の概要 ２．マスツーリズムとサスティナブルツーリズム ３．開発と持続可能性概念 ４．開発と持続可能性概念（続き） ５．地球環境問題 ６．自然・環境思想（国立公園・ﾅｼｮﾅﾙﾄﾗｽﾄ・世界遺産） ７．エコツーリズム（歴史と概説） ８．エコツーリズムと野生動物保護（マレーシアの事例） ９．エコミュージアム（歴史と概説） １０．LOHAS（ロハス）と観光 １１．欧米のグリーンツーリズム １２．日本のグリーンツーリズム（歴史・背景・展開） １３．グリーンツーリズムの二面性と矛盾 １４．アクセシブル観光（ユニバーサル交流） １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。 参考文献は適宜紹介。	期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。

09 年度以降	交流文化論（旅行・宿泊産業論）	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ツーリズム産業の重要な役割を果たしている旅行業と宿泊業について、その歴史、組織と機能、経営の実態、社会的意義と役割について学習する。 講義概要 旅行会社の業務を通して、旅行ビジネスの概略を学習する。旅行業の発展経緯と機能役割、マーケティングについて重点的に学習する。ＩＴ時代における旅行ビジネスの実態と今日的課題及び将来像についても把握する。 宿泊産業では全体の概略を学習するが、殊に、外資の進出が著しいホテルビジネスについて、その運営方法、マネジメント等を学び、併せて、ホスピタリティー産業としての側面よりホテル業のサービスの実態についても学習する。 講義では、流動的な航空業界や旅行業界の動き等々観光関連報道記事も適宜取上げ、学習の参考にしたい。	１．講義の概要 ２．旅行業とは①旅行業の機能・役割 ３．旅行業とは②旅行市場と旅行業の現状 ４．旅行業の歴史 ５．旅行業の商品と形態 ６．旅行業と消費者保護 ７．旅行業界の現状と課題・展望 ８．ホテルとは ９．ホテルの分類 １０．欧米におけるホテルの歴史 １１．日本におけるホテルの歴史 １２．ホテル業の動向 １３．ホテルの組織と経営特性 １４．ホテル業界のホスピタリティー １５．講義のまとめ

テキスト、参考文献	評価方法
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果に基づいて判断する。

09年度以降	交流文化論（メディア・ライティング論）	担当者	横村　出

講義目的、講義概要	授業計画
メディアの記事の特質は、より多くの事実を、より正確に、より多くの人に伝えることである。そのためには、深い取材、情報の真偽の峻別、さらに実践に裏打ちされた確かな文章力が必要である。 文章の難しさは、単に経験や訓練を積めば上達するものではないということだ。記事を書くことの根底には、個人として、ジャーナリストとしての確たる「ものの見方」が不可欠である。 ものの見方には、書き手の全人格が投影されると言っていい。いかなる力にも影響されない独立心はあるか、その心は外へ向かって開かれているか、バランス感覚を失っていないか。この３つの心構えを理解し、記事を書くための基礎的な知識を習得してもらう。 新聞業界の現状についても言及する。今後、新聞紙から電子ペーパーへ媒体が変貌しても、文字情報の重要性は変わらない。日々発信される記事の功罪を具体例を交えて検証し、情報を正しく理解するための力も養ってほしい。 講義では、文章力を高めるために実践的に参加をしてもらう。各人がルポルタージュのテーマを決めて意欲的に取材し、授業で発表してもらいたい。独創的なものの見方を文章で表現し、より広く伝えることの喜びを分かち合いたいと思う。	1. オリエンテーション 2. 新聞報道の歴史と変遷 3. ジャーナリズムと「ものの見方」 4. ジャーナリスト列伝 5. 新聞記事（１）構成と執筆手法概論 6. 新聞記事（２）取材とインタビュー法 7. 新聞記事（３）事実と真実の表現法 8. 新聞記事（４）論説・社説とは 9. 新聞記事（５）編集のプロセス 10. 新聞記事（６）国際取材の方法 11. ルポルタージュ（１）題材 12. ルポルタージュ（２）取材 13. ルポルタージュ（３）発表 14. ルポルタージュ（４）評価 15. メディアの未来を考える
テキスト、参考文献	**評価方法**
すぐれたルポルタージュ作品などを随時推薦する。	授業における課題ルポルタージュの成果（７０％）と出席・質疑応答などの実績（３０％）で評価する。

09 年度以降	交流文化論（航空産業論）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 人やモノ、文化の移動、交流を担う航空産業における世界的な規制緩和の潮流を検証しながら、日本の空、アジアの空のこれからを考察する。又、航空を通して見えるホスピタリティ、国籍を超える人間活動、地球環境への取り組みを広い視野から考える。 講義概要 ・ 経済のグローバル、ボーダレス化を支え、牽引する航空産業の構造を検証し、これからの空の仕組み、動向を考える基礎を学ぶ。 ・ 米のオープンスカイ戦略、ＥＵの単一航空市場を検証し、規制緩和の世界的な動きを捉える。 ・ 国籍規制の壁を超えるグローバル・アライアンスの動向、戦略を学ぶ。 ・ 航空のサービスを通して見えてくるホスピタリティを捉え、これからのサービスのあり方、その先を考察する。	１．ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ；講義内容、進め方、成績評価について ２．日本の空で起きていること、航空産業の枠組み ３．民間航空の史的考察と、シカゴ・バミューダ体制 ４．米のオープンスカイ戦略とＬＣＣ，ＣＲＳ、Ｈ＆Ｓ ５．ＥＵの戦略；単一航空市場、”Community Air Carrier” ６．ディベイト；「日中韓、北東アジア共通航空市場」 ７．グローバル・アライアンス（１）誕生の背景、動向 ８．グローバル・アライアンス（２）増収、世界戦略 ９．日本の航空のこれから １０．航空のサービスとホスピタリティ １１．日本から発信するホスピタリティ １２．航空と観光 １３．航空とＣＳＲ，地球環境 １４．北東アジア共通航空市場を考える １５．各人の到達点、全体講義のまとめ ＊専門家の講話も検討する ＊上記関連で、講義の順番など事前に通知の上、一部変更することがある
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：ＡＮＡ総研『航空産業入門』（東洋経済新報） 参考文献：伊藤元重他『日本の空を問う』（日経出版社）、 山路顕『日本から発信するホスピタリティ』（ていくおふ）、 ＡＮＡ総研『ｴｱｰﾗｲﾝ・ｵﾍﾟﾚｰｼｮﾝ入門』（ぎょうせい）他	期末試験（７０％）に、出席状況、授業での発表他参画姿勢など総合的に評価する

09 年度以降	交流文化論（開発文化論）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
グローバルとローカルなものの対抗・交渉は現代の地球社会を考える重要な視座の１つです。 近年、alternative（もう１つの）という言葉を時々耳にします。グローバル化の進展に対抗するように、ローカルな文化や環境を重視したもう１つの動きが内発的な発展として世界各地で活発化してきています。 この講義は、開発文化論として、グローバル化と国民国家に翻弄される伝統社会・文化と社会的弱者達の変容と反応について考えます。講義される事例は、担当教員の調査研究の成果であるメキシコ南部の先住民族に関するものが中心となりますが、地域研究ではなく、アジアその他の地域の事例も適宜交え、より普遍的な視点から、発展途上地域の開発問題について考察します。 開発と貧困、ジェンダー、教育、宗教、先住民族の権利、構造的暴力と民衆、ＮＧＯや協力する者の立場といった話題を、現場の事例をみながら考えてきます。 （参考文献） W.ザックス『脱「開発」の時代』、N.ローツェン他『フェアトレードの冒険』、J.フリードマン『市民・政府・ＮＧＯ』、P.フレイレ『被抑圧者の教育学』、B.トムゼン『女の町フチタン』、H.ノーバーグホッジ『ラダック：懐かしい未来』、S.ラトゥーシュ『経済成長なき社会発展は可能か？』、北野収『国際協力の誕生』	１．講義の概要 ２．開発＝近代化と文化変容 （ビデオ『ラダック：懐かしい未来』※予定） ３．開発とは何か、貧困とは何か ４．貧者と共に生きる：フェアトレード誕生秘話 ５．教育・学び・文化 ６．ジェンダーとフェミニズム ７．宗教と社会開発 NGO ８．ローカルメディアとアイデンティティ戦略 ９．コミュニティと外部を結ぶ人材 １０．開発ワーカーと異文化適応 ※教室内ワークショップ １１．新自由主義・構造調整と農民・先住民の自己防衛 １２．巨大開発計画と地域住民・NGO １３．文化変容とグローカル公共空間 １４．内発的発展論 （ビデオ「回生：鶴見和子の遺言」※予定） １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト）北野収『南部メキシコの内発的発展と NGO』勁草書房。※DUO 等で各自購入してください （参考文献）上欄を参照。	期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。

09 年度以降	交流文化論（表象文化論）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] 表象(representation)と文化の関係を、「他者の展示」という文脈から考察する。 [講義概要] テクストには、カルチュラル・スタディーズの主要な論客であるStuart Hall が、イギリスのOpen University のために編纂した、*Representation: Cultural Representations and Signifying Practices* (London: Sage, 1997)から抜粋(pp.153-222)を用いる。 テクストは図書館の指定図書になっているので、各自でコピーすることもできる。そうでない場合は、アマゾン等で購入すること。	１．イントロダクション ２．セクション２ ３．続き ４．セクション３ ５．続き ６．セクション４ ７．続き ８．続き ９．ディスカッション １０．セクション５ １１．続き １２．続き １３．セクション６ １４．続き １５．まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
上記のほか、適宜、参考文献を紹介する。	学期末に提出するレポートによる。

09 年度以降	交流文化論（食の文化論）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
食べ物は私達にとって、もっとも身近で不可欠なものです。この授業では「食」という視点から、人間、家族、コミュニティに密接不可分・地域固有な存在であった「食」が、近代～現代という歴史的過程で、ナショナル化さらにはグローバル化されていく過程を考え、そこで見落とされがちな問題を考えていきます。 一方で、現代の世界は、「飢餓と飽食」が同時に進行するという危機的な状況にあります。私たちの住む日本では、食料の大半を海外から輸入しながら、食べ物の多くを廃棄しています。耕す土地はあるのに耕す人がいないため、耕地が放棄されています。農業は危機的な状況にあります。食べ物は人に幸せをもたらす一方で、それをめぐって国と国が対立し、憎しみあることもあります。こうした現象の背景として、政治、経済、文化など様々な要素が複雑に絡み合っています。 このような現状を踏まえ、「文化としての食」を手がかりとして、私たちの身の回りを点検し、地球社会のことを考えていきたいと思います。	１．講義の概要 ２．食の文化を見る眼：文化とは何か ３．食の地誌論（風土と食） ※ビデオ『人間は何を食べてきたか』（予定） ４．私たちの食生活の変化：自給率問題を手がかりに ５．遺伝資源は誰のものか（農民から国家、企業へ） ６．マクドナルド化と食生活：合理化と脱人間 ７．ナショナリズムと食：伝統の形成と思い込み ８．食卓と家族団らん：その意義をあらためて考える ９．食育と学校 １０．コーヒーのグローバルヒストリー １１．フェアトレード：食と社会正義、倫理的消費 １２．スローフード、産直提携、community-supported agriculture、地産地消 １３．地球社会と「食」：食料廃棄物、食糧援助 １４．食の「再ローカル化」（re-localization） ※ビデオ『未来の食卓』（予定） １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
教科書は特に指定しない。参考文献は適宜紹介。	期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム人類学）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
ツーリズムがホスト社会に与える影響は、経済的側面のみならず、社会的・文化的・政治的側面など、多岐にわたる。それゆえツーリズムに学問的にアプローチする際の方法論も多様である。本講義は、そのなかでも文化人類学という学問を手がかりにしながら、ツーリズムを「文化」という側面から検討するための基礎的概念・考え方について学ぶ。 本講義では、1. ツーリズムを作り出す仕掛け、2. ツーリズムがもたらす影響、3. ツーリズムが作り出す文化、という 3 つの側面から講義を行い、ツーリズムを社会・文化現象として分析する際の基本的な視座の習得を目指す。同時に、ツーリズム研究に関連する現代文化人類学における主要な問題意識・諸概念についての理解を深めることを目指す。 受講に際しては、文化人類学の基礎知識は必ずしも必要ないが、授業内で紹介する文献資料の読解を各自行なうなど、予習・復習が不可欠となる。	1. 趣旨説明 2. グローバリゼーションの民族誌 1 3. グローバリゼーションの民族誌 2 4. 観光の誕生 5. ビデオ上映 6. 表象の政治学―情報資本主義と観光 7. メディアと観光―「楽園」ハワイの文化史 8. 植民地主義と観光―「神々の島」バリの誕生 9. 文化装置としてのホテル 10. 世界遺産の窮状―カンボジアの事例 11. セックス・ツーリズム―タイの事例 12. 少数民族と観光―タイの事例 13. 文化の著作権と「サンタクロース民族」 14. 他者との協働を目指して：北海道アイヌ観光の現在 15. まとめ・予備日 (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。随時、文献リストを配布します。	授業毎の小レポート(50%)、期末テスト(50%) 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム文化論）	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 観光の諸現象が文化と深く関連し、又、文化も、観光行為により変容していく様を、観光人類学見地より考察し、観光の多様性を理解する。 講義概要 近年、文化人類学の研究対象にもなっている観光現象を、文化の視点から検証し、観光と文化、観光人類学の定義、課題等、基本的なことを学習する。 観光を、擬似イベント、イメージ、メディアの視点からも考察し、観光現象を多面的に理解する。 併せて、観光開発の光と影にも触れ、文化の変容についても考える。 又、時々刻々変化する現代社会の流れ等々観光文化、観光関連業界の報道記事を適宜取り上げ、学習の参考にしたい。	１．講義の概要 ２．文化への新しいアプローチとしての観光 ３．観光の誕生・擬似イベントとしての観光 ４．観光旅行の諸類型・疑似体験としての観光旅行 ５．観光を作り出す仕掛け・イメージの形成とメディア ６．文化現象としての観光文化の商品化と観光文化 ７．観光の文化的インパクト ８．観光行動と文化の真正性 ９．観光と伝統の発明 １０．観光による楽園の創造 １１．模型文化と観光芸術 ① １２．模型文化と観光芸術 ② １３．新たな観光へ① １４．新たな観光へ② １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：適宜指示する。	試験結果に基づいて評価する。

09 年度以降	交流文化論（国際会議・イベント事業論）	担当者	遠藤　充信

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 今や、ツーリズムの重要な担い手であり、地域の文化交流や産業経済に刺激を与え、地域の活性化に貢献する国際会議やイベントについて学習する。 講義概要 なぜ人は集うのか、その核心部分を探ることから始まり、国際会議やイベントとは何か、歴史的経緯、現状と市場を考える。 又、代表的な事例を取り上げ、その運営、仕組みや旅行業、宿泊業を含む観光関連産業との関連性を学ぶことにより、国際会議やイベントが現代社会における重要な役割を担っていることを理解する。 併せて、イベント・コンベンション推進機関や制度、課題と将来の展望についても学習する。 講義では、旅行業界、航空業界等々観光関連トピックスを取り上げ流動的な観光業界の動きにも触れたい。	１．講義概要 ２．イベント・コンベンションの発生と発展 ３．イベント・コンベンションとは① ４．イベント・コンベンションとは② ５．世界と日本のイベント・コンベンション動向 ６．イベント・コンベンションの仕組みと実務① ７．イベント・コンベンションの仕組みと実務② ８．イベント・コンベンション産業① ９．イベント・コンベンション産業② １０．イベント・コンベンションの施設と付帯設備 １１．コンベンション・ビューローの役割と機能 １２．イベント・コンベンションの推進機関 １３．イベント・コンベンションの課題と展望① １４．イベント・コンベンションの課題と展望② １５．講義のまとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：適宜プリントを配布する。 参考文献：イベント＆コンベンション概論（ＪＴＢ能力開発）その他は適宜指示する。	試験結果に基づいて判断する。

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム政策論）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ツーリズムの持つ、社会（地域、国、世界）や政治、経済との係り、その中で営まれた「上から目線」のツーリズム政策の問題を検証し、あるべきツーリズム政策の姿、方向を身近な距離で捉える。 講義概要 ・明治期、不平等条約改正の一助として用いられたインバウンド観光政策、貿易収支のバランス材だったツーリズム、地域や景観破壊に結びつくツーリズムの商業的側面を検証しながら、ツーリズムのあり方を政策の観点から点検する。 ・日本人の豊かな感性、自然観に根差したツーリズムの姿を探求する。 ・上記コンテクストの中で「若者の旅離れ」や「旅育」など現代的な風潮、課題についても考察する。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。	１．ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ；講義内容、進め方、成績評価について ２．ツーリズムの力、政策の位置づけ ３．日本の観光政策の史的考察 ４．観光の経済力、規模、影響力 ５．アウトバウンド･ツーリズム政策の筋を考える ６．インバウンド･ツーリズム政策の検証、国際比較 ７．ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ；「若者の旅離れ」、「旅育」 ８．貿易立国から観光立国への道 ９．日本のツーリズム政策の課題（１）景観、風土 １０．日本のツーリズム政策の課題（２）リゾート開発等 １１．エコロジーを考える １２．若者の旅離れと、上から目線の観光政策 １３．観光立国を考える １４．ディスカッション；「あなたが考える観光立国とは」 １５．夫々の到達点、全体講義のまとめ （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。　事前に通知する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：鈴木茂他『観光立国と地域観光政策』（晃洋書房）、川村晃生他『崩れゆく景観』（慶応大学出版）、その他授業の中で紹介する	期末試験（７０％）に、出席状況、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。

09年度以降	交流文化論（ツーリズム・マネジメント論）	担当者	山路　顕

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的 ツーリズム政策が国レベルの視点だとすると、ツーリズム･マネジメントは産業レベルでの政策と捉えられるだろう。景観破壊や地域破壊に繋がる商業主義から脱し、ＣＳＲ、自然や景観（風景）を守ることも視野に入れたツーリズム・マネジメントのあるべき姿を考察する。 講義概要 ・風景、地域環境、自然の破壊に繋がる商業第一主義のツーリズム運営を検証し、風景や自然と共に発展するツーリズムを捉える中で、リゾート法のもたらした功罪を考える。 ・インターネットの普及の下での旅行会社離れ、若者の旅離れの実体、これからを考える。 ・「和」の日本旅館の衰退の実態を掴み、日本人の感性が生み出すツーリズムの形、「着地型観光」に目をむけこれからのツーリズム・マネジメントを捉える。 （＊）ツーリズムと観光という用語は文脈の中で使い分けていますが同じ意味で用いています。	１．ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ；講義内容、進め方、成績評価について ２．観光産業の構造と観光の要素 ３．観光の経済波及効果 ４．観光産業の規模と課題 ５．縮小する旅行業の課題 ６．日本旅館の衰退とアート経営が生む奇跡の旅館 ７．ディスカッション；「和‐日本旅館を救済する」 ８．航空産業とツーリズム ９．ホスピタリティを導入するツーリズム １０．ツーリズムから見える日本の課題 １１．景観、自然を守るツーリズム vs リゾート開発 １２．ディスカッション；「エコツーリズムを考える」（予定） １３．着地型観光とツーリズム・マネジメント １４．企業の社会的責任とツーリズム・マネジメント １５．夫々の到達点、全体講義のまとめ （＊）専門家の講話予定の検討などで、講義の順番を一部変更することがある。　事前に通知する。
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：レジュメを配布する 参考文献：横山秀司『観光のための環境景観学』（古今書院）、尾家建生他『着地型観光』（学芸出版）、その他授業の中で紹介する	期末試験（７０％）に、出席状況、発表他授業への参画姿勢などを総合的に評価する。

09 年度以降	交流文化論（ツーリズム・メディア論）	担当者	高橋　利男

講義目的、講義概要	授業計画
この講義の目的は、「ツーリズム」と「メディア」の新しい動向について学習するとともに、「両者の係わり方」について考察することです。 講義内容としては、新聞・業界紙等のメディアを通して、旅行業及び航空・宿泊等の関連産業について、企業の広報・広告、メディア販売、消費者（旅行者）ニーズ、地域活性化等の様々な視点から、事例研究します。 海外旅行、国内旅行、訪日旅行及び新しいツーリズムの各分野にわたり幅広く事例を取り上げ、また、代表的な世界遺産についても学習します。 「グループ討議」、「テーマレポート」及び「プレゼン発表」を実践することにより、ツーリズム産業を展望するにあたり必要な様々な基礎知識を習得するとともに、課題考察力を養うことを主眼としています。	1．講義の概要 2．多様化するメディア(1) 3．多様化するメディア(2) 4．ツーリズムの新たな動向(1) 5．ツーリズムの新たな動向(2) 6．進化するマーケティング(1) 7．進化するマーケティング(2) 8．観光誘致策(1) 9．観光誘致策(2) 10．メディア販売(1) 11．メディア販売(2) 12．企業広報(1) 13．企業広報(2) 14．旅行業法の枠組み 15．　世界遺産セレクト 10 （日次の順序は前後します）
テキスト、参考文献	**評価方法**
新聞・業界紙等の記事コピー等	評価方法：期末定期試験（50%）＋平常授業における課題レポート等（50%）＝100 点満点

09 年度以降	交流文化論（市民参加のまちづくり論）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、「市民参加のまちづくり論」として、日本と海外、都市と農村など地域や分野を横断的に取り扱い、そこにある普遍的な理論や問題を考えます。 まち（地域）づくりという言葉から何を連想しますか。道路やビルを造ること、景観を整備すること、商店街を活性化させること、等々。本講義では、「まちづくり＝人々の間のコミュニケーションの総和」として捉えます。なぜ「市民参加」が必要なのでしょうか。それは互いに異なる者同達が、コミュニケーションする場と空間が必要だからです。取り上げる具体的な事例としては、ゴミリサイクルによる地産地消、都市近郊での環境教育、ニューヨークのドッグラン、インドネシアでのＮＧＯ活動など、多様ですが、人々のコミュニケーションという共通の視座を考えていきます。 教科書として指定する書籍には、地域計画に関するやや専門的な内容も含まれますが、できるだけ分かりやすくかみ砕いて解説するように努めますので、この点に関する心配は無用です。	１．講義の概要 ２．地域の発展を理解するための視座 ３．内発的発展と外来型開発 ４．組織・制度化（institutionalization） ５．住民参加(participation)の意義と多義性 ６．事例研究：参加型開発 ※教室内ワークショップ ７．内発的発展におけるキーパーソン ８．共益から公益の創出へ：NY と東京のドッグランを例として ９．コミュニティマネー （ビデオ『坂本龍一・地域通貨の未来』） １０．コミュニティ開発とコミュニケーションエラー：インドネシアでの NGO 援助を事例として １１．過疎地の地域づくりとと外部者のまなざし １２．多文化共生と地域づくり １３．まちづくりと観光 （ビデオ『湯布院癒しの里の百年戦争』） １４．大学とまちづくり １５．まとめ：まちづくりは人づくり
テキスト、参考文献	**評価方法**
（テキスト） 北野収『共生時代の地域づくり論』農林統計出版 ※DUO 等で各自購入してください	期末試験（60%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（40%）。

09 年度以降	交流文化論（パフォーマンス研究）	担当者	高橋　雄一郎

講義目的、講義概要	授業計画
[講義目的] パフォーマンスをより広い視野で捉え、トランスナショナルな立場から分析して、異文化理解に役立てる。 [講義概要] 芸能・舞台芸術に限らず、世界のさまざまな地域の宗教儀礼や、国家の式典、オリンピックや万博などのイベント、ツーリズム、日常生活におけるパフォーマンスなどについて、学際的に学ぶ。	第1 回：イントロダクション 第2 回：パフォーマンスとは何か 第3 回：パフォーマンス研究とは何か 第4 回：パフォーマンス研究の学問的構成 第5 回：宗教祭祀の比較研究 第6 回：世俗儀礼の比較研究 第7 回：パフォーマンスと民族誌 第8 回：パフォーマンスと遊戯 第9 回：国際的パフォーマンス 第10 回：アイデンティティとパフォーマンス 第11 回：グローバリゼーションとパフォーマンス 第12 回：演劇的パフォーマンスの比較研究 第13 回：パフォーマンスとパフォーマティヴィティ 第14 回：パフォーマンスと現代思想 第15 回：まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：高橋雄一郎・鈴木健編『パフォーマンス研究』（世界思想社）、参考文献: Richard Schechner, Performance Studies: An Introduction, New York: Routledge, 2006. 高橋雄一郎『身体化される知』東京、せりか書房、2005ほか.	学期中の小レポートと学期末レポートの合計

09 年度以降	交流文化論（トランスナショナル社会学）	担当者	北野　収

講義目的、講義概要	授業計画
本授業の目的は、グローバル化時代の現代社会を考える手がかりとして、①国民国家・国境の存在を相対化することによって初めて見えてくる人々や文化の越境現象の実際を知ること、②それを踏まえたより踏み込んだ意味での「共生」概念の可能性を考えること、③国際的視点のみならず民際的視点も併せ持った複眼的な視点から、文化・社会・政治における諸現象を考えられるようになること、の３点です。 21 世紀のキーワードである「共生」を基底概念として、人間と価値の越境現象に着目する。グローバル化に伴う社会構造の変動に規定された様々な越境現象の実情と、当事者のアイデンティティ・民族・国家の相関関係について考察します。 関連する理論・言説について講義するとともに、ディアスポラとしての外国人花嫁、アイヌと在日の問題、消えた民「サンカ」などの日本国内の事例を中心に取り上げます。それらを踏まえて、「国際」視点から「民際」視点の転換の意義、地域における交流活動や「学び」の実践の可能性について展望します。	１．講義の概要 ２．社会学とはどのような学問か ３．国家と社会との関係、トランスナショナリズムとは ４．国境・国民概念①：アイヌからみた日本とロシア ５．国境・国民概念②：知られざる漂白民サンカの末路 ６．グローバル化と越境現象①：移民とトランスナショナリズム ７．グローバル化と越境現象②：移民と地域における受容 ８．グローバル化と越境現象③：若者の『文化移民』と日本回帰 ９．国際結婚①：国際結婚の語源と歴史 １０．国際結婚②：日本人の国際結婚と越境する女性達 １１．中間まとめ ※ビデオ『となりの外国人』（予定） １２．アイデンティティについて １３．民際協力としての自治体国際協力 １４．講義全体のまとめ １５．試験対策
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキストはなし。参考文献は適宜紹介。主なものは以下のとおり。テッサ・モーリズ鈴木『辺境から眺める』みすず書房、藤田結子『文化移民』新曜社、嘉本伊都子『国際結婚論!?』（歴史編・現代編）法律文化社、西川芳昭『地域をつなぐ国際協力』創成社	期末試験（70%）、平常授業による課題レポートなども評価対象（30%）。

09 年度以降	交流文化論（オルタナティブ・ツーリズム論）	担当者	須永　和博

講義目的、講義概要	授業計画
オルタナティブ・ツーリズムと呼ばれる「新しい」観光形態・観光実践の動向や諸議論について検討する。 オルタナティブ・ツーリズムとは、ツーリズムの大衆化（マス・ツーリズム、近代観光）がもたらした、ホスト社会の生活文化や自然環境への弊害を克服するために登場したものである。本講義ではまず、オルタナティブ・ツーリズムが生まれてきた歴史的・社会的背景について概説する。そしてエコツーリズムやヘリテージ・ツーリズム、コミュニティ・ベース・ツーリズムなどの「新しい」観光形態・開発実践について、主に文化人類学・社会学などの視点から検討し、その可能性について考える。 なお本講義では、出来る限り実際の観光の現場で生じている個別具体的な事例から、観光の問題と可能性について考えてみたい。その際に扱う地域は、主として東南アジア、ラテンアメリカ、オセアニアなどの非西洋地域が中心となる。	1. 趣旨説明 2. オルタナティブ・ツーリズムの背景 3. ビデオ上映(ジャマイカの観光開発) 4. 場所性の商品化―アマンリゾーツの戦略 5. 環境主義の商品化―エコリゾート 6. 世界遺産と観光 1―ラオス・ルアンパバンの事例 7. 世界遺産と観光 2―中国・麗江の事例 8. ビデオ上映（バックパッカーの窮状） 9. 先住民と観光―北米イヌイットの事例 10. 先住民と開発―開発的遭遇 11. 先住民と環境主義 12~13 コミュニティ・ベース・ツーリズム:タイの事例 14. 現代日本における農山村の再編と観光―高知県四万十川流域を事例として 15. ダーク・ツーリズムの現状と可能性―西アフリカの事例から (なお、授業で取り上げる事例は、授業の進み具合や、受講生の関心等によって変更になる場合があります。)
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。	授業毎の小レポート(50%)、期末レポート(50%)。 4 回以上の欠席で単位認定の条件を失う。

2011年度

外国語学部共通科目シラバス

（２００３年度以降入学者用）

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 1）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
本講義では、戦前から今日までの欧州統合の歩みを辿ることにより、今日の国際社会において大きな影響力を持つ EU（European Union）が生まれた背景や目的、その制度や政策について考察することを目的とします。 地域統合の歴史的前例としての EU について学ぶことは、ヨーロッパに関する知識の獲得にとどまらず、東アジア経済統合という課題をめぐる今日の日本とアジアの関係について考えるためのヒントにもなるでしょう。	講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 第 2 次大戦以前のヨーロッパ構想と運動 5~7. 第 2 次大戦・戦後復興と欧州統合 8~9. EU の制度的起源(1)：ECSC の成立 10~11. EU の制度的起源(2)：EEC の成立 12~14. EEC の定着期 15. まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合―歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）

03 年度以降	総合講座（EU の歴史と現状 2）	担当者	廣田　愛理

講義目的、講義概要	授業計画
内容は春学期の続きになりますが、秋学期からの履修も可能です。ただし、秋学期からの履修者は、事前に参考文献を読むなどして、EU の歴史に関する基礎知識を身につけておくことが望ましいです。	講義の主な内容は以下のとおりです： 1. 講義の概要 2~4. 通貨統合 5~6. マーストリヒト条約以降の EU 7~8. EU の制度 9~10. EU の諸政策 11~12. 加盟国と EU 13~14. EU 域外との関係 15. EU の現在の課題
テキスト、参考文献	**評価方法**
テキスト：なし 参考文献：B.アンジェル、J.ラフィット『ヨーロッパ統合―歴史的大実験の展望』、創元社、2005 年	平常授業における小テスト（複数回実施、50%）と期末レポートまたは試験（50%）

03 年度以降	総合講座（楽しい文学とのつきあい方）	担当者	コーディネーター 工藤　達也

講義目的、講義概要	授業計画
この総合講座では、文学をパフォーマンスとして捉えることによって、堅苦しくなく接するための様々な方法を受講者のみなさんに提供したいと思います。 この講座は、オムニバス形式で行われます。各回の講義担当者が文学についてそれぞれ個性的なアプローチで、既成の枠に捉えられない「楽しい」お話をします。担当者の専門によって、音楽や舞台芸術、文学の解釈や実際の応用まで変化に富みながらも深い味わいのある講義内容となる予定です。この講座を通じて受講者のみなさんが、文学の楽しみ方は自由で開かれたものであることを理解し、そして文学に関して各々が新しい発見をすることができるよう願っています。 注意事項：「楽しみの中にも礼儀あり」。授業中は、絶対に静粛を守ってください。私語等で他の受講者の迷惑となる学生には、退室を指示することがあります。もちろん、質問等での発言は歓迎です。積極的な参加を期待します	1.工藤達也(本学ドイツ語学科教授)最初に 2.児島一男（本学英語学科教授） 現代英語圏の演劇（ドラマリーディング） 3. 原成吉（本学英語学科教授） 英詩の伝統とロック・ミュージック――Bob Dylan を読む 4. 片山亜紀（本学英語学科准教授） 『不思議の国のアリス』のその後 5. 若森栄樹(本学フランス語学科教授) フランス文学入門――アルベール・カミュを中心に 6. 谷口亜沙子(本学フランス語学科専任講師)ダダ 7. 田中善英(本学フランス語学科教授) 『星の王子さま』からのメッセージ 8. 工藤達也　文学と声 9.　未定(外部講師依頼中) 10. 山本淳(本学ドイツ語学科教授) ブレヒト『三文オペラ』の楽しみ方 11. 柿沼義孝(本学ドイツ語学科教授) 能と文学 12. 矢羽々崇(本学ドイツ語学科教授) 楽しいパロディ――メルヒェン・パロディを例に―― 13. 上野直子（本学英語学科教授）I will be there for you 14. 前沢浩子（本学英語学科准教授） Shakespeare と新しいメディア 15.工藤達也　講義のまとめと試験対策など
テキスト、参考文献	**評価方法**
参考文献は授業中に適宜紹介します。	出席を重視し（10 回以上の出席が必要）、出席状況および学期末試験の結果をもとに評価します。各回の講義の終わりに意見・感想等を記してもらいます。

03 年度以降	総合講座（都市を読み解く）	担当者	コーディネーター 飯嶋　曜子

講義目的、講義概要	授業計画
本講座では，言語，歴史，文化，建築，都市計画，社会，政治，経済など，多様な視点から都市を読み解き，都市の諸相を把握することを目的とする．本講座を通じて，受講者は各都市の個別事象を知るだけではなく，多様なディシプリン，分析視点，問題設定等についても理解し，今後の学習に役立ててほしい．	1.　飯嶋曜子(ドイツ語学科)：導入，都市論の可能性 2.　須永和博（交流文化学科）：都市人類学への招待　－　東京のなかの異界 3.　金子芳樹　（英語学科）：先進都市シンガポールの光と影 4.　佐野康子（英語学科）：「新しい花」の咲く都市　－　エチオピアの首都アジスアベバ 5.　日野克美（交流文化学科）：モントリオールの街路名 6.　児島一男（英語学科）：Ulysses (by James Joyce)を基にした Dublin Walking Tour Guide 7.　青山愛香（ドイツ語学科）：ニュルンベルクと 15 世紀の出版革命 8.　矢羽々崇（ドイツ語学科）：退廃と健全　両面の街ベルリン 9.　岡村りら（ドイツ語学科）：ベルリン－ 壁崩壊前と後 10.　前沢浩子（英語学科）：ロンドン　－　近代都市の変貌 11.　上野直子（英語学科）：もうひとつのロンドン 12.　江花輝昭（フランス語学科）：パリのグランド・デザイン 13.　鈴木隆（フランス語学科）：パリ　－　都市の広がりと景観 14.　飯嶋曜子（ドイツ語学科）：千葉県佐原　－　都市の景観保全とまちづくり 15.　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
必要に応じて各担当講師が提示する．	出席状況，レポートもしくは試験により評価

03 年度以降	情報科学概論 a	担当者	黄　海湘

講義目的、講義概要	授業計画
高度化情報社会に生きる個人として、情報とそのシステムに関する基本的な素養を修得することは、必要不可欠になっています。とくに、コンピュータを使用する多言語情報処理の重要性がますます増大しています。 本講義では、（1）コンピュータと情報処理に関する基礎知識（2）コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組み（3）コンピュータによる多言語処理の技術と応用法などについて知識の形成と応用力の育成を目標とします。 本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係、コンピュータのハードウェアとソフトウェアについて学びます。そのうえで、コンピュータとインターネット技術を利用した多言語情報処理の仕組みについて学びます。さらに、実習を通じて、多言語情報の活用法などの理解を深めます。	1　講義の概要と目標、情報科学とは 2　データ表現、基数変換、論理演算 3　コンピュータの構成要素 4　ソフトウェアの役割、体系と種類 5　オペレーティングシステム（OS） OS の基礎概念、OS の役割と原理 6　プログラム言語 コンピュータ言語の分類と目的 7　データ構造―リスト、スタック、キュー、2 分木 8　アルゴリズムーアルゴリズムの表現法、アルゴリズムの例 9　コンピュータによる言語情報処理技術（1） 10　コンピュータによる言語情報処理技術（2） 11　機械翻訳システムの演習 12　自然言語質問応答システム 13　インターネット上の多言語処理技術 14　授業のまとめ1 15　授業のまとめ2
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業中指示するテキスト・参考文献を使用してください。	レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価します。

03 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習)」の各科目、および［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[総合]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習)」の各科目、および［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習)」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[英語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなく英語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習)」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習)」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［入門］情報科学各論(情報処理演習)[ヨーロッパ言語]	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的：この授業では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用などについて学ぶ。特に大学生活、社会生活で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータの利用法を習得することを目的とする半期完結授業である。情報処理演習（総合）と異なり、各アプリケーションソフトで日本語だけでなくドイツ語、フランス語、スペイン語などのヨーロッパ言語も扱う。 コンピュータ初心者を対象に、１人１台のコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。なお、この科目を履修した後は、［応用］科目を履修できる。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（情報処理演習)」のいずれか、または［応用］の各科目を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・PC の基本操作 2. OS と Office の基礎 3. Word (1) 4. Word (2) 5. Word (3) 6. インターネットの活用法(1) 7. インターネットの活用法(2) 8. Excel (1) 9. Excel (2) 10. Excel (3) 11. PowerPoint (1) 12. PowerPoint (2) 13. PowerPoint (3) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［応用］情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［応用］情報科学各論(Excel・プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション）（中級 プレゼンテーション）（中級 万能ツールとしての Excel）（中級 表計算応用 1)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(1) 3. 表の編集、計算式、セル参照方法の確認(2)、フィルタによる抽出 4. グラフ作成、装飾の確認 5. 関数の利用(1) 6. 関数の利用(2) 7. 関数の利用(3) 8. マクロの利用(2) 9. マクロの利用(3) 10. プレゼンテーション実習(1)-1 11. プレゼンテーション実習(1)-2 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［応用］情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［応用］情報科学各論(プレゼンテーション中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（初級 表計算入門）（初級 プレゼンテーション入門）（中級 プレゼンテーション)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（Excel・プレゼンテーション中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 書式設定、スライドの設定 3. スライドショーと特殊効果(1) 4. スライドショーと特殊効果(2) 5. 図形の作成、SmartArt グラフィック(1) 6. 図形の作成、SmartArt グラフィック(2) 7. オブジェクトの挿入(1) 8. オブジェクトの挿入(2) 9. プレゼンテーション実習(1)-1 10. プレゼンテーション実習(1)-2 11. 配付資料の作成 12. プレゼンテーション実習(2)-1 13. プレゼンテーション実習(2)-2 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。また、受講者数によっては実習の回数が変更になることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［応用］情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［応用］情報科学各論(Word 中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度に「情報科学各論（中級 Word を使いこなす)」を履修した人は履修できない。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. 段落、段組、その他書式設定(1) 3. 段落、段組、その他書式設定(2) 4. アウトラインに沿った編集(1) 5. アウトラインに沿った編集(2) 6. 脚注・コメントの作成 7. ワードアートの利用 8. 図形の利用(1) 9. 図形の利用(2) 10. 図形の利用(3)・組織図の作成 11. 目次作成・索引作成 12. Excel との連携(1) 13. Excel との連携(2) 14. まとめ 15. まとめ クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［応用］情報科学各論(Office 中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	授業時に説明する。

03 年度以降	［応用］情報科学各論(Office 中級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、Word、Excel および PowerPoint の使い方について、より広い知識を習得することを目的とする半期完結授業である。中学校・高校などの教員が利用する可能性の高い機能を中心にとりあげるので、主に教員志望の学生向けであるが、それ以外の学生が受講してもかまわない。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：履修条件はないが、他の科目と内容が重複する場合がある。Word、Excel、PowerPoint の各ソフトの詳しい用法を習得したい場合には、各ソフトごとに用意されている授業の履修を勧める。	1. ガイダンス・基本操作の確認 2. Word (1) 段落、段組、その他書式設定 3. Word (2) アウトラインに沿った編集、脚注・コメントの作成 4. Word (3) ワードアートの利用 5. Word (4) 図形の利用(1) 6. Word (5) 図形の利用(2) 7. Excel (1) 表の編集、計算式、セル参照方法の確認 8. Excel (2) 関数・グラフの利用(1)：成績処理を例に 9. Excel (3) 関数・グラフの利用(2)：成績処理を例に 10. PowerPoint (1) 基本操作の確認 11. PowerPoint (2) 様々なメディアの利用 12. PowerPoint (3) プレゼンテーション実習(1) 13. PowerPoint (4) プレゼンテーション実習(2) 14. まとめ 15. まとめ 受講者の学習状況などにより、授業内容を変更することがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	授業時に説明する。

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理１）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] この授業ではコンピューターを用いた「学習者言語」の分析を行う．われわれ日本人が話す，あるいは書く英語は全て「学習者言語」であり，ネイティブスピーカーの発話とはさまざまな面で異なる．たとえば「流暢さ」，「使用する単語の種類」，「使用する文法の複雑さ」，「正確さ」などである．この授業は，これら（学習者）言語分析の観点と方法を学ぶことを目的とする．それにより，自分自身の英語力を振り返ることが出来るようになったり，将来教職（英語教師）に就きたいと希望する場合は，生徒たちの英語力を測定評価できる技能を身につけることが出来るようになったりすることを目指す．**英語学習に強い興味関心がある人**，**教職を目指す人**に最適な内容と考える． [概要] ごく基本的な言語学の知識の講義から始め，その後は１人１台のコンピューターを使い，演習を中心に授業を進める．自分で学習者言語データを収集したり，その分析結果をレポートにまとめたりすることも課題となる．コンピューターの操作にある程度慣れていることが望ましいが，授業を通して学習することも十分可能．	1. 【ガイダンス】 2. 言語の基本（1）：品詞 3. 言語の基本（2）：形態素，単語，句，節 4. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（1） 5. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（2） 6. 学習者言語の分析：語彙力とは何か（3） 7. 学習者言語の分析：文法力とは何か（1） 8. 学習者言語の分析：文法力とは何か（2） 9. 学習者言語の分析：文法力とは何か（3） 10. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（1） 11. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（2） 12. 学習者言語の分析：流暢さとは何か（3） 13. 最終レポート準備（1） 14. 最終レポート準備（2） 15. 【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する．	出席＋授業活動への参加度＋レポートにより評価する．欠席の場合でも必ず課題を提出すること．

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理２）	担当者	羽山　恵

講義目的、講義概要	授業計画
[目的] 春学期に引き続き，学習者言語の分析を行う．それにより，英語学習を進める上で直面する困難点を，具体的数量的に把握する視点や分析方法を身につける． [概要] 春学期の内容を総合的に復習し，それらを踏まえた上で演習を中心に授業を進める．そのため，春学期の「言語情報処理 Ia」を予め履修していることが望ましい．秋学期から履修する場合は，言語学の基礎的な知識を身につけていることが望ましい． 授業においては，実際に学習者言語のデータ収集を行い，その分析を進めていく．受講人数によって，グループ活動または個人活動になるが，学生の作業，演習，発表が中心になる．	1. 【ガイダンス】 2. 学習者言語の分析の視点（1）：概要 3. 学習者言語の分析の視点（2）：流暢さ 4. 学習者言語の分析の視点（3）：語彙力 5. 学習者言語の分析の視点（4）：文法力 6. 学習者言語の分析の視点（5）：正確性 7. データ収集と学習者コーパスの作成（1） 8. データ収集と学習者コーパスの作成（2） 9. 学習者コーパスの加工：tagging（1） 10. 学習者コーパスの加工：tagging（2） 11. 分析（1） 12. 分析（2） 13. プレゼンテーション（1） 14. プレゼンテーション（2） 15. 【まとめ】
テキスト、参考文献	**評価方法**
PowerPoint の資料を「講義支援システム」を利用して提示する．	出席＋授業活動への参加度＋プレゼンテーションにより評価する．欠席の場合でも必ず課題を提出すること．

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理１）	担当者	吉成　雄一郎

講義目的，講義概要

（講義目的・講義概要は春・秋学期共通です）

本講義では，最終的にはコンピュータというメガネを通して，「英語」という言葉の特徴を見てみようというのがねらいです。たとえば，皆さんはある形容詞がどのような名詞と相性を知りたい時，どうしますか。辞書で調べても知りたい形容詞と名詞の組み合わせが出ているとは限りません。身近にネイティブスピーカーがいればその人にたずねるのも一案ですが，必ずしも近くにいるとは限りませんし，聞く相手によって答えが揺れることもあります。

そんな時に，一つのヒントを与えてくれるものが，「コーパス」です。コーパスというのは，コンピュータで自在に検索できる言葉のデータベースです。コーパスを検索することで，普通の辞書では得られない例文を見つけたり，また先ほどのコロケーションの問題もスコアで示したりできます。これは英語を勉強・研究する人に大変便利なものです。

本講義では，まず春学期に情報処理の基本的な考え方，発想を Microsoft Excel を使って学びます。秋学期に Excel を使って言語処理を行うための準備です。コーパスの分析

（下に続く↓）

授業計画

1　講義のガイダンス：言語情報処理とは何か
2　言語情報処理とコーパス・表計算一巡り
3　計算(計算式，計算式のコピー，セルの相対参照，絶対参照等)
4　Excel 関数(算術・統計関数を中心に)
5　Excel 関数(文字列操作関数を中心に)
6　Excel 関数(論理関数を中心に)
7　Excel 関数のネスト(1)
8　Excel 関数のネスト(2)
9　Excel 関数のネスト(3)
10　データベース処理(並べ替えと集計・レコードの抽出および条件検索)
11　データベース処理(クロス集計とピボットテーブル)
12　データベース上のデータの蓄積方法
13　自家製コーパスの構想を練る：データ収集の方法など
14　データベースの活用
15　まとめと演習

テキスト，参考文献

テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。

評価方法

学期末試験および２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

03 年度以降	情報科学各論（言語情報処理２）	担当者	吉成　雄一郎

講義目的，講義概要

には専用のソフトウェアがいくつか開発されていますが，それらのツールは特定の処理には適しているものの，汎用性が少なくまた自由な発想からの分析には向いていません。この講義ではそのようなツールを使うのではなく，あえて汎用性のある表計算ソフトウェアを使います。

秋学期は，春学期に学んだ Excel の知識を活用して，学生一人一人が自分だけの「自家製コーパス」を作ります。同時にコーパス言語学の基礎的な知識を学びます。素材の集め方から，コーパスの構築の仕方，および Excel で KWIC Concordance を実現する手法，および統計的な処理方法をじっくりと学ぶことにします。さらに，本格的なコーパス，約 1 億語の British National Corpus にアクセスします。秋学期後半は，コーパス以外の言語分析についても触れたいと思います。文体をコンピュータで分析する試みや語彙の使われ方をコンピュータで見るとどのようなことが分かるのかなどを実際に文献をコンピュータを使って分析してみましょう。

本講義で修得したコンピュータを使った見方と，構築した自分専用のコーパスは，講義終了後も生の言語レファレンスとして活用できることでしょう。

授業計画

1　講義のガイダンス：コーパスとその応用
2　Access 上にデータを格納
3　Access のデータを引き出して Excel で分析
4　コンコーダンスの利用(1)：コロケーションを調べる(MI-Score)。
5　コンコーダンスラインの利用(2)：コロケーションを調べる(t-score)。
6　コンコーダンスラインの利用(3)：演習
7　品詞情報のタグ付け：各単語に品詞のタグをつけて，より精密な分析を試みる。また，自動タグ付けも試みる。
8　タグ付けされたテキストの分析：品詞情報のタグ付けがされたテキストを分析する。
9　品詞の使われ方と英文の特徴
10　「文体」をどうとらえるか。－文の長さ－
11　語彙の出現情報から何を読み取るか(1)
12　語彙の出現情報から何を読み取るか(2)
13　語彙の出現情報から何を読み取るか(3)
14　最先端のコーパスの現状：体験アクセス
15　まとめと演習

テキスト，参考文献

テキスト，参考文献は授業中に随時紹介する。また本講義用ホームページ（http://www.yuchan.com/~gengojoho/）を参照すること。

評価方法

学期末レポートおよび２回程度の小レポートおよび出席を加味して行う。

03 年度以降	［HTML］情報科学各論(HTML 初級)	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 応用 1）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	［HTML］情報科学各論（HTML 初級）	担当者	各担当教員

講義目的、講義概要	授業計画
講義目的・概要：この授業は、［入門］情報処理演習のいずれかの科目を履修した学生を対象に、主にホームページ作成の基礎を習得することを目的とする半期完結授業である。 まず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの１つである WWW（World Wide Web）における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。 実習を中心とした授業であるから、欠席や遅刻をしないこと。やむを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻しておくこと。 **履修条件**：2008 年度以前に「情報科学各論（HTML 入門）（HTML 応用 1）（HTML 正しく伝えるために）（HTML 美しく見せるために)」のいずれかを履修した人、2009 年度以降に「情報科学各論（HTML 中級)」を履修したことのある人は履修できない。	1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. WWW とホームページの基礎知識 3. 情報の単位と情報通信 4. ハイパーテキストと HTML 5. インターネットと情報倫理 6. ページの構造と HTML 7. ホームページの作成　テキスト 8. ホームページの作成　イメージ 9. ホームページの作成　リンク 10. ホームページの作成　テーブル 11. ホームページの作成　その他 12. ホームページの作成　完成 13. ファイルの転送とページの更新 14. 総合復習 15. 総合復習 クラスによって多少進度が異なることがある。
テキスト、参考文献	**評価方法**
適宜指示する。	担当教員より指示する。

03 年度以降	情報科学各論(HTML 中級)	担当者	金子　憲一

講義目的、講義概要	授業計画
この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コンピュータの深い理解とコミュニケーション技術を得ることを目標とする。 この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び HTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。 受講上の注意：　評価方法等を詳しく説明しますので、ガイダンスには必ず出席すること。 平常点評価の実習授業ですので、全回出席する、という前提で授業は構成、進行します。	1　ガイダンスとイントロダクション 2　HTML と FTP の復習（1） 3　HTML と FTP の復習（2） 4　インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5　プログラミングの基礎知識 6　JavaScript（1） 7　JavaScript（2） 8　JavaScript（3） 9　JavaScript（4） 10　JavaScript（5） 11　CGI の利用 12　総合課題（1） 13　総合課題（2） 14　総合課題（2） 15　鑑賞・報告会
テキスト、参考文献	**評価方法**
授業用 Web にて資料等を配布。 参考文献等は随時紹介します。	授業中に作成する課題と平常点（課題の途中経過を含む）で総合評価する。出席及び締切厳守は特に重視する。

03 年度以降	経済原論 a	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　経済学の目的と方法 ２．　家計の行動① ３．　家計の行動② ４．　家計の行動③ ５．　企業の行動① ６．　企業の行動② ７．　企業の行動③ ８．　市場価格の決定 ９．　不完全競争市場 １０．　厚生経済学の基本定理 １１．　市場の失敗 １２．　所得の分配 １３．　政府による市場介入① １４．　政府による市場介入② １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。	原則として定期試験の成績で評価する。

03 年度以降	経済原論 b	担当者	野村　容康

講義目的、講義概要	授業計画
講義概要　経済学を初めて学ぶ学生を対象に、現代経済学の基礎的な理論について概説する。前期は、家計と企業に代表される個別経済主体の行動分析に焦点を当て(ミクロ経済分析)、後期は、一国経済全体の視点から国民所得決定の理論、財政･金融政策等について議論する(マクロ経済分析)。 **講義目的**　身の回りの様々な経済現象がどのように経済理論によって説明されるかを自分なりに考察できるようにするため、まずは経済学の基礎的な「文法」と「用語」を習得することが本講義の目的である。	１．　マクロ経済学の体系 ２．　国民所得の諸概念 ３．　消費と貯蓄の理論 ４．　投資の理論 ５．　国民所得決定の理論 ６．　生産物市場の分析 ７．　金融市場の分析 ８．　財政・金融政策の有効性① ９．　財政・金融政策の有効性② １０．　財政赤字と政府債務 １１．　国際金融システム １２．　開放マクロ経済下の経済政策 １３．　景気の循環 １４．　経済成長の決定要因 １５．　まとめ
テキスト、参考文献	**評価方法**
特に指定しない。参考文献については、初回の講義にて紹介する。	原則として定期試験の成績で評価する。

シラバス 英語学科

2011年4月1日発行

獨協大学教務課

〒340-0042　埼玉県草加市学園町1－1
電　話　048-946-1656

学　　科	学年	氏　　名
学科	年	